



「おokayama教育の日」11月1日

教育要覧

- 2023 -
(令和5年度)

岡山県教育委員会

教 育 要 覧

- 2023 -
(令和 5 年度)

岡 山 県 教 育 委 員 会

ま え が き

令和5年度は、5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更され、コロナ禍前の教育活動を少しずつ取り戻していきましたが、近年の急速なグローバル化や高度情報化等の進展により、ますます先を見通すことが難しい社会になっています。このような状況の中でも、子どもたちが自ら進路を切り拓く力を確実に身に付けさせるとともに、郷土岡山を愛し、より良い社会づくりに積極的に貢献する人間を育てるという本県教育の使命をしっかりと果たさなくてはなりません。

また、令和5年度は、学習内容を確実に身に付けられるよう、一層短いサイクルで定着状況を確認し、早期につまずきの解消を図る取組を進めるほか、教師業務アシスタントの配置拡充やデジタル採点システムの導入など教員の勤務負担のさらなる軽減による教育活動の充実に加え、不登校における学校の組織的な対応力の向上に向け、スクールソーシャルワーカーなどの専門家・専門機関と連携した支援や、教室以外の居場所を確保するための別室支援員の配置拡充などを重点的に進めてまいりました。

施策の実施に当たっては、県教育委員会幹部が市町村教育委員会と意見交換を行うなど相互の信頼関係の下、それぞれの役割と責任において主体的な姿勢で取り組んでまいりました。また、政令市である岡山市とも、連携を密にし、共同歩調で教育行政を推進してまいりました。

今後、成果のあった取組を引き続き徹底するとともに、課題への対策の強化を図るため、学校、家庭、地域の方々や関係機関、関係団体等とも連携をさらに深めながら、ますます発展できるよう、皆様の御支援・御協力をお願いします。

この要覧は、岡山県教育委員会が令和5年度に行った教育行政施策の概要を集約したものです。

本県教育の足跡を振り返り、今後の一層の発展を期すための資料として御活用いただければ幸いです。

令和6年10月

岡山県教育委員会教育長

中 村 正 芳

令和5年度の教育行政を振り返って

令和5年4月から令和6年3月までの岡山県教育委員会が所管する教育行政などの主なことから振り返ってみると、次のようなことがあげられる。

○新型コロナウイルス感染症対策

- ・新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、県立学校等における感染症対策の見直し
- ・G I G Aスクール構想に基づく学校I C T環境整備
- ・臨時休業等に伴う学習支援、オンライン授業の実施

○物価高騰対策

- ・学校給食費負担軽減事業、寄宿舎における舎食費負担軽減事業の実施

○学力の向上

〔学力向上の推進〕

- ・主体的な学びの基盤づくり事業の実施
- ・学力定着状況確認テスト・定着状況ウォームアップの実施
- ・学習到達度確認テストの活用
- ・授業改革推進リーダー・推進員の配置
- ・英語教員指導力向上事業（英語指導エキスパート派遣事業）の実施
- ・教科指導支援（タテ持ち・小規模校連携モデル研究）事業の実施
- ・先進県等への教員派遣
- ・岡山型学習指導のスタンダード・増補版の活用・徹底
- ・家庭学習のスタンダード・増補版の活用・徹底
- ・全国及び岡山県学力・学習状況調査の実施（4月）
- ・管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問の実施
- ・就学前教育推進プロジェクトの実施（幼児教育センター機能の充実、就学前教育スーパーバイザーの配置）
- ・岡山型課題解決型学習（P B L）推進事業の実施
- ・「君に届け！」夢への架け橋事業の実施
- ・おかやま夢発信・交流事業の実施
- ・「高い志」醸成プロジェクトの実施

〔体育・健康教育の充実〕

- ・学校保健推進体制支援事業の実施（小学校1校、中学校1校、高等学校3校、特別支援学校1校）
- ・養護教諭研修指導員配置事業の実施
- ・学校保健推進協議会の開催（2月）
- ・学校保健研修会の開催（1月）
- ・性に関する指導普及推進研修会の開催（11月）
- ・がん教育普及推進研修会の開催（11月）
- ・薬物乱用防止教育研修会の開催（6月）
- ・交通安全教室講習会及び防災教室講習会の開催

- ・学校安全中核教員養成研修の開催
- ・高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成事業の実施（1会場）
- ・体育授業エキスパート、体育授業スペシャルサポーター派遣事業の実施
- ・中・高等学校運動部活動支援事業の実施
- ・みんなでチャレンジランキングの実施
- ・体力アップ・マイベストチャレンジ！の実施
- ・いきいき岡山っ子☆運動習慣カードの活用
- ・「運動部活動方針」実践推進事業の実施
- ・「部活動の地域移行」推進事業の実施
- ・学校給食の衛生管理等に関する調査研究の実施（学校給食施設5箇所）

〔高等学校教育体制の整備〕

- ・岡山県立高等学校教育体制整備実施計画を踏まえた取組の実施
- ・高等学校魅力化に向けた取組の推進

〔特別支援教育体制の整備〕

- ・就学前からの特別支援教育拠点化推進事業の実施
- ・特別支援学級担任専門性向上事業
- ・高等学校における合理的配慮充実事業の実施
- ・居住地校交流充実事業の実施
- ・技能検定の実施
- ・医療的ケアに関する看護師研修の実施
- ・通級による指導におけるICT活用研究事業の実施
- ・プロに学べ！作業学習ブラッシュアップ事業の実施
- ・特別支援教育におけるICT授業充実事業の実施
- ・岡山盲学校及び岡山聾学校の校舎等整備に係る基本構想の策定

〔県立学校施設等の環境整備〕

- ・長寿命化改修
- ・ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業

○徳育の推進

〔心の教育の推進〕

- ・「心豊かなおかやまっ子」育成研修講座の実施
- ・岡山県道徳教育郷土資料集（中学校）授業パッケージの作成と活用

〔生徒指導の推進〕

- ・教員の資質向上・校内指導体制の整備
- ・教育相談体制の充実
- ・いじめ防止対策等総合推進事業の実施
- ・社会的自立サポート事業の実施
- ・スクールカウンセラーの全公立小・中・義務教育・中等教育学校への配置

- ・スクールソーシャルワーカーの配置
- ・思春期サポート事業の実施（県立高等学校）
- ・学級サポートチームの派遣
- ・学級崩壊等早期対応事業の実施
- ・規範意識向上モデル校支援チームの配置
- ・小学校における長期欠席・不登校対策システム化推進事業の実施
- ・不登校対策別室指導実践研究（心の居場所推進プロジェクト）の実施（小学校・中学校）
- ・スマホ・ネット問題総合対策の実施
- ・スマートフォン等の利用に関する家庭のルールづくりの促進
- ・生徒指導上の課題解決に向けた効果的な対応策普及促進事業の実施
- ・スマートフォン等の利用に関する実態調査の実施
- ・子どもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業の実施
- ・心と命のサポート事業の実施
- ・アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システムの活用（全県立学校）

〔人権教育の推進〕

- ・人権教育推進マトリックス会議の開催
- ・岡山県人権教育推進委員会の開催（8月）
- ・県立学校人権教育サポート事業の実施（5月～令和6年3月 全県立学校）
- ・人権学習充実拠点校事業の実施（こども園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校各1校（園））
- ・人権教育・啓発指導者養成講座の実施（6月～11月）
- ・県立学校等児童虐待対応研修の実施（6月、3会場）
- ・「S O Sの出し方に関する教育」に係る研修講座（7月、2会場）
- ・わたしの人権メッセージ動画チャレンジ

○グローバル人材の育成

〔国際化に対応した教育の推進〕

- ・外国語指導助手の配置
- ・韓国・慶尚南道教育庁との交流
- ・ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業の実施（県立高等学校・中学校1校）
- ・グローバル・リーダー育成拠点構築事業の実施（県立高等学校1校）
- ・外部機関と連携した指導力向上事業の実施
- ・英語デジタル教科書活用実証研究事業の実施
- ・高校生留学支援事業の実施
- ・オンライン国際交流の推進（オンライン国際交流コーディネーター配置事業）
- ・おかやま夢育イニシアチブ事業の実施（「One Young World グローバルサミット2023」への高校生派遣を含む）
- ・生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業の実施

〔時代の進展に対応した教育の推進〕

- ・G I G Aスクール構想に基づく学校I C T環境の整備
- ・教職員のI C T活用指導力向上レベルアップ推進事業の実施

- ・ICT活用による個別最適な学習推進モデルの実施（県立高等学校3校）
- ・GIGAスクール端末等整備事業の実施
- ・スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業の実施（県立高等学校2校）
- ・スーパーサイエンスハイスクールの指定（県立高等学校4校）
- ・「科学オリンピックへの道」の実施
- ・サイエンスチャレンジの実施
- ・主権者教育の実施
- ・中学校夜間学級調査研究の実施
- ・県内経済6団体との包括連携協定の締結とそれに基づく産業界等と連携した学びの推進

○家庭・地域の教育の充実

〔家庭の教育の充実〕

- ・「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンの実施
（月間：11月 週間：5月～6月、8月～9月、1月～2月）
- ・「子育てサポーター」スキルアップ講座の実施
- ・子どもほっとライン（電話・メール相談）事業の実施
- ・生き生きおかやま家庭教育応援事業の実施
- ・家庭教育企業出前講座の実施
- ・PTA指導者研修の充実
- ・就学前の非認知能力育成支援事業の実施

〔地域の教育力の充実〕

- ・おかやま子ども応援事業（地域学校協働活動、家庭教育支援等を推進することによって地域の教育力の向上を図る）の実施
- ・社会教育関係団体による地域パワーアップ事業の実施
- ・夢育パートナーズ推進事業の実施

○生涯学習の振興

- ・岡山県生涯学習大学「のびのびキャンパス岡山」の開学
- ・県立図書館フェスタの開催（10月～11月）
- ・県立図書館において個人貸出冊数が2,500万冊に達する（10月）
- ・おかやま☆子ども参観日
- ・生涯学習センターにおける学び直し教室の開設
- ・「おかやま まなびとサーチ」のコンテンツ拡充
- ・岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（読書バリアフリー計画）の普及、周知
- ・登録博物館制度による博物館登録の実施

○教職員の安全衛生管理の充実

- ・県立学校等への産業医の配置（通年）
- ・新任所属長への指導助言（7月～8月）
- ・衛生管理担当者への研修（11月）
- ・総括安全衛生委員会の開催（8月、1月）

- ・管理監督者へのメンタルヘルス研修（10月、2月）
- ・初任者等へのメンタルヘルス研修（8月～9月）
- ・ストレスチェックの実施（6月～7月）
- ・こころとからだの健康相談（通年）
- ・「岡山県教職員復職支援システム」の実施（通年）

○文化の振興

〔文化財の保存・活用〕

- ・埋蔵文化財公開活用事業：体験学習・講座等の実施
- ・岡山県立博物館全面開館（4月）
- ・岡山県立博物館再開館記念展（テーマ展）「名刀 福岡一文字の光彩」（4月～5月）
- ・岡山県立博物館 開館50周年、再開館記念特別展「慈悲のほとけ―観音と古寺の名宝―」（7月～9月）
- ・岡山県立博物館 特別展「醸す―自然と技術が育んだ岡山のお酒―」（10月～12月）

〔学校文化活動の促進〕

- ・鑑賞、体験機会の提供
岡山フィルハーモニック管弦楽団による音楽公演、文化芸術による子供育成推進事業等の実施
- ・部活動指導員配置事業の実施

〔体験活動の充実〕

- ・夏休み企画☆ワクワク古代体験！（7月）
- ・津島遺跡やよいまつり（10月）
- ・吉備路ウォーク（12月）
- ・吉備路の史跡を巡る（2月）

目 次

第1章 本県教育の展望

■第1節	教育委員会	3
1	令和5年度教育施策の概要	3
2	条例、規則等の制定改廃	8
■第2節	教育行財政	9
1	県の行財政改革	9
2	令和5年度財政の動向と県予算の編成	9
■第3節	生涯学習	11
1	生涯学習の振興	11
2	家庭教育の充実	12
3	学校文化活動の促進	13
■第4節	学校教育	13
1	学校教育の充実	13
■第5節	人権教育	17
1	人権教育行政の企画・推進	17
2	人権教育の指導・推進	17
■第6節	文化財	18
1	文化財の保護・保存	18
2	文化財の公開・活用	19

第2章 教育委員会

■第1節	県教育委員会	23
1	委員会の構成	23
2	会 議	23
3	諮問機関	25
4	事務局	26
5	教育・スポーツの奨励	32
6	調査統計・公聴広報活動	34
7	市町村教育委員会の充実強化	38
■第2節	市町村教育委員会	39
1	市町村教育委員会数	39
2	委員会の構成	39
3	教育長(前歴・給与)	40
4	事務局職員	40
■第3節	教育関係公益信託	41
1	所管公益信託名一覧	41

第3章 教 育 費

■第1節	教育委員会所管予算の概要	45
■第2節	教育委員会所管予算の内訳	47
■第3節	教育財産	53

第4章 生 涯 学 習

■第1節	生涯学習推進体制の整備	57
1	推進組織の整備	57
2	市町村の推進体制の整備	57
■第2節	生涯学習・社会教育の諸事業及び活動	58
1	岡山県社会教育委員の会議	58
2	家庭教育	58
3	青少年教育	60
4	成人教育	68
5	地域との連携	70
6	視聴覚ライブラリー	71
7	子ども読書活動の推進	71
■第3節	生涯学習・社会教育施設	72
1	県立生涯学習・社会教育施設	72
2	市町村立生涯学習・社会教育施設	93

第5章 学校教育の実態

■第1節	学校数	103
1	幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・専修学校・各種学校	103
2	高等学校	104
3	中等教育学校	104
4	中学校一覧(県立)	104
5	高等学校一覧	104
6	中等教育学校一覧(県立)	107
7	特別支援学校一覧	108
8	へき地指定校一覧	109
9	準へき地指定校一覧	110
10	特別の地域に所在する学校指定校一覧	110
11	特地公署指定一覧	110
■第2節	学級数	111
1	幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校	111
2	高等学校学科数	112
3	中等教育学校	113

4	義務教育学校	113
5	特別支援学級数、児童生徒数	114
■第3節	教職員組織	114
1	職名別教員数	114
2	事務職員等設置状況	119
3	学校医・同歯科医・同薬剤師の設置状況	121
4	公立学校給食関係職員数	122
■第4節	幼児・児童・生徒数	122
1	幼稚園園児数	122
2	幼保連携型認定こども園園児数	123
3	小学校児童数	124
4	中学校生徒数	125
5	義務教育学校児童生徒数	126
6	高等学校生徒数	127
7	中等教育学校生徒数	129
8	公立特別支援学校幼児・児童・生徒数	129
■第5節	就学状況	130
1	就学免除・猶予者数	130
■第6節	卒業者の進路	131
1	中学校、高等学校、中等教育学校卒業者等の進路状況	131
2	中学校卒業生・中等教育学校前期課程修了者のうち進学者の内訳	132
3	高等学校・中等教育学校後期課程卒業者のうち進学者の内訳	133
4	中学校卒業者のうち産業別就職者とその割合	133
5	高等学校卒業者のうち産業別就職者数とその割合	134
6	高等学校卒業者のうち職業別就職者とその割合	134
■第7節	児童・生徒の健康状態	135
1	児童・生徒の発育状況	135
2	児童・生徒の疾病状況	136
3	令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	137

第6章 学校教育振興施策

■第1節	学校の設置・廃止	141
1	幼稚園	141
2	小学校	142
3	中学校	142
4	義務教育学校	142
5	高等学校	142
6	中等教育学校	142
7	特別支援学校	142
8	専修学校	143
■第2節	特別支援学級の設置	143

■第3節	高等学校入学者選抜	143
1	実施経過	143
2	学力検査問題の作成	150
3	学力検査及び入学者選抜の実施	150
4	学力検査問題の自校作成	173
■第4節	高等学校教育体制の整備	174
1	高等学校の魅力づくり	174
2	県立高等学校教育体制整備実施計画の推進	174
■第5節	学校運営の改善	175
1	学校評議員設置	175
2	危機管理への対応	175
■第6節	高等学校卒業程度認定試験	176
■第7節	技能教育施設の指定	177
■第8節	施設・設備の概要	177
1	学校施設の整備	177
2	産業教育に関する設備等の整備	179
3	理科教育振興法等による整備	180
4	へき地教育振興法による整備	181
■第9節	教職員の人事管理	182
1	教職員定数・同配当基準	182
2	教職員の採用と人事異動	183
3	教職員の人事管理	186
4	教育職員の免許状	188
5	教職員の給与	191
6	教職員の健康管理	194
7	教職員の福利厚生	196
8	職員団体	205
■第10節	就学奨励	205
1	義務教育諸学校の就学援助	205
2	特別支援学校等の就学奨励	208
3	高等学校の修学奨励	210
4	育英事業	212
■第11節	教育指導	215
1	学校教育の指導	215
2	教科用図書の採択・無償給与	217
3	教育課程の届出及び教材の承認	218
4	心の教育の推進	219
5	学力向上の推進	219
6	生徒指導の推進	230
7	進路指導	235
8	産業教育	236
9	グローバル人材の育成	236
10	時代の進展に対応した教育の推進	239

11	定時制・通信制教育	241
12	へき地・複式教育	242
13	特別支援教育	242
14	学校における文化活動の促進	243
15	学校保健	246
16	安全教育	247
17	体育指導	247
18	学校給食	253
19	教職員の研修	255
20	岡山県総合教育センター	256
21	教育研究団体奨励	260

第7章 人 権 教 育

■第1節	人権教育行政の企画・推進	263
1	人権教育行政の推進	263
2	市町村や学校への支援	263
3	地域における指導者等の養成	263
4	情報等の収集・提供	263
■第2節	人権教育の指導・推進	264
1	市町村との連絡調整や学校等への指導	264
2	研究推進校等への指導	265
3	視聴覚教材の整備と活用	266

第8章 文 化

■第1節	文化財	269
1	文化財の指定等	269
2	文化財の保存と活用	269
3	銃砲刀剣類の登録	272
■第2節	埋蔵文化財	272
1	文化財保護法に基づく事務処理	272
2	発掘調査	272
■第3節	文化施設	272
1	県立文化施設	272
2	市町村文化施設(歴史民俗資料館等)	281

【付表】

国・私立小・中・高等学校・中等教育学校・特別支援学校と高専・大学一覧



教育長
鍵本 芳明



教育委員(教育長職務代理者)
田野 美佐



教育委員(教育長職務代理者)
梶谷 俊介



教育委員
松田 欣也



教育委員
上地 玲子



教育委員
服部 俊也



教育次長
國重 良樹



教育次長
田中 秀和



学校教育推進監
中村 正芳

(令和6年3月31日現在)

■学校教育の充実

◆学ぶ力育成

ブラッシュアップ事業受注製品の納入
(9月21日 道の駅くめなん)



高校生探究フォーラム2023
(12月26日 岡山コンベンションセンター)



◆徳育推進

岡山県児童生徒いじめ防止ポスター・標語表彰式
(12月16日 県立図書館)



「OKAYAMAスマホサミット2023」メッセージポスター完成
(2月6日 西大寺高等学校)



◆グローバル人材の育成

アメリカの学生と国際交流会
(7月21日 倉敷天城高等学校)



韓国・慶尚南道中学生友好交流訪問団 表敬訪問
(10月17日 県庁)



ニュージーランドカシミア高校生との姉妹校短期留学再開
(12月14日 倉敷南高等学校)



全国高校生フォーラムにて文部科学大臣賞受賞生徒が表敬訪問・プレゼン披露
(1月9日 県庁)



◆教育環境の整備

教育問題懇談会

(4月25日 県庁)



自立応援室オンライン情報交換会

(8月21日 オンライン)



「災害時学校支援チームおかやま」能登半島地震の被災地派遣

(1月16日 岡山駅)



初任者研修講座 伊原本知事講演

(5月25日 県総合教育センター)



「高校と地域で作る未来の学びプロジェクト事業」連絡協議会

(8月25日 おかやま西川原プラザ)



「災害時学校支援チームおかやま」活動実績報告

(1月24日 県庁)



◆児童生徒の活躍

特別支援学校生徒が出張アンテナショップ開催

(5月12日 美作市内)



工業高校生が地元中学校に出前授業

(6月23日 井原市立美星中学校)



大学と連携し循環型農業「アクアポニックス」に挑戦
(7月31日 東岡山工業高等学校)



全国高等学校総合体育大会で優勝した高校生が教育長を
表敬訪問 (8月30日 県庁)
(岡山操山高等学校 山岳部、井原高等学校 新体操部)



全日本高等学校馬術選手権大会で優勝した高校生が表敬
訪問 (勝山高等学校 萩山校地) (9月8日 県庁)



第74回全国植樹祭 岡山 2024 カウントダウンボード
除幕式 (9月19日 県庁)



高等学校と特別支援学校の生徒が合同学習を実施
(9月26日 岡山県健康の森学園支援学校)



高校生が地域の小学生と稲刈り交流
(10月4日 瀬戸南高等学校)



様々な分野で活躍した高校生が表敬訪問
(10月26日 県庁)
(岡山工業高等学校、笠岡工業高等学校、岡山大安寺中
等教育学校)



全国農業高校 お米甲子園 最高金賞受賞
(12月2日 高松農業高等学校)



■ 伝統文化の振興

県立博物館 全面開館記念式典
(4月1日 県立博物館)



吉備路ウォーク（発掘調査現場の公開）
(12月2日 備中国分尼寺跡)



■ 家庭・地域・関係機関との連携

「学校部活動の地域移行等に向けた実証事業」実証
研究連絡会
(6月7日 県立図書館)



高校生のためのジョブフェア 県内3会場で開催
(7月27日 岡山コンベンションセンター)



「おかやま まなびとサーチ」キャラクター名前決定
表彰式
(12月25日 県庁)



仁科賞授与式
(3月18日 県庁)



■ 夢育の推進

「One Young World グローバルサミット2023」
参加高校生が表敬訪問
(10月23日 県庁)



高校生国際会議～Summit for “Well-being” in
Okayama 2024～ 初開催
(2月3日 OHK KURUNホール)



第1章 本県教育の展望

第1節	教	育	委	員	会	(3～9)
第2節	教	育	行	財	政	(9～11)
第3節	生	涯		学	習	(11～13)
第4節	学	校		教	育	(13～16)
第5節	人	権		教	育	(17～18)
第6節	文		化		財	(18～19)

第1章 本県教育の展望

■第1節 教育委員会

1 令和5年度教育施策の概要

(1) 基本方針

変化の激しい今日の社会に適切に対応しながら、生涯にわたって心豊かにたくましく生きていく力を持ち、豊かで活力ある社会を築き支えていく意欲と実践力を備えた人間を育成することが、教育の果たすべき役割である。

本県では、令和3年度からスタートした「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」において、「教育県岡山の復活」を重点戦略の第一に位置づけ、学ぶ力の育成や、徳育・体育の推進、グローバル人材の育成に引き続き取り組むことに加え、子どもたちが積極的・主体的に学びに取り組んでいけるよう、自らの夢を育み、その実現に向けて挑戦していく経験を通して、意欲や自信など「自分を高める力」を育む「夢育」を推進することにより、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育の一層の充実に取り組むこととした。

令和5年度は、学習内容を確実に身に付けられるよう、一層短いサイクルで定着状況を確認し、早期につまずきの解消を図る取組を進めるほか、教師業務アシスタントの配置拡充やデジタル採点システムの導入など教員の勤務負担のさらなる軽減による教育活動の充実に加え、不登校における学校の組織的な対応力の向上に向け、スクールソーシャルワーカーなどの専門家・専門機関と連携した支援や、教室以外の居場所を確保するための別室支援員の配置拡充などを重点的に進めた。

諸施策の実施に当たっては、市町村教育委員会との相互の信頼関係の下、その役割と責任において主体的な姿勢で取り組むとともに、関係機関、関係団体等とも連携を深めながら、積極的に推進した。

(2) 施策の体系

(1) 魅力ある学校づくりの推進

- ・子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備
- ・不登校を生まない学校づくりの推進
- ・教師の授業力の向上と魅力ある人材の確保
- ・就学前教育の質の向上
- ・活力ある小・中学校づくり
- ・高等学校段階における教育の充実
- ・特別支援教育の推進
- ・大学等との連携
- ・子どもたちの安全の確保

(2) 学びのチャレンジ精神の育成

- ・夢を育む教育やキャリア教育・職業教育の推進
- ・子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり
- ・国際的に活躍できる人材の育成
- ・Society 5.0に向けた人材の育成

(3) 家庭・地域の教育力の向上

- ・家庭・地域の教育力の向上による子どもたちの生活習慣・学習習慣の定着

- ・地域住民の参画による、学校運営協議会・地域学校協働活動の取組の推進

(4) 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成

- ・道徳教育を中心とした規範意識の確立
- ・いじめや暴力行為等への対策の推進
- ・スマホ・ネット等青少年を取り巻く問題への対応
- ・郷土愛の醸成
- ・より良い社会づくりに参画する人材の育成
- ・子どもたちの体力の向上
- ・子どもたちの健康の保持増進
- ・人権教育の推進

(5) 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興

- ・生涯学習活動の推進
- ・文化創造活動の振興と文化財の保存・活用

(3) 施策の概要

ア 魅力ある学校づくりの推進

(7) 子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備

子どもたちが落ち着いた授業環境で意欲的に学ぶことができるよう、学習意欲や学級集団の意識を高める取組の推進、学び合う集団の育成、学習の基盤となる授業規律の確保に努めるとともに、生徒指導対応等のための教員や支援員などの効果的な配置・活用等を図ることにより、魅力ある学校づくりを推進した。

(イ) 不登校を生まない学校づくりの推進

長期欠席・不登校対策スタンダードに基づく、不登校対策担当教員を中心とした学校の組織的な対応、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家の活用や関係機関との連携を推進し、子どもたちの個々の状況に応じた学習支援や生活支援を徹底することで、誰もが安心して通える、長期欠席・不登校等を生まない魅力ある学校づくりを推進した。

(ウ) 教師の授業力の向上と魅力ある人材の確保

子どもたち一人ひとりの学習状況を的確に把握し、習熟度別指導など個に応じたきめ細かい指導や、探究的な学びを充実した。また、校長のビジョンと戦略に基づく学校経営を支援し、学力向上等に向けた学校の組織的な対応力の向上を図るとともに、授業力が高く、新たな教育課題に対応できる、不断に学び合う教員を育成した。

また、教職員の長時間勤務の改善のため学校現場の働き方改革を推進し、生み出した時間で多様な経験を積むことで、教育の効果を高めるとともに、職場における教職員の安全の確保及び健康の保持増進、働きやすい職場環境づくり等の取組の充実を図った。

さらに、教職員には、強い使命感や社会性、実践的指導力など、様々な教育課題に適切に対処できる資質能力が求められるため、人間性豊かで自身が夢や目標を持ち、学び続ける魅力ある人材の確保や、採用後研修の充実、適切な人事管理等を行った。

(I) 就学前教育の質の向上

幼児期は、人格形成の基礎が培われる重要な時期であることから、幼稚園、保育所及び認定こども園の教職員等を対象にした研修の充実や市町村への支援等により、就学前教育における保育・教育の質を一律に向上させることで、就学前の子どもの生活習慣等の確立や、生涯にわたる学びの基礎となる学びに向かう力や非認知能力の涵養を図った。

(f) 活力ある小・中学校づくり

地域との協働関係を生かし、地域の実情を踏まえた魅力あるカリキュラムの導入等について支援を行った。また、設置者である市町村が学校の適正規模化や学校種間の連携の在り方等を検討するに当たって、ニーズや実情を踏まえた指導・助言を行うとともに、学校統合を行う場合や小規模校を存続させる場合等について支援を行った。

(g) 高等学校段階における教育の充実

生徒数の減少が進む中、学習環境の維持向上を図り、学校の活力を高めていくことができるよう、県立高等学校の魅力化・活性化に取り組みながら再編整備に向けた検討を行った。

県立高等学校の教育体制の整備に当たっては、時代の変化に対応した新しい教育内容の研究や学校ICT環境をはじめとした施設・設備の整備を進め、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動など、地域や地元自治体・大学等との連携・協働を推進することで、時代の変化に対応した人材育成に資する、魅力ある高等学校づくりを推進した。

(h) 特別支援教育の推進

特別支援学校においては、複数の障害種に対応した適切な教育ができる体制の整備や子どもたちへの適切な指導・支援の充実を図るほか、早期からのキャリア教育の推進や域内の特別支援教育を支えるセンター的機能の一層の充実を図った。

また、小・中・高等学校等においては、子どもたちの達成感、自己肯定感及び学習意欲を高めるため、特別支援教育の観点に基づく授業づくりや学級づくり、ICTの効果的な活用などを通じ、発達障害を含めた特別な支援を必要とする一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実や教職員の指導力の向上を図るとともに、就学前から卒業後までを一貫して支援できるよう関係機関との連携体制を強化した。

さらに、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の理念に基づきながら、取組の充実を図った。

(i) 大学等との連携

専門的な知見・資源を有する大学等高等教育機関をはじめ、企業、公益法人、NPOなど民間団体等と連携を図り、学校や地域における子どもたちの学習活動の充実に努めた。

(j) 子どもたちの安全の確保

事故の要因となる学校環境や子どもたちの学校生活等における行動の危険を早期に発見し、それらを速やかに除去するとともに、万が一、事故が発生した場合に、適切な応急手当や安全措置ができる体制を確立するなど、子どもたちの安全の確保に向けた取組を推進した。また、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質能力の育成につながる安全教育の充実を図った。

イ 学びのチャレンジ精神の育成

(7) 夢を育む教育やキャリア教育・職業教育の推進

子どもたちの学びを進めるにあたり、学びに積極的・主体的に取り組んでいけるよう、子どもたちの夢を育み、それに挑戦していく経験を通して、意欲や自信などの「自分を高める力」を育てる「夢育」を、学校教育や社会教育、家庭教育など様々な学びの機会を通じて推進した。

また、子どもたちが、社会の中で自分の役割を果たしつつ自分らしい生き方を実現できるよう、望ましい勤労観や職業観の育成に向け、学校・家庭・地域・企業等が連携したキャリア教育を推進した。

さらに、職場体験活動やインターンシップ及び専門高校における職業教育の充実に向け、企業等

に対して教育活動への積極的な協力や参画を促した。

(イ) 子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり

小学校や中学校において、家庭学習指導の充実や、支援員の配置等による放課後等の補充学習支援を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うICTの利活用の加速化や、子どもたちが学びに挑戦できる場の創出により、学校規模や地理的要因にかかわらず、子どもたちが様々な体験や交流を通して、意欲的に学習に取り組める仕組みづくりを進めた。こうした取組により、基礎学力や学習習慣の定着、子どもたちの自ら学ぼうとする意欲やチャレンジ精神の喚起を図った。

また、高等学校では、ICTの活用による習熟度に応じた授業や、授業時間外の学習機会の充実を図るとともに、教科横断的な視点に立った学校全体の取組の徹底により、知識・技能のみならず、思考力・判断力、学びに向かう姿勢を有する人材を育成した。

(ウ) 国際的に活躍できる人材の育成

グローバル人材の育成の基盤となる語学力、コミュニケーション能力、優れた国際感覚、異文化を理解する精神等を身につけた人材の育成を目指し、子どもたちが英語に触れる機会の増加、高校生の海外留学やICTを活用したオンラインによる国際交流の促進及び英語教育の充実による英語活用力の向上を図るとともに、地域を学ぶ機会や伝統文化・芸能に親しむ機会を充実することで、我が国や郷土の伝統・文化を深く理解し、その継承・発展に努め、世界に発信する姿勢を育んだ。

(エ) Society 5.0に向けた人材の育成

AIやデータを理解し、使いこなす力を身に付けるとともに、AIにはない人間の強みを生かして、他者と協働しながら新しい価値を創造する人材の育成に向け、STEAM教育やデータサイエンス、プログラミング教育、課題解決的な学習の充実を図るなど、子どもたちの優れた能力、才能、個性を伸ばす教育を推進した。

ウ 家庭・地域の教育力の向上

(ア) 家庭・地域の教育力の向上による、子どもたちの生活習慣・学習習慣の定着

関係各機関の緊密な連携により、保護者等に対して家庭教育に関する多様な学習プログラムや学習機会の提供を行うとともに、家庭訪問等による相談体制の充実に努め、企業等とも連携し、地域ぐるみですべての教育の出発点である家庭の教育力を高めることで、子どもたちがよりよい社会生活を営む基盤となる夢や目標を持ち、善悪の判断など基本的倫理観はもとより、規則正しい生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう推進した。

また、社会教育関係団体活動との連携により、学校教育や家庭教育の充実を図った。

(イ) 地域住民の参画による学校運営協議会・地域学校協働活動の取組の推進

地域住民の参画による学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や地域学校協働活動の効果的な推進により、地域ぐるみで子どもを健やかに育み、学校・家庭・地域の教育力の向上を図った。

また、地域と学校でビジョンを共有し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した。

エ 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成

(ア) 道徳教育を中心とした規範意識の確立

子どもたちの規範意識や自尊感情、人間関係構築力を高め、豊かな情操を育むため、「特別の教科 道徳」を要として、学校の教育活動全体を通じて様々な体験活動等を交えながら、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進した。さらに、道徳科において、指導方法や指導体制等に関する実践的な研究を通して道徳の授業改善を進め、その成果の普及に努めた。

(イ) いじめや暴力行為等への対策の推進

いじめや暴力行為等の問題行動への対策として、関係機関と連携した取組を進めるとともに、生

徒指導対応等のための教員や支援員などの効果的な配置・活用等により、落ち着いた学習環境を確保し、新たな問題行動を生まない魅力ある学校づくりを推進した。また、問題行動を初期段階で確実に捉え、解決に向けた取組を徹底できるよう、学校における生徒指導体制の確立等により、組織的対応を充実させた。さらに、子どもの家庭環境等を踏まえ、就学前からの早期対応を行った。

その他、問題行動や非行に対しては関係機関が連携して適切に対処し、学校が警察と協働で実施する非行防止教室やインターネットモラル教室などを通じて、規範意識の向上に努めるとともに、少年非行情勢の改善を図った。

(ウ) スマホ・ネット等青少年を取り巻く問題への対応

青少年を良好な生活環境の下で育むため、スマホ・ネット問題対策の推進や関係事業者への立入調査等を実施するとともに、地域住民や関係機関・団体が一体となった、県民総ぐるみの運動を展開し、青少年の健全育成や非行防止を図った。

特に、スマホ・ネット問題について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も背景としながら、ネット上での誹謗中傷やいじめの発生などモラルの低下が指摘されており、情報モラル教育を充実するとともに、スマートフォン等の使用時間や使用方法など利用に関する適切なルールづくりやフィルタリング機能の活用についての児童生徒の主体的な取組の促進、家庭・地域等への啓発を行うなど、スマホ・ネット問題の解決に向けた取組を強化した。

(イ) 郷土愛の醸成

自然、歴史・伝統、民俗・文化、人物など地域の特性に根ざした学習を学校の教育活動全体を通じて行うとともに、文化・スポーツ等の体験活動を通して、子どもたちが生まれ育った地域への理解を深めることにより、郷土愛の醸成を図り、郷土岡山の活力を生み出す人材の育成につなげた。

(オ) より良い社会づくりに参画する人材の育成

地域社会と連携の下、学校におけるボランティア教育や主権者教育、消費者教育を推進するとともに、子どもたちの社会貢献活動への一層の理解と参加を促進し、人の役に立ち、人に感謝される体験を通して、家庭はもとより、社会の一員としてより良い社会づくりに積極的に参画していこうとする人材の育成を図った。

(カ) 子どもたちの体力の向上

子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するため、学校での体育の充実を図り、子どもたちの体力向上への意欲を高めるとともに、一人ひとりの実態に応じた体力づくりに取り組み、子どもたちの体力・運動能力の向上を図った。

また、新型コロナウイルス感染防止対策に留意しながら、適切な運動部活動が展開されるよう取り組むとともに、スポーツ・武道を通じて、規範意識や豊かなコミュニケーション能力、人間関係を築く力を醸成した。

(キ) 子どもたちの健康の保持増進

子どもたちが健康な生活を送るために必要な力を身に付けることができるよう、がん教育、薬物乱用防止教育など健康教育を進めるとともに、学校・家庭・地域の連携による食育を推進し、学校の教育活動全体を通じて、子どもたちが望ましい生活習慣を身につけ、生涯にわたりたくましく生きるための健康づくりを進めた。

(ク) 人権教育の推進

すべての人の人権が尊重される「共生社会おかやま」の実現を目指し、学校・家庭・地域の連携のもと、指導者の養成や学習に役立つ資料の作成など、人権教育を推進するための環境づくりに取り組んだ。また、児童虐待やLGBTに対する偏見・差別などの課題のほか、新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害が社会問題になったことなども踏まえ、人権に関する知的理解と人権感覚

の育成を図り、自他の人権を守ろうとする意識や態度を向上させ、実践行動につなげる取組を進め、人権教育の充実を図った。

オ 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興

(ア) 生涯学習活動の推進

県民一人ひとりが、生涯にわたって夢や目標を持ち、自らの興味や関心に基づき、様々な学習活動に取り組むことができるよう、多様な学習機会や情報の提供などの充実を図った。

さらに、学びを生かした地域活動への参画を通して、より良い地域社会を形成し、郷土岡山の発展を支えられるよう、学習成果の活用に向けた取組の充実を図った。

(イ) 文化創造活動の振興と文化財の保存・活用

子どもたちをはじめ、より多くの県民が郷土の文化遺産に触れ、学び、親しむことができる機会の充実に努め、その着実な保存・継承と積極的な活用を図った。

2 条例、規則等の制定改廃

令和5年度に制定改廃された教育関係の条例、規則等は、次のとおりである。

(1) 改正された条例、規則等

【条例】

岡山県立学校施設使用料徴収条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県渋川青年の家条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県青少年教育センター閑谷学校条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県立博物館条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県生涯学習センター条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県教育関係手数料徴収条例の一部改正	(R6.3.22)
岡山県立図書館条例の一部を改正	(R6.3.22)

【規則等】

岡山県立学校の授業料及び受講料の減免に関する規則の一部改正	(R5.6.16)
岡山県立学校授業料徴収条例施行規則の一部改正	(R5.6.16)
岡山県立高等学校通信制課程入学金及び受講料徴収条例施行規則の一部改正	(R5.6.16)
岡山県立中学校、高等学校及び中等教育学校の通学区域に関する規則の一部改正	(R5.8.10)
岡山県立高等学校転入学に関する規程の一部改正	(R5.8.10)
岡山県立中学校、高等学校及び中等教育学校の通学区域に関する規則実施細則の一部改正	(R5.8.10)
教育職員の免許状に関する規則の一部改正	(R5.9.29)
岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正	(R6.1.5)
岡山県教育財産管理規則の一部改正	(R6.3.22)
岡山県教育委員会文書保存分類表の一部改正	(R6.3.26)
岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正	(R6.3.29)
岡山県立高等学校通信教育規則の一部改正	(R6.3.29)
教育職員の免許状に関する規則の一部改正	(R6.3.29)
岡山県教育委員会広報事務取扱規程の一部改正	(R6.3.29)
岡山県立高等学校転入学に関する規程の一部改正	(R6.3.29)
岡山県教育委員会事務関係職員人事評価規程の一部改正	(R6.3.29)

(2) 制定、廃止された条例、規則等**【条 例】**

岡山県公立学校情報機器整備基金条例の制定

(R6.3.22)

■第2節 教育行財政**1 県の行財政改革**

職員が意欲や使命感を持って、その能力を十分発揮できるよう適材適所の人事配置に努め、より効率的かつ効果的な執行体制となるよう組織体制の整備等を図った。

(1) 組織体制整備**ア 課題に対応するための組織体制強化****(ア) 高等学校魅力化の推進**

県立高等学校の更なる魅力づくりを推進するため、高校教育課高校魅力化推進室の執行体制の強化を図った。

また、高校の更なる魅力化に向けた取組を強力に支援する自治体の機能強化を図るとともに、県教委との連携体制を構築するため、当該自治体へ職員を派遣することとした。

(イ) 教育の情報化の推進

G I G Aスクール構想については、教員間のICT活用指導力や学校間での取組に差が見られることから、更なる推進を図るため、高校教育課教育情報化推進室の執行体制の強化を図った。

イ 国からの人材登用

本県教育の課題改善に向け、多様な経験と専門知識を有し、国との太いパイプ役としての活躍も期待できることから、引き続き教育次長に文部科学省から職員を登用した。

ウ 市町村との交流

岡山県文化財保存活用大綱に示す市町村支援の一環として、市町村職員の埋蔵文化財発掘調査技術等の資質向上を図るとともに、双方の組織の充実・活性化を図るため、市町村との職員相互派遣を行うこととした。

(2) 定 員

定員管理目標である12,072人に対して、令和5年4月時点で、11,386人（686人の超過削減）となっている。

2 令和5年度財政の動向と県予算の編成**(1) 国の予算編成方針**

令和5年度予算は、「令和5年度予算編成の基本方針」（令和4年12月2日閣議決定）により、令和4年度第2次補正予算と一体として、足元の物価高を克服しつつ、経済再生の実現に向け、人への投資、科学技術・イノベーション、スタートアップ、GX、DXといった成長分野への大胆な投資、少子化対策・こども政策の充実等を含む包摂社会の実現等による新しい資本主義の加速や、外交・安全保障環境の変化への対応、防災・減災、国土強靱化等の国民の安全・安心の確保を始めとした重要な政策課題について必要な予算措置を講ずるなど、メリハリの効いた予算編成を行い、その政策効果を国民や地方の隅々まで速やかに届け、我が国経済を持続可能で一段高い成長経路に乗せていくことを目指すとされた。

その際、骨太方針2022で示された「本方針及び骨太方針2021に基づき、経済・財政一体改革を着

実に推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない」との方針を踏まえることとされた。

また、歳出の中身をより結果につながる効果的なものとするため、骨太方針2022を踏まえ、新経済・財政再生計画の改革工程表を策定し、E B P MやP D C Aの取組を推進し、効果的・効率的な支出（ワイズスペンディング）を徹底することとされた。

こうした結果、令和5年度の一般会計予算は、114兆3,812億円（対前年度6.3%増）となった。

(2) 岡山県の予算編成方針

ア 当初予算

令和3年度は企業業績の改善などから税収が回復したものの、新型コロナウイルス感染症の感染状況や社会情勢によっては、今後の税収は大きく影響を受ける可能性があり、またコロナ前からの課題である社会保障関係費の累増、県債残高の高止まり、公共施設の老朽化への対応等に加え、物価高騰による行政運営コストの増加も見込まれることから、本県財政は厳しい状況が続いている。今後も、これまでの行革の成果を維持するとともに、コスト意識を徹底し、不断の改革・改善に取り組み、経費支出の効率化や、県税をはじめとした歳入確保に努めるなど、持続可能な財政運営を行う必要がある。

令和5年度は「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」の目標達成に向け、真に必要な分野や事業へ予算を振り向けることで、「生き生き岡山」の実現に向けた取組を強化し、これまでの好循環の流れを一層加速させるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立を見据えた施策や、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興の総仕上げに向けた施策に着実に取り組み、本県の持続的な発展に結びつけるための予算編成とすることとした。

こうした結果、令和5年度当初予算は、一般会計で8,022億円となり、令和4年度当初予算と比べると5.1%の増となった。

イ 6月補正予算（物価高騰対策分）

L P ガスを利用する家庭や特別高圧電力を利用する中小企業等の負担軽減、物価高騰の影響を受ける医療機関、介護施設等への支援に要する経費などについて、補正措置を講ずることとし、一般会計で88億7,300万円が計上された。

ウ 6月補正予算

マイナンバーカードの普及に要する経費及び地域医療構想推進のためのデータ分析体制構築等に要する経費について、補正措置を講ずることとし、一般会計で4,500万円が計上された。

エ 9月補正予算

川辺橋の被害拡大防止工事や県内橋梁の緊急点検に要する経費のほか、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の国への返納に要する経費などについて、補正措置を講ずることとし、一般会計で22億9,800万円が計上された。

オ 11月補正予算

介護サービス事業所等における新型コロナウイルス感染症対応で生じたかかり増し経費の支援や、企業と連携した子育て支援の気運醸成に要する経費などのほか、補助公共事業の確定に伴う変更などについて、補正措置を講ずることとし、一般会計で△14億1,200万円、特別会計で1,800万円が計上された。

カ 11月補正予算（追加分）

国の経済対策に呼応し、L P ガスを使用する家庭等の負担軽減、物価高騰の影響を受ける医療機関等への支援などの重点支援地方交付金を活用した物価高騰対策や、防災・減災、国土強靱化をさらに進めるための補助公共事業などのほか、人事委員会勧告等を受け、職員の月例給や期末・勤勉

手当の引上げ等を実施するための経費について、補正措置を講ずることとし、一般会計で323億4,500万円、特別会計で200万円、企業会計で6億5,800万円が計上された。

キ 2月補正予算

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更に伴う事業終了等による減額や、人件費などの実績に合わせた減額のほか、県内公立学校の1人1台端末の更新等のための基金への積立に要する経費、エネルギー価格高騰により負担増となった指定管理者制度導入施設への支援に要する経費などについて、補正措置を講ずることとし、一般会計で△506億8,700万円、特別会計で△39億7,100万円、企業会計で△5億5,700万円が計上された。

以上の補正措置により令和5年度の最終予算額は、一般会計において7,936億3,500万円、特別会計において3,868億4,400万円、企業会計において183億1,000万円となった。

■第3節 生涯学習

1 生涯学習の振興

急速な科学技術の高度化や情報化、少子・高齢化の進行、産業・就業構造の変化、地方分権の進展など社会情勢の目まぐるしい変化に伴い、地域が抱える課題は一層多様化・複雑化し、新たな地域社会のモデルの構築が求められている。

また、一人ひとりが、地域社会の担い手として主体的に参画しながら、互いに支え合い、協力し合い、「地域の子どもは地域で育てる」「自らの地域は自らつくる」といった公共の意識を持ち、協働による心豊かな社会の実現を目指していくことが、一層重要になると考えられる。

さらには、これまでの生涯学習の基盤整備や活動の成果、社会貢献・地域社会づくりに対する意識の高まりを背景として、ボランティア活動等が活発化するとともに、活動を通じた新たな学習ニーズが生まれてきている。

県では、こうしたことを踏まえ、県民一人ひとりが、生涯にわたって自らの興味や関心に基づき、様々な学習活動に取り組むことができるよう、多様な学習機会や情報の提供などの充実を図るとともに、生涯学習活動を支援する環境づくりを推進するため様々な施策を展開した。

(1) 生涯学習推進体制の整備・充実

岡山県の生涯学習を総合的に推進するため、次のような事業を実施し、推進体制の整備に努めた。

ア 岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議

2回の会議を開催し、「全ての人のウェルビーイングの実現に向けた公民館の取組」等について審議した。

イ 生涯学習センター事業の展開

生涯学習推進拠点施設としての岡山県生涯学習センターにおいて、学習情報の提供や学習相談、指導者の養成、各種学習講座の開設を行い、学習者の交流や普及啓発に努めた。

(2) 学習機会の拡充

ア 生涯学習大学

県民に系統的・継続的な学習機会を提供する生涯学習大学（のびのびキャンパス岡山）を開学するなど、県民の学習需要に配慮しながら、ライフステージに応じた多様な学習機会を提供した。

イ おかやま まなびとサーチの運用

G I G Aスクール構想によって進んだICT環境下での学びを充実させるとともに、小学生及び

中学生がいつでもどこでも、学びたいときに学ぶことができる環境づくりとして、県内の博物館、美術館、大学施設、企業施設等を活用した学習用動画を掲載する小学生・中学生のための学びのコンテンツサイト「おかやま まなびとサーチ」を運用した。

(3) 指導者の養成・確保

県民の多様化、高度化する学習需要に即応して、多様な学習活動が展開できるよう、指導者の養成・確保とその充実強化に努めた。

また、これら専門職員や社会教育関係団体のリーダーの養成・確保と資質の向上を図るため、分野別の研修会や各種の講習会、研修会を実施した。

(4) 学習の場の整備

「人と科学の未来館サイピア」の学校利用を推進した。また、県立図書館の機能の充実を図るとともに、渋川青年の家など社会教育施設の整備、利用の促進に努めた。

さらに、渋川青年の家、青少年教育センター閑谷学校においては、県が蓄積してきた運営や安全な研修のためのノウハウ等を引き継いで、民間の特色を生かした活動の充実に努めた。

(5) 社会教育活動の充実

豊かな地域社会形成の基盤となる郷土愛と連帯感を高めながら、「地域の子どもは地域で育てる」という地域環境づくりを行うため、「放課後子ども教室」等で、子どもの生活体験・自然体験活動の機会の拡充と居場所づくりに取り組んだ。

また、地域住民の参画による地域学校協働活動を推進するため、「地域学校協働本部」の整備や「地域学校協働活動推進員」の委嘱を市町村に働きかけ、地域と学校が連携・協働する仕組みづくりに取り組むなど、地域の教育力の向上に努めた。

社会教育関係団体に対しても、県の教育課題や地域課題の改善に資する取組を事業委託し、多様な学習活動に取り組めるよう努めた。

(6) 子どもの読書活動総合推進事業

平成31年3月に策定した「第4次岡山県子ども読書活動推進計画」の普及を図るとともに、本計画で大きく取り上げた不読率の低減に向け、小・中学生及び高校生に対して、子どもの読書環境に関する実態調査を実施した。

(7) 読書バリアフリー計画に基づく読書環境の整備

視覚障害等のある人の読書環境の整備のため、令和4年3月に策定した「岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（読書バリアフリー計画）」に基づき、県立図書館等における読書支援サービスの周知を行った。

2 家庭教育の充実

家庭は、子どもにとって人間形成の行われる最初の場であり、親子の触れ合い、家族の団らん等を通じて心身ともに健やかな子どもを育てる上で、その果たす役割は非常に大きい。

しかし、近年、核家族化や少子化など、家庭や家族を取り巻く社会状況の著しい変化に伴い、家庭における育児、教育について新たな対応が求められている。

このため、子育てに関する学習機会や相談体制の充実、保護者同士の情報交換や世代を超えた交流の促進を図り、家庭の教育力の向上に努めた。

また、令和4年4月1日に、社会全体で家庭教育を支援することを定めた「岡山県家庭教育応援条例」が施行され、気運醸成のため、マンガ版「わが家のすこやか日記」の作成による岡山県家庭教育応援の日の周知や家庭教育支援チームの設立促進、部局横断会議の設置等に取り組んだ。

(1) 家庭の教育機能の充実

地域の子育て経験者や専門家の連携による「家庭教育支援チーム」を結成し、身近な地域において、全ての保護者に対する家庭教育支援の体制が整うよう、学習機会の提供、相談対応等を行う取組を支援するとともに、県内の家庭教育支援チームの取組をまとめた冊子を配布して普及啓発に努めた。また、家庭教育支援に関係する県庁各課が、情報や課題を共有し、その課題解決のためにそれぞれが果たすべき役割や連携の在り方を探るための部局横断会議（家庭教育支援施策推進会議）を設置し、家庭教育支援に係る事業の改善や連携体制の確立を図った。

学習機会の提供に関しては、全ての保護者を対象に保護者同士が交流しながら家庭教育について学ぶことができる「親育ち応援学習プログラム」等の参加型の学習機会の提供を推進した。特に、入学入園前の説明会や乳幼児健診等、就学前のできるだけ早い時期に、このプログラムを活用した学習の場を設定したり、企業への出前講座を実施したりすることで多くの保護者が集まる効果的な機会を活用して保護者同士のつながりづくりと学習機会の拡充を図った。さらに、これからの予測困難な時代を子どもたちが生き抜くためには、知識や記憶力などの「認知能力」を重視する教育だけでなく、やる気・意欲、我慢強さ、協調性などの「非認知能力」を高めることが重要であると考え、「非認知能力」の育成に重要な就学前の子どもを持つ保護者向けに、令和3年度に開発した子どもの「非認知能力」の伸ばし方に係るプログラムを使った研修を実施するとともに、そのプログラムを指導できる人材の養成を行った。その他、子育てサポーターのスキルアップを目的とした研修を実施し、家庭の教育力の向上・活性化に努めた。

(2) 学校・家庭・地域の連携強化

家庭教育関係事業報告・事例集「すこやか」を作成し、家庭教育の推進に係る取組事例等を紹介することで、家庭教育相談員をはじめ、家庭教育支援関係者等の資質・能力の向上を図った。

また、子どもの生活リズム向上のための「早ね早おき朝ごはん」運動や、「スマホ・ネット問題」をテーマにしたPTA指導者研修の実施、社会教育関係団体等の活動の活性化を図る事業、子どもを対象にした電話相談事業を実施するなど、家庭・学校・地域が相互に連携した取組を進めた。

3 学校文化活動の促進

文化芸術による子供育成推進事業、岡山フィルハーモニック管弦楽団によるスクールコンサート等を県内延べ114の学校等を対象に開催し、児童生徒に優れた芸術の鑑賞・体験機会を提供した。

また、県中学校総合文化祭の開催や全国高等学校総合文化祭への参加に対して補助を実施し、発表機会の提供と文化交流の促進に努めた。

さらに、「岡山県学校部活動の在り方に関する方針」及び「学校部活動指導資料」による文化部活動の適切な実施を行ったほか、部活動指導員配置事業を実施した。

■第4節 学校教育

1 学校教育の充実

教育基本法、学校教育法などを踏まえ、新しい幼稚園教育要領と新しい小・中学校の学習指導要領が平成29年3月に、新しい特別支援学校の学習指導要領が平成29年4月に、新しい高等学校学習指導要領が平成30年3月に告示された。岡山県では、平成29年度から、新学習指導要領に基づく教育課程の編成及び実施上の課題や学習評価等について説明、周知を行い、新学習指導要領への円滑な移行を促した。また、幼稚園、小学校、中学校、高等学校教育の一貫性と家庭、地域との連携に留意し

ながら、「確かな学力の向上」を目指し、子ども一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を充実させるとともに、「豊かな心の育成」を重視し、変化の激しい今日の社会に適切に対応できるよう、個性や能力を伸ばさせる指導や、「グローバル人材の育成」のため、英語教育の充実等に努めた。

(1) 心豊かでたくましく生きる人間を育てる学校教育の推進

ア 教育内容・指導方法の改善充実

- 教育課程の適切な編成と教科指導の改善充実
- 学校教育研究指定校による研究の推進とその成果の活用
- 情報教育の推進
- 環境教育の推進
- 国際化に対応した教育の推進
- へき地・小規模校の教育の充実
- 活力ある学校づくりの推進
- 教育機会の確保等の推進

イ 学力向上の推進

- 教職員の資質能力の向上
- 学力向上施策の推進
- 全国学力・学習状況調査の実施
- 岡山県学力・学習状況調査の実施
- 学校経営力の向上
- 就学前教育推進プロジェクトの実施
- キャリア教育の充実

ウ 生徒指導・進路指導の充実

- 教職員の資質能力の向上
- 校内指導体制の整備
- 教育相談体制の充実
- 学校適応の推進
- 長期欠席・不登校対策の推進
- 児童生徒健全育成の推進
- スマホ・ネット問題対策の推進
- 進路指導の充実及び進路保障の推進

エ 心の教育の推進

- 教職員の資質能力の向上
- 道徳教育の充実
- 体験活動の充実
- キャリア教育の充実
- ボランティア教育の推進

オ グローバル教育の推進

- 国際理解教育の推進
- 英語教育の推進

カ 学校体育の充実

- 教員の指導力の向上による体育授業の充実
- 各学校の実態に応じた特色ある体力づくりの推進

○「岡山県学校部活動の在り方に関する方針」の徹底

キ 健康教育の充実

- 児童・生徒の健康診断の効果的かつ円滑な実施及び学校環境衛生等の保健管理の充実
- 学校保健に関する指導体制の充実強化のための講習会、研修会、研究大会等の開催
- 学校安全に関する指導体制の充実強化のための研修会の開催
- 学校防災体制と防災教育に関する指導体制の充実強化のための研修会の開催
- 学校教育の一環としての学校給食の充実向上を図るための、関係職員に対する研修会の開催
- 地場産物の活用を積極的に促進し、学校給食の内容の充実に努めるとともに、家庭・地域との連携を深めた食育の推進
- 衛生管理の徹底を図るための施設設備の整備促進
- 食中毒等の予防のための衛生管理の徹底

(2) 学習環境の整備

ア 県立高等学校教育体制の整備等

(ア) 令和10（2028）年度を目途とする県立高等学校教育体制整備

○岡山県立高等学校教育体制整備実施計画を踏まえた高等学校の魅力化に向けた取組

(イ) 入学者選抜の実施と改善

- 特別入学者選抜及び一般入学者選抜の実施
- 全国募集・複数校志願（看護科）・追検査の実施

(ウ) 開かれた学校づくり

- コミュニティ・スクールの設置
- 学校評議員の設置
- 学校評価の実施

イ 特別支援教育体制の整備

- 第4次岡山県特別支援教育推進プランの推進
- 就学指導体制の整備充実
- 教職員研修の充実
- 特別支援学校の初任者研修の実施
- 特別支援教育推進事業の実施
- 小中学校等におけるインクルーシブ教育システム構築支援事業の実施
- 特別支援学校等職業自立推進事業の実施
- 医療的ケア充実事業の実施
- 特別支援教育に関する教職員の専門性向上事業の実施
- 特別支援学校におけるICT授業充実事業

ウ 就学前教育の拡充

- 新岡山県幼稚園教育振興計画の推進
- 幼児教育センター機能の充実
- 教職員の資質能力の向上

エ 就学・進学奨励の促進

- 幼稚園就園奨励費
- 高等学校就学支援金
- 奨学のための給付金制度
- 県立高等学校授業料減免制度

- 定時制・通信制高等学校修学奨励制度
- 育英会奨学金制度
- 高等学校貸付奨学金制度
- 特別支援教育就学奨励費

(3) 指導体制の整備

ア 教職員の確保と適正配置

- 学級編制の弾力化の実施
- 小1 グッドスタート支援事業の実施
- 小学校の変則複式学級及び単複くり返し学級解消のための教員の配置
- 教科指導充実のための非常勤講師の配置
- 教育内容、指導方法等の多様化に対応した教員の配置
- 児童生徒をきめ細かく支援するための教員の配置
- 特別支援教育充実のための教員の配置
- 研修、長期病気休暇等の代員確保

イ 教員等の人材育成

- 岡山県公立学校教員等人材育成基本方針並びに岡山県教員等育成指標及び研修計画に基づく教員の養成・採用・研修・人事管理等

ウ 教職員研修の充実

- 教職員を対象とした各種研修事業の実施
経験年数別研修、職能研修、教科領域別研修、課題別研修、長期研修等
- 各種研究協議会
- 内地留学、中央研修、県外研究大会等への派遣
- 産業教育長期専門研修
- 教育研究団体への助成
- 教育研究推進校等による研究の推進とその成果の活用

エ 教職員福利厚生への充実

- 健康管理事業の充実と健康づくりの推進
- メンタルヘルス対策の実施
- 県立学校等への産業医の配置による安全衛生管理体制の充実
- 教職員等生涯生活設計推進計画に基づく生涯生活設計づくり支援事業の実施
- 共済組合、互助組合医療費等の給付
- 共済組合の長期給付
- 文化・厚生事業の実施と助成

(4) 教育施設・設備の整備充実

ア 県立学校施設の整備充実

- 高等学校校舎等の整備（長寿命化改修等）

イ 公立小・中学校等施設の整備促進

- 耐震化の促進及び防災機能の向上
- 老朽化に対する改修、改築事業の促進
- 教育内容の多様化に合わせた整備
- 空調設備整備など教育環境の質的な改善

■第5節 人権教育

岡山県教育委員会では、「第4次岡山県人権教育推進プラン」（「第4次プラン」）に基づき、全ての人々の人権が尊重される共生社会の実現のため、国・市町村や関係機関、NPO、教育研究団体等と連携・協働を図りながら、人権教育の充実を図った。

学校教育においては、教育活動全体を通じて、人権の意義・内容等について知的理解を深めるとともに、豊かな人権感覚の育成に努めた。

就学前教育については、人権尊重の精神の芽生えが感性として育まれるよう、人権感覚の育成に重点を置いて取り組んだ。

また、教職員研修の充実に努め、資質・指導力の向上を図った。

社会教育においては、住民が、様々な人権問題についての理解と認識を深め、日常生活の中に生かせる人権感覚と実践的な態度を身に付けることを目指し、各種情報の提供や連絡調整、地域における指導者の養成等により市町村の取組を支援した。

特に子どもの人権をめぐるのは、いじめや暴力行為等の問題行動や不登校、虐待、自殺など喫緊の課題が山積しており、学校教育と社会教育が連携しながら、自他の人権を尊重する意識、意欲、態度を向上させ、それが行動となって現れるよう、取組の充実を図った。

1 人権教育行政の企画・推進

人権教育推進のための企画を行うとともに、学校や市町村における人権教育の推進体制が充実するよう支援を行った。

また、関係課等との連携を図るとともに、施策推進のための条件整備に努めた。

(1) 人権教育行政の推進

岡山県人権教育推進マトリックス会議等、関係部署の連携により、様々な人権課題相互の関連を図りながら、総合的な人権教育行政を進めた。

(2) 県立学校の支援

県立学校において喫緊の課題である自他の生命及び個人の尊厳と価値を尊重する教育を行った。また、県立学校の教職員の指導力向上のため、人権教育・生徒指導課の指導主事が5年間ですべての学校をまわる、訪問研修を実施した。（5年中の初年）

(3) 地域における指導者等の養成

指導者養成講座において、様々な人権課題を取り上げるとともに、参加体験型の手法を活用するなどの創意工夫を図り、実践力のある指導者等の養成と資質の向上に努めた。

(4) 情報等の収集・提供

人権教育に関する各種情報の収集や、Webページ上の人権教育講師バンクの充実等により、学校や市町村における人権学習に役立つ情報の提供や広報活動に努めた。

2 人権教育の指導・推進

市町村、学校、教育機関、社会教育関係団体等において実施される人権教育の内容・方法等に関する指導・助言を行うとともに、指導資料等の整備や教職員等の児童虐待への対応力の向上を図った。

(1) 人権教育の推進

学校教育と社会教育との連携を図り、人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を養い、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度が実践行動につながる学習活動の充実を図った。

さらに、人権問題に関わり教育上配慮を必要とする人たちの自立支援に努めた。

(2) 市町村との連絡調整や学校等への指導

市町村との連絡調整に努めるとともに各種研修会等の充実を図った。また、市町村、学校等において実施される人権教育の内容・方法等に関する指導を行った。

さらに、幼児児童生徒の発達段階に応じた学習活動が計画的かつ円滑に行えるよう、各学校種間における相互協力、相互研修等による連携の推進を図った。

また、P T A指導者人権教育研修会では、人権教育について理解を図るとともに、いじめや子どもの自殺、児童虐待等の問題について情報提供を行った。

(3) 調査研究及び情報提供

拠点校において、取り上げる人権課題を明確にした指導案を作成し、授業公開、研究協議等を通じて、効果的な教育実践や教材・資料について情報提供を行った。

(4) 指導資料等の整備と活用

学校や地域社会の人権教育を効果的に推進するため、様々な人権問題に関する視聴覚教材を整備し、活用に努めた。

■第6節 文化財

本県に伝わる貴重な文化財を、県民の誇りとして次世代へ継承していくため、令和元年度に策定した「岡山県文化財保存活用大綱」に基づき、適切な保護・保存を推進した。

また、歴史を体感できるような史跡整備の促進や、I C Tを活用した文化財情報の発信など、積極的な活用事業を推進した。

1 文化財の保護・保存

県内文化財の実態調査に努め、貴重なものを県重要文化財等に指定するとともに、確実に次世代に継承するため適切な保護・保存を計画的に実施した。

大規模災害時における文化財等の救済を目的として設置した岡山県文化財等救済ネットワークでは、平時の活動として、未指定文化財も含めた文化財の所在調査等に関する研修会を開催した。

さらに、埋蔵文化財緊急調査を実施するとともに、公共工事コスト縮減対策として、埋蔵文化財の分布調査や試掘・確認調査を行った。

(1) 指定文化財管理

県内に所在する多くの指定文化財のうち、国指定の重要文化財（建造物）や史跡・名勝・天然記念物等を、開発行為等による破壊から守るために、定期的に巡視を行うパトロールを実施するとともに、国指定重要文化財の防災に万全を期するため、保守点検費に対し助成を行った。

また、吉備路風土記の丘県立自然公園特別地域内の史跡については、引き続き看視、清掃等、必要な管理を行った。

(2) 文化財保存修理

旧大國家住宅（国指定）、熊野神社本殿（県指定）等の保存修理事業等に補助金を交付し、指導・助言を行った。

(3) 埋蔵文化財発掘調査

県内には全国的に見ても数多くの遺跡が存在し、現在、おかやま全県統合型G I S文化財情報では、約22,000か所以上の遺跡の存在が周知されている。大規模事業は減少傾向にあるものの、各種開発は依然多く、これらに関わる遺跡の保護・保存のため開発側と協議・調整に努めているが、やむを得

ず保護・保存できないものについては、埋蔵文化財緊急調査を行い記録保存の措置を講じている。

令和5年度は、一般国道53号（津山南道路）改築工事及び高梁川酒津地区河川改修工事などに関連して発掘調査を実施するとともに、一般国道429号改築工事に伴う発掘調査報告書などの作成をした。

また、市町村教育委員会が行う調査等への支援を行った。

(4) 「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業

県内有数の観光地「吉備路」の中核を担う「史跡備中国分尼寺跡」について総合調査研究を推進し、その価値付けを進めるとともに、パンフレットの作成や吉備路の豊かな歴史遺産を体感できるウォークイベント等の開催を通して、吉備路の魅力を発信した。

また、「岡山県文化財保存活用大綱」において、県が所有または管理する史跡こうもり塚古墳及び史跡備中国分尼寺跡に関し、県内の率先モデルとして保存活用計画の策定などに努めることとしており、令和5年度は史跡備中国分尼寺跡の発掘調査等を実施し、発掘調査において判明した成果を現地説明会やホームページ等を通じて積極的に発信した。

2 文化財の公開・活用

(1) 重要文化遺産整備促進

近年の文化財保護行政においては、文化財の保存のみならず、公開・活用が求められている。

現在、国指定史跡の鬼城山や津山城跡、造山古墳第五古墳（千足古墳）などにおいて、歴史を体感できる史跡整備が行われており、事業を実施する市町村に対する助成や整備委員会等での指導・助言を行った。

県事業では、国指定史跡津島遺跡の整備が平成20年度に完了し、21年度からは整備がなされた遺跡において、小学校の校外授業や津島遺跡やよいまつり等の公開活用事業を実施している。

(2) インターネットによる情報提供

- ・岡山県内所在の国・県指定文化財：県内にある国・県指定文化財等を紹介する文化財課ホームページに情報を追加し、内容を充実させた。
- ・文化財地図情報システム：岡山県全域の文化財情報を紹介する Web サイトに情報を追加し、内容を充実させた。
- ・県立博物館デジタルミュージアム：県立博物館所蔵資料をホームページ上で閲覧、検索することができるデジタルミュージアムの更新準備を行った。

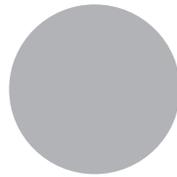
(3) 古代歴史文化協議会

古代歴史文化にゆかりの深い8県で連携し、歴史文化の共同調査研究・公開活用を進めている。令和5～6年の計画で「古墳時代の中央と地域」をテーマに共同調査研究を実施し、その成果を動画配信した。

また、令和元年度から4年度にかけて実施した「古墳時代の刀剣類」の研究成果について、岡山県古代吉備文化財センターの企画展において、岡山県内で出土した刀剣類を展示することで周知に努めた。



第2章 教育委員会



- 第1節 県教育委員会 (23~38)
- 第2節 市町村教育委員会 (39~40)
- 第3節 教育関係公益信託 (41)

第2章 教育委員会

■第1節 県教育委員会

1 委員会の構成（教育長及び委員（委員の定数：5人））

令和5年度の県教育委員会における教育長及び委員の構成は次のとおりである。

(1) 教育長

(年齢は令和6年3月31日現在)

氏名	年齢	職業	就任年月日	任期満了年月日	備考
鍵本 芳明	62	教育長	H30. 4. 1	R 3. 3.31	
			R 3. 4. 1	R 6. 3.31	

(2) 教育委員（定数5人）

(年齢は令和6年3月31日現在)

氏名	年齢	職業	就任年月日	任期満了年月日	備考
田野 美佐	55	元団体役員	H25.12.21	H29.12.20	教育長職務代理者 H27.4.1～H29.3.31 H31.4.1～R 3.3.31 R 5.4.1～R 7.3.31
			H29.12.21	R 3.12.20	
			R 3.12.21	R 7.12.20	
梶谷 俊介	66	会社役員	H22. 7.16	H26. 7.15	委員長 H25.2.24～H26.2.23 教育長職務代理者 H27.4.1～H29.3.31 R 5.4.1～R 7.3.31
			H26. 7.16	H30. 7.15	
			H30. 7.16	R 4. 7.15	
			R 4. 7.16	R 8. 7.15	
松田 欣也	64	会社役員	H21. 3.25	H25. 3.24	委員長 H22.2.24～H23.2.23 教育長職務代理者 H31.4.1～R 3.3.31
			H25. 3.25	H29. 3.24	
			H29. 3.25	R 3. 3.24	
			R 3. 3.25	R 7. 3.24	
上地 玲子	56	大学准教授	H27. 1. 1	H30.12.31	教育長職務代理者 H29.4.1～H31.3.31 R 3.4.1～R 5.3.31
			H31. 1. 1	R 4.12.31	
			R 5. 1. 1	R 8.12.31	
服部 俊也	52	会社役員	R 2. 1.10	R 6. 1. 9	教育長職務代理者 R 3.4.1～R 5.3.31
			R 6. 1.10	R10. 1. 9	

2 会議

総合教育会議は、知事と教育長、教育委員他が出席の下、民意を反映した教育行政を行うための協議を行った。

また、教育委員会会議は、毎月第1、3金曜日を中心に定例会を開催し、県教育行政の重要施策を審議決定した。

(1) 総合教育会議

ア 開催日及び協議事項

月 日	議 題
令和5年10月23日	令和6年度における取組の方向性
令和6年1月19日	長期欠席・不登校対策

(2) 教育委員会会議

ア 開催日

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	計
回数	2	2	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1	20 (回)
(日)	(7,21)	(12,26)	(9)	(7,21)	(4,18)	(1)	(6,23)	(2,17)	(21)	(5,19)	(2,16)	(12)	

イ 審議事項及び審議件数

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

計	67 (件)
①人事・給与に関する事	9
②叙勲、表彰に関する事	2
③教育計画等に関する事	2
④審議会等委員の任免に関する事	3
⑤予算及び議会議案に関する事	7
⑥公立学校教員採用試験に関する事	2
⑦高等学校入学者選抜等に関する事	9
⑧県立学校の教育体制に関する事	2
⑨学力、学習環境、学校生活に関する事	14
⑩体育、スポーツに関する事	1
⑪文化、文化財に関する事	2
⑫生涯学習に関する事	0
⑬教科書採択に関する事	4
⑭その他	10

(3) 各種意見交換・学校訪問

今後の教育行政施策の参考とするため、教育委員が教育関係者と現状や課題について話し合った。

月 日	場 所	相 手 方	議 題
R5. 5.12	県 庁	岡山教育事務所職員 津山教育事務所職員 総合教育センター職員	各機関の取り組みについて
R5. 5.26	県 庁	県立図書館職員 県立博物館職員 生涯学習センター職員 古代吉備文化財センター職員	各機関の取り組みについて
R5. 8. 4	県 庁	小・中学校長会	教育の質の向上に向けた働き方改革のさらなる推進と諸条件の整備について
R5. 9.21	県立岡山南高校	教 員	学校の取組みについて
R5.10.25	広 島 県	中国五県教育委員	教育行政の取組みについて
R5.11.13	古代吉備文化財 センター	職 員	センターの取組みについて
R6. 1.31	県警察本部庁舎	公安委員会職員 岡山市教育委員会職員	児童生徒の問題行動等への早期対応について
R6. 2.27	広 島 県	広島県教育委員会職員	SCHOOL“S”の取組みについて

3 諮問機関

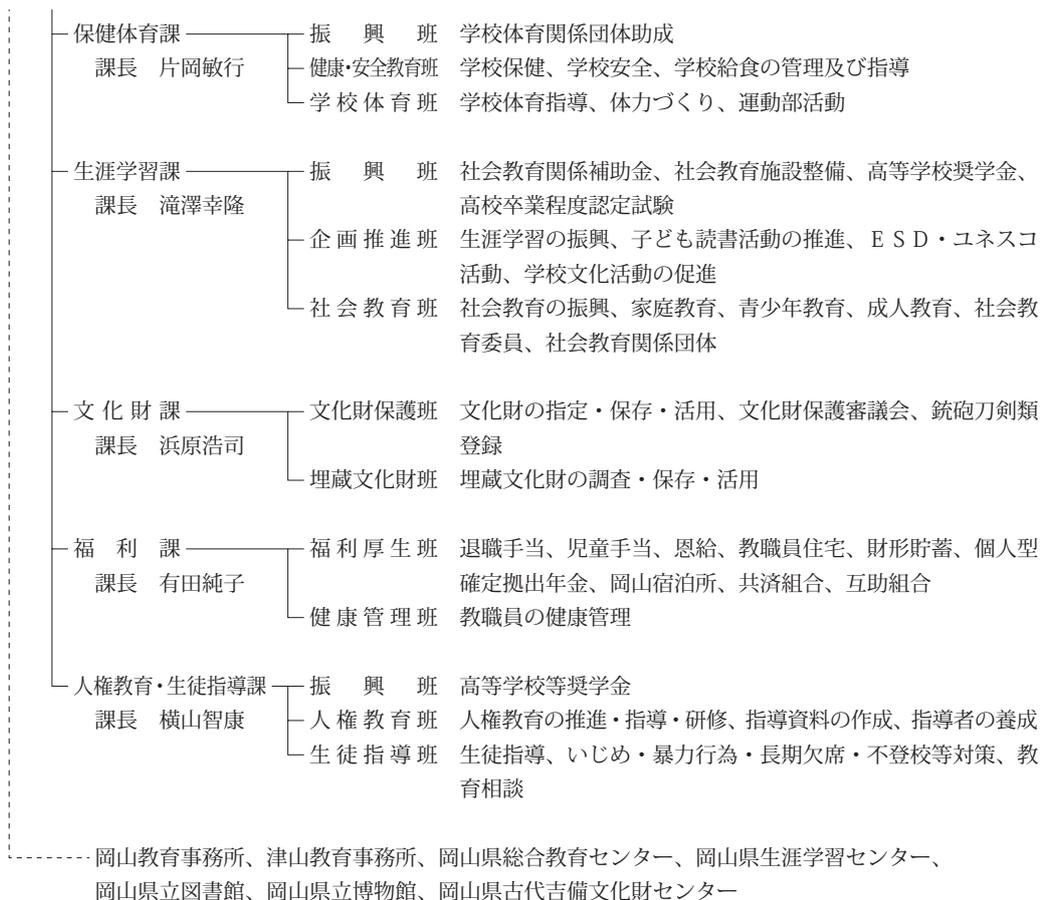
名 称	委員数 (人)	開催年月日	審議建議協議事項
岡山県教科用図書選定審議会	15	R5. 4.21	○教科用図書の採択に関する採択基準について 等
		R5. 5.26	○教科用図書の採択に関する教科用図書研究資料について 等
岡山県いじめ問題対策連絡協議会	15	R5.11	○岡山県はいじめ問題の現状について ○いじめ問題への効果的な対応の在り方について 等
岡山県いじめ問題対策専門委員会	5	R6. 1	○岡山県はいじめ問題の現状について ○いじめ問題への効果的な対応の在り方について 等
岡山県特別支援教育支援委員会	18	R6. 1.18	○県立特別支援学校へ就学する児童生徒について 等
岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議	15	R5. 9.28	○全ての人のウェルビーイングの実現に向けた公民館の取組について
		R6. 1.22	○全ての人のウェルビーイングの実現に向けた公民館の取組について
岡山県立図書館協議会	10	R5. 8.29	○岡山県立図書館第4次中期サービス目標について ○岡山県立図書館の運営状況について ○県内公共図書館の振興について
		R6. 2.15	○令和5年度事業概要 ○令和6年度当初予算案の概要 ○岡山県内市町村立図書館の動向について ○岡山県職員及びWebアンケートの結果(概要)について ○これからの県立図書館運営の方向性について
岡山県文化財保護審議会	15	R5.10.10	○令和5年度岡山県指定重要文化財の指定等諮問案件について ○令和4・5年度の文化財保護保存事業について ○令和4・5年度の埋蔵文化財発掘調査について ○令和4年度後半・令和5年度前半の現状変更について ○令和4年度後半・令和5年度前半の修理・復旧について ○令和4年度後半・令和5年度前半の滅失・毀損について ○令和5年度の文化財の公開・活用について
		R6. 2.13	○岡山県指定重要文化財の指定等諮問案件の審議・調査(R5.11.22、R5.12.6、R5.12.19、R5.12.20) ○令和5年度岡山県指定重要文化財の指定等諮問案件の答申について
岡山県立博物館協議会	15	R5.10. 5	○令和5年度事業について ○令和6年度展覧会計画(案)について ○長期展覧会計画(案)について
		R6. 3.22	○令和5年度事業について ○令和6年度事業計画(案)について ○長期展覧会計画(案)について
岡山県人権教育推進委員会	15	R5. 8. 9	○「第4次岡山県人権教育推進プラン」に基づく人権教育の推進について ○「互いに多様性を認め合う社会」の構築に向けて、人権教育として大切にしたい視点や必要な取組等について

4 事務局

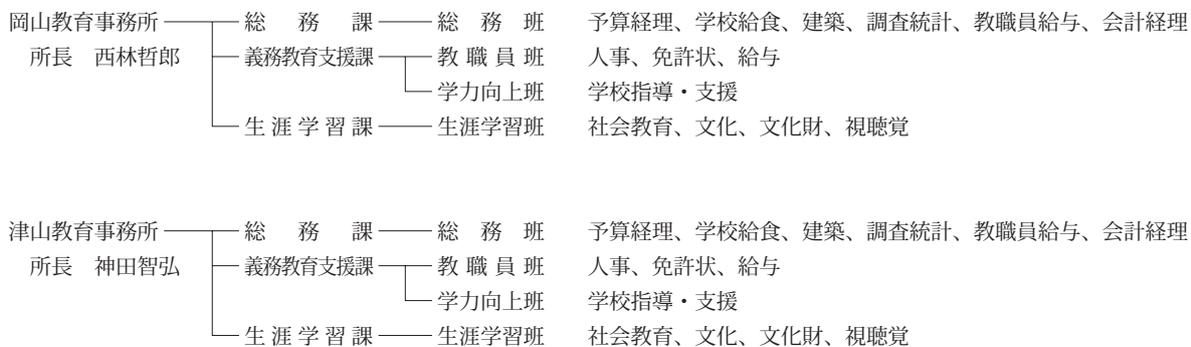
(1) 機構と事務分掌

ア 本 庁

	(課(室)名)	(班 名)	(所管事務内容)
教育長 鍵本芳明 教育次長 國重良樹 田中秀和 学校教育推進監 中村正芳	教育政策課 課長 小林伸明	人 事 班	職員の人事・給与・旅費・サービス・研修、公務災害、表彰、文書、条例規則、市町村教委指導、教育行政相談、公印管守、教育関係法人
		秘書広報班	委員会会議、秘書、請願陳情、高齢者叙勲、公聴広報
		教育企画班	教育政策の企画・調査・総合調整、危機管理対策、教育委員会事務点検・評価、環境対策、調査統計
	財務課 課長 朝倉尉雄	財 務 班	予算編成執行、県議会関係事務、経理の集中管理、就学支援金等、就学援助費等国庫補助金・国庫支出金
		給与管理班	教職員給与費、義務教育費国庫負担金
		施設班	教育財産の取得・処分・管理、県立学校施設整備・営繕
		助成班	公立文教施設整備費国庫負担金・交付金、公立学校施設整備指導、公立文教施設諸調査
	教職員課 課長 鈴鹿貴久	給与免許班	教職員給与、教育職員免許状、職員団体事務、公務災害、教職員の争訟事務
		義務教育人事班	教職員の人事・サービス・定数管理、教職員の叙勲・表彰
		高校教育人事班	教職員の人事・サービス・定数管理、教職員の叙勲・表彰
		評価・企画班	教職員の人事評価、学校の組織運営に関する企画・調査、教職員採用試験、働き方改革、コンプライアンスの推進
	高校教育課 課長 鶴海尚也	振 興 班	産振施設・設備、理振設備、定通修学奨励
		指 導 班	高等学校・中等教育学校教育課程の指導、学力向上、グローバル化に対応した教育、教職員研修、教科書採択、キャリア教育
		職業指導班	教育課程の指導、情報教育、教職員研修、教科書採択、キャリア教育
	高校魅力化推進室 室長 室 貴由輝	管 理 班	県立中・高・中等教育学校の入学者選抜・通学区域、高等学校教育の機会確保
		企画推進班	高等学校魅力化、高校教育体制整備、中高一貫教育、県立中・高・中等教育学校の学級編制・生徒募集定員、公立高校等の設置・廃止
	教育情報化推進室 室長 宮森久彰		G I G A スクール構想、教職員の I C T 活用指導力向上、学校 I C T 環境整備、教育ヘルプデスク、情報セキュリティ、デジタル化の企画
	義務教育課 課長 苅田直樹	振 興 班	教育研究団体助成
	指 導 班	小・中学校教育課程の指導、就学前教育の指導、小中一貫教育、グローバル化に対応した教育、へき地教育、教科書採択、教職員研修、キャリア教育、市町村立幼・小・中学校の設置・廃止	
	学力向上対策班	学力・学習状況調査、授業改革支援、補充学習支援	
特別支援教育課 課長 江草大作	振 興 班	特別支援教育就学奨励費	
	指 導 班	特別支援学校教育体制整備、就学支援、教育課程の指導、教職員研修、教科書採択、キャリア教育、生徒募集定員、入学者選抜、公立特別支援学校の設置・廃止	



イ 教育事務所



ウ 教育機関

岡山県総合教育センター 所長 岩崎政則	総務課	予算経理、公印管守、文書、職員の服務、施設設備の管理
	企画部	センター業務の総合企画・調整、教育経営に関する研修・調査研究・援助、教育資料情報収集・活用・提供
	研修部	各教科、生徒指導、特別支援教育等の研修・調査研究・援助
	教育支援部	生徒指導、特別支援教育等に関する教育相談の実施・研修・調査研究・援助

岡山県生涯学習センター 所長 栗原宏之	総務課	予算経理、公印管守、文書、職員の服務、施設設備の管理
	振興課	各種講座の開設、調査研究等、生涯学習情報提供、生涯学習相談、科学に関する学習機会提供、視聴覚教育の普及

岡山県立図書館 館長 大西治郎	総務・メディア課	総務班	予算経理、公印管守、文書、職員の服務、施設設備の管理
		企画・メディア班	県立図書館協議会、広報、調査統計、電子図書館の推進、ネットワークシステム管理
	図書館振興課	図書館支援班	他の図書館等の振興、研修、調査統計
		図書館協力班	他の図書館等との協力・連絡調整、インターネット予約
	資料情報課	図書資料情報班	図書館資料の選定、受入れ
		逐次刊行物班	雑誌・新聞の受入れ・装備・管理
	サービス第一課	総合サービス班	参考資料の閲覧、調査相談等
		人文科学班	人文科学資料の閲覧、調査相談等
		児童資料班	児童資料の閲覧、調査相談等
	サービス第二課	社会科学班	社会科学資料の閲覧、調査相談等
自然科学班		自然科学・産業資料の閲覧、調査相談等	
	郷土資料班	郷土資料の閲覧、調査相談等	

岡山県立博物館 館長 細川 誠	総務課	予算経理、公印管守、文書、職員の服務、施設設備の管理、資料の寄贈、寄託・借用・貸出、館内整理
	学芸課	美術・文書・陶磁器・刀剣・民俗・考古資料の収集・展示・管理・修理、収蔵庫・展示室・写真室・工作室の管理、博物館実習・見学

岡山県古代吉備文化財センター 所長 奥山修司	総務課	総務班	予算経理、公印管守、文書、職員の服務、施設設備の管理
	調査第一課	第一班	埋蔵文化財の調査・研究、出土品の整理・保存修理・収蔵・活用、埋蔵文化財・出土品の資料の収集・活用、埋蔵文化財の発掘調査、出土品の整理・保存の指導・助言、研修指導
		第二班	
	調査第二課	第一班	
		第二班	
	調査第三課	第一班	
第二班			

(2) 職員数

ア 本 庁

	教 育 次 長	学 校 教 育 推 進 監	課 (室) 長	副 課 長	総 括 参 事	参 事	総 括 副 参 事	副 参 事	指 導 主 事(副参事)	社 会 教 育 主 事(副参事)	総 括 主 幹	主 幹	指 導 主 事(主幹)	社 会 教 育 主 事(主幹)	総 括 主 任	主 任	指 導 主 事(主任)	社 会 教 育 主 事(主任)	主 事	技 師	指 導 主 事	計	事 務 員	教 員 籍 指 導 主 事	団 体 職 員	総 計
計	2	1	13	10		5	25	15	3		10	12	23	1		44	18	2	35	1		220	15		26	261
教育次長	2																					2				2
学校教育推進監		1																				1				1
教育政策課			1	1																		2			1	3
人事班							1								7			4				12				12
秘書広報班										1					3		2					6	1			7
教育企画班							1								2		2					5				5
財務課			1	1																		2				2
財務班							1								5		3					9	3			12
給与管理班							1								2		1					4				4
施設班								5		1					1		1					8				8
助成班								1		1					1		1					4				4
教職員課			1	1		2		1														5				5
給与免許班							1								3		3					7	2			9
義務教育人事班							1					3			1							5				5
高校教育人事班							1					2			1							4				4
評価・企画班							1					2			3							6				6
高校教育課			1	1																		2		1		3
振興班							1				1				1		1					4				4
指導班							1						3				3					7	1			8
職業指導班							1						3									4				4
高校魅力化推進室			1					1														2				2
管理班							1	1				1			2							5				5
企画推進班							1								3							4				4
教育情報化推進室			1			1	1		1			1		1	1	2						9	1			10
義務教育課			1	1		1																3				3
振興班										1							2					3	2			5
指導班							1	1					2			2						6				6
学力向上対策班							1						3			1						5				5
特別支援教育課			1	1																		2				2
振興班										1							2					3	1			4
指導班							1						3			2						6				6
保健体育課			1	1																		2			1	3
振興班										1					1		1					3	1			4
健康・安全教育班							1					3				1	1					6				6
学校体育班							1					2				1						4				4
生涯学習課			1	1																		2			3	5
振興班										1					2		1					4	1			5
企画推進班							1				1						1	1				4				4
社会教育班							1					1	1			1	1					5				5
文化財課			1	1				1														3				3
文化財保護班								2		1					2		2					7	1			8
埋蔵文化財班							1								1		1					3				3
福利課			1																			1			20	21
福利厚生班								2			1						2					5				5
健康管理班							1					1					1	1				4				4
人権教育・生徒指導課			1	1		1		1														4				4
振興班							1								2		1					4	1			5
人権教育班							1	1				1				1						4				4
生徒指導班										1	1	1				5						8				8

イ 教育事務所

	所 長	次 長	総 括 参 事	参 事	課 長	総 括 副 参 事	副 参 事	指 導 主 事 (副 参 事)	社 会 教 育 主 事 (副 参 事)	総 括 主 幹	主 幹	指 導 主 事 (主 幹)	社 会 教 育 主 事 (主 幹)	総 括 主 任	主 任	指 導 主 事 (主 任)	社 会 教 育 主 事 (主 任)	主 事	計	事 務 員	教 員 籍 指 導 主 事	団 体 職 員	総 計
計	2	4	2	2	2	4	3	6			6	6	2		5	4		9	57	2	5		64
岡山教育事務所	1	2																	3				3
総務課																							
総務班						1					2				2			5	10				10
義務教育支援課																							
教職員班			1	2			2				1				2				8	1			9
学力向上班						1		3				2				4			10		4		14
生涯学習課					1														1				1
生涯学習班											1	1	2						4				4
津山教育事務所	1	2																	3				3
総務課																							
総務班						1					1				1			3	6				6
義務教育支援課																							
教職員班						1	1				1							1	4	1			5
学力向上班			1					2				2							5		1		6
生涯学習課					1														1				1
生涯学習班								1				1							2				2

ウ 教育機関

	所 (館) 長	副 館 長	副 館 長 兼 企 画 調 整 部 長	総 括 参 事 ・ 統 括 学 芸 員	参 事	課 長	総 括 副 参 事	副 参 事	指 導 主 事 (副 参 事)	社 会 教 育 主 事 (副 参 事)	学 芸 員 (副 参 事)	総 括 主 幹	主 幹	指 導 主 事 (主 幹)	社 会 教 育 主 事 (主 幹)	学 芸 員 (主 幹)	総 括 主 任	主 任	指 導 主 事 (主 任)	社 会 教 育 主 事 (主 任)	司 書 (主 任)	学 芸 員 (主 任)	主 事	指 導 主 事	社 会 教 育 主 事	司 書	学 芸 員	技 師	計	事 務 員	教 員 籍 指 導 主 事	総 計
計	5	9	4	6	10	7				1	5	3	1			3	9	3	2	4	1	20				9	4		106	7	39	152
総合教育センター	1	2																										3			3	
総務課						1										1						2						4			4	
企画部		1					1										1											3		12	15	
研修部		1																										1		21	22	
教育支援部		1																										1		6	7	
生涯学習センター	1	1																										2			2	
総務課												1										1						2			2	
振興課					1								1					3	2									7			7	
県立図書館	1	1	2																									4			4	
総務・メディア課																																
総務班						1										1						1						3	1		4	
企画・メディア班											1					1						1			1			4			4	
図書館振興課																																
図書館支援班											1											2						3			3	
図書館協力班						1										1												2	1		3	
資料情報課					1																							1			1	
図書資料情報班																1						1						2	2		4	
逐次刊行物班																1										2		3			3	
サービス第一課																																
総合サービス班						1															1					2		4			4	
人文科学班											1																2		3		3	
児童資料班															1	1										1		3			3	
サービス第二課					1																							1			1	
社会科学班						1															1					1		3			3	
自然科学班						1						1									1							3			3	
郷土資料班											1										1							2			2	
博物館	1	1																										2			2	
総務課					1	1										1						1						4			4	
学芸課										1											1						4		6		6	
古代吉備文化財センター	1	1	2																									4			4	
総務課					1																							1			1	
総務班						1										2						1						4	1		5	
調査第一課																																
第一班						1						1										2						4	2		6	
第二班						1																2						3			3	
調査第二課																																
第一班						1																2						3			3	
第二班						1	1															2						4			4	
調査第三課					1																							1			1	
第一班						1	1															1						3			3	
第二班							1				1											1						3			3	

5 教育・スポーツの奨励

(1) 教育功労者の表彰

令和5年度岡山県教育関係功労者の表彰式を、11月1日ピュアリティまきびで行い、次のとおり表彰を行った。

ア 教育職員で特に功労のあった者

氏名	所属名	職名	功績概要
金田 司	真庭市立遷喬小学校	校長	小学校教育及び教育行政の振興
花房 淳	倉敷市立東中学校	校長	中学校教育及び教育行政の振興
竹内 成長	岡山県立大安寺中等教育学校	校長	高等学校教育及び教育行政の振興

イ 教育行政に功労のあった者

氏名	所属名	職名	功績概要
三ツ 宗宏	真庭市教育委員会	教育長	地方教育行政の振興
友實 武則	赤磐市	市長	教育施設の整備充実

ウ 保健体育に功労のあったもの

〔個人〕

氏名	所属名	職名	功績概要
田中 薫	岡山県立緑陽高等学校	校長	高等学校保健体育の振興

エ 生涯学習及び社会教育に功労のあったもの

〔個人〕

氏名	所属名	職名	功績概要
中内 みさ	ノートルダム清心女子大学	教授	子どもたちの悩みに対する相談事業を通しての社会教育の振興

〔団体〕

団体名	代表者名	功績概要
特定非営利活動法人備前プレーパークの会	北口ひろみ	子どもの遊び場づくりを通しての社会教育の振興

オ 文化に功労のあったもの

〔個人〕

氏名	所属名	功績概要
土井 通弘	岡山県文化財保護審議会（会長）	文化財の保護保存を通しての文化の振興

〔団体〕

団体名	代表者名	功績概要
吉念仏踊保存会	寛 義之	民俗文化財の保存伝承を通しての地域文化の振興

カ 特殊な業績をあげ功労のあった者

〈該当者なし〉

キ 特に優れた教育活動を行いその業績が奨励に値する者

氏名	所属名	職名	功績概要
高橋 良一	倉敷市立菅生小学校	教諭	国語教育及び道徳教育の研究実践などを通しての小学校教育の充実
畠中 美和	倉敷市立第四福田小学校	指導教諭	学力向上の研究実践などを通しての小学校教育の充実
虫明 弘敬	倉敷市立郷内小学校	指導教諭	I C T教育の研究実践や人材育成などを通しての小学校教育の充実
平井 絵美	笠岡市立神内小学校	指導教諭	道徳教育の研究実践などを通しての小学校教育の充実
森阪 信樹	瀬戸内市立邑久小学校	主幹教諭	算数科教育及びI C T教育の研究実践などを通しての小学校教育の充実
御藤 真也	赤磐市立桜が丘小学校	教諭	特別支援教育の研究実践などを通しての小学校教育の充実
新田 恵子	赤磐市立高陽中学校	養護教諭	学校保健教育の研究実践などを通しての中学校教育の充実
水嶋 竜也	鏡野町立鏡野中学校	主幹教諭	理科教育及びI C T教育の研究実践などを通しての中学校教育の充実
佐藤 宏美	岡山県立岡山大安寺中等教育学校	教諭	国語教育及びI C T教育の研究実践などを通しての中学校教育の充実
田野 雅人	岡山県立岡山芳泉高等学校	教諭	英語教育の研究実践などを通しての高等学校教育の充実
平本 隆朗	岡山県立東岡山工業高等学校	教諭	工業教育の研究実践などを通しての高等学校教育の充実
松田こずえ	岡山県立岡山東商業高等学校	指導教諭	商業教育の研究実践などを通しての高等学校教育の充実
中本 大輔	岡山県立岡山南高等学校	指導教諭	地理歴史科の研究実践などを通しての高等学校教育の充実
岡本 崇志	岡山県立玉野高等学校	指導教諭	数学教育の研究実践などを通しての高等学校教育の充実
村井 明美	岡山県立岡山西支援学校	教諭	知的障害教育の研究実践などを通しての特別支援教育の充実
山崎 好美	岡山県健康の森学園支援学校	教諭	キャリア教育の研究実践などを通しての特別支援教育の充実

ク 公立学校で特に業績のあったもの

学校名	代表者名	功績概要
津山市立つやま西幼稚園	仁木美恵子	幼児の意欲を引き出し、主体性のある幼児の育成を目指した幼稚園教育の研究と実践
玉野市立大崎小学校	中藤 英二	課題解決に向けて主体的に学ぶ児童の育成を目指した小学校教育の研究と実践
美作市立大原小学校	金島久美子	地域に開かれた教育課程の実現による非認知能力の育成を目指した小学校教育の研究と実践

学 校 名	代表者名	功 績 概 要
和気町立佐伯小学校	山本 和宏	夢や目標に向かって意欲的に活動する児童の育成を目指した小学校教育の研究と実践
玉野市立荘内中学校	住田 義広	教育D Xを取り入れた協同学習などによる授業改善を目指した中学校教育の研究と実践
井原市立井原中学校	平井 宏之	I C Tの積極的活用による授業改善を目指した中学校教育の研究と実践
岡山県立倉敷鷺羽高等学校	三村 直子	地域との連携を通じた生徒の課題解決能力の育成を目指した高等学校教育の研究と実践
岡山県立邑久高等学校	萩原 康正	複数学科を生かした課題解決型学習による生徒の主体性向上を目指した高等学校教育の研究と実践

ケ 教育職員で永年勤続し功労のあった者

小学校教育職員	85名
中学校教育職員	55名
高等学校教育職員	84名
中等教育学校教職員	4名
義務教育学校教職員	3名
特別支援学校教育職員	30名
教育委員会事務局職員	26名

コ 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師で永年勤続し功労のあった者

学 校 医	24名
学校歯科医	13名
学校薬剤師	4名

6 調査統計・公聴広報活動

(1) 調査統計

令和5年度に教育行政上の基礎資料を得るため、県教育委員会が実施した調査統計は次のとおりである。

調査名	学校基本調査	地方教育費調査	子供の学習費調査
調査の時期	令和5年5月1日現在	令和4会計年度間 (令和5年5月1日現在)	令和5年度間
内 容	学校に関する基本的事項を調査し、学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的とした調査	地方公共団体間での教育行政に対する収支や行政機関の実態等、教育諸施策の基礎資料を得ることを目的とした調査	子供の学校教育及び学校外活動に係る支出経費等の実態を明らかにすることを目的とした調査

(2) 公聴広報活動

県民の要望や意向を総合的に把握し、施策への反映を図るとともに、行政施策について理解と協力を得るため、各種広報物の編集・発行、報道機関への積極的な発表、ホームページ・ソーシャルメディア・知事部局の広報媒体の活用により、P R活動を展開した。

ア 公聴活動

陳情事項等及び件数

令和5年度に受理した要望10件、陳情0件、その他9件の内容は次のとおりである。

合 計	19 (件)
○教育予算について	1
○教育振興について	13
○教育施設・設備について	0
○特別支援教育について	4
○新型コロナウイルスへの対応について	0
○その他	1

イ 広報活動

広報を効率的に行うため、県教育委員会事務局で広報委員会を設け、月に一度委員会を開催する中で、広報活動や広報誌の編集に関することを協議し、広報の円滑な運営を図った。

(7) 広報委員会

県の行政施策等について、県民の理解と協力を得るため、各課の広報委員が、月に一度、広報誌の編集や報道機関への積極的な発表、ホームページ・ソーシャルメディアの活用などについて協議した。

(イ) 各種広報紙・誌の編集・発行

	教育時報	教育要覧	教育行政便覧	岡山県の教育
年発行回数	12	1	1	1
発行部数	2,100部	20部	—	1,520部
規 格	A4判 44頁	A4判 308頁	A4判 141頁	A4判 8頁
内 容	教育行政の施策についての情報提供や教職員の実践的研究の紹介。	前年度の岡山県教育委員会が所管する諸活動の成果を収録。教育政策課ホームページに掲載。	学校基本統計に準じた内容等をまとめた、県内教育統計の一覧。教育政策課ホームページに掲載。	県下の教育水準の主要指標などを分かりやすく解説したリーフレット。
発 行 月	毎 月	令和5年10月	令和5年8月	令和5年5月

(ウ) 報道機関への発表件数 633件

(I) 教育委員会ホームページの活用

- ・月間行事予定、フォトニュースによる行事の紹介
- ・報道発表資料の掲載

(オ) 公式ソーシャルメディアの運用

- ・公式 Facebook、X (旧 Twitter) の運用、公式 note の運用開始 (11月～)
- ・各種事業の関連情報等やイベント情報の紹介

(カ) 県立学校の魅力発信

- ・中学生向け県立高校情報サイト「おかやま県立高校情報ナビ」の運用

(キ) 知事部局の広報媒体活用件数 (月別)

広報媒体 月	テレビ		ラジオ		県 広 報 紙※1	県 政 広 報 資 料	新 聞 県 政 NOW 新聞紙面 購入	懸 垂 幕 県 庁 舎 掲 示	パ ネ ル 県 庁 舎 玄 関	ポ ス タ ー エ レ ベ ー タ ー	県 H P ス ラ イ ド バ ナ ー	動 画 (YouTube等)	デ ジ タ ル サ イ ネ ー ジ オ ン モ ー ル 岡 山	県 公 式 S N S	コンビニ等店頭配置										
	企 画 番 組	R S K 番 組	N H K デ ー タ 放 送	R S K											F M 岡 山	セ ブ ン イ レ ブ ン	ロ ー ソ ン	フ ア ミ リ ー マ ー ト	ポ プ ラ	イ オ ン	お か や ま コ ー プ	マ ツ ク ス バ リ ユ ・ マ ル ナ カ	ポ ス タ ー		
R5. 4	1	4	3	3		1				3	1		1	1	1	1	1								
5			4	4	4		1			2	1														
6			7	5	4	1				2			1	1						1					1
7	1	9	4	4		1				1				1							1				
8	2	5	4	4	1					1				2											
9			3	1	1								1	2											
10			7	6	7		4			3			1	6			2		1			2			
11	3	4	4	4		1				1			2	2		1						1	1		1
12			3	5	4		1			2	1		1	1					1			1			1
R6. 1			2	1	2		1			2			1	3			1					1			
2			5	3	3		1			2			2	3		1					1	1			1
3	2	4	3	2		1				2			1	2		1	1		1						
計(件)	9	57	43	42	2	12				21	3		11	24	1	4	5		5	2	6			2	2

※1 県広報紙「晴れの国おかやま」のかわら版への掲載件数を計上している。
 その他、2月号の特集として「夢に向かって世界に羽ばたけ!～グローバル人材の育成～」を掲載。

ウ 刊行物

名 称	発行月	部数	規格	頁数	主 な 配 布 先	刊行した課・機関
岡山県の教育 令和5年度版	R5.5	1,520	A4	8	教育機関ほか	教育政策課
教育要覧 2022年(令和4年度)	R5.10	20	A4	308	教育政策課ホームページに掲載	教育政策課
教育時報	毎月25日	2,100	A4	44	県内公立学校、教育機関ほか	教育政策課
教育行政便覧	R5.8	—	A4	141	教育政策課ホームページに掲載	教育政策課
教員採用試験広報リーフレット	R5.4	4,500	A4	1	市町村教委、大学ほか	教職員課
講師募集リーフレット	R5.8	12,500	A4	1	県立学校、市町村教委ほか	教職員課
岡山県公立学校の働き方改革緊急宣言(概要版)	R6.3	2,000	A4	1	教職員課ホームページに公開	教職員課
岡山県公立学校の働き方改革緊急宣言	R6.3	—	A4	4	県立学校、教育機関、市町村教委ほか(データ配布)	教職員課
働く若者サポートガイド(簡易版)	R5.5	34,300	A4	2	県立高校	高校教育課
1人1台端末活用事例集	R6.3	—	A4	39	教育情報化推進室ホームページに掲載	教育情報化推進室
令和5年度 学力検査の概要	R5.8	650	A4	124	公立中・高校、市町村教委	高校魅力化推進室
令和6年度岡山県立中学校及び岡山県立中等教育学校入学者選抜実施要項	R5.9	3,350	A4	20	入学希望者等	高校魅力化推進室
令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜実施要項	R5.10	2,200	A4	74	国公立中学校	高校魅力化推進室
令和6年度岡山県立高等学校に入学を希望する皆さんへ(パンフレット)	R5.10	19,000	A4	32	国公立中学生	高校魅力化推進室
要覧	R5.4	200	A4	8	都道府県教育研究所、公立学校、市町村教育委員会	総合教育センター
「言語活動を通して」資質・能力を育成する外国語授業のポイント	R6.3	—	A4	—	総合教育センターホームページに公開	総合教育センター
冊子 おかやまICT活用実践事例集 GIGA取材編	R4.3~	—	A4	—	総合教育センターホームページに公開	総合教育センター
令和5年度 岡山県の特別支援教育	R5.7	1,800	A4	16	県内公立幼・小・中・高・特別支援学校、市町村教委、関係機関ほか	特別支援教育課
令和6年度岡山県立高等支援学校及び岡山県立特別支援学校高等部本科普通科職業コース入学者選抜実施要項 岡山県立特別支援学校高等部(本科・専攻科)入学者選抜実施要項	R5.9	1,250	A4	52	入学希望者等	特別支援教育課
『学校における医療的ケア』	R6.3	1,400	A4	4	県立特別支援学校、機関病院、医療的ケア児支援センター等関係機関	特別支援教育課
「幼稚園・保育所・こども園における特別支援教育充実ガイドブック」	R6.3	1,490	A4	28	公立立保・幼、こども園	特別支援教育課
すこやか(家庭教育関係事業 報告・事例集)	R6.3	850	A4	74	市町村教委ほか	生涯学習課
マンガ版「わが家のすこやか日記」冊子	R6.1	3,000	A4	21	県内幼・保・こ・小・中・中等・高・特別支援学校、市町村教委、図書館、公民館ほか	生涯学習課
要覧	R5.5	700	A4	20	全国生涯学習センター、市町村教委、公民館ほか	生涯学習センター
生涯学習センターだより 59号	R5.6	9,500	A4	12	全国生涯学習センター、市町村教委、公民館ほか	生涯学習センター
生涯学習センターだより 60号(学びing)	R6.3	9,000	A4	12	全国生涯学習センター、市町村教委、公民館ほか	生涯学習センター
岡山県立図書館所蔵ハンセン病関係資料目録	R5.7	35	A4	58	ハンセン病療養所ほか	岡山県立図書館
令和4年度年報	R5.8	190	A4	77	県内市町村図書館、都道府県図書館ほか	岡山県立図書館
岡山県立図書館協力ニュース 第144号~155号	毎月	115	A4	2	県内市町村図書館ほか	岡山県立図書館
所報「わかしお」	R6.3	550	A4	10	市町村教委、県内青少年教育施設、小学校ほか	岡山県渋川青年の家
図録「慈悲のほとけー観音と古寺の名宝ー」	R5.7	400	A4	104	国立国会図書館、県内図書館、全国の博物館ほか	岡山県立博物館
図録「醸すー自然と技術が育んだ岡山のお酒ー」	R5.10	400	A4	88	国立国会図書館、県内図書館、全国の博物館ほか	岡山県立博物館
研究報告第44号	R6.3	400	A4	74	国立国会図書館、県内図書館、全国の博物館ほか	岡山県立博物館
岡山県立博物館だより第85号	R6.3	600	A4	8	国立国会図書館、県内図書館、全国の博物館ほか	岡山県立博物館
所報古備第75号	R5.9	1,000	A4	8	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
所報古備第76号	R6.3	1,000	A4	8	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
岡山県埋蔵文化財発掘調査報告267(尾崎遺跡)	R6.3	291	A4	108	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター

名 称	発行月	部数	規格	頁数	主 な 配 布 先	刊行した課・機関
岡山県埋蔵文化財発掘調査報告268 (特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡)	R6.3	300	A 4	90	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
岡山県埋蔵文化財発掘調査報告269 (高尾北ヤシキ遺跡・高尾北ヤシキ古墳)	R6.3	290	A 4	460	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
岡山県古代吉備文化財センター年報2	R5.9	289	A 4	56	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
岡山県古代吉備文化財センター紀要3	R6.3	300	A 4	90	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
吉備路の歴史遺産2	R5.11	10,000	A 5	20	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
岡山の戦国争乱と城 第1巻	R6.2	5,000	A 4	8	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
美作・佐良山の遺跡	R6.2	3,000	A 4	8	国立国会図書館、市町村教委ほか	古代吉備文化財センター
福利おかやま	隔月	22,800	A 4	10	教育関係職員	福利課
教職員・保育従事者のための児童虐待対応の手引き (第三版)	R6.3	2,000	A 4	51	県内幼・こ・公立小・中・義務・高・中等・特別支援学校、市町村教委ほか	人権教育・生徒指導課
人権学習実践事例集	R6.3	800	A 4	28	県内幼・こ・公立小・中・義務・高・中等・特別支援学校、市町村教委ほか	人権教育・生徒指導課
大切なところからだを守るために	R6.3	72,000	A 4	4	県内公立小・特別支援学校(小学部)、市町村教委	人権教育・生徒指導課

7 市町村教育委員会の充実強化

教育行政は年々複雑化・専門化しており、市町村教育委員会の果たす役割も大きくなってきている。

このため、市町村教育委員会が教育事務を円滑に遂行できるよう、国及び県の文教施策の普及徹底、市町村教育委員会関係者の資質向上、組織の強化を図っている。

○国及び県の文教施策について、その趣旨の徹底を図った。

○市町村教育委員・教育長・事務局職員の資質向上を図るための研修会を、Web会議ツール等を利用し、実施した。

○市町村教育委員会の運営及び教育委員・教育長の身分・服務等に関する指導助言を行った。

○市町村教育委員会の権限、市町村教育委員会と市町村長との関係、市町村教育委員会事務局の機構の強化等について指導した。

○市町村教育委員会に対し、地域の実情に応じ指導主事等を派遣した。

■第2節 市町村教育委員会

1 市町村教育委員会数

(令和5年5月1日現在)

市郡名	市	町	村	組合 (学校事務)	計
総数	15	10	2	1	28
岡山市	1				
倉敷市	1				
津山市	1				
玉野市	1				
笠岡市	1			1	
井原市	1				
総社市	1				
高梁市	1				
新見市	1				
備前市	1				
瀬戸内市	1				
赤磐市	1				
真庭市	1				
美作市	1				
浅口市	1				
和气郡		1			
都窪郡		1			
浅口郡		1			
小田郡		1			
真庭郡			1		
苫田郡		1			
勝田郡		2			
英田郡			1		
久米郡		2			
加賀郡		1			

(令和5年度 教育行政調査から)

2 委員会の構成

(令和5年5月1日現在)

市町村別	委員会数			
	6人制	5人制	4人制	計
計	1	26	1	28
市		15		15
町	1	9		10
村		1	1	2
組合(学校事務)		1		1

(令和5年度 教育行政調査から)

委員の構成状況は、年齢別では、70歳以上24人(21.4%)、60歳代34人(30.4%)、50歳代28人(25.0%)、40歳代25人(22.3%)、30歳代1人(0.9%)、性別では男64人(57.1%)、女48人(42.9%)となっている。

3 教育長（前歴・給与）

(1) 前歴別教育長数 (令和5年5月1日現在)

区分	教育長	教職員	地教委職員	地方公務員他	国家公務員	その他の計
計	2	13	9	2		28
市	1	6	7			15
町村	1	6	2	2		12
組合（学校事務）		1				1

(令和5年度 教育行政調査から)

(2) 給与別教育長数

(令和5年5月1日現在)

区分	450,000円未満	450,000 499,999	500,000 549,999	550,000 599,999	600,000 649,999	650,000 699,999	700,000 749,999	750,000 799,999	800,000円以上	計
計	1	1	5	7	7	5	1		1	28
市				1	7	5	1		1	15
町村		1	5	6						12
組合(学校事務)	1									1

(令和5年度 教育行政調査から)

(注)学校組合教育委員会教育長について、当該組合を構成する市町村の教育委員会教育長が兼務している場合は記入していない。

4 事務局職員

(令和5年5月1日現在)

区分	教育長	指導主事	充 指導主事 て	主社会 社会教育 主事	派遣社会 教育主事	主社会 社会教育 主事補	事務職員	技術職員	労務職員	計
計	28	173	8	19			552	75	5	832
市	15	159	8	14			457	70	4	712
町村	12	14		5			95	5	1	120
組合（学校事務）	1									

(令和5年度 教育行政調査から)

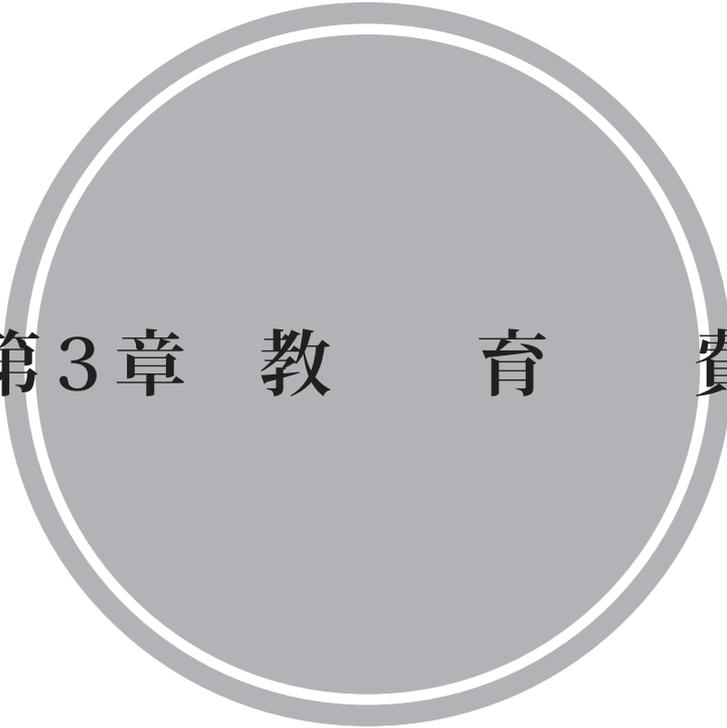
(注1)計に教育長は含まない。

(注2)学校組合教育委員会教育長について、当該組合を構成する市町村の教育委員会教育長が兼務している場合は記入していない。

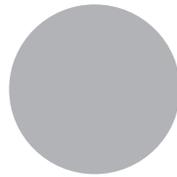
■第3節 教育関係公益信託

1 所管公益信託名一覧

	許可年月日
三菱自動車奨学基金	昭55. 5.30
岡山ロータリークラブ国際交流振興基金	昭59. 2.24
岡山県交通遺児就学援助基金	昭59. 9.28
岡山西ロータリークラブ青少年健全育成基金	平 4. 1.24
渡辺錠太郎記念教育基金	平28. 9. 2



第3章 教 育 費



- 第1節 教育委員会所管予算の概要 (45～46)
- 第2節 教育委員会所管予算の内訳 (47～52)
- 第3節 教 育 財 産 (53～54)

第3章 教 育 費

■第1節 教育委員会所管予算の概要

教育委員会においては、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」に掲げる重点戦略「教育県岡山の復活」に基づき、重点的に取り組む施策をこれまでの取組の成果と課題も踏まえながら、実行することとした。

<令和5年度における重点事業>

○学ぶ力育成プログラム

・教師の授業力の向上

【拡充】岡山県学力・学習状況調査

【新規】学力定着状況確認テスト・定着状況ウォームアップ

【拡充】教師業務アシスタント配置事業

【新規】学校現場における業務改善加速事業

【新規】県立高校・中学校 インターネット出願事業

主体的な学びの基盤づくり事業

部活動指導員配置事業

・高等学校における学力の向上

【新規】ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業

○徳育・体育推進プログラム

・不登校等を生まない学校づくりの推進

【拡充】小学校における長期欠席・不登校対策システム化推進事業

スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業

・暴力行為等への対策の推進

学級サポートチーム派遣事業

学級崩壊等早期対応事業

・子どもたちの体力の向上

【新規】令和7年度全国高等学校総合体育大会開催事業

○グローバル人材育成プログラム

・国際的に活躍できる人材の育成

【拡充】夢に向かって世界に羽ばたけ！岡山の高校生応援事業

これらを含めた最終予算を分類別にみると、第1表のとおりである。

第1表 令和5年度教育委員会所管予算の分類別内訳

区 分		令和5年度 最終予算(A)	令和4年度 最終予算(B)	差引増減 (A)－(B)	対前年度比 (A)／(B)
		千円	千円	千円	%
一 般 会 計	義務的経費	106,758,719	112,745,576	△5,986,857	94.7%
	人件費	106,481,732	112,491,787	△6,010,055	94.7%
	社会保障関係費	276,987	253,789	23,198	109.1%
	一般行政経費	16,700,960	15,018,285	1,682,675	111.2%
	運営費	8,745,521	7,540,160	1,205,361	116.0%
	事業費	7,955,439	7,478,125	477,314	106.4%
	計	123,459,679	127,763,861	△4,304,182	96.6%

■第2節 教育委員会所管予算の内訳

令和5年度における歳出予算の支出科目別内訳は、第1表～第7表のとおりである。

第1表 令和5年度教育委員会所管の歳出科目別内訳

(単位：千円)

科 目	令和5年度 最終予算額A	左の財源内訳		令和4年度 最終予算額B	差引増減(△)額 A－B
		特 定	一 般		
一 般 会 計 合 計	123,459,679	29,494,407	93,965,272	127,763,861	△4,304,182
教 育 費	123,459,679	29,494,407	93,965,272	127,763,861	△4,304,182
教育総務費	11,614,052	1,708,230	9,905,822	16,775,559	△5,161,507
教育委員会費	9,196		9,196	8,415	781
事務局費	2,458,074	7,316	2,450,758	2,341,672	116,402
教職員人事費	5,848,047	26,595	5,821,452	12,495,190	△6,647,143
教育指導費	3,043,363	1,674,062	1,369,301	1,667,872	1,375,491
教育研究所費	226,614	257	226,357	226,804	△190
恩給及び退職年金費	28,758		28,758	35,606	△6,848
小学校費	37,952,078	10,114,895	27,837,183	37,587,103	364,975
教職員費	37,952,078	10,114,895	27,837,183	37,587,103	364,975
中学校費	21,488,173	5,700,569	15,787,604	21,234,264	253,909
教職員費	21,439,690	5,700,569	15,739,121	21,180,831	258,859
県立中学校管理費	48,483		48,483	53,433	△4,950
高等学校費	36,505,432	9,388,244	27,117,188	36,123,202	382,230
高等学校総務費	31,196,377	6,990,578	24,205,799	31,383,239	△186,862
全日制高等学校管理費	3,296,112	592,709	2,703,403	3,308,243	△12,131
定時制高等学校管理費	24,728		24,728	27,102	△2,374
教育振興費	250		250	250	
学校建設費	1,981,572	1,802,921	178,651	1,397,926	583,646
通信教育費	6,393	2,036	4,357	6,442	△49
特別支援学校費	13,106,498	2,021,686	11,084,812	13,185,170	△78,672
教職員費	11,783,820	1,746,522	10,037,298	11,509,760	274,060
学校管理費	1,171,363	139,472	1,031,891	1,356,756	△185,393
学校建設費	151,315	135,692	15,623	318,654	△167,339
社会教育費	2,338,040	347,832	1,990,208	2,257,596	80,444
社会教育総務費	1,205,861	47,514	1,158,347	1,219,112	△13,251
文化財保護費	291,224	154,625	136,599	283,434	7,790
図書館費	550,356	138,124	412,232	465,938	84,418
青年の家費	200,818	2,439	198,379	202,954	△2,136
博物館費	89,781	5,130	84,651	86,158	3,623
保健体育費	455,406	212,951	242,455	600,967	△145,561
保健体育総務費	363,903	184,911	178,992	521,610	△157,707
体育振興費	91,503	28,040	63,463	79,357	12,146

第2表 教育総務費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考
教育委員会費	9,196	8,415	
教育委員会維持運営費	9,196	8,415	
内訳			委員 月：35,000円、日：30,000円 5人 費用弁償
報酬	6,990	6,510	
旅費	823	522	
需用費ほか	1,383	1,383	
事務局費	2,458,074	2,341,672	
教育総務職員給与費	1,972,061	1,915,005	教育長 1人 (対前年度増減 一人) 事務職員 225人 (" 2人) 休職代員等 4人 (" 一人) 非常勤職員 1人 (" 一人)
教育総務職員費	54,004	51,743	会計年度任用職員 17人 (" ▲1人)
小中学校施設整備指導費	2,679	2,524	小中学校建築指導事務費
教育行政企画調査費	6,262	5,388	
教育広報活動費	10,103	8,648	
人事管理指導費	5,609	5,585	
教育財産管理費	304,483	264,271	
教育庁維持運営費	102,200	86,079	
内訳			
旅費	4,429	4,423	
交際費	100	100	
需用費ほか	97,671	81,556	
被災児童生徒等就学支援事業費	673	2,429	
教職員人事費	5,848,047	12,495,190	
教育関係功労者表彰費	1,258	1,374	
教育施設警備委託費	66,158	66,064	県立学校及び教育機関等の夜間等警備
教員免許状交付書換費	15,001	19,147	
教職員人事給与管理費	22,628	31,598	
教職員福利厚生費	115,200	117,369	
教職員退職手当費	4,881,471	11,507,281	
教職員児童手当費	650,380	658,815	
教職員災害補償費	95,951	93,542	
教育指導費	3,043,363	1,667,872	
学力向上総合推進事業費	342,148	328,335	
心の教育総合推進事業費	517,784	486,169	
理科教育等設備整備費	18,060	17,586	
教育内容指導充実費	14,432	14,723	
教科書無償給与審議採択費	3,734	3,666	
公立学校教育計画推進費	15,872	15,052	
県立学校IT基盤整備事業費	1,568,311	426,587	
特別支援教育振興費	31,153	28,847	
学校教育活性化推進事業費	446,507	250,125	
教職員研修事業費	30,691	27,890	
人権教育指導費	22,664	21,552	
進学奨励費奨学金償還費	32,007	47,340	
教育研究所費	226,614	226,804	
総合教育センター維持運営費	226,614	226,804	
恩給及び退職年金費	28,758	35,606	
教職員恩給費	28,758	35,606	
計	11,614,052	16,775,559	

第3表 小・中学校費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考
小学校費	37,952,078	37,587,103	
小学校教職員給与費	37,788,903	37,480,796	教 員 4,625人 (対前年度増減 ▲56人) 事務職員 293人 (" ▲4人) 栄養教諭等 66人 (" ▲2人) 産休代員 61人 (" 一人) 休職・研修代員等 46人 (" 2人) その他職員 0人 (" 一人) 非常勤講師 268人 (" ▲11人)
小学校教職員費	163,175	106,307	教職員一人当たり旅費 44,310円
中学校費	21,488,173	21,234,264	
中学校教職員給与費	21,273,586	21,062,066	教 員 2,524人 (対前年度増減 ▲18人) 事務職員 138人 (" ▲1人) 栄養教諭等 32人 (" 一人) 産休代員 18人 (" 一人) 休職・研修代員等 27人 (" 1人) その他職員 0人 (" 一人) 非常勤講師 187人 (" ▲2人)
中学校教職員費	166,104	118,765	会計年度任用職員 1人 (" 一人) 教職員一人当たり旅費 65,670円
県立中学校管理運営費	48,483	53,433	
計	59,440,251	58,821,367	

第4表 高等学校費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考
高等学校総務費	31,196,377	31,383,239	
定時制高等学校教職員給与費	1,795,616	1,875,681	教 員 204人(対前年度増減 ▲7人) 事務職員 8人(" -人) 実習助手 1人(" -人) 産休代員 1人(" -人) 休職・研修代員等 1人(" ▲1人) その他職員 1人(" -人) 非常勤講師 16人(" -人)
全日制高等学校教職員給与費	25,544,843	25,654,696	教 員 2,544人(対前年度増減 ▲13人) 事務職員 315人(" ▲5人) 実習助手 239人(" ▲2人) 産休代員 9人(" -人) 休職・研修代員等 31人(" ▲2人) その他職員 1人(" -人) 非常勤講師 131人(" -人)
定時制高等学校教職員費	11,800	12,111	教職員一人当たり旅費 69,410円
全日制高等学校教職員費	294,229	251,389	会計年度任用職員 119人(対前年度増減 9人) 教職員一人当たり旅費 69,207円
高等学校入学者選抜費	59,069	35,090	
高等学校就学支援金	3,490,820	3,554,272	
全日制高等学校管理費	3,296,112	3,308,243	
産業教育等設備整備費	84,140	82,698	
県立高等学校建物管理費	292,394	377,061	校舎修繕費
全日制高等学校管理運営費	2,777,837	2,702,427	一般管理費 生徒一人当たり 61,508円 特殊管理費 総額 508,770千円
農業高校実習経営費	141,741	146,057	
定時制高等学校管理費	24,728	27,102	
定時制高等学校管理運営費	23,704	25,954	
定時制高等学校教育振興費	1,024	1,148	
教育振興費	250	250	
産業教育振興費	250	250	
学校建設費	1,981,572	1,397,926	
県立学校環境整備費	1,981,572	1,397,926	
通信教育費	6,393	6,442	
通信教育管理運営費	5,368	5,368	
高等学校通信教育振興費	1,025	1,074	
計	36,505,432	36,123,202	

第5表 特別支援学校費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考				
教職員費	11,783,820	11,509,760					
特別支援学校教職員給与費	11,451,337	11,213,673					
			義 務	非義務	計	対前年度増減	
			教 員	669人	509人	1,178人	28人
			寄宿舎指導員	60人	22人	82人	4人
			事務職員	26人	66人	92人	－人
			栄養教諭等	13人		13人	－人
			実習助手		30人	30人	－人
			産休代員	12人		12人	－人
			休職・研修代員等	22人		22人	▲2人
			非常勤講師	46人	46人	92人	－人
			非常勤寄宿舎指導員		8人	8人	－人
特別支援学校教職員費	332,483	296,087	会計年度任用職員	173人 (対前年度増減 2人)			
			教職員一人当たり旅費	36,200円			
学校管理費	1,171,363	1,356,756					
特別支援学校就学奨励費	276,987	253,789					
特別支援学校管理運営費	894,376	1,102,967	一般管理費	787,403千円			
			寄宿舎管理費	2,979千円			
			実験実習費	1,126千円			
			建物維持費	6,677千円			
			教材費	64,833千円			
			訪問学級等経費	816千円			
			学校給食衛生管理費	17,651千円			
			設備整備経費等	12,891千円			
学校建設費	151,315	318,654					
特別支援学校環境整備費	151,315	318,654					
計	13,106,498	13,185,170					

第6表 社会教育費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考
社会教育総務費	1,205,861	1,219,112	
社会教育職員給与費	898,533	894,544	事務職員 121人 (対前年度増減 一人)
社会教育指導体制整備充実費	34,558	34,319	
生涯学習センター維持運営費	152,278	150,679	
人権教育推進運営費	1,900	1,900	
高等学校奨学事業費	45,358	51,170	
生涯学習センター事業費	7,569	6,814	
生涯学習活動促進費	57,054	70,931	
人権教育振興費	1,371	1,515	
学校文化活動促進費	7,240	7,240	
文化財保護費	291,224	283,434	
文化財整備等事業費	15,671	12,917	
古代古備文化財センター維持運営費	19,973	19,010	
文化財保護対策費	40,868	44,615	
文化財保護保存費	73,790	64,714	文化財修理費等補助
埋蔵文化財緊急調査受託費	140,922	142,178	
図書館費	550,356	465,938	
県立図書館維持運営費	417,666	387,741	
県立図書館資料等整備費	132,690	78,197	
青年の家費	200,818	202,954	
青年の家維持運営費	200,818	202,954	
博物館費	89,781	86,158	
博物館等維持運営費	89,496	85,848	
博物館資料等整備費	285	310	
計	2,338,040	2,257,596	

第7表 保健体育費内訳

(単位：千円)

科目及び事項名	令和5年度 最終予算額	令和4年度 最終予算額	備 考
保健体育総務費	363,903	521,610	
保健体育職員給与費	100,293	100,082	事務職員 12人 (対前年度増減 一人)
健康教育振興費	204,498	362,587	
学校保健管理費	59,112	58,941	
体育振興費	91,503	79,357	
学校体育振興費	1,746	1,559	
学校スポーツ活動推進費	89,757	77,798	
計	455,406	600,967	

■第3節 教育財産

令和5年度末において教育委員会が管理している教育財産は、次表のとおりである。

教育財産一覧表

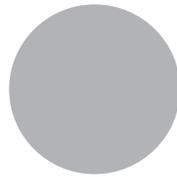
(単位：㎡)

名 称	所 在 地	土 地 5 年 度 末 現 在 高	建 物 5 年 度 末 現 在 高
○県立学校			
岡山朝日高等学校	岡山市中区古京町二丁目2-211	68,689.12	16,545.58
岡山操山	〃 〃 中区浜412	54,861.00	16,839.86
岡山工業	〃 〃 北区伊福町四丁目3-92	55,852.77	26,345.34
東岡山工業	〃 〃 中区土田290-1	50,420.61	19,815.43
岡山東商業	〃 〃 中区東山三丁目1-6	36,429.00	18,371.29
岡山南	〃 〃 北区奥田二丁目4-7	35,647.00	16,419.21
倉敷青陵	〃 倉敷市羽島1046-2	51,279.28	15,069.67
倉敷天城	〃 〃 藤戸町天城269	58,500.18	13,169.93
倉敷中央	〃 〃 西富井1384	38,601.00	17,183.16
倉敷工業	〃 〃 老松町四丁目9-1	45,005.15	23,762.76
水島工業	〃 〃 西阿知町1230	59,397.24	21,576.19
倉敷商業	〃 〃 白楽町545	35,540.28	16,226.69
津山	〃 津山市椿高下62	46,791.55	17,244.58
津山工業	〃 〃 山北411-1	64,987.94	29,829.66
津山商業	〃 〃 山北531	32,716.00	14,222.86
津山東	〃 〃 林田1200	72,724.93	14,552.21
玉野	〃 玉野市築港三丁目11-1	32,763.26	12,799.64
倉敷鷺羽	〃 倉敷市児島味野山田町2301	38,400.00	13,475.41
玉島	〃 〃 玉島阿賀崎三丁目1-1	29,161.85	12,232.51
玉島商業	〃 〃 玉島中央町二丁目9-30	35,020.14	10,079.36
笠岡	〃 笠岡市笠岡3073-2	31,839.81	11,235.83
笠岡工業	〃 〃 横島808	45,985.37	15,457.29
笠岡商業	〃 〃 笠岡3203	76,205.00	12,338.56
西大寺	〃 岡山市東区西大寺上二丁目1-17	43,681.77	15,698.74
井原	〃 井原市井原町1802	87,435.04	19,882.16
総社	〃 総社市総社三丁目9-1	27,597.58	13,860.36
高梁	〃 高梁市内山下38	34,824.00	13,569.90
新見	〃 新見市新見1394	85,787.87	29,618.03
岡山御津	〃 岡山市北区御津金川940	20,273.93	9,098.84
瀬戸	〃 〃 東区瀬戸町光明谷316-1	43,824.78	10,210.78
瀬戸南	〃 〃 東区瀬戸町沖88	92,993.22	14,660.76
和気閑谷	〃 和気郡和気町尺所15	29,956.00	11,006.59
邑久	〃 瀬戸内市邑久町尾張404	38,343.40	10,988.79
興陽	〃 岡山市南区藤田1500	336,655.00	22,440.45
鴨方	〃 浅口市鴨方町鴨方819	41,450.00	11,295.95
矢掛	〃 小田郡矢掛町矢掛1776-2	31,775.00	10,058.56
高松農業	〃 岡山市北区高松原古才336-2	149,413.00	20,890.97
勝山	〃 真庭市勝山481	68,472.14	18,569.04
勝間田	〃 勝田郡勝央町勝間田47	3,507,588.13	28,716.52
林野	〃 美作市三倉田58-1	50,902.09	18,330.44
岡山芳泉	〃 岡山市南区芳泉三丁目1-1	44,801.98	16,210.69

名 称	所 在 地	土 5 年 度 地 末 現 在 高	建 5 年 度 物 末 現 在 高
倉敷南高等学校	倉敷市吉岡330	47,607.00	16,566.15
岡山一宮	岡山市北区櫛津221	44,944.36	17,280.13
倉敷古城池	倉敷市福田町古新田116-1	42,717.00	16,036.02
玉野光南	玉野市東七区244	40,520.00	21,332.96
総社南	総社市三輪626-1	43,055.00	14,843.37
岡山城東	岡山市中区下110	43,907.75	16,939.07
備前緑陽	備前市西片上91-1	37,845.57	13,187.63
高梁城南	高梁市原田北町1216-1	29,755.65	12,414.79
真庭	真庭市落合垂水448-1 " 中島143	103,392.06	26,074.29
烏城	岡山市北区伊島町三丁目1-1	31,991.19	8,143.22
岡山盲学校	" 中区原尾島四丁目16-53	27,509.60	8,871.88
岡山聾	" 中区土田51	26,253.55	9,382.70
岡山支援	" 北区祇園866		9,409.38
誕生寺支援	久米郡久米南町山ノ城110-2	96,320.28	17,655.09
早島支援	都窪郡早島町早島4063	41,709.12	8,994.38
岡山西支援	岡山市北区田中579	10,685.67	6,309.23
西備支援	笠岡市東大戸5075-1	61,879.00	7,619.32
東備支援	備前市福田637	39,329.66	6,513.67
健康の森学園支援	新見市哲多町大野2034-5		6,490.04
岡山東支援	岡山市東区六甘1018	54,794.70	9,597.69
岡山南支援	" 南区内尾721-3	32,518.45	9,562.33
岡山瀬戸高等支援	" 東区瀬戸町江尻1326	17,183.13	5,500.90
倉敷琴浦高等支援	倉敷市児島田の口一丁目1-16	26,711.62	9,048.12
倉敷まきび支援	" 真備町箭田4682-1	29,670.00	13,126.06
岡山大安寺中等教育学校	岡山市北区北長瀬本町19-34	42,172.33	14,476.51
岡山操山中学校	" 中区浜412		3,786.85
倉敷天城	倉敷市藤戸町天城269		2,142.83
津山	津山市椿高下62		2,131.86
計		6,831,886.99	993,336.82
○教育機関・その他			
岡山教育事務所	岡山市北区石関町72	161.46	562.15
総合教育センター	加賀郡吉備中央町吉川7545-11	149,256.82	10,673.25
生涯学習センター	岡山市北区伊島町三丁目1-1	13,019.27	9,993.64
県立図書館	" 北区丸の内二丁目6-30	13,119.06	18,302.96
県立博物館	" 北区後楽園1-5		4,619.03
古代吉備文化財センター	" 北区西花尻1325-3	53,688.00	4,924.58
吉備路風土記の丘	総社市上林地内	143,259.00	353.9
吉備路郷土館	"	10,935.61	
史跡備中国分寺跡	"	734	
久米廃寺跡	津山市宮尾	2,573.03	
青年野外活動施設	加賀郡吉備中央町吉川	475,232.07	
渋川青年の家	玉野市渋川二丁目7-1	5,442.36	5,304.41
青少年教育センター閑谷学校	備前市閑谷740	59,890.60	7,471.63
教育庁書類倉庫	岡山市中区古京町1245-1		0.00
津島遺跡	" 北区いずみ町		81.45
計		927,311.28	62,287.00



第4章 生涯学習



- 第1節 生涯学習推進体制の整備（ 57 ）
- 第2節 生涯学習・社会教育の諸事業及び活動（58～72）
- 第3節 生涯学習・社会教育施設（72～99）

第4章 生涯学習

■第1節 生涯学習推進体制の整備

1 推進組織の整備

生涯学習を効果的に推進するためには、県民の意見や要望を把握するとともに、県や関係機関で実施する生涯学習に関連する諸事業を総合的に企画・調整することが必要である。

このため、次の組織を設置し、生涯学習の推進に努めた。

(1) 岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議

ア 構成

委員15名で構成、会議2回開催

イ 会議

「全ての人のウェルビーイングの実現に向けた公民館の取組」等について

2 市町村の推進体制の整備

(1) 専門職員の設置促進

ア 社会教育主事設置状況

(令和5年5月1日現在)

区分	項目	教 委 員 会 数	育 数	設 置 教 育 委 員 会 数	未 設 置 教 育 委 員 会 数	設 置 率 (%)	設 置 人 数
合	計	27		18	9	67	61
義 務 設 置	計	23		17	6	74	60
	15万人以上	2		2	0	100	38
	10～15万人未満	0		0	0	—	0
	6～10万人未満	2		2	0	100	3
	3～6万人未満	8		7	1	88	11
	1.5～3万人未満	3		2	1	67	3
	1～1.5万人未満	8		4	4	50	5
義 務 猶 予	計	4		1	3	25	1
	5千人～1万人未満	1		0	1	0	0
	5千人未満	3		1	2	33	1

イ 社会教育指導員設置状況 (令和5年5月1日現在)

人 員：23人

設置市町村：岡山教育事務所管内＝17市町

17人／12市町

(玉野市、笠岡市、赤磐市、早島町、里庄町は配置なし)

津山教育事務所管内＝10市町村

6人／3市町

(津山市、美作市、新庄村、鏡野町、奈義町、西粟倉村、久米南町は配置なし)

■第2節 生涯学習・社会教育の諸事業及び活動

1 岡山県社会教育委員の会議（生涯学習審議会と合同開催）

生涯学習・社会教育に関する諸計画の立案等をするため、社会教育委員の会議を生涯学習審議会と合同で開催し、審議を行った。

(1) 全体会議

委員15名で構成、会議2回開催

(2) 内容

「全ての人のウェルビーイングの実現に向けた公民館の取組」等について

2 家庭教育

都市化、核家族化及び地域における地縁的なつながりの希薄化等により、家庭の教育力の低下が指摘されるなど、社会全体で家庭教育支援の必要性が高まっている。このため、家庭や企業を訪問して、情報や学習機会の提供、相談対応を行うなど、積極的かつきめ細やかな家庭教育支援を実施した。さらに、電話・メールによる相談事業等を行い、身近な地域における家庭教育支援の充実、活性化を図った。

(1) おかやま子ども応援推進委員会地域家庭教育推進部会

乳幼児から思春期までの家庭教育支援の充実に関する事業を推進することを目的として設置した。委員は、学識経験者、関係団体の代表者や実践活動者、行政関係者等6名で構成し、事業の企画・立案等について専門的立場から助言、事業評価等を行った。

(2) 学習機会・情報の提供

地域の子育て経験者や専門家等の連携による「家庭教育支援チーム」を組織するなど、持続可能な仕組みをつくり、学校等との連携を図りつつ、多くの保護者が集まる機会での学習機会の提供や相談対応等を行う取組を支援するとともに、企業等を訪問して家庭教育に関する情報や学習機会の提供を行った。また、保護者同士が交流しながら学び合うことのできる学習プログラムを身近な地域で実施するリーダー等を対象にした研修会を実施するとともに、就学前の全ての保護者が参加する機会にこのプログラムを活用した学習の場を設けるなど、家庭の教育力向上を支援した。

ア おかやま子ども応援事業

- ・家庭教育支援チーム（15市町）
- ・家庭教育に関する学習講座（15市町）
- ・家庭教育企業出前講座
- ・ファシリテーター交流会

イ 開設場所別講座数

（令和5年5月1日現在）

開設主体	区分	認定 こども園	幼稚園	保育所 (園)	小学校	中学校	公民館	その他	計
教育委員会		36	148	27	230	56	332	32	861
P T A		8	22	9	88	25	1	16	169
団体等		0	0	1	101	73	96	5	276
計		44	170	37	419	154	429	53	1,306

※令和5年度より調査方法を変更したため、令和5年5月1日現在情報（「令和5年度岡山県生涯学習・社会教育行政便覧」参照）を掲載する。

ウ 学習内容別時間数

学習内容	開設主体	教育委員会	P T A	団体等
家庭教育の意義		15	9	9
家庭生活に関する事項		269	9	61
成長と発達に関する事項		184	13	64
生活習慣に関する事項		89	4	24
健康と安全に関する事項		79	10	31
家庭外社会に関する事項		19	1	32
子どもの読書活動に関する事項		150	0	20
非認知能力育成に関する事項		43	12	9
人権教育		48	101	23
その他		29	6	4
計		925	165	277

※令和5年度より調査方法を変更したため、令和5年5月1日現在情報（「令和5年度岡山県生涯学習・社会教育行政便覧」参照）を掲載する。

(3) 就学前の非認知能力育成支援事業

「非認知能力」の育成に重要な就学前の子どもを持つ保護者向けに、令和3年度に開発した子どもの「非認知能力」の見取り方や伸ばし方に係るプログラムを使った研修を実施するとともに、プログラムを指導できる人材の養成を行った。

【就学前の非認知能力育成支援講座】

○岡山教育事務所管内

- ・研修期間 3日間
- ・会場 赤磐市立山陽幼稚園
- ・参加者数 1日目 56名
2日目 38名
3日目 35名

○津山教育事務所管内

- ・研修期間 3日間
- ・会場 津山中央公民館
- ・参加者数 1日目 29名
2日目 23名
3日目 19名

【就学前の非認知能力育成支援のための人材養成研修会】

- ・研修期間 3日間（内1日は、フォローアップ研修会）
- ・会場 岡山県生涯学習センター
- ・参加者数 延べ115名

(4) 生き生きおかやま家庭教育応援事業

少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など、家庭を支える環境の変化により、社会全体で家庭教育を応援する気運を高める必要があるため、マンガ版「わが家のすこやか日記」の作成による岡山県家庭教育応援の日の周知を行った。また、地域人材を活用した家庭教育支援チームの設立を促進し、学習機会や相談体制を充実させ、家庭教育支援の体制を整えた。

【岡山県家庭教育応援の日の周知】

平成21年から令和元年度にかけて、子どもから大人まで幅広い年代から寄せられた日常のエピソードをまとめた家庭教育啓発冊子「わが家のすこやか日記」掲載作品の中から21作品をマンガにし、おかやま教育の日や岡山県家庭教育応援の日がある11月から岡山県生涯学習課のHPやSNS等で発信した。また、冊子を作成し、各市町村の学校園や公民館、図書館等へ配付した。

【家庭教育支援チーム設立促進】

市町村等が新たに家庭教育支援チームを設置するための支援を県が行った。

- ・実施市町村 瀬戸内市、新庄村

【関係課による組織横断会議の実施】

家庭教育支援に係る県庁各課が、情報や課題を共有し、その課題解決のためにそれぞれが果たすべき役割や連携の在り方を探るための会議を設置し、家庭教育支援に係る事業の改善や連携体制の確立を目指した。

- ・実施回数 3回

(5) すこやか家庭教育相談員養成講座・子育てサポータースキルアップ講座

家庭教育相談員の養成及び資質向上、家庭教育支援関係者、子育てサポーター等のスキルアップを図るため、幼児期から少年期の家庭教育に関する専門的知識の習得を目指し、研修講座を実施した。

- ・研修期間 2日間（6講座）
- ・会場 岡山県生涯学習センター
- ・受講者数 19名

(6) 家庭教育企業出前講座

生涯学習課がコーディネートの中核となり、企業等を訪問して家庭教育支援に関する出前講座を実施し、家庭教育の重要性を伝えた。また、企業等を訪問した機会に情報交換を行い、子育て中の保護者や保護者を取り巻く大人の状況を把握して、今後の家庭教育支援施策の参考にした。

- ・実施企業数 12（新規7企業、継続5企業）

(7) 家庭教育手帳の活用促進

一人ひとりの保護者が家庭を見つめ直し、自信を持って子育てに取り組んでいく契機となる、子育てのヒント集である家庭教育手帳を、県生涯学習課HPからダウンロードできるようにし、小学校の研修会、家庭教育学級、乳幼児の健診時にテキストとして利用するなど活用を促進した。

「ドキドキ子育て」(妊娠期～就学前までの子どもを持つ保護者向け)

「ワクワク子育て」(小学校1～4年生の保護者向け)

「イキイキ子育て」(小学校5、6年生及び中学生の保護者向け)

3 青少年教育

(1) 少年教育

ア 少年団体

(ア) ボーイスカウト

指導者及びボーイスカウト数

(令和6年3月31日現在)

区分	指 導 者		ス カ ウ ト				
	団委員数	指導者	ビーバー隊	カブ隊	ボーイ隊	ベンチャー隊	ローバー隊
人数	106	169	97	174	139	57	32
計	275		499				

育成団体別回数

(令和6年3月31日現在)

地 域	教会寺院	事務所	保育園・幼稚園	その他	計
5	12	1	1	0	19

都市別団及び隊員数

(令和6年3月31日現在)

都市	団 数	隊 員 数				
		ビーバー隊	カ プ 隊	ボーイスカウト	ベンチャー隊	ローバー隊
岡山市	6	57	100	82	25	17
倉敷市	4	17	32	16	10	2
津山市	1	7	10	10	7	7
玉野市	1	1	4	6	3	1
総社市	1	3	5	4	2	0
高梁市	1	0	0	0	1	3
新見市	1	4	4	7	3	2
赤磐市	1	1	7	4	2	0
浅口市	3	7	12	10	4	0
計	19	97	174	139	57	32

県組織：日本ボーイスカウト岡山連盟 連盟長 伊原木隆太

また、昭和46年6月18日に財団法人「ボーイスカウト岡山連盟維持財団」が設立されたが、平成25年5月1日付けで一般財団法人「岡山県ボーイスカウト振興財団」（理事長 松田 久）へ移行した。

(イ) ガールスカウト

指導者及びスカウト数

(令和6年3月31日現在)

区分	指 導 者		ス カ ウ ト					指導者 スキャップ
	団委員数	リーダー	テンダーフット	ブラウニー	ジュニア	シニア	レンジャー	
人数	39	34	1	20	24	20	13	38
計	73		78					38

育成団体別回数

(令和6年3月31日現在)

地 域	教会寺院	事務所	学 校	その他	計
6	4			1	11

都市別団及び隊員数

(令和6年3月31日現在)

都市	団数	スカウト					スキップ	リーダー	保護団体 委員
		テンダーフット	ブラウニー	ジュニア	シニア	レンジャー			
岡山市	5		17	14	14	11	28	21	26
倉敷市	2						4		2
津山市	1						3		1
総社市	2	1	1	1	3	2	1	5	6
高梁市									
浅口市	1		2	9	3		2	8	4
計	11	1	20	24	20	13	38	34	39

県組織：ガールスカウト岡山県連盟 連盟長 高橋恵子

(ウ) FOS少年団

都市別団数

(令和6年3月31日現在)

都市別	岡山市	新見市	備前市	瀬戸内市	勝田郡	加賀郡	計
団数	2	3	4	1	5	1	16

構成状況別団数

(令和6年3月31日現在)

区分	指導者	団員		
		男	女	計
小学生		110	81	191
中学生		18	10	28
ジュニア・リーダー	12			
成人	87			
計	99	128	91	219

県組織：岡山県FOS少年団連盟 会長 梶谷俊介

(イ) 子ども会

団体数及び会員数

(令和6年3月31日現在)

区分	団体	指導者	会員			計
			就学前	小学生	中高生	
数	280	3,279	426	6,618	306	10,629

県組織：岡山県子ども会連合会 会長 浅原耕一

(オ) 青少年赤十字

(令和6年3月31日現在)

学 校 数			団 員 数			
小学校	中学校	高 校	小学校	中学校	高 校	計
47	34	37	12,090	7,769	7,495	27,354

義務教育学校は中学校に含む
中高一貫校は高校に含む

イ 少年教育関係事業

(ア) おかやま子ども応援事業（放課後子ども教室）

○事業目的

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）づくりが求められている。そこで、おかやま子ども応援事業（放課後子ども教室）を実施し、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する。

なお本事業は少子化対策として極めて重要であり、留守家庭児童を対象とする「放課後児童健全育成事業」（保健福祉部所管）と連携した総合的な放課後対策（新・放課後子ども総合プラン）としても推進する。

○事業内容

1 県実施事業（国補助事業 補助率1/3）

(1) おかやま子ども応援推進委員会新・放課後子ども総合プラン推進部会の設置

(2) 合同研修会の開催

・実施日 令和6年2月18日(日)

・内 容 【全体研修】

「気になる子どもや発達障がいのある子どもとかかわるためにもっと効果的な声かけができるようになろう！」

【テーマ別研修】

「“大人” マナーと伝え方のノウハウを学ぼう」

「おススメの遊びに挑戦！まずは先生たちがやってみよう！」

「交流会 みんなで話し合おう！子どもたちのいま ー学校・家庭・放課後は？」

・参加者 165名

2 市町村実施事業（県間接補助事業 補助率2/3（県1/3・国1/3））

(1) 運営委員会の設置

(2) コーディネーターの配置

(3) 放課後子ども教室の実施

○取組状況（※岡山市・倉敷市を除く）

◇令和5年度放課後子ども教室取組状況

(R6.3.31時点)

番号	市町村名	教室数	主な活動場所			年間実施日数				
			学 校	公民館	その他	50日未満	50~100日未満	100~150日未満	150~200日未満	200日以上
1	津山市	21	3	11	7	15	4	1	1	0
2	玉野市	14	1	13	0	4	6	3	1	0
3	笠岡市	4	0	2	2	3	1	0	0	0
4	井原市	9	3	5	1	9	0	0	0	0
5	総社市	8	1	2	5	2	3	0	2	1
6	高梁市	5	0	1	4	5	0	0	0	0
7	新見市	5	5	0	0	5	0	0	0	0
8	瀬戸内市	1	1	0	0	0	1	0	0	0
9	赤磐市	7	3	2	2	7	0	0	0	0
10	真庭市	5	0	5	0	4	1	0	0	0
11	美作市	7	0	2	5	7	0	0	0	0
12	早島町	1	1	0	0	0	0	0	1	0
13	矢掛町	5	3	1	1	2	3	0	0	0
14	新庄村	1	0	1	0	0	0	0	0	1
15	鏡野町	2	0	2	0	2	0	0	0	0
16	勝央町	3	0	2	1	3	0	0	0	0
17	奈義町	4	1	3	0	4	0	0	0	0
18	美咲町	7	4	0	3	4	2	1	0	0
19	吉備中央町	2	2	0	0	0	2	0	0	0
	合 計	111	28	52	31	76	23	5	5	2

(イ) おかやま子ども応援事業（地域学校協働本部）

○事業目的

学校園に「地域学校協働本部」を設置し、地域住民の参画による学校教育や放課後・週末等を支援する取組を進め、地域全体で子どもの育ちを支援する体制を整備する。

○事業内容

1 県実施事業（国補助事業 補助率1/3）

(1) 県立地域学校協働本部運営協議会の設置

(2) 研修会の開催

ア) 地域学校協働活動研修会（兼 人づくりまちづくり研修会①）【津山教育事務所】

・実施日 令和5年6月16日

・内 容 「地域と学校の連携・協働のあり方」や「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の理解促進、関係者の当事者意識の醸成を図った。

・参加者 76名

イ) 第1回地域学校協働活動推進員等レベルアップ講座

・実施日 令和5年7月14日

・内 容 地域学校協働活動の意義や地域学校協働活動推進員の役割の理解促進、コーディネート力、ファシリテート力等の資質・向上を図った。

・参加者 49名

ウ) 地域学校協働活動研修会（第1回）【岡山教育事務所】

- ・実施日 令和5年10月13日
- ・内容 地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員の連携強化、活動の充実を図った。
- ・参加者 54名

イ) 地域学校協働活動研修会（兼 人づくりまちづくり研修会②）【津山教育事務所】

- ・実施日 令和5年11月13日
- ・内容 「学校を核とした地域づくり」や「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の理解促進、活動の充実を図った。
- ・参加者 76名

オ) 地域学校協働活動研修会（第2回）【岡山教育事務所】

- ・実施日 令和5年11月30日
- ・内容 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」についての理解促進、地域学校協働活動の意義の理解促進を図った。
- ・参加者 59名

カ) 第2回地域学校協働活動推進員等レベルアップ講座（兼 新任地域連携担当者研修講座（発展））

- ・実施日 令和5年11月1日
- ・内容 熟議の理解促進や実践力の向上、教職員と地域学校協働活動推進員等の相互理解を図った。
- ・参加者 61名

2 市町村実施事業（県間接補助事業 補助率2/3（県1/3・国1/3））

- (1) 市町村実行委員会の設置
- (2) 地域学校協働本部の設置
- (3) 学校支援ボランティア活動の実施

○取組状況（※岡山市・倉敷市を除く）

◇地域学校協働本部の整備状況（※岡山市・倉敷市を除く）（令和5年度）（令和5年5月1日現在）

市町村等	地域学校協働本部数	整備されている学校数								整備率				地域学校協働活動推進員等	
		全学校種	幼稚園・子ども園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	全学校種	小・中義務	高校・中等教育学校	特別支援学校	地域活動推進員校	コーディネーター域
津山市	1	35	0	27	8	-	-	-	-	94.6%	100.0%	-	-	41	0
玉野市	22	20	1	13	6	-	0	-	-	71.4%	90.5%	0.0%	-	27	34
笠岡市	14	19	0	14	5	-	-	-	-	82.6%	90.5%	-	-	15	22
井原市	1	19	0	13	5	-	1	-	-	61.3%	100.0%	100.0%	-	34	0
総社市	1	19	0	15	4	-	-	-	-	55.9%	100.0%	-	-	0	19
高梁市	14	20	0	14	6	-	0	-	-	74.1%	100.0%	0.0%	-	17	0
新見市	1	20	-	15	5	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	0	6
備前市	9	11	-	8	3	-	0	-	-	68.8%	73.3%	0.0%	-	0	26
瀬戸内市	12	12	0	9	3	-	-	-	-	75.0%	100.0%	-	-	21	0
赤磐市	13	13	0	8	5	-	-	-	-	56.5%	76.5%	-	-	35	4
真庭市	18	25	0	19	6	-	-	-	-	92.6%	96.2%	-	-	39	0
美作市	5	13	0	8	5	-	-	-	-	86.7%	100.0%	-	-	17	0
浅口市	1	12	2	7	3	-	-	-	-	92.3%	100.0%	-	-	11	0
和気町	4	5	-	3	2	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	10	0
早島町	1	3	1	1	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	2	2
里庄町	3	5	2	2	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	15	1
矢掛町	1	8	-	7	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	9	0
新庄村	1	2	-	1	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	1	1
鏡野町	1	5	0	5	0	-	-	-	-	71.4%	83.3%	-	-	6	5
勝央町	3	3	-	2	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	4	4
奈義町	1	4	2	1	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	1	1
西粟倉村															
久米南町	1	4	-	3	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	4	0
美咲町	7	7	-	4	2	1	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	6	0
吉備中央町	7	7	0	7	0	-	-	-	-	63.6%	70.0%	-	-	7	0
学校組合	1	1	-	-	1	-	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	3	2
県立学校	42	42	-	-	0	-	28	0	14	60.9%	0.0%	53.8%	100.0%	26	14
全体	185	334	8	206	76	1	29	0	14	75.6%	93.4%	50.0%	100.0%	351	141

※西粟倉村は、おかやま子ども応援事業未実施

(ウ) 子どもの悩みにいつでも応える相談体制の整備

○子どもほっとライン（24時間体制）

小・中・高校生を対象に、学生ボランティアが専用電話及びメールにより、子どもの悩みなどの相談に応じた。

- ・開設日時 毎日（年末年始を除く）
- ・受付時間 平日 17：00～20：00
土・日・祝日 8：30～20：00
- ・相談件数 725件

(2) 青年教育

ア 青年団体

(7) 地域青年団

県下の地域青年団の統一組織である岡山県青年団協議会は、昭和40年3月7日に再出発し、昭和43年8月、青年団の全国組織「日本青年団協議会」（日青協）へ加盟した。

岡山県青年団協議会は、各市町村単位団で組織され、連携を図りながら、青年団活動の活発化に努めているが、青年の生活や要求の多様化に伴った組織や運営方法の改善について、検討を進めている。

〈役員〉

会 長 花房功基

事務局 長 赤木督尚

事務局次長 岡本早紀

地区別団員数 (令和5年5月現在)

市町村名	団員数
鏡野町	48

イ 第71回岡山県青年祭 兼 第70回全国青年大会岡山県予選会

(7) 趣 旨

本大会は、県下の勤労青年が相集い、体育、芸能文化及び意見発表等の総合発表の機会を持ちこれを通じて、相互に友好親善を深め、相携えて健康で文化的な生活を樹立し、健全な郷土社会建設に寄与しようとするものである。

(イ) 期日及び参加者

体育の部

令和5年8月5日(土) バスケットボール 42人

8月27日(日) 剣道 25人

9月3日(日)・10日(日) 硬式野球 49人

(ウ) 競技種目及び会場

体育の部

・軟式野球 真備総合公園軟式野球場

・バスケットボール(男) 真備総合公園体育館

・剣道(男) 岡山武道館サブ道場

(イ) 参加資格

昭和58年4月2日から平成20年4月1日までに出生した勤労青年で、令和5年5月1日から引き続き岡山県内に居住する者。

(オ) 全国青年大会派遣

各競技種目1位、2位の者(チーム)を、第71回全国青年大会(期日：令和5年11月10日(金)～13日(月)、場所：日本青年館他)に派遣した。

4 成人教育

(1) 婦人団体

婦人団体は、岡山県内の婦人の教養とその福祉の増進を図り、民主的かつ文化的社会の形成に寄与することを目的としている。令和5年度の婦人の会の現状は次のとおりである。

ア 婦人会の現状 (令和5年5月現在)

郡市名	単位団	会員数
岡山市	1	5,850
倉敷市	11	1,000
玉野市	0	0
笠岡市	4	102
総社市	10	401
高梁市	1	248
新見市	8	477
備前市	0	0
瀬戸内市	0	0
赤磐市	0	0
真庭市	0	0
浅口市	1	106
早島町	1	65
里庄町	1	683
鏡野町	1	72
久米南町	3	140
美咲町	1	370
吉備中央町	4	212
計	47	9,726

※令和5年度より調査方法を変更したため、令和5年5月1日現在情報（「令和5年度岡山県生涯学習・社会教育行政便覧」参照）を掲載する。

イ 県内の女性有権者に対する婦人会加入率 [参考]

岡山県女性選挙人名簿登録者数 806,178人
(令和6年3月1日現在)

年 度	加入率 (%)
平成元	21.5
2	18.4
3	17.4
4	16.7
5	15.5
6	14.5
7	13.2
8	12.7
9	11.8
10	10.3
11	9.8
12	9.1
13	8.6
14	8.1
15	7.3
16	6.8
17	6.2
18	6.0
19	5.0
20	4.6
21	4.5
22	3.9
23	3.7
24	3.3
25	3.0
26	2.8
27	2.7
28	2.6
29	2.5
30	2.2
令和元	2.0
2	1.7
3	1.5
4	1.2
5	1.2

※令和5年度より調査方法を変更したため、令和5年5月1日現在の婦人団体会員数（「令和5年度岡山県生涯学習・社会教育行政便覧」参照）を、令和6年3月1日現在の岡山県女性選挙人名簿登録者数で除したものを掲載する。

(2) P T A

P T Aは、県下で780団体、約21万人の会員を持つ、社会教育関係団体であり、自主的・民主的な成人教育団体である。生涯学習の立場から、家庭教育・学校教育・社会教育の在り方が検討されている今日において、P T Aは、学校と家庭・地域社会と結びつけるものとして、各方面から期待されている団体である。

児童・生徒の健全な育成を図ることを目的として、各種の学習活動や実践活動が展開され、従来の学校後援会的なものから脱して、P T A本来の在り方を求めて活動している。

令和5年度のP T A団体数・会員数は、次のとおりである。

(令和6年3月31日現在)

団体種別	項 目	団 体 数 (団体)	会 員 数 (人)
幼稚園・こども園P T A		157	7,419
小 学 校 P T A		375	102,110
中 学 校 P T A		153	51,102
高 等 学 校 P T A		79	47,031
特別支援学校P T A		16	3,577
計		780	211,239

また、令和5年度の事業として、企画実施したものは、次のとおりである。

ア 岡山県P T A指導者研修会

P T A指導者の資質の向上と、P T A活動の在るべき方向を求めて、県下2会場およびオンラインで、幼・こ・小・中・高・特別支援学校P T Aの指導者研修会を実施し、活動の活発化を図った。

(7) 趣 旨

幼稚園、こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のP T A新任役員を主たる対象に、学級P T A、地域P T Aの活性化を促すためのP T A活動の在り方について研修を深め、指導者としての資質の向上を図った。

(イ) 主 催

県教育委員会

(ウ) 会場・期日・参加者数等

区分	研 修 会	会場・開催方法	期 日	内 容	参加者数	備 考
岡山教育事務所	幼稚園・こども園・小学校・中学校・中等教育学校P T A等指導者研修会	オンライン	8月29日 (火)	○講和 演題「子どもの命を守り抜く 大人の役割～大切なのは、地域の力、家族の力 考えよう 今、私たちにできること～」 講師 大阪市立大空小学校 初代校長 木村泰子 氏 ○講和に対する質疑応答 ○感想交流	353名	幼こ保 116名 小 164名 中 66名 特 3名 他 4名
			9月7日 (木)	// (上記8/29に録画した講和を視聴) ○感想交流		
津山教育事務所	幼稚園・こども園・小学校・中学校・義務教育学校P T A等指導者研修会	グリーンヒルズ津山リージョンセンター	6月9日 (金)	○講演 演題「大人に知ってもらいたいネットの世界」 講師 株式会社 compallet 代表取締役 桐野志摩美 氏	100名	幼こ保 9名 小 62名 中 28名 義務教育 1名

区分	研修会	会場・開催方法	期 日	内 容	参加者数	備 考
(人権教育・生徒指導課) 岡山県教育庁	高等学校PTA指導者研修会	ピュアリティまきび	11月24日 (金)	○情報交換・ワークショップ ○講演 演題「LGBTQ+の児童生徒の存在を認識した学校での取り組み」 講師 宝塚大学看護学部 教授 日高庸晴 氏	117名	
(生涯学習課) 岡山県教育庁	特別支援学校PTA指導者研修会	ピュアリティまきび	10月25日 (水)	○情報交換・人権ワークショップ ○講演 演題「成年後見制度 ～これだけは知っておいてほしい大切なこと～」 講師 司法書士 中村恵美 氏	32名	

イ P T A 活動資料の作成

単位P T Aにおける活動資料集「わたしたちのP T A～新たな取組でつながりがひろがるP T A活動～」を作成した。

〔資料の概要〕

- P T Aの目的
- 活動実践例
- 各校園P T Aの活動のヒントとなる内容 等

(3) 社会通信教育

生涯学習の充実が求められている現代社会において、社会通信教育は、個人的学習方法として高く評価され、多数の受講者が熱心に学習を進めている。

また、学習者が習得した知識及び技能について、その水準を審査し、証明する事業として、技能審査事業が実施されている。

文部科学省認定社会通信教育は、令和6年2月時点で24団体が行っており、事務系、技術系、生活技術・教養系の105課程がある。令和6年2月時点で、岡山県下では365人が受講している。

(4) 学び直し教室「学びing ぱる教室」

岡山県中学校夜間学級調査研究委員会が行ったニーズ調査を踏まえ、学び直しの希望者の置かれた状況や、希望する学習の頻度・内容が様々であることから、義務教育未修了者や中学校既卒業者、不登校生徒、学び直しを希望する外国国籍の人等を対象に、生涯学習センターにおいて、小学校又は中学校程度の学習内容の学び直しを行う学び直し教室「学びing ぱる教室」を開催した。(月2回程度、1回2時間程度)

5 地域との連携

○おかやま☆子ども参観日

子どもたちに保護者の働く姿を見せたり、仕事等を体験させたりすることにより、勤労観・職業観の育成を図った。

6 視聴覚ライブラリー

○公立視聴覚ライブラリー

県下の公立視聴覚ライブラリーの設置状況は次のとおりである。

(令和5年5月現在)

	名 称	設置根拠	設立年月
1	県生涯学習センター	条 例	H 9. 1
2	岡山市立視聴覚ライブラリー	〃	S 43. 4
3	倉敷市民学習センター	〃	H 5. 4
4	津山市視聴覚ライブラリー	〃	S 41. 4
5	笠岡市立	〃	S 49.10
6	井原市立	〃	S 48. 6
7	総社市	〃	S 57. 5
8	新見市	〃	S 40. 8
9	備前市立	〃	S 46. 6
10	瀬戸内市	〃	H 16.11
11	赤磐市	〃	H 17. 3
12	浅口市	〃	S 54. 4

※令和5年度より調査方法を変更したため、令和5年5月1日現在情報（「令和5年度岡山県生涯学習・社会教育行政便覧」参照）を掲載する。

7 子ども読書活動の推進

平成31年3月に策定した「第4次岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどんどん読書プラン～」に基づき、各種事業に取り組んだ。

(1) 不読率の低減に向けた実態把握

子どもの読書環境に関する実態調査を実施し、県内の小・中学生及び高校生の不読率を算出・分析した。

(2) 市町村の子ども読書活動推進計画見直しへの支援

全ての市町村において策定されている子ども読書活動推進計画の見直し等に向けて、県立図書館、両教育事務所と連携した働きかけを行った。

(3) 地域における啓発事業等

・岡山県子どもの読書活動推進連絡会

「第4次岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどんどん読書プラン～」に基づき、子どもの読書活動に関わる様々な当事者（市町村立図書館、学校図書館、民間団体等）が、互いの立場や果たすべき役割について理解を深め、連携・協働して取組を進めていくための機会とした。

(4) 読書ボランティア活動の推進

ボランティアの技術向上を図るため、研修会を開催した。

○岡山県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）

(5) 各種普及・啓発イベント

読書活動の推進を図るため、県立図書館において、子どもやその保護者を対象とした読み聞かせ会、講座、展示会等を開催した。

○みんなで作ろう☆ヨムヨムこいのぼり

○図書館 de 七夕☆短冊に願いをこめて

- 県立図書館フェスタ
- ティーンズコーナーを活用した展示会
- おはなし会などの絵本の読み聞かせ会
- ヨムヨム春のおはなしまつり、ヨムヨム冬のおはなしまつり
- 図書の修理と装備体験会
- マルチメディアデイジーおはなし会・体験会
- 岡山県立図書館×謎解きとしょかんクエスト～ヨムヨムからの挑戦状リターンズ～

■第3節 生涯学習・社会教育施設

1 県立生涯学習・社会教育施設

(1) 岡山県生涯学習センター

岡山県生涯学習センターは、県民の生涯にわたる学習活動を支援する目的で、平成9年1月1日、旧県立短期大学跡地に県下の生涯学習の拠点施設として設置された。

また、平成25年4月29日には県立児童会館を改修して、「人と科学の未来館サイピア」を開館し、科学教育の普及・推進活動を行っている。

ア 運営方針

県民が生涯にわたって行う学習活動を支援するための拠点施設として、市町村や関係機関・団体等との連携を図りながら、生涯学習社会の実現に寄与するための事業を実施し、施設を運営する。また、鳥城高校や近隣施設等と連携しながら、子どもから高齢者まで「少、壮、老」の三世代の県民が、仲間（ばる）として楽しく学習や交流ができる生涯学習ゾーン（愛称＝三学ばる岡山）づくりに努める。さらに、人と科学の未来館サイピアを拠点として、科学教育の普及・推進に努める。

イ 主催事業

(ア) 人材育成

市町村等の生涯学習・社会教育関係職員や県民一般を対象に、地域の生涯学習・社会教育を推進するための指導者の養成と研修事業を次のとおり実施した。

ア) 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

初任者研修

- ・実施日 第1回 令和5年5月11日
第2回 令和5年11月14日
- ・内 容 生涯学習・社会教育の推進に必要な基本的な知識の理解・技能の研修を行い、行政職員や生涯学習推進者としての資質の向上を図った。
- ・参加者 延べ108人

イ) ファシリテーション・コーディネーションスキルアップ講座

- ・実施日 令和5年9月28日～令和5年9月29日
- ・内 容 生涯学習・社会教育関係者が自らの事業に生かせるよう、その重要な要素となるコーディネーションやファシリテーションに焦点を当て、事業推進のキーパーソンとしての意識や能力の向上を図った。
- ・参加者 21人

ウ) 主体的に参画する住民を育てる事業づくり

- ・実施日 第1回 令和5年6月1日
第2回 令和5年6月23日
第3回 令和6年1月18日
- ・内 容 地域のつながりづくりや課題解決に向けた事業・講座づくりをとおして、実践的・専門的な知識の習得、資質向上を図った。
- ・参加者 延べ44人

イ) すこやか家庭教育相談員養成講座・子育てサポータースキルアップ講座

- ・実施日 第1回 令和5年10月6日
第2回 令和5年10月19日
- ・内 容 すこやか家庭教育相談員の養成と資質向上や、家庭教育支援関係者、子育てサポーター等のスキルアップを図り、乳幼児期から少年期の家庭教育に関する専門的知識の習得に努めた。
- ・参加者 延べ46人

ウ) 岡山県公民館連合会研修会

- ・実施日 第1回 令和5年5月23日
第2回 (県西) 令和5年6月27日
(県東) 令和5年6月28日
第3回 (県南) 令和5年7月20日
(県北) 令和5年7月21日
第4回 令和5年12月14日
第5回 令和6年1月23日
- ・内 容 生涯学習・社会教育に係る知識・技能の向上及び公民館職員等の資質の向上等を図った。
- ・参加者 延べ224人

カ) 若者発! まちプロ

- ・実施日 令和5年7月1日～令和5年10月1日(全4回)
- ・内 容 P D C Aサイクルを体験する実践型研修をとおして、自らの思いを社会の中で実現させる行動力や自主性を身につけ、それぞれの地域や学校で活躍する人材の育成を図った。
- ・参加者 10人

キ) 高校生×地域ー思いをカタチにするお手伝いをしますー

- ・実施日 令和5年6月30日～令和6年3月10日
- ・内 容 対象市町村の社会教育・生涯学習関係部署や公民館等(以下、担当者)の担当者においては、高校生を主体とし、社会教育の視点を取り入れ、地域の課題の解決に繋げていく事業をつくるためのコーディネート力、ファシリテート力の向上を図った。
- ・参加者 公民館関係者3人、高校生5人

ク) 地域学校協働活動推進員等レベルアップ講座

- ・実施日 第1回 令和5年7月14日
第2回 令和5年11月1日
- ・内 容 地域学校協働活動に関係する地域学校協働活動推進員や市町村担当者などが必要とするコーディネート力、ファシリテート力等の資質・能力の育成・向上を図った。
- ・参加者 延べ110人

(イ) 市町村・公民館支援

ア) 公民館活動の活性化

・主な実施内容は、上記 (ア) のウ) 岡山県公民館連合会研修会へ掲載

(ウ) 情報提供・学習相談

ア) 生涯学習情報提供システムの管理と運営

平成9年2月に稼動した生涯学習情報提供システム（ばるネット岡山）を活用し、情報収集と県民への情報提供を行った。

ばるネット岡山のデータ保有数 (令和5年度)

データ内容	保有件数
講座・イベント	5,006
団体・グループ	45
講師・ボランティア	150
学習プログラム	93
視聴覚教材	6,101
おかやま子ども応援人材バンク	118
計	11,513

学習相談受付状況 (令和5年度)

相談内容	受付件数
講座・団体・講師関係	43
施設・設備関係	782
視聴覚教材関係	30
図書・DVD関係	93
おかやま子ども応援人材バンク関係	7
学習プログラム関係・その他	112
計	1,067

(I) 生涯学習大学の開設

地域づくり、子ども・若者への支援などの現代的な課題や人材養成に関する主催講座を開設するとともに、他の行政機関や民間が行う多様な学習講座を体系化し、学習機会を提供する生涯学習大学（のびのびキャンパス岡山）を開設した。

岡山県生涯学習大学

ア) 主催講座

講座名	実施機関名	受講者数
きっず☆ユニバ	岡山県生涯学習センター	70

イ) 連携講座 92機関、668講座

(オ) 交流

地域での学習活動や学習成果についての発表や展示等をおして、生涯学習に対する理解を深め、学習活動への意欲を高めるとともに積極的な参加を促した。

また、大学・企業・団体等と連携・協働して、京山祭等を開催した。

ア) 発表・展示

- ・展示スペースで35団体（203日）の展示

イ) 京山祭

- ・実施日 令和5年6月11日
令和6年2月18日
- ・内 容 県内の科学教育などに関わる機関や大学等と連携し、子どもから大人まで幅広い世代が楽しく体験しながら科学などを学べるイベントを開催した。
- ・参加者 3,235人

カ) 調査・研究

テーマを「障害者の生涯学習－障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して－」とし、3ヶ所の事例を取材し、好事例集としてまとめた。

キ) 施設・設備の提供

単位制・定時制である烏城高校との一体的施設として、団体・グループ等への施設設備の利用開放及び利用促進の事業を行い、生涯学習活動の促進を図った。

ク) 科学教育の普及・推進

「人と科学の未来館サイピア」を拠点として、科学関連事業の充実に努めた。また、科学教育にかかわる連携・協働先とのネットワークの構築を進めた。

ア) JAXAとの連携事業

(社会教育支援)

- ①実施日 令和5年6月4日
- ・内 容 宇宙の学校指導者セミナー
- ・参加者 13人
- ②実施日 令和5年7月2日
令和5年8月27日
令和5年12月3日
令和6年2月4日
- ・内 容 宇宙の学校
- ・参加者 延べ120家族
- ③実施日 令和6年1月14日
- ・内 容 コズミックカレッジ
- ・参加者 20人

ケ) 人と科学の未来館サイピアの運営

(指定管理者実施)

民間のネットワークを生かし、多くの企業・団体と連携して、科学実験教室の開催や企画展示を実施した。

また、学校の学習内容に沿ったプログラムを準備し、学校利用の促進に努めた。

- ・科学実験教室等 422件
- ・学校利用 180校園

ウ 施設設備の利用状況

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

施設設備名	月別												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
視 聴 覚 室	9	7	11	10	17	9	16	15	8	11	13	6	132
大 研 修 室	23	24	25	32	24	29	22	26	27	17	27	16	292
中 研 修 室	15	16	15	25	21	20	22	21	16	21	23	20	235
洋 研 修 室	8	9	11	11	11	13	11	9	12	7	13	8	123
和 研 修 室	8	10	11	8	7	8	11	10	11	8	11	5	108
ミーティング室1	18	18	17	27	19	14	20	16	17	12	20	16	214
ミーティング室2	23	23	22	27	26	18	20	16	19	13	20	22	249
ミーティング室3	20	14	21	23	22	15	18	13	20	15	20	20	221
ミーティング室4	17	14	19	17	16	28	28	22	15	15	19	27	237
ミーティング室5	24	19	21	25	20	23	26	28	17	14	26	28	271
ミーティング室6	22	25	25	26	26	26	23	22	26	20	25	28	294
美 術 教 室	3	5	7	7	9	5	8	4	6	5	5	2	66
木 工 教 室	4	7	8	7	8	6	6	7	5	5	7	4	74
陶 芸 教 室	4	6	10	5	8	4	6	6	6	5	4	3	67
書 道 教 室	11	15	17	16	18	15	18	17	16	13	16	9	181
パソコン教室	1	1	2	1	3	1	6	0	0	6	4	1	26
ボランティア室	20	16	16	16	18	13	26	17	21	13	21	19	216
スタジオ(控室)	12	10	9	7	17	14	10	18	14	11	13	14	149
試 写 室	3	4	5	2	4	8	3	4	5	4	9	6	57
交流棟展示スペース(日)	13	20	12	8	18	15	21	25	8	23	23	17	203
交流棟2階各コーナー利用者数(人)	3,938	4,711	6,509	5,710	6,726	5,542	6,301	6,167	5,607	4,945	8,036	5,129	69,321
サイピア入館者数(人)	6,751	11,850	7,549	8,092	10,407	7,058	6,786	6,664	4,530	4,857	6,243	7,164	87,951
サイエンスドーム観覧者数(人)	2,150	3,224	2,741	3,114	4,193	3,013	3,153	2,502	1,417	1,313	1,885	2,638	31,343

エ 視聴覚教育活動

(ア) 活動状況

行 事	内 容
視聴覚教材の貸出し	16ミリ映画・ビデオ・DVD視聴覚教材の貸出し
視聴覚教育普及事業	視聴覚教材目録を作成し、一般への視聴覚教育の普及と視聴覚教材の利用促進を図る。

(イ) 教材保有本数

(令和6年3月31日現在)

年 度	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
フィルム教材本数	1,882	1,842	1,873	1,978	2,159	2,095	2,105	2,265	2,275	2,282	2,286	2,290	2,294	2,297	2,297
ビデオ教材本数	—	1,539	1,888	1,912	2,000	2,215	2,355	2,541	2,790	2,997	3,116	3,195	3,256	3,263	3,263
DVD教材本数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	64	99	204	397	492
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
	2,297	2,297	2,298	2,298	2,298	2,298	2,298	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692	1,692
	3,263	3,263	3,263	3,263	3,263	3,263	3,263	3,229	3,229	3,229	3,229	3,229	3,229	3,229	3,229
	613	680	758	823	898	992	1,039	913	948	978	1,004	1,019	1,039	1,052	

(ウ) 16ミリ映画・ビデオ・DVD教材利用状況

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用本数	16	19	36	29	31	26	35	22	17	18	12	11	272
観覧者数	1,014	1,635	4,179	1,033	1,405	2,710	4,127	1,023	965	1,211	245	1,322	20,869

(2) 岡山県立図書館

岡山県立図書館は、明治39年設立の岡山県立戦捷記念図書館を創始とし、昭和32年設立の旧岡山県総合文化センターから図書館部門のみを岡山市北区丸の内の現在地に移転し、平成16年9月25日に新築オープンした。令和5年度には開館19周年を迎えた。開館以来、県民に親しまれる施設として多くの利用があり、通年開館した平成17年度から、来館者数及び個人貸出冊数ともに、都道府県立図書館の中でトップクラスを維持している。

令和5年度は、第4次中期サービス目標の3年目を迎え、5つの柱と2つの重点プログラムの実現に努めた。

<施設概要>

- ・敷地面積 約13,300㎡
- ・建築面積 約4,300㎡
- ・延床面積 約18,000㎡
- ・階層 地上4階 地下1階
- ・構造 鉄骨、鉄筋コンクリート造（免震構造）
一部鉄筋コンクリート造（地下）
- ・駐車場 174台（地上81台 地下93台（身体障害者用4台））
- ・閲覧席 約400席（うち車椅子専用閲覧席8席）
- ・図書収蔵能力 230万冊（開架閲覧室30万冊、閉架書庫200万冊）

ア 県民に開かれた図書館の運営

開館以来、館内に「提案箱」を設置し、県民意見を運営に生かしている。

令和5年度提案件数 70件

また、県内外から見学等を次のとおり受け入れた。

見学	105件	5,468人
職場体験	14件	61人
インターンシップ・司書実習	0件	0人
視察	5件	26人
計	124件	5,555人

イ ボランティアの受入れ

次のボランティアを受け入れるとともに、ボランティア講座（養成講座、スキルアップ講座）を実施した。

- 障害者利用支援
- 児童サービス支援
 - 読み聞かせ
 - ストーリーテリング
 - 布絵本製作
- 情報サービス支援
- メディア工房支援

ウ 図書館資料の収集

吉備文化資料、交通文化資料は重点収集資料として収集に努めた。新刊児童図書の全点収集を行うとともに大活字図書の積極的収集を行った。

(7) 令和5年度収集状況

<館内用資料>

(冊)

区 分		図 書	視聴覚資料等
令和4年度末		1,593,968	36,211
5年度 増加	購 入	22,100	117
	寄 贈	7,799	148
	その他	591	5
	増加計	30,490	270
除 籍		674	19
管 理 換 除 籍		1	0
令和5年度末		1,623,783	36,462

<支援用図書>

(冊)

区 分		支援用図書	うち学校支援用
令和4年度末		69,682	11,616
5年度 増加	購 入	3,809	426
	寄 贈	730	17
	その他	7	1
	増加計	4,546	444
除 籍		37	1
管 理 換 除 籍		0	0
令和5年度末		74,191	12,059

(4) 令和5年度末蔵書冊数

(冊)

区 分	資料種別	冊 数
館内用資料	図 書	1,623,783
	電子・視聴覚資料	36,462
	館 内 用 計	1,660,245
支援用図書	図 書	74,191
	(うち学校支援用)	(12,059)
計		1,734,436

(ウ) 逐次刊行物受入れ数

資料種別	購入	寄贈	計
新聞	39	45	84紙
雑誌	387	1,406	1,793誌
官報・追録	8	—	8種

エ 電子図書館の推進

(ア) デジタル岡山大百科

○岡山県図書館横断検索システム

県内88の図書館等が所蔵している資料（約1,257万冊：令和5年度末現在）を横断的に検索できるシステムで、図書館間で資料予約ができる相互貸借機能も併せ持つ。

○郷土情報ネットワーク

郷土岡山に関するホームページ、映像、静止画、音声、文字情報等約24.5万件を視聴できるシステムで、家庭や学校で貴重書を閲覧したり、ビデオ視聴をすることができる。

○レファレンスデータベース

県内の図書館に寄せられた質問回答事例約6,514件を参照できるシステム。

(イ) メディア工房

県立図書館のデジタルコンテンツ制作拠点として、編集加工室、撮影室を運営した。

オ 県民への直接サービス

閲覧室（1階、2階）は、利用者の幅広い資料要求に応えるため、総合、人文科学、児童、社会科学、自然科学・産業、郷土の主題別6部門制とし、それぞれにカウンターを設け専任職員を配置している。

開館日数	305日
入館者数	803,350人
登録者	新規登録 7,450人
	うち他館登録 352人
	うち出張登録 64人
	登録抹消 140人
累計	307,202人
貸出利用者数	326,028人

(ア) 閲覧

閲覧席	約400席
マイクロ・リーダー・プリンター	2台
郷土情報端末	2台（郷土資料部門）

(イ) 貸出・返却

貸出点数	図書・雑誌10点以内
	視聴覚資料5点以内
貸出期間	15日以内

<個人貸出冊数> (冊)

区 分	冊 数
図 書	1,095,856
雑 誌	47,081
視 聴 覚 資 料	45,094
障害者用録音図書	1,686
他館借用資料	1,198
計	1,190,915

<相互返却冊数> (冊)

区 分	冊 数
県立⇒市町村	20,441
市町村⇒県立	1,802
県立⇒高等学校	778
計	23,021

(ウ) 予 約 (冊)

予約冊数	248,568
うちインターネット予約	217,656

(I) レファレンス (調査相談)

レファレンス件数 70,905件

(受付方法別内訳)

来 館 62,393件

電 話 6,349件

文書・FAX 309件

電子メール 1,854件

(申込者別内訳)

個 人 69,936件

図 書 館 969件

(オ) 複 写

複写件数 12,699件

複写枚数 68,136枚

(カ) 参考資料部門

事典、辞典などの参考図書類、新聞、電話帳及び総合雑誌等を担当。館全体の貸出・返却を行うとともに障害者サービスの窓口となっている。

<障害者サービス登録者数 (障害別) >

種 別	登録者数
視 覚 障 害	355
聴 覚 障 害	74
視 覚 聴 覚 重 複	1
そ の 他 障 害	879
計	1,309

＜郵送貸出し利用人数とタイトル数＞

郵 送 方 法	件 数	タイトル数
心身障害者用ゆうメール（図書・雑誌）	66	106
ゆうメール（CD・DVD）	7	9
特定録音物等郵便物（CD-RW、SDカード、視覚障害者へのCD）	632	2,780
聴覚障害者用ゆうパック（聴覚障害者へのDVD）	0	0
ゆうパック（携帯音楽プレーヤー）	68	528
計	773	3,423

＜録音図書貸出しタイトル数＞

貸出機器別	タ イ ト ル 数			
	サピエ	他館借用	館内資料	計
カセットテープ	0	0	1	1
CD-R／CD-RW	1,114	99	146	1,359
SDカード	1,651	64	0	1,715
プレクストークポケット	1,251	54	0	1,305
携帯音楽プレーヤー	961	42	0	1,003
マルチメディアデイジー	0	0	9	9
計	4,977	259	156	5,392

＜対面朗読室の利用＞

朗読サービス	273件
録音図書等の利用	34件
録音図書の作成等	5件

（#）人文科学資料部門

総記、哲学・宗教、歴史・地理、芸術、言語、文学及び家政学・生活科学関係の図書、雑誌を担当。英語・中国語・ハンガルの多言語資料相談員によるレファレンスを実施。県内高等学校等の特色ある読書活動発表の場としてティーンズコーナーを運営した。

（ク）児童資料部門

児童図書・絵本、紙芝居、布絵本、児童図書研究書、雑誌、新聞を担当。

○児童図書研究室

児童図書研究書、過去1年間分の児童書、小・中・高校の現行教科書等を調査・研究のため提供している。

○おはなしのへや

毎週土日曜日におはなし会を実施。また、ヨムヨム赤ちゃんおはなし会を、毎月第1水曜日に定例開催した。

延べ利用者数 2,950人

（ケ）社会科学資料部門

政治・法律・経済・社会・教育などの図書、雑誌を担当。課題解決サービスの中心部門として、

ビジネス支援、教育活動支援、法律情報の提供等を行っている。

(J) 自然科学・産業資料部門

自然科学・医学・工学・産業などの図書、雑誌を担当。

○オーディオ・ビジュアルコーナー

映像用ブース 11台 延べ利用者数 4,512人

音楽用ブース 5台 延べ利用者数 545人

○アクセスコーナー

端末14台（インターネット用10台、データベース用4台） 延べ利用者数 6,613人

○国立国会図書館の歴史的音源及び図書館向けデジタル化資料を利用者に提供した。

○有料データベースの提供（12種類）

○ライブラリーシアター（偶数月当館所蔵資料を上映） 延べ参加者数 363人

○音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」 延べ利用回数 11,968回

(サ) 郷土資料部門

岡山県に関わる図書、雑誌、新聞、地図、パンフレットや県内在住者による著作物等を配架するとともに、和装本・古地図・絵図等の貴重資料を提供した。

○岡山県立記録資料館資料コーナー

○個人・グループ研究室の運営

カ 県内外図書館等への支援と連携

(ア) 協力貸出し 53,315冊

（館内用資料の図書館等への貸出し）

(イ) 一括貸出し

○長期一括貸出し 36,068冊（12市町村34施設）

（支援用図書の長期一括貸出し）

○学校図書館支援用図書貸出し 4,551冊（31校）

（学校へのテーマ別セット図書貸出し）

(ウ) 協力学ファレンス 969件

(I) 図書館資料搬送事業

県立図書館と県内公立図書館等の間で、相互貸借資料等の搬送を行った。

(オ) 巡回協力事業

全市町村の図書館・図書室・教育委員会等を訪問し、その地域の図書館業務の現状と課題を把握し、必要な助言等を行った。

キ 有料貸出施設利用率

施設		利用率
多目的ホール		68.6%
サークル活動室 1		63.8%
サークル活動室 2		67.9%
デジタル情報シアター		36.6%
メディア工房	加工室	20.7%
	撮影室	14.1%

ク 令和5年度主催事業実績

(ア) 県立図書館フェスタ

月 日	催 事 名	参加人数
10/28(土)	ファジ丸との記念撮影	—
	ライブラリーコンサート 岡山フィルハーモニック管弦楽団による弦楽四重奏	86人
11/1(水)	絵本のお医者さん	8人
	ヨムヨム赤ちゃんおはなし会	10人
11/2(木)	メディア工房体験	3人
11/3(金)	子育て応援セミナー「子育てを楽しもう！2023」	43人
11/4(土)	ライブラリーシアター特別篇 恐竜超伝説 劇場版ダーウィンが来た！	65人
	ブックトレード 持ち寄り115冊、引渡し137冊	82人
	保護者のための読み聞かせ講座	10人
	おかやま教育週間スペシャル講座 「備中杜氏と岡山の酒造り」	57人
11/5(日)	体験講座 「バルーンアート世界チャンピオン野村昌子さんのバルーン教室」	70人
10/28(土) ほか	おはなし会スペシャル 全4日(10/28、29、11/4、5) 延べ6回	延べ108人
10/28(土)～11/5(日)	岡山県立としょかんクイズ	479人
10/28(土)～11/19(日)	岡山のプロスポーツチームを応援！選手オススメの一冊	—
	レファレンス認知度アップ大作戦！～事例展示～	—
10/28(土)～12/17(日)	県内公共図書館連携パネル展示： 図書館ってスゴイんです！	—

(イ) 展示会等

月 日	催 事 名
3/18(土)～5/11(木)	でーれーBOOKS
	2022年度ティーンズコーナーダイジェスト
3/21(火)～4/9(日)	県選挙管理委員会連携展示： 明るい未来へ さあ1票！！～岡山県議会議員選挙 投票日4/9～
3/22(水)～4/16(日)	障害福祉課連携展示：発達障害・自閉症について知ろう
3/24(金)～5/7(日)	県立美術館連携展示：和田誠展
4/19(水)～5/14(日)	〇〇はすごい！□□はたのしい！
4/29(土)～5/14(日)	山陽学園中学校・高等学校連携展示：みんなで防ごう！特殊詐欺
5/13(土)～6/8(木)	何を读もうか迷っているあなたへ
	おかやま建築散歩
5/17(水)～6/18(日)	岡山県JICAデスク連携展示：JICA海外協力隊経験者おススメの一冊
	環境管理課連携展示：知って守ろう！岡山の環境
6/10(土)～7/13(木)	STEAM教育って？
6/21(水)～7/17(月)	警察本部少年課岡山少年サポートセンター連携展示：いじめ防止
	読書バリアフリー～すべての人に読む喜びと楽しさを～

月 日	催 事 名
6/21(水)～7/17(月)	新エネルギー・温暖化対策室連携展示： 今日から実践！気候変動対策！！～緩和と適応～
	県男女共同参画推進センター連携展示： みんないきいき！男女が共に輝く“おかやま”
7/1(土)～7/30(日)	くらし安全安心課連携展示： 社会を明るくする運動強調月間・再発防止啓発月間
7/15(土)～8/17(木)	自由研究大作戦！
7/19(水)～8/31(木)	わっしょい！夏のビジネス本まつり
8/2(水)～8/31(木)	平和への祈り (株)山田養蜂場連携展示：ウクライナ写真展（8/18～31）
8/2(水)～9/3(日)	県立博物館連携展示：慈悲のほとけ
8/19(土)～9/14(木)	図書館で探求&PBL
8/23(水)～9/18(月)	都市計画課連携展示：9月10日は「下水道の日」
	危機管理課連携展示：防災について考えよう
9/2(土)～9/24(日)	県精神保健福祉センター連携展示：知らせてほしい、心のSOS
	長寿社会課連携展示：認知症の理解を深めよう
9/21(木)～10/15(日)	岡山地方法務局連携展示：あなたと家族をつなぐ相続登記
9/21(木)～11/5(日)	県立美術館連携展示：ウィリアム・モリス
9/21(木)～12/17(日)	県民生活交通課連携展示：乗って守ろう公共交通！
9/27(水)～10/26(木)	子ども家庭課連携展示：岡山県里親制度パネル展
	医薬安全課連携展示：臓器移植のいま
9/22(金)～10/15(日)	循環型社会推進課連携展示：食品ロス削減月間キャンペーン
10/4(水)～11/19(日)	県立記録資料館連携展示：わがまちの土と水
10/4(水)～10/31(火)	県労働委員会事務局連携展示：雇用のトラブル まず相談
10/18(水)～11/19(日)	統計分析課連携展示：岡山県民手帳50周年
11/2(木)～12/3(日)	県立博物館連携展示：醸す
11/22(水)～12/17(日)	県男女共同参画推進センター連携展示：女性に対する暴力をなくす運動
	県精神保健福祉センター連携展示： あえて飲まない新しいライフスタイル ソバーキュリアス
	子ども家庭課連携展示：青少年健全育成強調月間
	くらし安全安心課連携展示：犯罪被害者週間
12/20(水)～1/21(日)	林政課連携展示：おかやま森づくり県民税を活用した取組み！
12/21(木)～1/21(日)	福祉企画課連携展示：福祉・介護職場の魅力紹介！
1/5(金)～1/31(水)	吉備路文学館連携展示：内田百閒
1/17(水)～2/18(日)	県北方領土返還要求運動県民会議連携展示：北方領土
1/18(水)～2/18(日)	統計分析課連携展示：使いこなそう！統計データ
1/24(水)～2/18(日)	子ども未来課連携展示：「ももっこステーション」に出かけてみよう
	医療推進課連携展示：最期まで自分らしく生きるためのパネル展
2/21(水)～3/17(日)	中国四国農政局連携展示：環境にやさしい食べ物、選んでいますか？
	労働雇用政策課連携展示：就活、スタート！
3/16(土)～5/9(木)	2023年度ティーンズコーナーダイジェスト でーれーBOOKS

月 日	催 事 名
3/20(水)～4/14(日)	令和5年度県立図書館とことん活用講座を振り返って
	全国植樹祭推進室連携展示：いよいよ開催！第74回全国植樹祭
	障害福祉課連携展示：発達障害・自閉症について知ろう

(ウ) おはなし会等

月 日	催 事 名	参加人数
4/22(土)	ヨムヨム春のおはなしまつり 「春風にさそわれて♪今日はみんなでピクニック」	57人
6/22(木)	“ぶらねたりうむ”で楽しむえほんのじかん	延べ90人
7/26(水)～7/28(金)	小学生のためのストーリーテリングおはなし会	延べ65人
7/29(土)～8/12(土)	夏休みスペシャル☆えほんの会 全5日 (7/29(土)、30(日)、8/5(土)、6(日)、12(土))	延べ123人
10/11(水)～11/7(火)	ヨムヨムと一緒に♪ テラス de おはなし会 全5日 (10/11(水)、19(木)、27(金)、11/7(火))	延べ17人
12/16(土)	ヨムヨム冬のおはなしまつり 「はやく来い来い！クリスマス♪」	65人
毎月第1水	ヨムヨム赤ちゃんおはなし会(フェスタ除く)	延べ112人
毎週土・日	絵本の読み聞かせ・ストーリーテリング(フェスタ除く)	延べ2,838人
随 時	施設見学時のおはなし会	延べ2,559人

(I) メディア工房体験(奇数月1回)

延べ参加者数 24人

(オ) 県立図書館とことん活用講座

月 日	催 事 名	参加人数
6/25(日) 【動画配信】 8/3(木)～9/30(土)	第1回：近年の大震災と防災気象情報 [自然科学資料部門]	59人 【動画視聴】 27回
7/30(日)	第2回：親子で学ぶお金のはなし～金銭教育ってなんだろう～ [社会科学資料部門]	46人
9/17(日) 【動画配信】 10/13(金)～11/30(木)	特別編：がんについて知ろう～肝臓がん～ [自然科学資料部門]	41人 【動画視聴】 100回
9/30(土)	第3回：学ぼう！耳が不自由な方とのコミュニケーション [参考資料部門]	38人
11/25(土)	第4回：学ぶ！作る！子どものエコ活教室～ペットボトル万華鏡を作ろう～ [児童資料部門]	55人
12/3(日)	第5回：物語に描かれる日本刀の見方・読み方 [人文科学資料部門]	94人
1/28(日)	第6回：おokayamaの戦国時代～備前軍記と備中兵乱記を読む～ [郷土資料部門]	99人

(カ) 図書館職員等研修講座

月 日	内 容	参加人数
4/20(木)	第1回(館長研修) 激動する時代と社会の中の図書館経営	19人
5/23(火)	第2回(新任研修) 図書館業務の基礎	44人
7/7(金)	第3回(基本研修) 2022年に出版された主な話題の児童書 YA向け児童書を選ぶ	53人
9/11(月)	第4回(専門研修) 図書館の危機管理	106人
10/25(水)	第5回(基本研修) 除籍選定の手順と考え方	152人
12/1(金)	第6回(基本研修) レファレンスの枠とコツ	132人
2/16(金)	第7回(専門研修) 国立国会図書館障害者用資料検索 「みなサーチ」の紹介と図書館における障害者配慮 したホームページの作成で気を付けること	47人

(キ) 講師派遣

月 日	内 容	参加人数
7/14(金)	県立図書館の障害者サービスについて	2人
10/17(火)	津山市学校司書研修会 話題になった児童書	31人
10/27(金)	兵庫県私立学校図書館協議会研修会 レファレンス・サービスにより利用者の拡大を図る ー岡山県立図書館の事例からー	30人
11/2(木)	県立岡山東商業高校図書館ミニ講演会 自己表現の幅を広げよう	26人
11/24(金)	赤磐市立図書館司書研修会 資料保存と修理について	34人
11/30(木)	里庄町図書館職員研修会 こんなときどう調べる?レファレンス・サービス演習 ー事例で考える初動調査のすすめ方ー	6人
12/22(金)	令和5年度第3回特別支援教育エキスパート連絡協議会 マルチメディアデイジーの紹介・体験会	22人
1/19(金)	マチナカノススメ公開インタビュー vo 1.5 岡山は文学のまちなの? 岡山市都市整備局庭園都市推進課街なかにぎわい推進室主催事業	30人
1/31(水)	備前市司書合同研修会 図書館サービスと著作権の基礎	21人

(ク) ボランティア講座

- ボランティア養成講座 5月12日 参加者数 8人
- ボランティアスキルアップ講座

<障害者利用支援コース>

月 日	内 容	参加人数
6/7(水)、14(水)、21(水)	対面朗読技術スキルアップ演習 1・2・3	延べ68人
11/18(土)	障害者支援サービスと読み方調査について	21人
2/20(火)	読書方法の多様性	29人

<児童サービス支援コース>

月 日	内 容	参加人数
6/13(火)	【講演】子どもたちを本の世界へ ー東京子ども図書館の児童室と「児童図書館基本蔵書目録」のはなし	63人
7/19(水)	【解説】2022年話題の絵本について 【講演】子どもの読書活動を豊かにするために～絵本の選び方～	47人
9/15(金)	【講演】加藤休ミが絵本を描くことは、クレヨンで描くこと。	53人
10/20(金)	【講演】昔話のたのしさを子ども達に語り合いながら届けたい	38人
12/8(金)	【講演】おはなし会のプログラム、どう作る？ ～一期一会のひとときを共にすごすために～	47人
3/6(水)	【講演・実演】子どもの心と体を支える遊びとしてのわらべうた	36人

(ケ) ティーンズコーナー展示

月 日	展 示 校
9/17(日)～10/12(木)	就実高等学校・中学校／県立岡山芳泉高等学校／県立倉敷天城中学・高等学校
10/15(日)～11/9(木)	県立津山工業高等学校／清心中学校・清心女子高等学校／県立総社南高等学校
11/12(日)～12/7(木)	県立岡山城東高等学校／山陽学園中学校・高等学校／県立岡山朝日高等学校
12/10(日)～1/11(木)	岡山商科大学附属高等学校／県立津山高等学校／県立岡山東商業高等学校
1/14(日)～2/15(木)	県立倉敷青陵高等学校／県立興陽高等学校／岡山理科大学附属高等学校
2/18(日)～3/14(木)	県立岡山南高等学校／第一学院高等学校岡山キャンパス／県立岡山工業高等学校

(ク) ライブラリーシアター (偶数月1回)

延べ参加者数 363人

(カ) 放送大学・県立図書館連携講座

月 日	内 容	参加人数
6/17(土)	第1回：「マザーグース」で英語理解を深めよう！	66人
10/1(日)	第2回：生物農薬の利用技術を通じて「農薬」を考える	29人
2/4(日)	第3回：乳幼児の育ちを支えるー発達心理学の視点からー	32人

(キ) 岡山県古代吉備文化財センター・県立図書館連携講座

月 日	催 事 名	参加人数
10/14(土)	吉備の考古学講座： 百間川築造を考えるー現代に受け継がれる治水施設の調査からー	119人
3/2(土)	吉備の考古学講座：瓦からみる備中国分寺・国分尼寺創建への道のり	64人

(ス) 岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア・県立図書館連携講座

月 日	催 事 名	参加人数
1/21(日)	図書館で楽しむ“サイエンス”科学の絵本の読み聞かせ	33人

(セ) 岡山県環境保健センター連携講座

月 日	催 事 名	参加人数
7/29(土)	夏休み！身のまわりの色を調べてみよう！	35人

(ソ) ビジネス支援サービス

月 日	内 容	参加人数
7/1(土)	創業&フォローアップセミナー	89人
7/22(土)	高校生ビジネスプラン作成講座 ビジネスアイデア創出編	26人
8/5(土)	高校生ビジネスプラン作成講座 ビジネスプラン作成編	21人
10/7(土)	エリアマーケティングがわかる！できる！ 「市場情報評価ナビ MieNa」活用セミナー	14人
2/3(土)	創業相談会（ビジネス支援相談会）	24人

(タ) エントランス西口通路展示

月 日	催 事 名
3/21(火)～4/23(日)	図書館で借りた本でやってみた・作ってみた (募集期間2022/12/20～2023/2/28)
7/20(木)～8/20(日)	岡山後楽園事務所連携展示：岡山後楽園写真コンテスト募集
8/23(水)～9/17(日)	医薬安全課連携展示： 令和5年度覚醒剤等薬物乱用防止啓発用ポスター原画展
9/20(水)～10/22(日)	津山市立図書館連携展示：三館連携15周年記念パネル展示
10/28(土)～12/17(日)	県内公共図書館連携パネル展示：図書館ってスゴイんです！（再掲）
12/20(水)～12/28(木)	人権教育・生徒指導課連携展示： 岡山県児童生徒いじめ防止ポスター・標語
1/4(木)～1/14(日)	新見市立中央図書館連携展示：加藤休ミさんワークショップの作品展示
1/18(木)～2/18(日)	統計分析課連携展示：「岡山県統計グラフコンクール」入賞作品展
2/21(水)～3/17(日)	特別支援教育課連携展示： 1人1台端末でチャレンジ！ICT活用コンテスト
3/20(水)～4/14(日)	障害福祉課連携展示：「アスノワニプロジェクト」公募作品原画展

(チ) その他事業

月 日	内 容	参加人数
4/8(土)～5/14(日)	みんなで作ろう☆ヨムヨムこいのぼり	延べ1,190人
4/27(木)	令和5年度岡山県高等学校教育研究会 学校図書館部会 司書部会研修会 第1回合同研修会	64人
6/17(土)～7/9(日)	図書館 de 七夕☆短冊に願いをこめて	延べ1,559人

月 日	内 容	参加人数
7/19(水)～8/31(木)	おかやま図書館マナーアップキャンペーン2023	—
7/27(木)	岡山県子どもの読書活動推進連絡会： 「子どもと本を結ぶ ～子どもの発達と読書について考える～」	55人
8/2(水)～8/3(木)	図書館の修理と装備体験会	延べ28人
8/16(水)、8/20(日)	メディア工房講座：ストップモーションアニメを作ろう	16人
8/18(金)～8/27(日)	使ってみよう！メディア工房	11人
9/23(土)	HAPPY 19 th Anniversary コンサート	—
	ジュラシックライブラリー “ヨムヨムを探せ”	42人
9/24(日)	第1回岡山県立図書館データベース活用講座 「朝日新聞データベース活用講座」 ～話題になったWBC（野球）の歴史を新聞記事で調べよう～	2人
11/21(火)	オンライン対面朗読会	3人
12/1(金)	マルチメディアデイジー体験（図書館職員・教員向け）	13人
12/2(土)	マルチメディアデイジーおはなし会・体験会（一般向け）	7人
12/13(水)	オンライン対面朗読会	6人
1/4(木)	県内図書館共同企画 新春図書館福袋 2024（参加館：39館）	100人
1/4(木)～1/14(日)	正月展示 （県立岡山朝日高等学校書道部揮毫の新年挨拶を展示）	—
1/10(水)	第2回岡山県立図書館データベース活用講座 ルーラル電子図書館活用講座 新春特別企画 みんなで農！「畑作業・野菜作りのコツと裏技」	9人 うちオンライン 2人
2/2(金)	郷土資料活用講座 「そうだったのか！晴れの国おかやま検定2024」	27人
2/10(土)～3/17(日)	岡山県立図書館×謎解きとしょかんクエスト ～ヨムヨムからの挑戦状リターンズ～	492人
3/23(土)、3/24(日)	岡山県立図書館ファミリーコンサート	延べ350人
第4土曜日 夏・冬休み期間中	バックヤードツアー	延べ781人

(ツ) 共催事業

月 日	主 催	内 容	参加人数
6/24(土)	(公財)伊藤忠記念財団	読書バリアフリー研究会 ～みんなに読む喜びと楽しさを伝えよう～	59人
8/2(水)	岡山県高等学校教育研究会 学校図書館部会備前支部 事務局	岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会 備前支部協議会 でーれーBOOKS 10周年記念図書委員会 交流会	57人
8/5(土) ほか全7日間	岡山県 岡山県産業振興財団	分野別ミニ創業塾	延べ182人
11/23(木)	岡山県青年司法書士協議会	専門職による無料相談会&セミナー	延べ34人

月 日	主 催	内 容	参加人数
10/29(日)	高校ビブリオバトル岡山県大会実行委員会	全国高等学校ビブリオバトル2023岡山県大会	30人
1/13(土)	岡山県子ども文庫連絡会	村中李衣氏講演会	57人
4/1(土)～ 3/31(日)	岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会	でーれー B O O K S 2024	38人

(3) 岡山県渋川青年の家

ア 沿 革

昭和19年7月、岡山県渋川海洋道場として発足、昭和22年4月、岡山県海事研修所と改称、県下小・中学生を対象に海事水産に関する体験学習の場として利用されてきた。

昭和46年12月、岡山県渋川青年の家に名称を変更、名実ともに、青少年の社会教育施設として生まれ変わった。

平成20年4月、指定管理者制度へ全面移行し、民間活力を導入して管理運営を開始した。

イ 運営方針

白砂青松の渋川海岸、南にひらける備讃瀬戸、大小さまざまな島々や雄大な瀬戸大橋、対岸の四国連山などのすばらしい自然環境の中で集団生活を行うことにより、下記の目標を達成させ、健全な青少年を育成する。

- 自ら計画した研修プログラムにより、規則正しい生活をする。
- 研修・生活を通じて、「秩序」「友情」「実践」の精神を培う。
- 講義・討議・スポーツ・海事学習等を通して、心や体を鍛える。

ウ 事 業

(ア) 海事研修

小・中学生を対象として、カッター・ロープ結び・手旗信号等の研修プログラムを、次の期間実施した。

4月19日～6月30日

9月4日～11月2日

(イ) 一般研修

子どもから高齢者まで、研修を目的とした団体を対象として通年実施した。プログラムは、青年の家の指導により、各利用団体が自主的に計画するもので、体育・文化的活動が多い。最近は、企業研修での利用も定着しつつある。

(ウ) 主催事業

少年及び青年を対象に、施設の環境・設備・人材を生かし、参加者に自然・文化・スポーツ等に関する多様な体験活動の機会を提供した。

エ 利用状況

令和5年度から、海事研修は4年振りに宿泊研修を再開した。ただ少子化の影響や2泊3日以上長期宿泊体験校の減少（令和元年度15校➡令和5年度3校）などの理由により、海事研修参加人数は令和元年度より約2,000人減という結果になった。また、一般研修においても、コロナ禍を経て、宿泊研修は回復しつつあるのだが、やはり元年度の人数には、今一步届かない結果となった。

オ 利用実績

(ア) 目的別施設利用状況（延べ人数）

年 度	利用者数	海 事 研 修		臨海学校	一 般 研 修 (その他目的利用も含む)
		小 学 校	中 学 校		
元	41,125	35,626	700	0	4,799
2	9,828	9,027	0	0	801
3	12,354	11,568	192	0	594
4	20,248	19,241	184	0	823
5	37,519	33,606	590	0	3,323

(イ) 月別施設利用状況（延べ人数）

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
元	3,138	5,992	7,403	4,676	941	6,516	8,893	3,065	451	0	50	0	41,125
2	0	0	150	252	316	3,693	4,169	815	39	0	0	394	9,828
3	1,504	1,101	2,112	876	42	0	4,510	2,057	37	0	16	99	12,354
4	963	3,545	5,145	858	881	4,077	4,485	294	0	0	0	0	20,248
5	3,209	6,643	8,650	295	702	7,448	8,325	1,323	0	0	0	924	37,519

(4) 岡山県青少年教育センター閑谷学校

昭和40年8月1日、県立和気高等学校閑谷校舎を集団宿泊施設に改造して研修団体の受入を開始した。岡山県青少年教育センター閑谷学校（以下、「県青少年教育センター」と呼ぶ）は、特別史跡旧閑谷学校の環境と伝統を保護し、その活用を図るとともに、集団生活を通じて心身ともに健全な青少年を育成することを目的とすることを条例に定め、設置された。

旧閑谷学校は、1670年に岡山藩主池田光政によって創建が命じられ、庶民教育のための現存するわが国最古の公立学校として、国の特別史跡、国宝、重要文化財に指定されている極めて価値の高い文化財である。

県青少年教育センターは、光政の創学の精神とその後培われた学問の伝統に触れ、郷土や先哲への親しみと理解を深める場として、また、豊かな自然環境の中で、様々な野外活動や秩序ある集団活動を行う場として、各種団体に利用されている。平成2年にキャンプ場（320人収容）、同3年に本館（320人収容）が新たに竣工され、様々な自然体験活動とともに、徳育につながる文化体験活動ができる特別な施設として整備を行ってきた。

平成20年4月からは、民間活力を導入すべく指定管理者制度に全面移行し、管理運営を開始した。

ア 運営・指導方針

(ア) 育成したい7つの資質・能力

- ①先人の在り方生き方を鑑として、自己の在り方生き方を省察する。
- ②郷土への誇りや文化財保護の当事者意識を持つ。
- ③自然に親しむ感受性や実践力、創意工夫の知恵、助け合う協調性などの非認知能力を育む。
- ④主体的・対話的な活動を通して、自分の考えを的確に伝え合う。
- ⑤SDGsの17の目標につながる研修を通して、持続可能な未来を切り拓く意志を持つ。
- ⑥地域の多様な主体・団体との協働によって、地域社会の形成者としての自覚を持つ。
- ⑦事前学習によって、実際に来訪した際に一層深い学びを得ようとする意欲を持つ。

(イ) 指導の重点

① 研修の充実

- ・研修団体との綿密な打合せにより、研修のねらいや育成したい力を明確にした運営を実施する。
- ・研修プログラム（講堂学習、史跡探訪、オリエンテーリング、グリーンウォッチング等）の改善により体験活動の充実を図る。

② 生活信条の実践「礼儀、秩序、友愛」

- ・生活信条の実践を通して、「仁」の心を育む。

(ウ) 史跡文化財の保護と活用

① 保護

- ・講堂学習や史跡探訪プログラムを通して、特別史跡、国宝、重要文化財の価値を認識できるように指導・助言するとともに、床の掃除体験を通して文化財保護の当事者意識を培っている。

② 活用

- ・国宝の講堂で論語を学ぶ講堂学習プログラムによって、先人の在り方生き方を鑑として、自己の在り方生き方を省察する徳育の機会としている。また、350年以上持続している特別史跡、国宝、重要文化財をSDGsのモデルとして史跡探訪で再認識できるように研修方法を工夫している。

イ 主催事業

- ・「親子のふれあい in 閑谷」 令和5年6月24日(土)～25日(日)
- ・「このゆび☆とまれ!①」 令和5年7月8日(土)
- ・「宿題合宿 in 閑谷」 令和5年8月5日(土)～6日(日)
- ・「キッズチャレンジキャンプ」 令和5年10月7日(土)～9日(月)
- ・「エンジョイキャンプ in 閑谷」 令和5年10月21日(土)～22日(日)
- ・「閑谷マルシェ」 令和5年11月26日(日)
- ・「ものづくり名人になろう!」 令和5年12月16日(土)
- ・「このゆび☆とまれ!②」 令和6年2月24日(土)～25日(日)
- ・「親子でアウトドア料理 in 閑谷」 令和6年3月17日(日)

ウ 利用状況

(ア) 県青少年教育センターの研修利用状況（延べ人数）

年度	種別	小学校	中学校	高校	大学	勤労青年	一般	計
元		8,606	13,724	7,104	1,705	0	7,258	38,397
2		4,010	1,938	418	445	0	3,608	10,419
3		5,585	5,821	886	25	0	5,349	17,666
4		4,089	6,744	2,401	400	0	7,005	20,639
5		2,541	9,840	2,283	561	0	11,872	27,097

※その他の目的利用も含む

(イ) 特別史跡旧閑谷学校見学者の状況（延べ人数）

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
元		7,540	11,320	4,034	2,541	3,643	3,311	7,274	35,335	4,541	2,893	3,132	2,867	88,431
2		692	0	927	1,549	2,059	2,743	5,570	32,317	2,157	1,204	1,513	2,856	53,587
3		3,092	2,621	776	2,146	970	0	5,536	35,979	3,547	1,674	1,174	2,443	59,958
4		5,186	7,479	2,911	1,655	2,336	1,964	4,492	27,603	2,772	2,029	2,023	3,574	64,024
5		5,706	7,021	3,181	1,753	2,267	2,540	3,814	28,647	2,438	2,082	2,156	2,164	63,769

2 市町村立生涯学習・社会教育施設

(1) 公民館

ア 公民館の施設

(令和5年5月1日現在)

	市	町	村	計
本館	231	50	1	282
分館	110	0	0	110
計	341	50	1	392

イ 公民館職員

(令和5年5月1日現在)

区分	常勤							小計
	館長		主事		その他			
	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任		
公民館本館職員	市	172	57	228	25	109	49	640
	町	34	12	14	12	24	6	102
	村	0	1	0	1	0	2	4
	小計	206	70	242	38	133	57	746
	合計	276		280		190		746
公民館分館職員	市	33	12	24	0	13	7	89
	町	0	0	0	0	0	0	0
	村	0	0	0	0	0	0	0
	小計	33	12	24	0	13	7	89
	合計	45		24		20		89
本館・分館合計	321		304		210		835	

(2) 図書館

公・私立図書館一覧

(令和5年4月1日現在、岡山県公共図書館調査より)

区分	施設名	所在地 (TEL)	本館・分館の別	独立・併置の別	構造階層	建物延面積 (㎡)	条例制定 年月日	職員数						蔵書冊数 (千冊)	
								館長		司書					
								専任	兼任	専任	兼任	非常勤	臨時		委託・派遣
県立	岡山県立図書館	〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30 TEL 086-224-1286	本館	独立	SRC4 B1	18,193	H16.3.23	1.0		26.0		29.8			1,593
市立	岡山市立中央図書館	〒700-0843 岡山市北区二日市町56 TEL 086-223-3373	本館	独立	RC4	6,415	S58.3.22	1.0		15.0		28.0	2.2		1,301
市立	岡山市立幸町図書館	〒700-0903 岡山市北区幸町10-16 TEL 086-234-5188	分館	併置	SRC6 B2	2,599	H44.4.1	1.0		7.0		13.0	0.2		202
市立	岡山市立浦安総合公園図書館	〒702-8024 岡山市南区浦安南町493-2 TEL 086-265-6141	分館	併置	SRC4	692	H24.4.1	1.0		2.0		1.0			70
市立	岡山市立足守図書館	〒701-1463 岡山市北区足守718 TEL 086-295-1942	分館	併置	RC2	39	S46.5.1		1.0						13
市立	岡山市立伊島図書館	〒700-0016 岡山市北区伊島町2-9-38 TEL 086-253-0822	分館	併置	W2	66	S46.6.22		1.0			4.0	0.4		27
市立	岡山市立建部町図書館	〒709-3111 岡山市北区建部町福渡487-1 TEL 086-722-4555	分館	併置	RC2	458	H19.1.22		1.0			2.0	0.3		26
市立	岡山市立御津図書館	〒709-2121 岡山市北区御津宇垣1629 TEL 086-724-1712	分館	併置	S2	472	H17.3.22	1.0				2.0			35
市立	岡山市立瀬戸町図書館	〒709-0856 岡山市東区瀬戸町下188-2 TEL 086-952-4531	分館	独立	RC2	732	H19.1.22	1.0				3.0	0.5		32
市立	岡山市立灘崎図書館	〒709-1215 岡山市南区片岡186 TEL 086-362-5277	分館	併置	SRC1	503	H17.3.22	1.0				3.0			52
市立	倉敷市立中央図書館	〒710-0046 倉敷市中央2丁目6-1 TEL 086-425-6030	本館	独立	RC4 B1	4,868	S42.4.1	1.0		8.0		20.5			592
市立	倉敷市立水島図書館	〒712-8064 倉敷市水島青葉町4-40 TEL 086-446-6918	分館	独立	RC1	1,395	S42.4.1	1.0		3.0		7.2	2.5		150
市立	倉敷市立児島図書館	〒711-0913 倉敷市児島味野2-2-37 TEL 086-472-4847	分館	併置	RC4	2,671	S42.4.1	1.0		2.0		2.4			242
市立	倉敷市立玉島図書館	〒713-8102 倉敷市玉島1-2-37 TEL 086-526-6011	分館	独立	RC1	1,388	S42.4.1	1.0		3.0		6.0	1.0		170
市立	倉敷市立船穂図書館	〒710-0261 倉敷市船穂町船穂1702-1 TEL 086-552-9300	分館	独立	RC2	868	H17.8.1	1.0		1.0		3.6	0.3		71
市立	倉敷市立真備図書館	〒710-1301 倉敷市真備町箭田47-1 TEL 086-698-9393	分館	併置	RC2	1,693	H17.8.1	1.0		3.0		1.2	2.0		114
市立	津山市立図書館	〒708-8520 津山市新魚町17 TEL 0868-24-2919	本館	併置	RC8	3,229	S53.4.1	1.0		10.0		7.0			345
市立	津山市立加茂町図書館	〒709-3905 津山市加茂町塔中113-6 TEL 0868-42-7032	分館	併置	RC2	286	H17.2.28		1.0			2.0			38
市立	津山市立久米図書館	〒709-4603 津山市中北下1271 TEL 0868-57-3444	分館	独立	RC2	621	H17.2.28		1.0			2.0			47

区分	施設名	所在地 (TEL)	本館・分館の別	独立・併置の別	構造階層	建物延面積 (㎡)	条例制定 年月日	職員数						蔵書冊数 (千冊)		
								館長		司書						
								専任	兼任	専任	兼任	非常勤	臨時		派遣・委託	
市立	津山市立 津勝北図書館	〒708-1205 津山市新野東584 TEL 0868-36-8622	分館	併置	RC2	502	H17.2.28		1.0			2.0				57
市立	玉野市立 図書館	〒706-0011 玉野市宇野1-38-1 TEL 0863-31-3712	本館	併置	S4	2,260	S44.3.1	1.0						15.3		197
市立	笠岡市立 図書館	〒714-0087 笠岡市六番町1-15 TEL 0865-63-1038	本館	独立	RC 一部S2	1,715	S29.3.30	1.0		2.0		10.0				191
市立	井原市立 井原図書館	〒715-0019 井原市井原町1260-1 TEL 0866-62-0822	本館	独立	RC3 B1	1,301	S31.7.28	1.0		2.0		3.0				208
市立	井原市立 芳井図書館	〒714-2111 井原市芳井町吉井4058-1 TEL 0866-72-1702	分館	併置	RC2	545	S31.7.28		1.0			2.0				70
市立	井原市立 美星図書館	〒714-1406 井原市美星町三山1055 TEL 0866-87-3123	分館	併置	RC3	410	S31.7.28		1.0			1.0				49
市立	総社市立 図書館	〒719-1131 総社市中央3丁目10-113 TEL 0866-93-4422	本館	独立	RC3	1,987	S57.3.23		1.0	5.0		2.0	2.0			204
市立	高梁市立 図書館	〒716-0039 高梁市旭町1306 TEL 0866-22-2912	本館	併置	SRC4	2786	H29.2.1	1.0						8.0		196
市立	新見市立 中央図書館	〒718-0011 新見市新見123-2 TEL 0867-72-2826	本館	併置	RC3	3,338	H28.12.19	1.0		4.0		2.4				155
市立	備前市立 図書館	〒705-0021 備前市西片上17-2 TEL 0869-64-1134	本館	併置	RC5	320	H17.3.22	1.0			4.0		1.0			98
市立	備前市立 日生分館	〒701-3204 備前市日生町日生241-87 TEL 0869-72-1085	分館	併置	RC3	158	H17.3.22		1.0				1.0			39
市立	備前市立 吉永分館	〒709-0225 備前市吉永町三股19 TEL 0869-84-2605	分館	併置	RC3	104	H17.3.22		1.0				1.0			18
市立	瀬戸内市立 市民図書館	〒701-4211 瀬戸内市邑久町尾張465-1 TEL 0869-24-8900	本館	独立	RC2	2,399	H28.6.1	1.0		4.0		6.0				147
市立	瀬戸内市立 牛窓図書館	〒701-4302 瀬戸内市牛窓町牛窓4911 TEL 0869-34-5653	分館	併置	RC4	422	H28.6.1		1.0			1.0				30
市立	瀬戸内市立 長船図書館	〒701-4264 瀬戸内市長船町土師1175-1 TEL 0869-26-2501	分館	併置	RC2	135	H28.6.1		1.0			2.0				21
市立	赤磐市立 中央図書館	〒709-0816 赤磐市下市325-1 TEL 086-955-0076	本館	独立	RC2	3,346	H17.3.7	1.0		1.0		9.0				227
市立	赤磐市立 赤坂図書館	〒701-2222 赤磐市町苜田507 TEL 086-957-2212	分館	併置	RC2	150	H17.3.7		1.0			1.2				29
市立	赤磐市立 熊山図書館	〒709-0705 赤磐市松木621-1 TEL 086-995-1273	分館	併置	RC2	176	H17.3.7		1.0			1.2				36
市立	赤磐市立 吉井図書館	〒701-2503 赤磐市周匝142 TEL 086-954-9200	分館	併置	RC2	598	H17.3.7		1.0			1.2				39
市立	真庭市立 中央図書館	〒717-0013 真庭市勝山53-1 TEL 0867-44-2012	本館	独立	RC3	3,873	H30.4.1	1.0		2.0		6.6				104

区分	施設名	所在地 (TEL)	本館・分館の別	独立・併置の別	構造階層	建物延面積 (㎡)	条例制定 年月日	職員数							蔵書冊数 (千冊)
								館長		司書					
								専任	兼任	専任	兼任	非常勤	臨時	委託・派遣	
市立	真庭市立 久世図書館	〒719-3214 真庭市鍋屋17-1 TEL 0867-42-7203	分館	併置	RC3	600	H9.4.1		1.0					1.0	61
市立	真庭市立 蒜山図書館	〒717-0504 真庭市蒜山下福田305 TEL 0867-66-7880	分館	併置	RC1	240	H17.3.31		1.0			1.1			27
市立	真庭市立 落合図書館	〒719-3144 真庭市垂水618 TEL 0867-52-3315	分館	併置	W2	264	H28.4.1		1.0			1.1			30
市立	真庭市立 北房図書館	〒716-1411 真庭市上水田3131 TEL 0866-52-5220	分館	併置	RC1	194	H28.4.1		1.0			1.0			25
市立	真庭市立 美甘図書館	〒717-0105 真庭市美甘4134 TEL 0867-56-2611	分館	併置	W2	108	H28.4.1		1.0			1.0			8
市立	真庭市立 湯原図書館	〒717-0406 真庭市豊栄1515 TEL 0867-62-2011	分館	併置	S1	283	H28.4.1		1.0			1.0			12
市立	美作市立 中央図書館	〒707-8501 美作市栄町35 TEL 0868-72-1135	本館	併置	RC3	450	H17.3.31		1.0			2.0			42
市立	美作市立 英田図書館	〒701-2604 美作市福本806-1 TEL 0868-74-3104	分館	併置	RC2	577	H17.3.31		1.0			1.0			36
市立	美作市立 大原図書館	〒707-0412 美作市古町1709 TEL 0868-78-7634	分館	併置	RC2	60	H17.3.31		1.0						4
市立	美作市立 作東図書館	〒709-4292 美作市江見945 TEL 0868-75-0007	分館	併置	RC2	741	H17.3.31		1.0			1.0			54
市立	美作市立 東粟倉図書館	〒707-0403 美作市東青野395 TEL 0868-78-3650	分館	併置	RC2	80	H17.3.31		1.0						12
市立	美作市立 勝田図書館	〒707-0113 美作市真加部1616 TEL 0868-77-1111	分館	併置	RC3	67	H28.9.29		1.0						5
市立	浅口市立 鴨方図書館	〒719-0243 浅口市鴨方町鴨方2244-13 TEL 0865-44-7004	本館	併置	RC2	1,166	H18.3.21	1.0				3.5			139
市立	浅口市立 金光さつき図書館	〒719-0104 浅口市金光町古見新田790-1 TEL 0865-42-6637	分館	併置	RC3	822	H18.3.21		1.0				2.0		58
市立	浅口市立 寄島図書館	〒714-0101 浅口市寄島町16010 TEL 0865-54-3144	分館	併置	RC3	360	H18.3.21		1.0			1.0			27
町立	和气町立 図書館	〒709-0422 和气郡和气町尺所2-7 TEL 0869-93-0433	本館	併置	RC3	1,412	H18.3.1		1.0	1.0		1.0			121
町立	和气町立 佐伯図書館	〒709-0521 和气郡和气町父井原430-1 TEL 0869-88-9112	分館	併置	RC3	485	H18.3.1		1.0			2.0			53
町立	早島町立 図書館	〒701-0303 都窪郡早島町前潟370-1 TEL 086-482-1513	本館	併置	RC3	1,250	S62.3.9	1.0		2.0		2.0			151
町立	里庄町立 図書館	〒719-0301 浅口郡里庄町里見2621 TEL 0865-64-6016	本館	独立	RC2	2,036	H5.3.16	1.0		2.0					156
町立	矢掛町立 図書館	〒714-1201 小田郡矢掛町矢掛2677-1 TEL 0866-82-2100	本館	併置	RC1	832	H11.4.1	1.0				8.0	1.0		127

区分	施設名	所在地 (TEL)	本館・分館の別	独立・併置の別	構造階層	建物延面積 (㎡)	条例制定 年月日	職員数						蔵書冊数 (千冊)	
								館長		司書					
								専任	兼任	専任	兼任	非常勤	臨時		派遣・委託
町立	鏡野町立図書館	〒708-0324 苫田郡鏡野町竹田663-7 TEL 0868-54-7700	本館	併置	RC2	1,323	H17.3.1	1.0		2.0					141
町立	勝中央図書館	〒709-4316 勝田郡勝中央町勝間田207-4 TEL 0868-38-0250	本館	併置	W1	715	H13.10.2		1.0	1.0			3.8		77
町立	奈義町立図書館	〒708-1323 勝田郡奈義町豊沢441 TEL 0868-36-5811	本館	併置	RC2	739	H5.3.22		1.0	1.0	1.0	2.7			97
村立	あわくら図書館	〒707-0503 勝田郡西粟倉村影石33-1 TEL 0868-79-2116	本館	併置	W2	360	R2.3.16		1.0			2.0	2.0		42
町立	久米南町立図書館	〒709-3614 久米郡久米南町下弓削515-1 TEL 0867-28-4322	本館	併置	RC3	959	H12.12.25		1.0				3.0		85
町立	美咲町立中央図書館	〒709-3702 久米郡美咲町打穴下448-4 TEL 0868-66-7151	本館	併置	RC2	178	H19.11.5		1.0			3.0			28
町立	美咲町立旭図書館	〒709-3404 久米郡美咲町西川1001-7 TEL 0867-27-9012	分館	併置	RC2	491	H17.3.22		1.0			2.0			45
町立	美咲町立柵原図書館	〒708-1543 久米郡美咲町書副180 TEL 0868-64-7055	分館	併置	RC1	714	H17.3.22		1.0			2.0			56
町立	かもがわ図書館	〒709-2398 加賀郡吉備中央町下加茂1073-1 TEL 0867-34-1115	本館	併置	RC3	342	H23.12.1	1.0				2.4			36
町立	ロマン高原かよう図書館	〒716-1192 加賀郡吉備中央町豊野1-2 TEL 0866-54-1331	分館	併置	RC2	225	H23.12.1		1.0						26

※図書館法2条に該当する施設

※中央館を本館、それ以外を分館とする。また、職員数は、常勤職員を1とした人数。

(3) 博物館

公・私立博物館一覧

(令和5年5月1日現在)

区分		館数			職員数									
		博物館法		計	館長		学芸員		学芸員補		その他		計	
		12 項条	31 条		専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任		
公立	県立	1		1		1	7					11		19
	市町立	15	1	16	10	5	26	6	1	0	49	6	103	
	計	16	1	17	10	6	33	6	1	0	60	6	122	
私立		8	0	8	2	3	17	2	2	0	49	2	77	
合計		24	1	25	12	9	50	8	3	0	109	8	199	

※岡山市は除く。

公・私立博物館一覧

(令和5年5月1日現在)

区分	施設名	所在地	TEL	博物館法	登録年月日	種別その他
県立	岡山県立博物館	岡山市北区後楽園1-5	086-272-1149	2条1項	S46.7.1	歴史博物館
市 町 立	玉野海洋博物館	玉野市渋川2-6-1	0863-81-8111	〃	S28.7.20	水族館
	備前長船刀剣博物館	瀬戸内市長船町長船966	0869-66-7767	〃	S58.9.7	歴史博物館
	倉敷科学センター	倉敷市福田町古新田940	086-454-0300	〃	H6.1.20	科学博物館
	倉敷市立自然史博物館	倉敷市中央2-6-1	086-425-6037	〃	H9.2.4	科学博物館
	倉敷市立美術館	倉敷市中央2-6-1	086-425-6034	〃	H9.2.4	美術博物館
	笠岡市立竹喬美術館	笠岡市六番町1-17	0865-63-3967	〃	S57.9.24	美術博物館 (竹喬作品)
	井原市立平櫛田中美術館	井原市井原町315	0866-62-8787	〃	S48.11.17	美術博物館 (田中作品)
	やかげ郷土美術館	小田郡矢掛町矢掛3118-1	0866-82-2110	〃	H5.12.2	美術博物館
	高梁市歴史美術館	高梁市原田北町1203-1	0866-21-0180	〃	H9.12.18	美術博物館
	高梁市成羽美術館	高梁市成羽町下原1068-3	0866-42-4455	〃	S53.5.2	総合博物館
	新見美術館	新見市西方361	0867-72-7851	〃	H5.12.2	美術博物館
	津山郷土博物館	津山市山下92	0868-22-4567	〃	H1.3.16	歴史博物館
	津山洋学資料館	津山市西新町5	0868-23-3324	〃	H21.10.5	歴史博物館
	奈義町現代美術館	勝田郡奈義町豊沢441	0868-36-5811	〃	H7.10.12	美術博物館
瀬戸内市立美術館	瀬戸内市牛窓町牛窓4911	0869-34-3130	〃	H24.2.27	美術博物館	
私 立	大原美術館 本館	倉敷市中央1-1-15	086-422-0005	〃	S27.4.17	美術博物館
	大原美術館 分館	同上	〃	〃	〃	美術博物館
	大原美術館 工芸館	同上	〃	〃	〃	美術博物館
	大原美術館 東洋館	同上	〃	〃	〃	美術博物館
	大原美術館 児島虎次郎記念館	倉敷市本町3-1	〃	〃	〃	美術博物館
	倉敷考古館	倉敷市中央1-3-13	086-422-1542	〃	S27.4.17	歴史博物館
	倉敷民芸館	倉敷市中央1-4-11	086-422-1637	〃	S27.4.17	美術博物館
	BIZEN中南米美術館	備前市日生町日生241-10	0869-72-0222	〃	S50.2.26	美術博物館
	藤原啓記念館	備前市穂浪3868	0869-67-0638	〃	S52.12.20	美術博物館
	津山科学教育博物館	津山市山下98-1	0868-22-3518	〃	S53.6.14	総合博物館
指定 施設	華鶴大塚美術館	井原市高屋町3-11-5	0866-67-2225	〃	H6.9.21	美術博物館
	野崎家塩業歴史館	倉敷市児島味野1-11-19	086-472-2001	〃	H7.3.8	歴史博物館
指定 施設	岡山天文博物館	浅口市鴨方町本庄3037-5	0865-44-2465	31条	S37.1.24	科学博物館

(博物館法2条1項は登録博物館、31条は博物館に相当する施設)

※岡山市は除く。

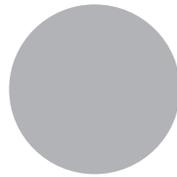
(4) 青年の家・少年自然の家・国立青年の家・少年自然の家一覧

(令和6年3月)

区分	名称 T E L	敷地面積	建物 延面積	職員	構造	延利用者数 (令和5年度)	使用料等	宿泊施設等	設立 年月日
		m ²	m ²	人		人	円	人	
国立	国立吉備 青少年自然の家 0866-56-7231	1,200,000	12,201	19	鉄筋3階 (一部3階)	47,856	1人1泊当たり 宿泊棟・ロッジ 幼児(年少以上) 300 子供(小学生~高校生) 600 大学生 1,200 大人(18歳以上) 2,500 ※一部免除あり	室内 300 テント 300	昭和 57. 4. 6
県立	岡山県 渋川青年の家 0863-81-8039	6,299	4,927	14	鉄筋3階	37,519	勤労青年・高校生 110 大学・一般 400 小・中学生 100	室内 435	昭和 46.12. 1
	岡山県青少年教育 センター閑谷学校 0869-67-1427	57,879	5,830	12	鉄筋3階	27,097	勤労青年・高校生 160 大学・一般 600 小・中学生 150	室内 320 テント 320	昭和 40. 4. 1
市立	岡山市立 少年自然の家 086-294-3461	10,895 (R5再調査)	3,767	9	鉄筋3階 地下1階	17,926	宿泊料(1泊2日) 中学生以下 419 高校生以上 943	室内 195 テント 200	昭和 48. 7.17
	岡山市立 犬島自然の家 086-947-9001	7,647	2,526	7	鉄骨鉄筋 2階	2,044	大人料金 和室 1,460 (1,040) 洋室 2,090 (1,460) 4歳以上中学生以下は半額 ()内は20人以上の団体	室内 50	平成 11. 4.18
	倉敷市 少年自然の家 086-477-5100	77,142	5,173	11	(メイン棟) 鉄筋3階	35,134	倉敷市内の学校の利用 日帰り 400 倉敷市外の学校の利用 日帰り 600 ※詳しくはホームページ で確認	メイン棟 220 テント 150	昭和 51. 5. 1



第5章 学校教育の実態



第1節	学	校	数	(103~110)							
第2節	学	級	数	(111~114)							
第3節	教	職	員	組	織	(114~122)					
第4節	幼	児	・	児	童	・	生	徒	数	(122~129)	
第5節	就	学	状	況	(130)						
第6節	卒	業	者	の	進	路	(131~134)				
第7節	児	童	・	生	徒	の	健	康	状	態	(135~137)

第5章 学校教育の実態

■第1節 学校数

1 幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・専修学校・各種学校

(令和5年5月1日現在)

市郡名	幼稚園			幼保連携型 認定こども園			小学校			中学校			義務教育学校			専修学校 各種学校
	本園	分園	計	本園	分園	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	
計	199		199	127		127	371	4	375	160		160	2		2	66
岡山市	44		44	20		20	85	2	87	37		37	1		1	36
倉敷市	38		38	8		8	62		62	26		26				13
津山市	2		2	1		1	27		27	8		8				4
玉野市	6		6				14		14	7		7				2
笠岡市	9		9	2		2	16		16	10		10				1
井原市	13		13				13		13	5		5				
総社市	16		16	2		2	15		15	4		4				
高梁市	10		10	3		3	14		14	6		6				1
新見市				8		8	15		15	5		5				1
備前市				8		8	10		10	5		5				
瀬戸内市	6		6				9		9	3		3				2
赤磐市	6		6				12		12	5		5				1
真庭市	1		1	7		7	20	1	21	6		6				1
美作市	2		2	3		3	8		8	5		5				1
浅口市	3		3	2		2	7	1	8	3		3				2
和气郡	3		3				3		3	2		2				
都窪郡	1		1				1		1	1		1				1
浅口郡	2		2				2		2	1		1				
小田郡				1		1	7		7	1		1				
真庭郡							1		1	1		1				
苫田郡	1		1				5		5	1		1				
勝田郡	2		2				3		3	2		2				
英田郡	1		1				1		1	1		1				
久米郡							7		7	3		3	1		1	
加賀郡	2		2	1		1	9		9	1		1				
国立	1		1				1		1	1		1				
私立	30		30	61		61	4		4	10		10				

(注) 専修学校・各種学校の市郡別内訳には、国立、私立も含む。

2 高等学校

(令和5年5月1日現在)

設置者別	全 日 制			定 時 制			合 計		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
計	75		75	11		11	86		86
県立	50		50	1		1	51		51
市立	2		2	10		10	12		12
私立	23		23				23		23

3 中等教育学校

(令和5年5月1日現在)

設置者別	全 日 制			定 時 制			合 計		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
計	2		2				2		2
県立	1		1				1		1
私立	1		1				1		1

4 中学校一覧（県立）

学 校 名	位 置	令和5年度生徒定員
岡山県立岡山操山中学校	岡山市中区浜412	360
岡山県立倉敷天城中学校	倉敷市藤戸町天城269	360
岡山県立津山中学校	津山市椿高下62	240

5 高等学校一覧

(1) 県立高等学校

学 校 名	位 置	課 程	設置学科	令和5年度生徒定員	
				学科別	計
岡山県立岡山朝日高等学校	岡山市中区古京町2-2-21	全日制	普通	1,000	1,000
岡山県立岡山操山高等学校	岡山市中区浜412	全日制	普通	840	840
		通信制	普通	2,000	2,000
岡山県立岡山芳泉高等学校	岡山市南区芳泉3-1-1	全日制	普通	960	960
岡山県立岡山一宮高等学校	岡山市北区櫛津221	全日制	普通	720	960
		〃	理数	240	
岡山県立岡山城東高等学校	岡山市中区下110	全日制	普通	960	960
岡山県立西大寺高等学校	岡山市東区西大寺上2-1-17	全日制	普通	480	840
		〃	商業	240	
		〃	国際情報	120	
岡山県立瀬戸高等学校	岡山市東区瀬戸町光明谷316-1	全日制	普通	480	480
岡山県立高松農業高等学校	岡山市北区高松原古才336-2	全日制	農業科学	120	600
		〃	園芸科学	120	
		〃	畜産科学	120	
		〃	農業土木	120	
		〃	食品科学	120	
岡山県立興陽高等学校	岡山市南区藤田1500	全日制	農業	120	600
		〃	農業機械	120	
		〃	造園デザイン	120	
		〃	家政	120	
		〃	被服デザイン	120	

学 校 名	位 置	課 程	設置学科	令和5年度生徒定員	
				学科別	計
岡山県立瀬戸南高等学校	岡山市東区瀬戸町沖88	全日制	生物生産	120	480
		"	園芸科学	240	
		"	生活デザイン	120	
岡山県立岡山工業高等学校	岡山市北区伊福町4-3-92	全日制	機 械	240	960
		"	電 気	120	
		"	情報技術	120	
		"	化学工学	120	
		"	土 木	120	
		"	建 築	120	
		"	デザイン	120	
岡山県立東岡山工業高等学校	岡山市中区土田290-1	全日制	機 械	240	840
		"	電子機械	240	
		"	電 気	120	
		"	設備システム	120	
		"	工業化学	120	
岡山県立岡山東商業高等学校	岡山市中区東山3-1-6	全日制	ビジネス創造	720	960
		"	情報ビジネス	240	
岡山県立岡山南高等学校	岡山市北区奥田2-4-7	全日制	商 業	240	960
		"	国際経済	120	
		"	情報処理	240	
		"	生活創造	240	
		"	服飾デザイン	120	
岡山県立岡山御津高等学校	岡山市北区御津金川940	全日制	キャリアデザイン	360	360
岡山県立倉敷青陵高等学校	倉敷市羽島1046-2	全日制	普 通	960	960
岡山県立倉敷天城高等学校	倉敷市藤戸町天城269	全日制	普 通	600	720
		"	理 数	120	
岡山県立倉敷南高等学校	倉敷市吉岡330	全日制	普 通	960	960
岡山県立倉敷古城池高等学校	倉敷市福田町古新田116-1	全日制	普 通	840	840
岡山県立倉敷中央高等学校	倉敷市西富井1384	全日制	普 通	480	840
		"	家 政	120	
		"	看 護	120	
		"	福 祉	120	
		専 攻 科	80	80	
岡山県立玉島高等学校	倉敷市玉島阿賀崎3-1-1	全日制	普 通	600	720
		"	理 数	120	
岡山県立倉敷鷺羽高等学校	倉敷市児島味野山田町2301	全日制	普 通	360	600
		"	ビ ジ ネ ス	240	
岡山県立倉敷工業高等学校	倉敷市老松町4-9-1	全日制	機 械	240	960
		"	電子機械	240	
		"	電 気	240	
		"	工業化学	120	
		"	テキスタイル工学	120	
岡山県立水島工業高等学校	倉敷市西阿知町1230	全日制	機 械	320	920
		"	電 気	240	
		"	情報技術	120	
		"	工業化学	120	
		"	建 築	120	

学 校 名	位 置	課 程	設 置 学 科	令和5年度生徒定員	
				学 科 別	計
岡山県立倉敷商業高等学校	倉敷市白楽町545	全日制	商 業	600	960
		〃	国 際 経 済	120	
		〃	情 報 処 理	240	
岡山県立玉島商業高等学校	倉敷市玉島中央町2-9-30	全日制	ビジネス情報	480	480
岡山県立津山高等学校	津山市椿高下62	全日制	普 通	600	720
		〃	理 数	120	
岡山県立津山東高等学校	津山市林田1200	全日制	普 通	360	600
		〃	食 物 調 理	120	
		〃	看 護	120	
		専 攻 科	80	80	
岡山県立津山工業高等学校	津山市山北411-1	全日制	機 械	120	720
		〃	工 業 化 学	120	
		〃	土 木	120	
		〃	建 築	120	
		〃	デ ザ イン	120	
		〃	ロ ボ ッ ト 電 気	120	
岡山県立津山商業高等学校	津山市山北531	全日制	地域ビジネス	240	480
〃	〃	情報ビジネス	240		
岡山県立玉野高等学校	玉野市築港3-11-1	全日制	普 通	480	480
岡山県立玉野光南高等学校	玉野市東七区244	全日制	普 通	360	720
		〃	情 報	120	
		〃	体 育	240	
岡山県立笠岡高等学校	笠岡市笠岡3073-2	全日制	普 通	480	480
岡山県立笠岡工業高等学校	笠岡市横島808	全日制	電 子 機 械	120	360
		〃	電 気 情 報	120	
		〃	環 境 土 木	120	
岡山県立笠岡商業高等学校	笠岡市笠岡3203	全日制	商 業	80	360
		〃	情 報 処 理	40	
		〃	ビ ジ ネ ス 情 報	240	
岡山県立井原高等学校	井原市井原町1802	全日制	普 通	360	480
		〃	地 域 生 活	120	
岡山県立総社高等学校	総社市総社3-9-1	全日制	普 通	640	760
		〃	家 政	120	
岡山県立総社南高等学校	総社市三輪626-1	全日制	普 通	720	720
岡山県立高梁高等学校	高梁市内山下38	全日制	普 通	360	480
		〃	家 政	120	
岡山県立高梁城南高等学校	高梁市原田北町1216-1	全日制	電 気	120	345
		〃	デ ザ イン	105	
		〃	環 境 科 学	120	
岡山県立新見高等学校	新見市新見1394 新見市新見1994	全日制	普 通	315	545
		〃	生 物 生 産	90	
		〃	工 業 技 術	105	
		〃	総 合 ビ ジ ネ ス	35	
岡山県立備前緑陽高等学校	備前市西片上91-1	全日制	総 合 学 科	480	480
岡山県立邑久高等学校	瀬戸内市邑久町尾張404	全日制	普 通	120	360
		〃	生 活 ビ ジ ネ ス	240	
岡山県立勝山高等学校	真庭市勝山481 真庭市蒜山上長田4	全日制	普 通	440	480
		〃	ビ ジ ネ ス	40	
		〃	普 通	120	

学 校 名	位 置	課 程	設置学科	令和5年度生徒定員		
				学科別	計	
岡山県立真庭高等学校	真庭市落合垂水448-1	全日制	普 通	70	350	
		"	看 護	120		
		"	食 農 生 産	80		
		"	経営ビジネス	80		
	真庭市中島143	専 攻 科		80		80
		全日制	生 物 生 産	35		70
岡山県立林野高等学校	美作市三倉田58-1	全日制	普 通	360	360	
岡山県立鴨方高等学校	浅口市鴨方町鴨方819	全日制	総 合 学 科	360	360	
岡山県立和気閑谷高等学校	和気郡和気町尺所15	全日制	普 通	240	360	
		"	キャリア探求	120		
岡山県立矢掛高等学校	小田郡矢掛町矢掛1776-2	全日制	普 通	240	360	
		"	地域ビジネス	120		
岡山県立勝間田高等学校	勝田郡勝央町勝間田47	全日制	総 合 学 科	360	360	
岡山県立烏城高等学校	岡山市北区伊島町3-1-1	定時制	普 通	560	560	

(2) 市立高等学校

学 校 名	位 置	課 程	設置学科	令和5年度 募集定員	設置者
倉敷市立精思高等学校	倉敷市八王寺町199-3	定・夜	普 通	80	倉敷市
		"	商 業	40	
倉敷市立工業高等学校	倉敷市田ノ上716-1	定・夜	機 械	80	倉敷市
		"	電 気	40	
倉敷市立倉敷翔南高等学校	倉敷市児島稗田町160	定・昼夜	総 合	120	倉敷市
倉敷市立玉島高等学校	倉敷市玉島1-15-60	定・昼	普 通	—	倉敷市
		定・夜	商 業	—	
倉敷市立真備陵南高等学校	倉敷市真備町箭田1769-1	定・昼	普 通	80	倉敷市
玉野市立玉野商工高等学校	玉野市玉6-1-1	全日制	機 械	40	玉野市
		"	ビジネス情報	120	
玉野市立玉野備南高等学校	玉野市和田4-7-1	定・昼	普 通	40	玉野市
井原市立高等学校	井原市井原町1151	定・昼夜	普 通	80	井原市
高梁市立松山高等学校	高梁市原田北町1216-1	定・夜	普 通	40	高梁市
高梁市立宇治高等学校	高梁市宇治町宇治1681-2	定・昼	普 通	40	高梁市
備前市立片上高等学校	備前市西片上91-1	定・夜	普 通	40	備前市

6 中等教育学校一覧（県立）

学 校 名	位 置	後期課程の 学 科	令和5年度生徒定員		
			前期	後期	計
岡山県立岡山大安寺中等教育学校	岡山市北区北長瀬本町19-34	普 通	480	480	960

7 特別支援学校一覧

(1) 県立特別支援学校

学 校 名	位 置	区 分	児童生徒数 (R5.5.1)		
			定員	現員	現員計
岡山県立岡山盲学校	岡山市中区原尾島4-16-53	小 学 部	—	4	29
		中 学 部	—	11	
		高等部本 科	105	8	
		” 専攻科	60	6	
岡山県立岡山聾学校	岡山市中区土田51	幼 稚 部	32	5	51
		小 学 部	—	19	
		中 学 部	—	17	
		高等部本 科	75	10	
岡山県立岡山支援学校	岡山市北区祇園866	” 専攻科	8	0	74
		小 学 部	—	33	
		中 学 部	—	17	
		高 等 部	66	24	
岡山県立岡山西支援学校	岡山市北区田中579	小 学 部	—	68	164
		中 学 部	—	35	
		高 等 部	60	61	
岡山県立岡山東支援学校	岡山市東区宍甘1018	小 学 部	—	107	242
		中 学 部	—	58	
		高 等 部	84	77	
岡山県立岡山南支援学校	岡山市南区内尾721-3	小 学 部	—	89	253
		中 学 部	—	49	
		高 等 部	120	115	
岡山県立岡山瀬戸高等支援学校	岡山市東区瀬戸町江尻1326	高 等 部	120	113	113
岡山県立倉敷まきび支援学校	倉敷市真備町箭田4682-1	小 学 部	—	120	333
		中 学 部	—	66	
		高 等 部	174	147	
岡山県立倉敷琴浦高等支援学校	倉敷市児島田の口1-1-16	高 等 部	72	71	71
岡山県立西備支援学校	笠岡市東大戸5075-1	小 学 部	—	48	109
		中 学 部	—	22	
		高 等 部	84	39	
岡山県健康の森学園支援学校	新見市哲多町大野2034-5	小 学 部	—	18	61
		中 学 部	—	11	
		高 等 部	30	32	
岡山県立東備支援学校	備前市福田637	小 学 部	—	53	125
		中 学 部	—	24	
		高 等 部	57	48	
岡山県立早島支援学校	都窪郡早島町早島4063	小 学 部	—	56	142
		中 学 部	—	44	
		高 等 部	69	42	
岡山県立誕生寺支援学校	久米郡久米南町山ノ城110-2	小 学 部	—	82	232
		中 学 部	—	40	
		高 等 部	102	110	
	久米郡久米南町上弓削1657-1	高 等 部	102	110	

(注) 現員には、派遣学級及び訪問教育学級に在籍する児童生徒数を含む。

(2) 市立特別支援学校

学 校 名	位 置	区 分	児童生徒数(R5.5.1)		
			定員	現員	現員計
倉敷市立倉敷支援学校	倉敷市粒浦338-1	小 学 部	—	100	261
		中 学 部	—	61	
		高等部本科	105	100	

(注) 現員には、派遣学級及び訪問教育学級に在籍する児童生徒数を含む。

8 へき地指定校一覧

級地別	令 和 5 年 3 月 31 日	令 和 6 年 3 月 31 日
	学 校 (分 校) 名	学 校 (分 校) 名
5 級地	(0校)	(0校)
4 級地	(1校) 笠岡市立六島小学校	(1校) 笠岡市立六島小学校
3 級地	(0校)	(0校)
2 級地	(9校) 笠岡市立白石小学校 " 白石中学校 " 北木小学校 " 北木中学校 " 真鍋小学校 " 真鍋中学校 新見市立千屋小学校 真庭市立中和小学校 苫田郡鏡野町立上齋原小学校	(8校) 笠岡市立白石小学校 " 白石中学校 " 北木小学校 " 北木中学校 " 真鍋小学校 " 真鍋中学校 新見市立千屋小学校 真庭市立中和小学校
1 級地	(15校) 高梁市立宇治小学校 新見市立神郷北小学校 " 新砥小学校 真庭市立美甘小学校 " 八東小学校 " 川上小学校 " 蒜山中学校 蒜山学校給食共同調理場 美作市立東粟倉小学校 真庭郡新庄村立新庄小学校 " " 新庄中学校 苫田郡鏡野町立富小学校 加賀郡吉備中央町立津賀小学校 " " 円城小学校 " " 御北小学校	(13校) 高梁市立宇治小学校 新見市立神郷北小学校 " 新砥小学校 真庭市立美甘小学校 " 八東小学校 " 川上小学校 " 蒜山中学校 蒜山学校給食共同調理場 真庭郡新庄村立新庄小学校 " " 新庄中学校 加賀郡吉備中央町立津賀小学校 " " 円城小学校 " " 御北小学校

9 準へき地指定校一覧

級地別	令和5年3月31日	令和6年3月31日
	学校(分校)名	学校(分校)名
準へき地	(10校) 高梁市立中井小学校 赤磐市立仁美小学校 真庭市立湯原小学校 " 湯原中学校 美作市立大原小学校 " 大原中学校 " 英北給食センター 苫田郡鏡野町立香北小学校 久米郡美咲町立旭小学校 " 旭中学校	(8校) 高梁市立中井小学校 赤磐市立仁美小学校 真庭市立湯原小学校 " 湯原中学校 美作市立大原小学校 " 大原中学校 " 英北給食センター 久米郡美咲町立旭学園

10 特別の地域に所在する学校指定校一覧

級地別	令和5年3月31日	令和6年3月31日
	学校(分校)名	学校(分校)名
特別地域	(5校) 赤磐市立城南小学校 " 吉井中学校 真庭市立北房小学校 " 北房中学校 北房学校給食センター	(5校) 赤磐市立城南小学校 " 吉井中学校 真庭市立北房小学校 " 北房中学校 北房学校給食センター

11 特地公署指定一覧

級地別	令和5年3月31日	令和6年3月31日
	学校(分校)名	学校(分校)名
2級地	(1校) 高梁市立宇治高等学校	(1校) 高梁市立宇治高等学校

■第2節 学級数

1 幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校

(令和5年5月1日現在)

区分	幼稚園	幼保連携 型認定 こども園	小 学 校									中 学 校					
			計	単 式 学 級						複式 学級	特別支 援学級	計	単 式 学 級			複式 学級	特別支 援学級
				1	2	3	4	5	6				1	2	3		
計	628	592	4,653	584	589	577	580	550	558	142	1,073	1,946	511	511	515		409
岡山市	84	136	1,596	183	191	193	192	181	181	12	463	639	166	163	168		142
倉敷市	108	42	1,058	143	145	147	156	133	139	8	187	483	131	130	132		90
津山市	9	6	275	36	34	36	36	33	36	3	61	109	26	27	27		29
玉野市	13		134	17	17	17	16	17	17	3	30	51	12	14	13		12
笠岡市	9	6	112	14	14	15	14	13	13	7	22	46	11	13	11		11
井原市	29		99	12	12	10	10	12	12	9	22	40	10	10	9		11
総社市	56	13	186	26	25	25	23	23	23	5	36	70	19	19	18		14
高梁市	12	9	90	12	11	7	7	9	8	18	18	29	8	8	8		5
新見市		24	88	11	10	8	8	9	10	19	13	25	7	7	8		3
備前市		36	80	9	10	9	9	8	9	5	21	32	8	6	7		11
瀬戸内市	15		103	14	14	11	11	11	11	6	25	35	8	9	8		10
赤磐市	18		145	18	16	16	16	16	17	4	42	49	12	11	12		14
真庭市	1	32	129	16	18	15	15	15	15	18	17	44	11	11	13		9
美作市	5	16	70	9	9	7	7	7	7	5	19	31	7	7	8		9
浅口市	8	9	72	9	10	9	9	9	9	2	15	32	8	8	8		8
和气郡	12		34	4	4	4	4	5	3		10	12	3	3	3		3
都窪郡	6		36	5	4	4	4	5	4		10	15	4	4	4		3
浅口郡	4		31	4	4	4	4	4	4		7	11	3	3	3		2
小田郡		6	48	5	5	6	6	6	6	4	10	10	2	3	2		3
真庭郡			4	1	1					2		3	1	1	1		
苫田郡	3		46	7	5	6	6	6	6		10	15	3	4	4		4
勝田郡	4		40	5	6	5	5	5	5		9	20	5	5	4		6
英田郡	3		7	1	1	1	1	1	1		1	4	1	1	1		1
久米郡			57	7	7	7	7	7	7		15	18	4	4	4		6
加賀郡	2	3	52	6	7	5	4	5	5	10	10	9	2	2	2		3
国立	6		18	3	3	3	3	3	3			15	5	5	5		
私立	221	254	43	7	6	7	7	7	7	2		99	34	33	32		

2 高等学校学科数

(令和5年5月1日現在)

区 分	合 計			県 立		市 立		私 立	
	計	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制
計	181	167	14	126	1	3	13	38	
普 通 科	61	52	9	30	1		8	22	
農業に関する学科	農 業 科	1	1		1				
	生 物 生 産 科	3	3		3				
	食 農 生 産 科	1	1		1				
	農 業 科 学 科	1	1		1				
	園 芸 科 学 科	2	2		2				
	畜 産 科 学 科	1	1		1				
	農 業 土 木 科	1	1		1				
	食 品 科 学 科	2	2		2				
	農 業 機 械 科	1	1		1				
	造 園 デ ザ イン 科	1	1		1				
工業に関する学科	機 械 科	8	7	1	5		1	1	1
	電 子 機 械 科	3	3		3				
	自 動 車 科	2	2						2
	電 気 科	7	6	1	5			1	1
	電 気 情 報 科	1	1		1				
	情 報 技 術 科	2	2		2				
	建 築 科	3	3		3				
	設 備 シ ス テ ム 科	1	1		1				
	環 境 土 木 科	1	1		1				
	土 木 科	2	2		2				
	工 業 化 学 科	4	4		4				
	化 学 工 学 科	1	1		1				
	デ ザ イン 科	3	3		3				
	工 業 技 術 科	1	1		1				
	ロ ボ ッ ト 電 気 科	1	1		1				
テ キ ス タ イ ル 工 学 科	1	1		1					
E I エ ン ジ ニ ア 科	1	1						1	
商業に関する学科	商 業 科	8	6	2	4			2	2
	総 合 ビ ジ ネ ス 科	1	1		1				
	国 際 経 済 科	2	2		2				
	ビ ジ ネ ス 創 造 科	1	1		1				
	情 報 処 理 科	3	3		3				
	ビ ジ ネ ス 情 報 科	3	3		2		1		
	情 報 ビ ジ ネ ス 科	2	2		2				
	地 域 ビ ジ ネ ス 科	2	2		2				
	ビ ジ ネ ス 科	2	2		2				
	経 営 ビ ジ ネ ス 科	1	1		1				
I T ビ ジ ネ ス 科	1	1						1	

区 分	合 計			県 立		市 立		私 立	
	計	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制
家庭に関する学科	家 政 科	4	4		4				
	生活デザイン科	1	1		1				
	生活創造科	1	1		1				
	生活科学科	1	1					1	
	服飾デザイン科	1	1		1				
	被服デザイン科	1	1		1				
	食物調理科	1	1		1				
	調理科	1	1					1	
	製菓科	1	1					1	
看護	看護科	5	5		3			2	
情報	情報科	2	2		1			1	
福祉	福祉科	1	1		1				
その他の学科	理数科	4	4		4				
	体育科	1	1		1				
	国際情報科	1	1		1				
	キャリア探求科	1	1		1				
	生活ビジネス科	1	1		1				
	英語科	1	1					1	
	環境科学科	1	1		1				
総合学科	地域生活科	1	1		1				
	総合学科	6	5	1	3		1	1	1
	キャリアデザイン科	1	1		1				

3 中等教育学校

(令和5年5月1日現在)

区 分	中 等 教 育 学 校									
	計	単 式 学 級						複式学級	特別支援学級	
		1	2	3	4	5	6			
計	35	6	6	5	6	6	6			
県立	24	4	4	4	4	4	4			
私立	11	2	2	1	2	2	2			

4 義務教育学校

(令和5年5月1日現在)

区分	義 務 教 育 学 校											
	計	単 式 学 級									複式学級	特別支援学級
		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
計	33	2	3	3	3	3	2	3	3	3		8
市立	33	2	3	3	3	3	2	3	3	3		8

5 特別支援学級数、児童生徒数

(令和5年5月1日現在)

区 分	小 学 校		中 学 校		義務教育学校	
	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
計	1,073	5,725	409	2,096	8	28
知的障害	356	1,672	152	732	4	7
肢体不自由	2	4				
病弱・身体虚弱	5	10	5	17		
弱 視	1	2	1	2		
難 聴	4	16	3	8		
言語障害						
情緒障害	705	4,021	248	1,337	4	21

■第3節 教職員組織

1 職名別教員数

(1) 公立幼稚園

(令和5年5月1日現在)

区 分	合 計			本 務 者												兼 務 者													
				園長		副園長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		助教諭		講師		園長		教頭		主幹教諭		教諭		助教諭	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	759	58	701	26	94	2	9			1	5			10	45	3	1	37	17	12	1								59
岡山市	159	5	154	2	31									103		4		13	3	3									
倉敷市	184	22	162	18	19		1							3	117	1	24			1									
津山市	31	2	29		2	2				2				2	23														
玉野市	27		27		5									13		1		8											
笠岡市	28	4	24		1	2								21				2	2										
井原市	66	4	62	2	7									24				2	1										30
総社市	76	4	72	2	13		1							1	45			7	1										6
高梁市	23	3	20		2	1								14				3	3										
新見市																													
備前市																													
瀬戸内市	39		39		4									21															14
赤磐市	37	2	35		6	1			1	1				1	18			4											5
真庭市	3		3											2					1										
美作市	10		10											5				2	1										2
浅口市	14	3	11											1	10			2	1										
和気郡	23	1	22		3									1	17		2												
都窪郡	11	1	10		1					1				6			1	2											
浅口郡	8	2	6			2								4				2											
小田郡																													
真庭郡																													
苫田郡	4		4											1				1											2
勝田郡	6	2	4	1		1				1				2				1											
英田郡	6	1	5	1										5															
久米郡																													
加賀郡	4	2	2											1	2			1											

(2) 公立幼保連携型認定こども園

(令和5年5月1日現在)

区分	合計						本 務 者															
							園長		副園長		教 頭		主幹保育教諭		指導保育教諭		保育教諭		助保育教諭		主幹栄養教諭	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
計	1,237	35	1,202	1	63		42		7	3	64	3	123	24	546	1	114					7
岡山市	401	11	390		20		23			1	54	3	119	7	106		57					
倉敷市	190		190		8		8				1				93							
津山市	30		30		1		1				1		2		25							
玉野市																						
笠岡市	30		30		2				2		2				24							
井原市																						
総社市	44	1	43		2		2								28							7
高梁市	62	2	60		3		2			1	5				23	1	27					
新見市	90	3	87		8								2	3	41		30					
備前市	133	9	124	1	7		2							7	61							
瀬戸内市																						
赤磐市																						
真庭市	93	3	90		7									3	73							
美作市	91	2	89		3				5					2	26							
浅口市	27	1	26				2								11							
和气郡																						
都窪郡																						
浅口郡																						
小田郡	28		28		1		2								25							
真庭郡																						
苫田郡																						
勝田郡																						
英田郡																						
久米郡																						
加賀郡	18	3	15		1					1	1			2	10							

区分	兼 務 者																		
	園長		副園長		主幹保育教諭		指導保育教諭		保育教諭		助保育教諭		主幹栄養教諭		栄養教諭		講 師		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
計	1	1		7		4				91		1						2	132
岡山市				7		4													
倉敷市										7									73
津山市																			
玉野市																			
笠岡市																			
井原市																			
総社市																		1	4
高梁市																			
新見市										5		1							
備前市										54									1
瀬戸内市																			
赤磐市																			
真庭市										10									
美作市																			55
浅口市	1	1								12									
和气郡																			
都窪郡																			
浅口郡																			
小田郡																			
真庭郡																			
苫田郡																			
勝田郡																			
英田郡																			
久米郡																			
加賀郡										3									

(3) 公立小学校

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護 助教諭		栄養教諭		講師		市町村 教員		再掲
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書 教諭
計	7,416	2,690	4,726	247	117	17	11	239	139	60	31	28	88	1,723	3,105		353		77	1	90	357	686	18	29	231
岡山市	2,392	892	1,500	62	24	5	8	61	31	10	7	6	15	595	1,022		91		11		22	142	250	11	19	79
倉敷市	1,687	567	1,120	44	17	8	3	42	22	21	7	5	7	380	805		66		14		29	67	150			44
津山市	454	159	295	15	12	1		17	10	4	3		9	102	191		23		4		2	20	41			14
玉野市	232	80	152	8	6			8	7	1			3	53	95		14		2		3	10	22			18
笠岡市	199	75	124	10	4			10	2	1	2	1	2	43	77		12		3		3	10	19			3
井原市	182	68	114	11	2			7	6	1	2		9	35	62		13		1		3	13	16	1		2
総社市	316	113	203	11	4	1		6	10	2	2	5	3	80	130		15		6		2	8	31			13
高梁市	160	65	95	12	2			9	5			1	2	36	56		12		3		2	6	10	1	3	3
新見市	154	56	98	12	3			7	8	2			2	31	55		12		4		1	4	13			
備前市	148	53	95	5	5			6	5			2	3	30	55		8		2		3	10	14			9
瀬戸内市	164	69	95	6	3	1		5	4	2	1	1	3	45	63		9		2		1	9	9			7
赤磐市	227	86	141	8	4	1		10	2	5		1	6	52	88		11		3		4	7	23	2		8
真庭市	236	71	165	10	10			10	10	1			8	42	92		17		8		1	7	17	1	2	10
美作市	127	50	77	4	4			6	3	2			3	30	48		8				3	8	8			4
浅口市	132	43	89	4	3			4	3	3	2		5	25	53		7		1		1	7	14			5
和気郡	55	27	28	3				3		1			1	14	17		3		1			5	5	1	1	2
都窪郡	50	20	30		1			2		1				16	24		1		1		1	1	2			1
浅口郡	49	20	29	2				2			1		1	14	19		2		2		1	2	3			2
小田郡	89	33	56	2	5			4	3	1	2	2	1	20	30		7				1	4	7			2
真庭郡	8	3	5	1					1				1	2	1		1				1					
苫田郡	70	30	40	4	1			4	1			1		17	27		4		2			3	4	1	1	1
勝田郡	66	23	43	3				2	1	1		1		14	30		3		1		2	2	6			2
英田郡	11	5	6	1				1				1		2	3		1				1		1			
久米郡	100	32	68	2	5			5	2				2	22	35		6		2		1	3	12		3	1
加賀郡	108	50	58	7	2			8	3	1	2	1	2	23	27		7		4	1	2	9	9			1

(4) 公立中学校

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護助教諭		栄養教諭		講師		市町村費員		再掲
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書教諭
計	3,882	2,022	1,860	129	18	15	3	117	41	55	15	35	39	1,443	1,263	153	27	55	216	238	12	8	97			
岡山市	1,305	667	638	31	6	7	3	25	13	18	5	9	9	492	422	44	7	32	75	91	10	6	36			
倉敷市	918	457	461	21	5	5		21	7	6	5	7	7	348	339	29	2	6	49	61			20			
津山市	225	134	91	7	1	2		8	1	3	2	2	2	103	62	8	2	2	9	11			7			
玉野市	118	55	63	6	1			6	1	2		2		34	44	7	1		5	9			7			
笠岡市	120	67	53	8				6	2	1	1	1	2	44	32	6	3		7	7			2			
井原市	95	52	43	5				4	1	2		1	4	38	27	5			2	6			1			
総社市	146	72	74	4		1		4	2	2			3	49	54	4	3	1	12	7			3			
高梁市	84	42	42	5	1			5	1	3		1		27	25	6	1	1	1	6		1				
新見市	71	39	32	5				4	2	2	1			23	17	4	1	1	5	6						
備前市	74	40	34	5				3	2	2		1	1	24	22	5			1	5	3			4		
瀬戸内市	79	39	40	3				3		2		1	1	24	32	3			2	6	2			2		
赤磐市	108	57	51	4	1			4	1	2	1	1		38	36	5	1		8	6				3		
真庭市	106	65	41	6				7		2			1	45	28	6	1	3	5	2				3		
美作市	70	38	32	5				5	1	1		2		25	23	4	1			3				1		
浅口市	71	36	35	3				2	1	1		1	2	24	22	3			1	5	6			2		
和气郡	36	16	20	1	1			1	1				2	10	11	2			2	4	1			1		
都窪郡	31	16	15	1				1		1			1	10	12	1	1		3					1		
浅口郡	26	10	16	1					1	1			1	8	10	1				3				1		
小田郡	25	13	12	1				1		1		1	1	7	8	1	1		2	1				1		
真庭郡	9	7	2	1				1						5	1	1										
苫田郡	27	16	11	1					1	1				11	6	1			1	3	1			1	1	
勝田郡	43	26	17	2				1	1	1		1	1	17	10	1	1		4	3				1		
英田郡	14	7	7	1					1					5	3	1	1		1	1						
久米郡	47	28	19	2	1			3				1	1	17	10	3			2	3	2	2				
加賀郡	34	23	11		1			2	1	1		3	15	7	2				2							

(5) 公立高等学校 (全日制・定時制)

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護助教諭		栄養教諭		講師		実習助手		再掲	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書教諭	舎監
合計	計	3,046	1,968	1,078	51	9	33	3	49	13	37	5	63	27	1,420	757	77	24	1	126	113	189	49	61	332		
	全日制	2,830	1,835	995	45	7	29	3	41	11	36	5	62	27	1,325	694	72	23		110	104	187	49	52	332		
	定時制	216	133	83	6	2	4		8	2	1		1		95	63	5	1	1	16	9	2		9			
県立	計	2,789	1,813	976	45	6	29	3	42	10	34	5	63	27	1,307	681	72	23	1	108	102	185	47	51	332		
	全日制	2,744	1,787	957	44	6	29	3	40	10	34	5	62	27	1,289	667	70	22		105	100	184	47	50	332		
	定時制	45	26	19	1				2				1		18	14	2	1	1	3	2	1		1			
市立	計	256	155	101	6	3	4		7	3	3			113	76	5	1		18	11	4	2	10				
	全日制	86	48	38	1	1			1	1	2			36	27	2	1		5	4	3	2	2				
	定時制	170	107	63	5	2	4		6	2	1			77	49	3			13	7	1		8				

(6) 公立高等学校 (通信制)

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			教頭		主幹教諭		教諭		講師	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本務	19	12	7		1	1		11	6	1	
兼務	校内	5	1	4						1	4
	校外	8	6	2				6	2		

(7) 公立中等教育学校

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護助教諭		栄養教諭		講師		実習助手		再掲
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書教諭
計	65	40	25	1		1		1		1	1	3	2	31	17		2		1			2	1		1	2
県立	65	40	25	1		1		1		1	1	3	2	31	17		2		1			2	1		1	2

(8) 公立義務教育学校

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護助教諭		栄養教諭		講師		市町村費員		再掲
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書教諭
計	70	30	40	2		1	1	1	1		1	1		21	27		4				2	3	4	1		2
市立	70	30	40	2		1	1	1	1		1	1		21	27		4				2	3	4	1		2

(9) 公立特別支援学校

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			校長		副校長		教頭		主幹教諭		指導教諭		教諭		養護教諭		養護助教諭		栄養教諭		講師		寄宿舎指導員		再掲	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	司書教諭	舎監
計	1,300	437	863	10	5	9	5	31	18	11	5	5	15	279	612		24		5		10	56	131	36	43	22	134
県立	1,195	410	785	10	4	8	5	29	17	9	5	5	14	262	558		22		4		10	51	113	36	43	20	134
市立	105	27	78		1	1		2	1	2			1	17	54		2		1			5	18			2	

2 事務職員等設置状況

(1) 公立幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校

(令和5年5月1日現在)

区分	幼稚園		幼保連携型認定こども園		小学校				中学校			
	事務職員	その他の職員	事務職員	その他の職員	県費		市町村費		県費		市町村費	
					事務職員	栄養職員	事務職員	その他の職員	事務職員	栄養職員	事務職員	その他の職員
計	9	21	4	155	444	11	7	473	191	6	3	162
岡山市		1		39	127	2		174	53	1		25
倉敷市				10	77	3		49	37	1		27
津山市	2	2	1		29				12	1		1
玉野市		5			19	1	1	28	9			14
笠岡市				3	13		3	5	8		1	2
井原市					15			4	6			5
総社市	1	7		16	20	1		9	8			5
高梁市				11	16	1	1	16	5		1	4
新見市				18	14			11	5			8
備前市				8	11	1		21	5	1		10
瀬戸内市					11			10	3	1		3
赤磐市	2	4			14		1	12	8			5
真庭市				26	20	1		43	7	1		14
美作市		2	3	15	8			27	6			14
浅口市					10	1			3			
和气郡	3				3			9	2			8
都窪郡					2			2	2			5
浅口郡					2			7	2			5
小田郡				6	7				1		1	
真庭郡					1			3	1			
苫田郡					5			7	1			2
勝田郡					3			3	2			2
英田郡	1				1			3	1			
久米郡					7			13	3			2
加賀郡				3	9		1	17	1			1

(2) 公立高等学校(全日制・定時制)

(令和5年5月1日現在)

区分	事務職員数	技術職員数	その他の職員数	
合計	計	343	3	45
	全日制	319	3	39
	定時制	24		6
県立	計	320	1	36
	全日制	314	1	36
	定時制	6		
市立	計	23	2	9
	全日制	5	2	3
	定時制	18		6

(実習助手を除く)

(3) 公立高等学校（通信制） (令和5年5月1日現在)

区分	事務職員		その他の職員	
	男	女	男	女
県立	2	1		

(4) 公立中等教育学校 (令和5年5月1日現在)

区分	事務職員		その他の職員	
	男	女	男	女
県立	2	6	1	2

(5) 公立特別支援学校 (令和5年5月1日現在)

区分	事務職員		その他の職員	
	男	女	男	女
計	37	41	17	26
県立	36	39	17	25
市立	1	2		1

(寄宿舎指導員を除く)

(6) 公立義務教育学校 (令和5年5月1日現在)

区分	県費		市町村費	
	事務職員	栄養職員	事務職員	その他の職員
市立	4			9

3 学校医・同歯科医・同薬剤師の設置状況

(1) 公立小学校・中学校

(令和5年5月1日現在)

区分	小学校						中学校						義務教育学校					
	学校数			人数			学校数			人数			学校数			人数		
	校医	歯科医	薬剤師	校医	歯科医	薬剤師	校医	歯科医	薬剤師									
計	365	365	365	960	388	365	150	150	150	410	173	150	2	2	2	5	2	2
岡山市	87	87	87	265	87	87	38	38	38	114	38	38	1	1	1	3	1	1
倉敷市	61	61	61	207	61	61	27	27	27	93	27	27						
津山市	27	27	27	81	43	27	9	9	9	29	23	9						
玉野市	14	14	14	14	14	14	7	7	7	7	7	7						
笠岡市	14	14	14	43	14	14	8	8	8	24	8	8						
井原市	13	13	13	42	13	13	5	5	5	16	5	5						
総社市	15	15	15	47	15	15	4	4	4	14	4	4						
高梁市	14	14	14	40	18	14	6	6	6	20	8	6						
新見市	15	15	15	15	15	15	5	5	5	5	5	5						
備前市	10	10	10	27	12	10	5	5	5	13	6	5						
瀬戸内市	9	9	9	19	10	9	3	3	3	7	4	3						
赤磐市	12	12	12	36	12	12	5	5	5	15	5	5						
真庭市	20	20	20	40	20	20	6	6	6	12	7	6						
美作市	8	8	8	8	8	8	5	5	5	5	5	5						
浅口市	7	7	7	7	7	7	3	3	3	3	3	3						
和気郡	3	3	3	9	3	3	2	2	2	6	2	2						
都窪郡	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1						
浅口郡	2	2	2	6	2	2	1	1	1	3	1	1						
小田郡	7	7	7	7	7	7	1	1	1	2	2	1						
真庭郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
苫田郡	5	5	5	15	5	5	1	1	1	4	1	1						
勝田郡	3	3	3	8	3	3	2	2	2	8	2	2						
英田郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
久米郡	7	7	7	11	7	7	3	3	3	6	5	3	1	1	1	2	1	1
加賀郡	9	9	9	9	9	9	1	1	1	1	2	1						

(2) 公立特別支援学校

(令和5年5月1日現在)

区分	校医	歯科医	薬剤師
計	74	17	15
県立	69	16	14
市立	5	1	1

4 公立学校給食関係職員数

(令和5年5月1日現在)

区 分	小学校職員数	中学校職員数	義務教育学校職員数	区 分	小学校職員数	中学校職員数	義務教育学校職員数
計	192	19	6	真庭市	4	1	
				美作市			
岡山市	117	1	3	浅口市	1		
倉敷市	35	5		和气郡			
津山市		1		都窪郡	2	3	
玉野市	1			浅口郡	5	4	
笠岡市				小田郡			
井原市				真庭郡	2		
総社市	1			苫田郡			
高梁市	1			勝田郡	2	1	
新見市	1	1		英田郡	3		
備前市	1	1		久米郡	7		3
瀬戸内市		1		加賀郡	9		
赤磐市							

■第4節 幼児・児童・生徒数

1 幼稚園園児数

(令和5年5月1日現在)

区 分	合 計			3 歳 児		4 歳 児		5 歳 児	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女
計	9,934	4,968	4,966	1,357	1,394	1,660	1,655	1,951	1,917
岡山市	1,186	586	600	110	120	193	216	283	264
倉敷市	1,957	998	959	251	240	344	321	403	398
津山市	139	78	61	20	15	28	28	30	18
玉野市	130	67	63	14	20	18	23	35	20
笠岡市	35	20	15	7	4	3	5	10	6
井原市	180	85	95	27	29	20	33	38	33
総社市	731	367	364	137	139	116	101	114	124
高梁市	83	45	38	6	6	20	16	19	16
新見市									
備前市									
瀬戸内市	175	104	71	22	23	46	15	36	33
赤磐市	251	125	126	34	36	37	46	54	44
真庭市	2	2						2	
美作市	14	6	8	3	1	2	4	1	3
浅口市	94	52	42	17	13	18	12	17	17
和气郡	52	25	27	8	6	6	8	11	13
都窪郡	130	60	70	19	17	21	31	20	22
浅口郡	73	40	33			11	13	29	20
小田郡									
真庭郡									
苫田郡	7	2	5	2	2		2		1
勝田郡	101	51	50			19	24	32	26
英田郡	25	14	11	2	1	7	5	5	5
久米郡									
加賀郡	8	3	5	1	1		2	2	2
国立	127	71	56	24	20	24	13	23	23
私立	4,434	2,167	2,267	653	701	727	737	787	829

2 幼保連携型認定こども園園児数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	15,202	7,795	7,407	296	259	902	859	1,041	943	1,752	1,691	1,871	1,797	1,933	1,858
岡山市	3,083	1,619	1,464	54	53	142	127	169	142	375	329	443	380	436	433
倉敷市	913	470	443	6	1	29	30	35	43	135	100	136	148	129	121
津山市	147	61	86	4	3	9	8	11	13	10	17	16	22	11	23
玉野市															
笠岡市	135	68	67	3		5	2	6	9	14	22	16	18	24	16
井原市															
総社市	390	205	185	2	2	20	22	17	21	55	44	53	44	58	52
高梁市	194	100	94		3	18	15	18	12	21	12	25	29	18	23
新見市	365	189	176	3	2	22	19	23	23	40	44	56	46	45	42
備前市	634	322	312	7	6	29	49	42	48	67	62	79	76	98	71
瀬戸内市															
赤磐市															
真庭市	605	314	291	3	3	38	37	46	39	64	58	71	72	92	82
美作市	415	198	217	8	4	23	28	34	32	38	53	43	48	52	52
浅口市	184	91	93	3	2	3	9	7	11	21	15	26	26	31	30
和气郡															
都窪郡															
浅口郡															
小田郡	192	99	93	6	2	11	13	15	12	16	22	19	23	32	21
真庭郡															
苫田郡															
勝田郡															
英田郡															
久米郡															
加賀郡	84	41	43	1	5	4	7	5	4	12	8	11	8	8	11
国立															
私立	7,861	4,018	3,843	196	173	549	493	613	534	884	905	877	857	899	881

3 小学校児童数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	94,614	48,475	46,139	7,588	7,402	7,941	7,493	8,118	7,708	8,123	7,745	8,234	7,901	8,471	7,890
岡山市	35,180	18,155	17,025	2,823	2,661	2,981	2,837	3,081	2,793	3,093	2,870	3,072	2,922	3,105	2,942
倉敷市	25,835	13,044	12,791	2,029	2,114	2,114	2,069	2,178	2,114	2,218	2,191	2,133	2,135	2,372	2,168
津山市	4,944	2,523	2,421	396	378	393	413	419	410	390	416	466	400	459	404
玉野市	2,279	1,188	1,091	193	165	213	189	188	196	197	173	213	182	184	186
笠岡市	1,856	950	906	140	136	150	126	162	157	165	159	161	171	172	157
井原市	1,511	767	744	125	119	124	100	118	112	132	125	130	137	138	151
総社市	4,005	2,090	1,915	347	314	331	300	343	341	346	315	357	288	366	357
高梁市	1,017	505	512	75	91	82	76	79	90	87	76	102	94	80	85
新見市	1,037	548	489	77	80	85	76	91	79	88	90	104	81	103	83
備前市	1,187	586	601	92	87	95	99	99	103	102	104	88	106	110	102
瀬戸内市	1,745	919	826	137	149	160	129	160	126	152	125	148	147	162	150
赤磐市	2,469	1,287	1,182	217	209	214	195	195	211	219	192	227	196	215	179
真庭市	1,986	999	987	149	164	169	160	172	189	166	149	173	184	170	141
美作市	1,091	553	538	99	87	87	83	96	95	83	91	99	87	89	95
浅口市	1,409	717	692	110	96	126	112	121	112	114	97	124	138	122	137
和気郡	527	291	236	54	30	44	35	55	37	42	38	47	52	49	44
都窪郡	865	463	402	69	87	85	57	77	71	76	63	82	72	74	52
浅口郡	664	347	317	70	42	56	42	60	61	44	60	61	68	56	44
小田郡	586	293	293	47	46	43	55	41	51	52	43	54	48	56	50
真庭郡	33	11	22	3	1	2	3	1	3	1	7	1	4	3	4
苫田郡	622	358	264	64	40	49	38	54	49	73	53	67	41	51	43
勝田郡	924	471	453	64	74	91	69	70	78	72	68	87	91	87	73
英田郡	70	39	31	7	5	3	4	7	3	3	10	8	4	11	5
久米郡	633	332	301	46	39	63	52	65	55	42	48	54	61	62	46
加賀郡	430	213	217	29	35	40	28	45	30	28	44	43	38	28	42
国立	606	302	304	52	53	53	51	50	53	49	47	49	51	49	49
私立	1,103	524	579	74	100	88	95	91	89	89	91	84	103	98	101

4 中学校生徒数

(令和5年5月1日現在)

区 分	合 計			1 年		2 年		3 年	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女
計	49,563	25,331	24,232	8,407	8,090	8,384	8,016	8,540	8,126
岡 山 市	17,241	8,775	8,466	2,917	2,859	2,886	2,790	2,972	2,817
倉 敷 市	13,107	6,770	6,337	2,284	2,085	2,181	2,125	2,305	2,127
津 山 市	2,688	1,412	1,276	445	439	460	411	507	426
玉 野 市	1,152	610	542	195	172	199	193	216	177
笠 岡 市	1,001	504	497	166	154	171	180	167	163
井 原 市	858	428	430	143	131	159	129	126	170
総 社 市	1,949	988	961	326	327	328	314	334	320
高 梁 市	539	272	267	80	92	105	90	87	85
新 見 市	574	311	263	94	85	113	83	104	95
備 前 市	603	318	285	117	106	101	74	100	105
瀬 戸 内 市	892	496	396	170	137	186	145	140	114
赤 磐 市	1,143	574	569	203	204	172	176	199	189
真 庭 市	1,063	540	523	182	163	172	171	186	189
美 作 市	538	283	255	79	75	92	89	112	91
浅 口 市	764	402	362	131	129	138	118	133	115
和 気 郡	262	126	136	38	45	40	48	48	43
都 窪 郡	378	201	177	63	52	79	67	59	58
浅 口 郡	308	174	134	58	42	65	52	51	40
小 田 郡	239	121	118	37	40	46	47	38	31
真 庭 郡	18	10	8	2	3	3	2	5	3
苦 田 郡	321	161	160	47	44	58	67	56	49
勝 田 郡	446	240	206	79	80	79	58	82	68
英 田 郡	42	12	30	5	12	6	13	1	5
久 米 郡	345	161	184	57	63	50	58	54	63
加 賀 郡	200	104	96	49	30	28	28	27	38
国 立	536	281	255	96	84	95	84	90	87
私 立	2,356	1,057	1,299	344	437	372	404	341	458

5 義務教育学校児童生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			1年		2年		3年		4年		5年		6年		7年		8年		9年	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	501	256	245	15	19	33	21	31	29	30	25	28	27	35	21	26	33	38	27	20	43
岡山市	398	202	196	12	17	28	17	21	23	23	16	25	24	25	16	26	25	26	22	16	36
倉敷市																					
津山市																					
玉野市																					
笠岡市																					
井原市																					
総社市																					
高梁市																					
新見市																					
備前市																					
瀬戸内市																					
赤磐市																					
真庭市																					
美作市																					
浅口市																					
和気郡																					
都窪郡																					
浅口郡																					
小田郡																					
真庭郡																					
苫田郡																					
勝田郡																					
英田郡																					
久米郡	103	54	49	3	2	5	4	10	6	7	9	3	3	10	5		8	12	5	4	7
加賀郡																					
国立																					
私立																					

6 高等学校生徒数

(1) 学年別生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計				全日制				定時制					
	計	県立	市立	私立	計	県立	市立	私立	計	県立	市立	私立		
合計	計	47,865	30,769	1,525	15,571	46,728	30,413	744	15,571	1,137	356	781		
	男	24,832	15,643	778	8,411	24,228	15,487	330	8,411	604	156	448		
	女	23,033	15,126	747	7,160	22,500	14,926	414	7,160	533	200	333		
本科	合計	計	47,556	30,597	1,525	15,434	46,419	30,241	744	15,434	1,137	356	781	
		男	24,819	15,637	778	8,404	24,215	15,481	330	8,404	604	156	448	
		女	22,737	14,960	747	7,030	22,204	14,760	414	7,030	533	200	333	
	1年	男	8,587	5,352	255	2,980	8,385	5,293	112	2,980	202	59	143	
		女	7,823	5,081	268	2,474	7,618	4,999	145	2,474	205	82	123	
	2年	男	8,221	5,165	233	2,823	8,040	5,116	101	2,823	181	49	132	
		女	7,644	5,022	240	2,382	7,503	4,964	157	2,382	141	58	83	
	3年	男	7,947	5,107	239	2,601	7,790	5,072	117	2,601	157	35	122	
		女	7,223	4,842	207	2,174	7,083	4,797	112	2,174	140	45	95	
	4年	男	64	13	51						64	13	51	
		女	47	15	32						47	15	32	
	専攻科	男	13	6		7	13	6		7				
女		296	166		130	296	166		130					

(2) 学科別生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計									県立		市立		私立	
	計			全日制			定時制			全日制	定時制	全日制	定時制		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女						
計	47,556	24,819	22,737	46,419	24,215	22,204	1,137	604	533	30,241	356	744	781	15,434	
普通科	29,115	14,472	14,643	28,309	14,076	14,233	806	396	410	15,517	356		450	12,792	
農業に関する学科	農業科	119	73	46	119	73	46			119					
	生物生産科	166	96	70	166	96	70			166					
	食農生産科	72	41	31	72	41	31			72					
	農業科学科	94	62	32	94	62	32			94					
	園芸科学科	297	121	176	297	121	176			297					
	畜産科学科	112	38	74	112	38	74			112					
	農業土木科	97	93	4	97	93	4			97					
	食品科学科	138	44	94	138	44	94			138					
	農業機械科	115	115		115	115				115					
工業に関する学科	造園デザイン科	117	68	49	117	68	49			117					
	機械科	1,318	1,291	27	1,281	1,255	26	37	36	1,100		80	37	101	
	電子機械科	573	561	12	573	561	12			573					
	自動車科	197	195	2	197	195	2							197	
	電気科	920	897	23	894	873	21	26	24	788			26	106	
	電気情報科	81	78	3	81	78	3			81					
	情報技術科	239	216	23	239	216	23			239					
建築科	350	256	94	350	256	94			350						
設備システム科	120	91	29	120	91	29			120						

区 分	合 計									県 立		市 立		私 立			
	計			全 日 制			定 時 制			全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女								
工業に関する学科	環境土木科	98	90	8	98	90	8				98						
	土木科	210	197	13	210	197	13				210						
	工業化学科	456	399	57	456	399	57				456						
	化学工学科	113	88	25	113	88	25				113						
	デザイン科	330	52	278	330	52	278				330						
	工業技術科	83	83		83	83					83						
	ロボット電気科		107		108	107	1				108						
	テキスタイル工学科				117	6	111				117						
	E Iエンジニア科				117	117									117		
商業に関する学科	商業科	1,641	659	982	1,568	624	944	73	35	38	1,160			73	408		
	総合ビジネス科	10		10	10		10				10						
	国際経済科	231	61	170	231	61	170				231						
	ビジネス創造科	722	267	455	722	267	455				722						
	情報処理科	507	271	236	507	271	236				507						
	ビジネス情報科	925	395	530	925	395	530				702	223					
	情報ビジネス科	464	237	227	464	237	227				464						
	地域ビジネス科	345	121	224	345	121	224				345						
	ビジネス科	188	95	93	188	95	93				188						
	経営ビジネス科				54	35	19				54						
	ITビジネス科				283	283									283		
家庭に関する学科	家政科	425	3	422	425	3	422				425						
	生活科学科	206	15	191	206	15	191								206		
	生活デザイン科	103	3	100	103	3	100				103						
	生活創造科	238	1	237	238	1	237				238						
	服飾デザイン科	114	1	113	114	1	113				114						
	被服デザイン科	117	1	116	117	1	116				117						
	食物調理科	119	30	89	119	30	89				119						
	調理科	138	75	63	138	75	63								138		
	製菓科	122	13	109	122	13	109								122		
看護情報	看護科	472	22	450	472	22	450				281				191		
	情報科	224	170	54	224	170	54				115				109		
福祉	福祉科	102	5	97	102	5	97				102						
	理数科	588	401	187	588	401	187				588						
その他の学科	英語科	69	27	42	69	27	42								69		
	体育科	239	188	51	239	188	51				239						
	国際情報科	121	35	86	121	35	86				121						
	キャリア探求科	100	46	54	100	46	54				100						
	生活ビジネス科				225	86	139				225						
	環境科学科	116	39	77	116	39	77				116						
	地域生活科	118	35	83	118	35	83				118						
	総合学科	総合学科	2,144	1,138	1,006	1,949	1,025	924	195	113	82	913		441	195	595	
		キャリアデザイン科	214	114	100	214	114	100				214					

(3) 通信制生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			当校の通信制生徒		当校又は他校の定時制からの併修者		他校の通信制からの併修者		特科生	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
公立	1,066	489	577	489	577						
私立	5,120	2,285	2,835	2,285	2,835						

7 中等教育学校生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	合計			1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計	1,111	581	530	101	86	96	96	93	90	101	86	103	82	87	90
県立	935	456	479	81	79	76	85	73	86	77	80	73	76	76	73
私立	176	125	51	20	7	20	11	20	4	24	6	30	6	11	17

8 公立特別支援学校幼児・児童・生徒数

(令和5年5月1日現在)

区分	特別支援学校					
	幼児・児童・生徒数		学級数			
	男	女				
合計	1,549	711	467			
幼稚部	計	4	1	3		
	3歳	1		1		
	4歳	1		1		
	5歳	2	1	1		
小学部	計	562	235	184		
	1年	112	40	38		
	2年	92	32	26		
	3年	93	32	27		
	4年	85	42	30		
	5年	94	40	29		
中学部	計	307	148	115		
	1年	108	50	41		
	2年	97	52	38		
高等部	本科	1年	221	96	52	
		2年	221	115	53	
		3年	231	113	56	
	専攻科	1年		1	1	
		2年	2	1	2	
		3年	1	1	1	

(注) }の数字は複式学級数で外書

■第5節 就学状況

1 就学免除・猶予者数

(令和6年5月1日学校基本統計)

区 分		計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計	12歳	13歳	14歳
就学免除者	計	計	1			1			1		1	
		男										
		女	1			1			1		1	
	肢体不自由	男										
		女										
	病弱・ 発育不完全	男										
		女										
	知的障害	男										
		女										
	児童自立支援施設 又は少年院にいるため	男										
女												
そ の 他	男											
	女	1				1			1		1	
就学猶予者	計	計										
		男										
		女										
	盲	男										
		女										
	弱 視	男										
		女										
	聾	男										
		女										
	難 聴	男										
		女										
	肢体不自由	男										
		女										
	病弱・ 発育不完全	男										
		女										
	知的障害	男										
女												
児童自立支援施設 又は少年院にいるため	男											
	女											
そ の 他	男											
	女											

第6節 卒業者の進路

1 中学校、高等学校、中等教育学校卒業者等の進路状況

(1) 国・公立中学校・高等学校・中等教育学校

(令和6年3月卒業者)

区 分	卒業者		高等学校・大学等進学者(A)		専修学校進学者(B)		専修学校等入学者(C)		公共職業能力開発施設等入学者(D)		就職者(E)		
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	
中 学 校	15,695	100.0	15,479	98.6	19	0.1	1	0.0	7	0.0	18	0.1	
合 計	10,294	100.0	5,709	55.5	1,704	16.6	226	2.2	68	0.7	2,233	21.7	
高 等 学 校	計	10,017	100.0	5,687	56.8	1,662	16.6	221	2.2	61	0.6	2,092	20.9
	普 通	5,092	100.0	4,134	81.2	444	8.7	205	4.0	23	0.5	108	2.1
	農 業	425	100.0	64	15.1	150	35.3	1	0.2	3	0.7	197	46.4
	工 業	1,584	100.0	264	16.7	220	13.9	1	0.1	29	1.8	1,053	66.5
	商 業	1,497	100.0	573	38.3	451	30.1					459	30.7
	家 庭	357	100.0	131	36.7	147	41.2					70	19.6
	看 護	85	100.0	83	97.6							1	1.2
	情 報	40	100.0	21	52.5	15	37.5			3	7.5	1	2.5
	福 祉	39	100.0	7	17.9	19	48.7					10	25.6
	そ の 他	449	100.0	291	64.8	67	14.9	10	2.2			64	14.3
	総 合 学 科	449	100.0	119	26.5	149	33.2	4	0.9	3	0.7	129	28.7
	計	277	100.0	22	7.9	42	15.2	5	1.8	7	2.5	141	50.9
	普 通	189	100.0	22	11.6	28	14.8	5	2.6	3	1.6	87	46.0
	工 業	13	100.0			2	15.4			3	23.1	7	53.8
	商 業	13	100.0			3	23.1					7	53.8
	総 合 学 科	62	100.0			9	14.5			1	1.6	40	64.5
中等教育学校(前期)	159	100.0	159	100.0									
中等教育学校(後期)	149	100.0	123	82.6			24	16.1					

区 分	(A)～(E)以外の者		死亡・不詳		A, B, C, Dのうち就職している者(再掲)	
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)
中 学 校	171	1.1				
合 計	354	3.4				
高 等 学 校	計	294	2.9			
	普 通	178	3.5			—
	農 業	10	2.4			—
	工 業	17	1.1			—
	商 業	14	0.9			—
	家 庭	9	2.5			—
	看 護	1	1.2			—
	情 報					—
	福 祉	3	7.7			—
	そ の 他	17	3.8			—
	総 合 学 科	45	10.0			—
	計	60	21.7			
	普 通	44	23.3			
	工 業	1	7.7			
	商 業	3	23.1			
	総 合 学 科	12	19.4			
中等教育学校(前期)						
中等教育学校(後期)	2	1.3				

- (注) 1. 高等学校・大学等進学者は就職して進学した者を含む。
 2. 専修学校進学者は、専修学校の高等課程(中学校の場合)または専門課程(高等学校の場合)に進学した者であり、就職して進学した者を含む。
 3. 専修学校等入学者は、専修学校(一般課程または高等課程)、各種学校に入学した者であり、就職して入学した者を含む。
 4. 公共職業能力開発施設等入学者は、就職して入学(所)した者を含む。

(2) 私立中学校・高等学校・中等教育学校

(令和6年3月卒業者)

区 分	卒業者		高等学校・大学等進学者(A)		専修学校進学者(B)		専修学校等入学者(C)		公共職業能力開発施設等入学者(D)		就職者(E)	
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)
中 学 校	796	100.0	793	99.6	1	0.1						
全日制高等学校	4,728	100.0	2,837	60.0	765	16.2	177	3.7	12	727.0	762	16.1
中等教育学校(前期)	21	100.0	20	95.2								
中等教育学校(後期)	28	100.0	28	100.0								

区 分	(A)～(E)以外の者		死亡・不詳		A, B, C, Dのうち就職している者(再掲)	
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)
中 学 校	2	0.3				
全日制高等学校	175	3.7				
中等教育学校(前期)	1	4.8				
中等教育学校(後期)						

2 中学校卒業生・中等教育学校前期課程修了者のうち進学者の内訳**(1) 国・公立中学校・中等教育学校**

(令和6年3月卒業者)

区 分		進学者総数	男	女
合 計		15,638	8,071	7,567
高等学校本科	全 日 制	13,919	7,223	6,696
	定 時 制	381	186	195
	通 信 制	800	331	469
中等教育学校後期課程別科				
中等教育学校後期課程本科全日制		160	73	87
中等教育学校後期課程本科定時制				
高 等 専 門 学 校		195	151	44
特別支援学校高等部本科		183	107	76

(2) 私立中学校・中等教育学校

区 分		進学者総数	男	女
合 計		813	356	457
高等学校本科	全 日 制	778	335	443
	定 時 制			
	通 信 制	11	2	9
中等教育学校後期課程本科全日制		18	15	3
高 等 専 門 学 校		6	4	2
特別支援学校高等部本科				

3 高等学校・中等教育学校後期課程卒業者のうち進学者の内訳

(1) 公立高等学校・公立中等教育学校後期課程

(令和6年3月卒業者)

区 分	大学等 進学者総数		大学学部		短期大学本科		大学・短期大学の 通信教育部		大学・短期 大学の別科		高等学校の 専攻科		特別支援学校 高等部専攻科		
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	
合 計	計	5,709	100.0	5,306	92.9	318	5.6					85	1.5		
	男	2,839	100.0	2,817	99.2	19	0.7					3	0.1		
	女	2,870	100.0	2,489	86.7	299	10.4					82	2.9		
全日制	計	5,687	100.0	5,289	93.0	313	5.5					85	1.5		
	男	2,828	100.0	2,806	99.2	19	0.7					3	0.1		
	女	2,859	100.0	2,483	86.8	294	10.3					82	2.9		
定時制	計	22	100.0	17	77.3	5	22.7								
	男	11	100.0	11	100.0										
	女	11	100.0	6	54.5	5	45.5								
中等教育 学校(後期)	計	123	100.0	123	100.0										
	男	59	100.0	59	100.0										
	女	64	100.0	64	100.0										

(2) 私立高等学校・私立中等教育学校後期課程

区 分	大学等 進学者総数		大学学部		短期大学本科		大学・短期大学の 通信教育部		大学・短期 大学の別科		高等学校の 専攻科		特別支援学校 高等部専攻科	
	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)	人員	比率(%)
全 日 制	2,837	100.0	2,581	91.0	181	6.4	9	0.3	1	0.0	65	2.3		
中 等 教 育 学 校(後 期)	28	100.0	28	100.0										

4 中学校卒業者のうち産業別就職者とその割合

(令和6年3月卒業者)

区 分	総 数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	左記以外のもの	
計	人 員	18	2	7	8	1
	比 率(%)	100.0	11.1	38.9	44.4	5.6
県 内	12	1	6	5		
県 外	6	1	1	3	1	

(注) 対象人員は、国立・公立・私立の合計で、就職者のうち自営業主等及び無期雇用労働者+就職して高等学校等へ進学した者+就職して専修学校(高等課程)へ進学した者+就職して専修学校(一般課程)等へ入学した者+就職して公共職業能力開発施設等へ入学した者+有期雇用のうちフルタイム勤務に相当する者の数である。

5 高等学校卒業者のうち産業別就職者数とその割合

(令和6年3月卒業者)

区分	総数	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱 供給・水道業	情報 通信業	運輸業、 郵便業	卸売業、 小売業	金融業、 保険業	
計	人員	2,976	10	2	7	255	1,417	44	19	160	314	35
	比率(%)	100.0	0.3	0.1	0.2	8.6	47.6	1.5	0.6	5.4	10.6	1.2
全日制	人員	2,831	9	2	7	239	1,376	43	19	144	293	35
	比率(%)	100.0	0.3	0.1	0.2	8.4	48.6	1.5	0.7	5.1	10.3	1.2
定時制	人員	145	1			16	41	1		16	21	
	比率(%)	100.0	0.7			11.0	28.3	0.7		11.0	14.5	

区分	不動産業、 物品賃貸業	学術研究、 専門・技術 サービス業	宿泊業、飲食 サービス業	生活関連 サービス業、 娯楽業	教育、学習 支援業	医療、福祉	複合サービス 事業	サービス業 (他に分類さ れないもの)	公務 (他に分類さ れないもの)	左記以外の もの	
計	人員	12	44	136	100	7	97	51	92	154	20
	比率(%)	0.4	1.5	4.6	3.4	0.2	3.3	1.7	3.1	5.2	0.7
全日制	人員	11	40	122	91	7	84	50	87	153	19
	比率(%)	0.4	1.4	4.3	3.2	0.2	3.0	1.8	3.1	5.4	0.7
定時制	人員	1	4	14	9		13	1	5	1	1
	比率(%)	0.7	2.8	9.7	6.2		9.0	0.7	3.4	0.7	0.7

(注) 1. 産業分類は、日本標準産業分類による。

2. 対象人員は、国立・公立・私立の合計で、就職者のうち自営業主等及び無期雇用労働者＋就職して高等学校等へ進学した者＋就職して専修学校（高等課程）へ進学した者＋就職して専修学校（一般課程）等へ入学した者＋就職して公共職業能力開発施設等へ入学した者＋有期雇用のうちフルタイム勤務に相当する者の数である。

6 高等学校卒業者のうち職業別就職者とその割合

(令和6年3月卒業者)

区分	総数	専門的・ 技術的・ 職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス 職業従事者	保安職業 従事者	農林・漁業 従事者	生産工程 従事者	輸送・機械 運転従事者	建設・採掘 従事者	運搬・清掃 等従事者	左記以外の もの	
計	人員	2,970	298	305	232	273	72	24	1,349	103	151	57	106
	比率(%)	100.0	10.0	10.3	7.8	9.2	2.4	0.8	45.4	3.5	5.1	1.9	3.6
全日制	人員	2,831	298	299	219	246	72	23	1,292	98	140	45	99
	比率(%)	100.0	10.5	10.6	7.7	8.7	2.5	0.8	45.6	3.5	4.9	1.6	3.5
定時制	人員	139		6	13	27		1	57	5	11	12	7
	比率(%)	100.0		4.3	9.4	19.4		0.7	41.0	3.6	7.9	8.6	5.0

(注) 対象人員は、公立・私立の合計で、就職者のうち自営業主等及び無期雇用労働者＋就職して大学等へ進学した者＋就職して専修学校（専門課程）へ進学した者＋就職して専修学校（一般課程）等へ入学した者＋就職して公共職業能力開発施設等へ入学した者＋有期雇用のうちフルタイム勤務に相当する者の数である。

■第7節 児童・生徒の健康状態

1 児童・生徒の発育状況

年齢別身長・体重の県平均値

(令和4年度)

区 分		身長 (cm)	体重 (kg)	
男	幼稚園	5歳	110.6	19.1
		6歳	116.6	21.9
	小学校	7歳	122.7	24.6
		8歳	128.5	27.9
		9歳	133.6	31.4
		10歳	139.2	36.0
		11歳	146.3	40.1
	中学校	12歳	153.4	45.3
		13歳	160.4	49.9
		14歳	165.0	53.9
	高等学校	15歳	167.8	58.5
		16歳	169.6	60.8
		17歳	170.1	61.3
女	幼稚園	5歳	110.4	18.9
		6歳	115.2	21.1
	小学校	7歳	122.1	24.1
		8歳	127.7	27.0
		9歳	133.4	30.2
		10歳	140.8	34.7
		11歳	146.9	39.7
	中学校	12歳	152.3	44.9
		13歳	154.2	47.3
		14歳	155.7	49.7
	高等学校	15歳	156.8	50.2
		16歳	157.3	52.4
		17歳	157.8	52.6

(注) 年齢は、令和4年4月1日現在の満年齢。
令和4年度学校保健統計調査（文部科学省の抽出調査）結果による。

2 児童・生徒の疾病状況

学校種別疾病・異常被患率等

(単位：%)

区分	裸眼視力 1.0未満	眼の 疾病・異常	難 聴	耳 鼻 咽 頭			歯 ・ 口 腔						栄 養 状 態
				耳 疾 患	疾 鼻 ・ 副 鼻 腔 患	疾 口 腔 咽 喉 頭 患 ・ 異 常	む し 歯	歯 列 ・ 咬 合	顎 関 節	歯 垢 の 状 態	歯 肉 の 状 態	疾 病 ・ 異 常 の 其 他 の	
幼稚園	22.6	5.5	…	3.9	13.7	0.7	22.7	7.5	0.2	4.4	1.9	2.4	0.9
小学校	37.2	5.3	0.4	8.5	18.1	2.9	36.4	3.1	0.0	2.9	2.0	7.5	2.5
中学校	62.1	6.1	0.2	6.0	11.1	1.0	23.9	4.0	0.0	4.2	4.5	3.3	2.2
高等学校	76.2	12.9	0.3	1.4	7.8	0.6	33.7	3.0	0.2	3.8	4.3	2.4	0.3

区分	四 せ ぎ 柱 の 状 態 ・ 胸 郭 ・	皮膚疾患		の 結 核 の 精 密 検 査 対 象 者	結 核	疾 心 病 ・ 臓 異 常 の	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	尿 糖 検 出 の 者	その他の疾病・異常			
		性 ア 皮 ト 膚 ピ 炎	皮 そ 膚 の 疾 患 の							ぜ ん 息	腎 臓 疾 患	言 語 障 害	疾 病 ・ 異 常 の
幼稚園	0.2	2.1	0.3	…	…	0.2	…	0.9	…	1.5	—	1.0	6.2
小学校	0.5	3.2	0.5	0.1	0.0	0.9	3.3	0.9	0.1	3.0	0.2	0.4	7.7
中学校	0.8	2.6	0.1	0.0	0.0	0.9	5.7	3.9	0.2	2.2	0.3	0.1	7.9
高等学校	0.7	4.3	0.1	…	0.0	1.0	3.0	2.9	0.2	2.3	0.3	0.1	8.9

(注) 令和4年度学校保健統計調査(文部科学省の抽出調査)結果による。

「—」: 該当者がいない場合

「0.0」: 計数が単位未満の場合

「…」: 調査対象とならなかった場合

3 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

調査対象：小学校第5学年、中学校第2学年、特別支援学校小学部第5学年、中学部第2学年

【総合評価】

		小学校		中学校	
		男子	女子	男子	女子
A 段階	全 国	10.4%	13.3%	8.6%	23.8%
	岡山県	12.6%	15.1%	11.2%	26.8%
B 段階	全 国	21.8%	23.9%	24.1%	29.1%
	岡山県	21.4%	23.0%	23.4%	28.1%
C 段階	全 国	32.1%	33.5%	34.6%	28.1%
	岡山県	31.6%	32.6%	32.7%	25.8%
D 段階	全 国	23.2%	21.3%	23.6%	15.2%
	岡山県	21.5%	21.2%	23.2%	14.6%
E 段階	全 国	12.6%	8.0%	9.1%	3.9%
	岡山県	13.0%	8.1%	9.5%	4.7%

【種目別結果】

		小学校		中学校	
		男子	女子	男子	女子
握力(kg)	全 国	16.13	16.01	29.02	23.15
	岡山県	15.68	15.57	29.19	23.51
上体起こし(回)	全 国	19.00	18.05	25.82	21.62
	岡山県	19.21	18.10	24.86	21.03
長座体前屈(cm)	全 国	33.98	38.45	44.16	46.27
	岡山県	32.92	36.91	44.59	46.98
反復横とび(点)	全 国	40.60	38.73	51.22	45.65
	岡山県	42.01	39.92	51.49	45.76
20mシャトルラン(回)	全 国	46.92	36.80	78.07	50.70
	岡山県	47.05	36.63	76.07	48.95
50m走(秒)	全 国	9.48	9.71	8.01	8.95
	岡山県	9.41	9.64	7.90	8.86
立ち幅とび(cm)	全 国	151.13	144.29	197.02	166.34
	岡山県	153.56	146.99	197.90	167.07
ボール投げ(m)	全 国	20.52	13.22	20.40	12.43
	岡山県	20.46	13.35	20.89	12.71
体力合計点	全 国	52.59	54.28	41.32	47.22
	岡山県	52.95	54.47	41.67	47.65



第6章 学校教育振興施策

- 
- 
- 第1節 学校の設置・廃止 (141～143)
 - 第2節 特別支援学級の設置 (143)
 - 第3節 高等学校入学者選抜 (143～173)
 - 第4節 高等学校教育体制の整備 (174～175)
 - 第5節 学校運営の改善 (175～176)
 - 第6節 高等学校卒業程度認定試験 (176～177)
 - 第7節 技能教育施設の指定 (177)
 - 第8節 施設・設備の概要 (177～181)
 - 第9節 教職員の人事管理 (182～205)
 - 第10節 就学奨励 (205～214)
 - 第11節 教育指導 (215～260)

第6章 学校教育振興施策

■第1節 学校の設置・廃止

1 幼稚園

県下の公立幼稚園で、令和5年度中に27園の廃止及び1園の設置の届出があり、令和6年4月1日現在の県下の公立幼稚園の数は、本園142園である。

設置・廃止等 年 月 日	幼 稚 園 名	備考
R6. 3.31	岡山市立政田幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立開成幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立浦安幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立芳泉幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立大元幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立西大寺南幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立豊幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立財田幼稚園	※廃止
R6. 3.31	岡山市立平津幼稚園	廃止
R6. 3.31	玉野市立和田幼稚園	廃止
R5.10. 1	笠岡市立今井幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立笠岡幼稚園	※廃止
R6. 3.31	笠岡市立金浦幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立陶山幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立大井幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立尾坂幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立横江幼稚園	廃止
R6. 3.31	笠岡市立大島幼稚園	廃止
R6. 3.31	総社市立昭和幼稚園	廃止
R6. 3.31	総社市立維新幼稚園	廃止
R6. 3.31	高梁市立落合幼稚園	廃止
R6. 3.31	和気町立佐伯幼稚園	※廃止
R6. 3.31	和気町立和気幼稚園	※廃止
R6. 3.31	和気町立本荘幼稚園	※廃止
R6. 3.31	奈義町立滝川つくし幼稚園	※廃止
R6. 3.31	奈義町立中央東幼稚園	※廃止
R6. 3.31	吉備中央町立円城幼稚園	※廃止
R6. 3.31	吉備中央町立御北幼稚園	※廃止
R6. 4. 1	総社市立昭和五つ星学園幼稚園	設置

※幼保連携型認定こども園への移行に伴う廃止

2 小学校

県下の公立小学校で、令和5年度中に4校の廃止があり、令和6年4月1日現在の県下の公立小学校の数は、本校362、分校4、合計366校である。

設置・廃止等 年 月 日	小 学 校 名	備考
R6. 3.31	総社市立昭和小学校	※廃止
R6. 3.31	総社市立維新小学校	※廃止
R6. 3.31	美咲町立柵原西小学校	※廃止
R6. 3.31	美咲町立柵原東小学校	※廃止

※義務教育学校への移行に伴う廃止

3 中学校

県下の公立中学校で、令和5年度中に2校の廃止があり、令和6年4月1日現在の県下の公立中学校の数は、本校150校である。

設置・廃止等 年 月 日	中 学 校 名	備考
R6. 3.31	総社市立昭和中学校	※廃止
R6. 3.31	美咲町立柵原中学校	※廃止

※義務教育学校への移行に伴う廃止

4 義務教育学校

令和5年度中に公立義務教育学校2校の設置の届出があり、令和6年4月1日現在の県下の公立義務教育学校の数は、4校である。

設置・廃止等 年 月 日	義務教育学校名	備考
R6. 4. 1	総社市立昭和五つ星学園義務教育学校	設置
R6. 4. 1	美咲町立柵原学園	設置

5 高等学校

県下の高等学校で、令和5年度中に分校1校の設置があり、令和6年4月1日現在の県下の公立高等学校の数は、全日制課程本校52校、定時制課程本校11校、分校1校、合計64校（県立51校、市立13校）である。

設置・廃止等 年 月 日	高 等 学 校 名	備考
R6. 1. 1	倉敷市立精思高等学校霞丘校	分校設置

6 中等教育学校

県下の公立中等教育学校で、令和5年度中に設置又は廃止した学校はなく、令和6年4月1日現在の県下の公立中等教育学校の数は、本校1校である。

7 特別支援学校

県下の公立特別支援学校で、令和5年度中に新たに設置または廃止した学校はなく、令和6年4月

1日現在の県下の公立特別支援学校の数は、本校15校である。

8 専修学校

県下の公立専修学校で、令和5年度中に設置又は廃止した学校はなく、令和6年4月1日現在の県下の公立専修学校の数は、本校1校である。

■第2節 特別支援学級の設置

令和5年5月1日現在の特別支援学級の設置及び在学者は、第5章第2節4特別支援学級数、児童・生徒数のとおりである。

小学校では23学級減で、内訳は知的障害学級10学級減、自閉症・情緒障害学級12学級減、病弱学級1学級減である。

中学校では増減なしで、内訳は知的障害学級1学級増、難聴学級3学級減、自閉症・情緒障害学級1学級増、病弱学級1学級増である。

■第3節 高等学校入学者選抜

1 実施経過

(1) 基本方針

令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要

[一般入学者選抜]

1 選抜の方針

選抜に当たっては、中学校等の校長から提出される調査書、学力検査・面接・実技の結果及び自己申告書等を資料として、各高等学校の科・コースの特色を配慮して総合的に判断する。

なお、高等学校長は、募集定員の一部について、学力検査の結果が一定以上にあれば、調査書及び面接等の結果を重視して選抜を行うことができる。また、高等学校長は、全国募集を実施する科について、県教育委員会と協議の上、一般入学者選抜の募集人員に全国募集の募集人員を加えた人数まで合格とすることができる。

調査書については、中学校等の教育の全領域にわたる成果を的確に判断するための資料として重視する。

学力については、調査書の「学習の記録」に記載された評定から求めた換算点と学力検査の結果から求めた合計得点とを基に、高等学校長が「調査書の評定段階」と「学力検査の評定段階」をそれぞれ定め、相関表を作成して判定する。調査書の換算点の算出においては、学力検査を実施しない教科及び第3学年の評定を重視して取り扱う。

2 学力検査

(1) 対象

ア 全日制課程

〔第I期〕 志願者全員

イ 定時制課程

〔第I期〕 昼間部を志願する者

[第Ⅱ期] 夜間部を志願する者

(2) 実施教科

ア 全日制課程

[第Ⅰ期] 国語、社会、数学、理科、外国語（英語）

イ 定時制課程

[第Ⅰ期] 国語、社会、数学、理科、外国語（英語）から志願者が選択する3教科

[第Ⅱ期] 国語、数学、外国語（英語）

ア、イともに外国語（英語）は聞き取り検査を含む。

(3) 出題の方針

ア 平成29年文部科学省告示第64号の中学校学習指導要領に示された目標及び範囲内で出題する。

イ 各教科とも基礎的・基本的事項を中心とし、思考力、判断力、表現力等をみる問題を含める。

(4) 問題の作成

県教育委員会において作成する。ただし、高等学校長は、県教育委員会と協議の上、全ての教科又は一部の教科について問題を作成することができる。

3 面接

次のいずれかに該当する志願者には、面接を実施する。

(1) 全日制課程のうち、次の学校・学科・コースを志願する者

ア 普通科のコース、専門学科及び総合学科

イ コースを除く普通科のうち、面接を必要と認める学校

(2) 定時制課程を志願する者

(3) 自己申告書を提出する者

4 実技

(1) 玉野光南高等学校体育科において、一般入学者選抜を実施する場合は、志願者に実技を実施する。

(2) 検査内容

平成29年文部科学省告示第64号の中学校学習指導要領保健体育の体育分野に示された内容で基礎的なもの

5 追検査

(1) 対象

一般入学者選抜 [第Ⅰ期] を、インフルエンザの罹患等やむを得ない理由により欠席した者

(2) 実施内容・日程

学力検査・面接 令和6年3月18日(月)

6 第2次募集

欠員を生じている学校・科・コースにおいて実施する。

7 日程

(1) 全日制課程

[第Ⅰ期]

出願の期間 令和6年2月21日(水)から2月26日(月)まで
(ただし、土日及び祝日を除く。)

学力検査 令和6年3月7日(木)

面接・実技 令和6年3月8日(金)

合格者の発表 令和6年3月18日(月)

(2) 定時制課程

[第Ⅰ期]

出願の期間	令和6年2月21日(水)から2月26日(月)まで (ただし、土日及び祝日を除く。)
学力検査	令和6年3月7日(木)
面接	令和6年3月8日(金)
合格者の発表	令和6年3月18日(月)

[第Ⅱ期]

出願の期間	令和6年3月19日(火)から3月22日(金)まで (ただし、祝日を除く。)
学力検査・面接	令和6年3月25日(月)
合格者の発表	令和6年3月28日(木)

8 くくり募集

二つ以上の科・コースで一括して生徒を募集する募集方法のことをいい、次に示す学校の科・コースの間で実施する。

東岡山工業高等学校	機械科と電子機械科と電気科
岡山東商業高等学校	ビジネス創造科と情報ビジネス科
倉敷商業高等学校	商業科と国際経済科と情報処理科
津山商業高等学校	地域ビジネス科と情報ビジネス科
岡山一宮高等学校	普通科と理数科
西大寺高等学校	普通科と国際情報科
倉敷天城高等学校	普通科と理数科
倉敷中央高等学校	普通科と普通科子どもコースと普通科健康スポーツコース
玉島高等学校	普通科と理数科
津山高等学校	普通科と理数科

※普通科と理数科、普通科と国際情報科及び普通科と普通科子どもコースと普通科健康スポーツコースでは、選抜時に科・コースの所属を決定する。

なお、倉敷天城高等学校理数科及び津山高等学校理数科は、特別入学者選抜で合格内定者数が募集定員を満たさなかった場合に、一般入学者選抜を実施する。

9 複数校志願

異なる志願先を2校まで志願できることをいい、次に示す学校・科の間で実施する。

倉敷中央高等学校看護科 と 津山東高等学校看護科 と 真庭高等学校看護科

[特別入学者選抜]

1 実施学校・科・コース・分野

第1表-1のとおりとする。

2 募集人員

第1表-1に示す人員とする。

3 出願

志願する当該科・コース・分野に対して、興味・関心があり、能力・適性を有し、志願する動機・理由が明白、適切であること。

4 選抜の方針

選抜に当たっては、中学校等の校長から提出される調査書、学力検査・面接・各高等学校において

選択実施する検査（以下「選択実施する検査」という。）の結果及び自己申告書等を資料として、目的意識や適性等を重視し、各高等学校の科・コース・分野の特色を配慮して総合的に判断する。調査書の評定については、第1学年、第2学年及び第3学年の各教科の評定を活用する。

なお、高等学校長は、募集人員の一部について、学力検査の結果が一定以上であれば、あらかじめ示した実績を重視して選抜を行うことができる。また、高等学校長は、全国募集を実施する科について、県教育委員会と協議の上、上記2の募集人員に全国募集の募集人員を加えた人数まで合格内定とすることができる。

5 学力検査

(1) 対象

志願者全員

(2) 実施教科

国語、数学、外国語（英語）

外国語（英語）は聞き取り検査を含む。

(3) 出題の方針

ア 平成29年文部科学省告示第64号の中学校学習指導要領に示された目標及び範囲内で出題する。

イ 各教科とも基礎的・基本的事項を中心とする。

(4) 問題の作成

県教育委員会において作成する。

6 面接

(1) 対象

志願者全員

(2) 内容

志望の目的や適性等を把握する。

7 選択実施する検査

(1) 対象

志願者全員

(2) 内容

各高等学校は、志願者一人一人の能力や適性等を多面的に評価するために、口頭試問、小論文、作文、実技のうち、一つ以上を選択し、科等の特色を踏まえた検査を実施する。

8 日程

出願の期間 令和6年1月24日(水)から1月26日(金)まで

学力検査 令和6年2月7日(水)

面接・選択実施する検査 令和6年2月7日(水)2月8日(木)

※両日のうちいずれか1日で実施する場合がある。

選抜結果の通知 令和6年2月16日(金)

合格者の発表 令和6年3月18日(月)

9 合格内定とならなかった者の扱い

選抜の結果、合格内定とならなかった者は、改めて一般入学者選抜に出願することができる。

[海外帰国生徒のための入学者選抜]

1 実施学校・科

岡山一宮高等学校 普通科・理数科

岡山城東高等学校 普通科
西大寺高等学校 国際情報科
総社南高等学校 普通科

2 募集人員

各校とも若干名

3 出願資格

次のいずれにも該当する者とする。

- (1) 原則として、外国における在学期間が継続して2年以上で帰国後2年以内であること。
- (2) 保護者が県内に居住しているか、令和6年4月7日までに県内に居住予定であること。保護者が引き続き外国に居住する場合は、県内に保護者に代わる身元引受人が居住していること。

4 選抜の方針

選抜に当たっては、中学校等の校長から提出される調査書、面接等の結果及び自己申告書等を資料として、外国での学習や経験を適切に評価するよう配慮し、総合的に判断する。

5 面接等

(1) 対象

志願者全員

(2) 内容

能力や適性等を把握するため面接を実施する。必要に応じて簡単な口頭試問（英会話を含む。）を行うことがある。

また、学校によっては、聞き取り検査や作文等の適性検査を実施することがある。

6 日程

出願の期間	令和6年1月24日(水)から1月26日(金)まで
面接等	令和6年2月7日(水)
選抜結果の通知	令和6年2月16日(金)
合格者の発表	令和6年3月18日(月)

7 合格内定とならなかった者の扱い

[特別入学者選抜] 9に同じ。

[連携型中高一貫教育に係る入学者選抜]

1 実施学校・科

勝山高等学校 普通科（蒜山校地）

2 募集人員

別に定める募集定員を上限とする。

3 出願資格

真庭市立蒜山中学校を令和6年3月に卒業見込みの者

4 選抜の方針

選抜に当たっては、中学校長から提出される調査書、学力検査・面接及び中高連携教育の成果をみる検査の結果を資料として、目的意識や意欲等を重視して、総合的に判断する。

5 学力検査

[特別入学者選抜] 5に同じ。

6 面接及び中高連携教育の成果をみる検査

(1) 対象

志願者全員

(2) 内容

志望の目的や意欲・適性等を把握するため、面接及び中高連携教育の成果をみる検査を実施する。

7 日程

出願の期間 令和6年1月24日(水)から1月26日(金)まで

学力検査 令和6年2月7日(水)

面接・中高連携教育の成果をみる検査 令和6年2月7日(水)2月8日(木)

※両日のうちいずれか1日で実施する場合がある。

選抜結果の通知 令和6年2月16日(金)

合格者の発表 令和6年3月18日(月)

8 合格内定とならなかった者の扱い

[特別入学者選抜] 9に同じ。

[定時制課程の特別な入学者選抜]

1 実施学校・科

鳥城高等学校 普通科

2 募集人員

(1) 昼間部 若干名

(2) 夜間部 若干名

3 出願資格・条件

次のいずれにも該当する者とする。

(1) 平成16年4月1日以前に出生した者

(2) 定時制高等学校を志願する動機や理由が明白、適切であり、学ぶことに対して強い意欲を有すること。

4 選抜の方針

選抜に当たっては、面接・作文の結果等を資料として、目的意識や意欲等を重視して、総合的に判断する。

5 面接及び作文

(1) 対象

志願者全員

(2) 内容

志望の目的や意欲・適性等を把握するため、面接及び作文を実施する。

面接では、必要に応じて簡単な口頭試問を行うことがある。

6 日程

出願の期間 令和6年1月24日(水)から1月26日(金)まで

面接・作文 令和6年2月7日(水)

選抜結果の通知 令和6年2月16日(金)

合格者の発表 令和6年3月18日(月)

7 合格内定とならなかった者の扱い

[特別入学者選抜] 9に同じ。

[全国募集]

1 実施学校・科

笠岡工業高等学校 電子機械科・電気情報科・環境土木科

笠岡商業高等学校 ビジネス情報科

井原高等学校 普通科・地域生活科

高梁城南高等学校 電気科・デザイン科・環境科学科

新見高等学校 普通科・生物生産科・工業技術科

勝山高等学校 普通科（蒜山校地）

真庭高等学校 看護科

林野高等学校 普通科

鴨方高等学校 総合学科

和気閑谷高等学校 普通科・キャリア探求科

矢掛高等学校 普通科・地域ビジネス科

2 募集人員

(1) 全国募集の募集人員は、科ごとに設定するものとし、科の第1学年募集定員の10%を超えない範囲において、高等学校長が県教育委員会の承認を得て設定する。ただし、第1学年募集定員が40人未満の科については、20%を超えない範囲で設定することができる。

(2) 上記(1)により科ごとに設定した全国募集の募集人員（以下「科の全国募集の募集人員」という。）は、特別入学者選抜による全国募集受検者の合格内定者数で満たすことができる。

(3) 特別入学者選抜による全国募集受検者の合格内定者数が、科の全国募集の募集人員を満たさなかった場合は、一般入学者選抜〔第Ⅰ期〕で全国募集を実施する。

3 出願資格・条件

次のいずれにも該当する者とする。

(1) 志願者及び保護者が県外に居住していること。

(2) 当該科に対して高い目的意識を持つこと。

(3) 令和6年4月7日までに、県内に保護者に代わる身元引受人が居住していること。ただし、県外に居住する保護者の下から通学する場合又は保護者の一人が志願者とともに県内に転住する場合は、身元引受人は不要である。

4 選抜の方針

〔一般入学者選抜〕 1に同じ。

〔特別入学者選抜〕 4に同じ。

5 学力検査

〔一般入学者選抜〕 2(1)ア、(2)ア、(3)、(4)に同じ。

〔特別入学者選抜〕 5に同じ。

6 面接

〔一般入学者選抜〕 3に同じ。

〔特別入学者選抜〕 6に同じ。

7 選択実施する検査

〔特別入学者選抜〕 7に同じ。

8 日程

〔一般入学者選抜〕 7(1)に同じ。

〔特別入学者選抜〕 8に同じ。

9 特別入学者選抜で合格内定とならなかった者の扱い

選抜の結果、合格内定とならなかった者は、改めて一般入学者選抜〔第Ⅰ期〕に出願することができる。

〔その他〕

- 1 出願に当たっては、各高等学校が示す「三つの方針」等を参考とすること。
- 2 令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜における学校別実施内容等については、第1表を参照のこと。
- 3 法令及びこの実施大要に定めるもののほか、必要な事項は、令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜実施要項で定める。

(2) 実施要項の決定

前項の「実施大要」に基づき、「令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜実施要項」を県教育委員会において決定した。

なお、岡山市、倉敷市、玉野市、井原市、高梁市（宇治高等学校を除く）、備前市が設置する各高等学校も、学力検査を県立高等学校に準じて行うことが、関係者協議の結果、決定された。

10月下旬から、中学・高校長及び関係者を対象に3日間に分けて、実施要項の説明会を開き、趣旨の徹底を図った。

2 学力検査問題の作成

(1) 問題作成についての意見聴取

中学校側及び高等学校側の意見を聴くため、意見交換会を開いた。

(2) 作成委員会

学力検査問題作成委員会を構成し、国語、社会、数学、理科、英語の各教科の問題作成に当たった。

(3) 出題の型式

各教科とも基礎的・基本的事項を中心とし、単なる知識だけでなく、思考力、思考過程、応用力等をみるような出題を心掛けた。

3 学力検査及び入学者選抜の実施

学校別実施内容は第1表-1のとおりである。

実施に伴う日程は第2表のとおりである。

(1) 学力検査の日程

特別入学者選抜

集合時刻	2月7日(水) 8時50分
国語	9時20分～10時05分
数学	10時25分～11時10分
英語	11時30分～12時15分

一般入学者選抜〔第Ⅰ期〕

集合時刻	3月7日(木) 8時50分
国語	9時20分～10時05分
数学	10時25分～11時10分
社会	11時30分～12時15分
英語	13時05分～13時50分
理科	14時10分～14時55分

(2) 学力検査の受検状況と選抜結果

公立高等学校志願者の受検状況は、第3表のとおりである。

令和6年3月の中学校卒業見込者数と高等学校募集定員、志願者数、合格者数の総括は第4表のとおりである。

令和6年2月26日(月)に締め切った入学志願者数と、3月18日(月)に発表した合格者数を各高等学校・科・コース別に見ると第5表のとおりである。

(3) 特別入学者選抜等の実施及び結果

令和6年1月26日(金)に締め切った特別入学者選抜等の志願者数と、2月16日(金)に通知した合格内定者数を各高等学校・科・コース・分野別に見ると第6表のとおりである。

(4) 全国募集の受検状況と選抜結果

県立高等学校の全国募集志願者数及び合格者数は、第7表のとおりである。

第1表-1 令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜における学校別実施内容一覧

学校名	科	特別入学者選抜					一般入学者選抜					備考		
		コース 分野	募集 人員 (%)	各校が選抜実施する検査の概要	面接	重視する実績を示した選抜		その他の選抜等	くくり 募集	傾斜 配点	面接		調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	
						募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項
岡山朝日	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、ボランティア活動、芸術・体育・科学・文化の分野における活動成果及び興味・関心の状況		
岡山操山	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	5%	部活動、学級活動、生徒会活動、スポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績		
岡山芳泉	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	10%	科学・文化・芸術・スポーツの分野における活動および生徒会活動の実績 海外体験など国際的な活動の実績		
岡山一宮	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	5%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野での実績		
	理数	50%	○口頭試問（実験を含む） 与えられた課題について、質問に答えたり実験を行ったりする。	○個 5人程度	数学検定準2級以上又は英語検定準2級以上合格 全国規模の科学研究又は科学系コンテストの実績	☆	◎	-	○集	5%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野での実績			
岡山城東	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	5%	部活動を含む、校外における文化的・体育的な活動の実績 海外体験など国際的な活動の実績		
	国際教養分野	30人	○実技 英語を聞く・話す・読む・書くの4つの技能を活用して、英語のリスニング・英語による質疑応答などの課題に取り組む。	○個 5人程度	英語検定2級以上合格又はこれに相当する英語の実績	☆	-	-	○集	5%	部活動を含む、校外における文化的・体育的な活動の実績 海外体験など国際的な活動の実績			
西大寺	音楽分野	25人	○実技 ①新曲視唱 ②声楽又は任意の楽器で5分以内の演奏（ただし、ピアノの場合はバロック、古典派、ロマン派のピアノ作品の中から任意の曲を演奏すること〔緩徐楽章は除く〕） ※出願時に演奏内容提出用紙の提出を求める。（演奏内容提出用紙は、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室ホームページ及び学校ホームページからダウンロードすることができる。）	○個 -	-	☆	-	-	○集	5%	部活動を含む、校外における文化的・体育的な活動の実績 海外体験など国際的な活動の実績			
	普通	-	-	-	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ活動・文化活動の実績			
瀬戸	国際情報	50%	○口頭試問 与えられた課題（英文を含む）について、英語で質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集 10人程度	剣道、野球又はバドミントン	☆	◎	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ活動・文化活動の実績			
	商業	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ活動・文化活動の実績			
瀬戸	普通	50%	○作文 与えられた課題について、600字程度で作文する。	○集	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、スポーツ・芸術・文化・科学の分野における活動、地域貢献活動の実績			

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				その他の 選抜等	一般入学者選抜				備考	
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面接	重視する実績を示した選抜		面接	調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	比率 (%)	重視する事項		
					募集人員							重視する実績
高松農業	農業科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集	10人程度	レスリング (男子・女子) 又は 陸上競技 (男子・女子)	—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	園芸科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	畜産科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	農業土木	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	食品科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
興陽	農業	80%	○作文 与えられたテーマについて、400字程度で自分の考えを書く。	○個	10人程度	野球 (男子)、 サッカー (男子)、ソフトテニス (女子)、バレーボール (女子)、バスケットボール (女子) 又は自転車	—	—	—	○個	10%	生徒会の実績、部活動、 校外におけるスポーツ、文化活動の実績
	農業機械	80%	○実技 与えられた課題について、机上で作業を行う。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会の実績、部活動、 校外におけるスポーツ、文化活動の実績
	造園デザイン	80%	○作文 与えられたテーマについて、400字程度で自分の考えを書く。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会の実績、部活動、 校外におけるスポーツ、文化活動の実績
	家政	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会の実績、部活動、 校外におけるスポーツ、文化活動の実績
	被服デザイン	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会の実績、部活動、 校外におけるスポーツ、文化活動の実績
瀬戸南	生物生産	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり簡単な作業を行ったりする。	○個	10人程度	ホッケー	—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	園芸科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり簡単な作業を行ったりする。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
	生活デザイン	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり簡単な作業を行ったりする。	○個			—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動の実績
岡山工業	機械	80%	○実技 与えられた課題について、条件に従って、線や図を描く。	○集	10人程度	生徒会活動	—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	電気	80%	○実技 与えられた課題について、指示に従って、簡単な電気に関する作業を行う。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	情報技術	80%	○実技 与えられた課題について、条件に従って、コンピュータを使って文書作成や描写を行う。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	化学工学	80%	○口頭試問 与えられた課題 (化学に関する内容を含む) について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	土木	80%	○実技 与えられた課題について、条件に従って、線や図を描く。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	建築	80%	○実技 与えられた課題について、条件に従って、図を描き、簡単な作業を行う。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績
	デザイン	80%	○実技 与えられた課題について、条件に従って、画用紙に鉛筆で素描 (デッサン) する。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポーツ・文化活動・社会貢献活動の実績

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考		
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面 接	重視する実績を示した選抜		その他の 選抜等	く くり 募集	傾 斜 配 点	面 接		調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	
					募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項
東岡山 工業	機 械	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを表現したりす る。	○集	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電 子 機 械	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを表現したりす る。	○集	-	-	-	○	-	○集	-	-	-
	電 気	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを表現したりす る。	○集	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	設備システム	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを表現したりす る。	○集	-	-	-	-	-	○集	-	-	-
	工業化学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを表現したりす る。	○集	-	-	-	-	-	○集	-	-	-
岡山東 商	ビジネス創造	80%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で自分の考えを書く。	○集	10人程度	バレーボール、 バスケットボ ール、野球、陸上 競技、剣道又は 吹奏楽	-	-	-	○集	5%	部活動を含む、校内 外におけるスポ ーツ・文化活動の実績	-
	情報ビジネス	80%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で自分の考えを書く。	○集			-	-					
岡山南	商 業	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集	10人程度	野球、ソフトテ ニス、新体操(女 子)又は陸上競 技	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における活動の 実績	-
	国際経済	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集		英語検定2級以 上合格	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における活動の 実績	-
	情報処理	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集		野球、ソフトテ ニス、新体操(女 子)又は陸上競 技	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における活動の 実績	-
	生活創造	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集		野球、ソフトテ ニス、新体操(女 子)又は陸上競 技	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における活動の 実績	-
	服飾デザイン	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集		野球、ソフトテ ニス、新体操(女 子)又は陸上競 技	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における活動の 実績	-
岡山御津	キャリア デザイン	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを述べたりする。	○集	10人程度	漢字検定3級以 上、数学検定3 級以上又は英語 検定3級以上合 格 野球、吹奏楽又 はバドミントン	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポ ーツ・文化活動、ボラ ンティア活動の実績	-
	特別進学 系 地域協働 系												
倉敷青陵	普 通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	5%	部活動、校外におけ るスポーツ・文化活 動の実績	-
倉敷天城	普 通	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	理 数	100%	○口頭試問(実験を含む) 与えられた課題について、質問に答 えたり実験を行ったりする。 ※募集人員については、募集定員から倉敷 天城中学校の倉敷天城高等学校理数科へ の進学者数を除いた人数に、当該比率を乗じ た人数とする。	○個	2人程度	数学検定準2級 以上又は英語検 定準2級以上合 格	-	◎	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポ ーツ・文化活動、科学 コンテスト、ボラ ンティア活動の実績	-

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				その他の 選抜等	一般入学者選抜				備考		
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面 接	重視する実績を示した選抜		く く り 募 集	傾 斜 配 点	面 接	調査書及び面接等の 結果を重視した選抜			
					募集人員					重視する実績		比率 (%)	重視する事項
倉敷南	普通	—	—	—	—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の成果 海外体験など国際的 な活動の実績		
倉敷池 古城	普通	—	—	—	—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動、ボラ ンティア活動の実績 海外体験など国際的 な活動の実績		
倉敷中央	普通	—	—	—	—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の実績		
	子ども コース	50%	○口頭試問（読み聞かせを含む） 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。 また、与えられたまとまりのある文 章の読み聞かせをする。	○個	10人程度	—	◎	—	○集	—	—		
	健康 スポーツ コース	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○個		ソフトボール (女子)、陸上競 技(女子)、バ ドミントン(女 子)、ソフトテ ニス(女子)又 はハンドボール (女子)	—	—	—	○集	—	—	
	家政	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○個		—	—	—	—	○集	—	—	
	看護	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○個		—	—	—	—	○集	—	—	※
福祉	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○個	—		—	—	—	○集	—	—		
玉島	普通	—	—	—	—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化・科学活動、 ボランティア活動の 実績		
	理数	50%	○口頭試問（実験を含む） 与えられた課題について、質問に答 えたり実験を行ったりする。	○個	5人程度	—	◎	—	○集	10%	数学検定準2級 以上又は英語検 定準2級以上合 格 科学研究又はコ ンテストの実績		
倉敷鷲羽	普通	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを述べたりする。	○個	10人程度	—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 ボランティア活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績		
	ビジネス	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり、自分の考えを述べたりする。	○個		野球（男子）、 サッカー（男 子）、ヨット又 はレスリング	—	—	—	○個	10%	生徒会活動、部活動、 ボランティア活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績	
倉敷工業	機械	80%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業（作図を含む）を行う。	○集	10人程度	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績		
	電子機械	80%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業（作図（電気回路図を 含む）など）を行う。	○集		陸上競技、柔道、 野球、卓球、ラ グビー又はバド ミントン	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績	
	電気	80%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業（作図（電気回路図を 含む）など）を行う。	○集		—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績	
	工業化学	80%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業（作図を含む）を行う。	○集		—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績	
	テキスタイル 工	80%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業（形や色彩などの表現 を含む）を行う。	○集		—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外における文化・ スポーツ活動の実績	

学校名	科 コース 分野 系列	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考		
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面 接	重視する実績を示した選抜		その他の 選抜等	く くり 募集	傾 斜 配 点	面 接		調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	
					募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項
水島工業	機 械	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを表現したりする。	○集	10人程度	バドミントン(男子)、陸上競技(男子)、バスケットボール(男子)、サッカー(男子)又はバレーボール(男子)	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績	
	電 気	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを表現したりする。	○集			—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績	
	情報技術	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを表現したりする。	○集			—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績	
	工業化学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを表現したりする。	○集			—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績	
	建 築	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを表現したりする。	○集			—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・芸術・文化・科学の分野における実績	
倉敷商業	商 業	75%	○作文 与えられた課題について、400字程度で作文する。	○集	10人程度	剣道、野球、バレーボール、ハンドボール又はバスケットボール	—	○	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績	
	国際経済	75%	○作文 与えられた課題について、400字程度で作文する。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績	
	情報処理	75%	○作文 与えられた課題について、400字程度で作文する。	○集			—	—	—	○集	5%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績	
玉島商業	ビジネス情報	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集	10人程度	野球又は陸上競技	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績	
津 山	普 通	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	理 数	100%	○口頭試問(実験を含む) 与えられた課題について、質問に答えたり実験を行ったりする。 ※募集人員については、募集定員から津山中学校の津山高等学校理数科への進学者数を除いた人数に、当該比率を乗じた人数とする。	○集	—	—	—	◎	—	○集	—	—	
津 山 東	普 通	—	—	—	—	—	—	—	—	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績	
	食物調理	75%	○作文 与えられたテーマについて、400字程度で自分の考えを書く。	○集	5人程度	剣道、野球又は陸上競技	—	—	—	○集	—	—	
	看 護	75%	○作文 与えられたテーマについて、400字程度で自分の考えを書く。	○集			—	—	—	○集	—	—	※

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考		
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面接	重視する実績を示した選抜		その他の 選抜等	く くり 募 集	傾 斜 配 点	面接		調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	
					募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項
津山工業	機 械	70%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で作文する。	○個	10人程度	ラグビー、剣道、 バレーボール (男子)、柔道又 は硬式野球	-	-	-	○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
	ロボット電気	70%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って、作業や作図を行う。	○個						○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
	工業化学	70%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で作文する。	○個						○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
	土 木	70%	○実技 与えられた課題について、条件に 従って線や図形を描く。	○個						○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
	建 築	70%	○実技 与えられた展開図からできる立体を 想像し、鉛筆でスケッチする。	○個						○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
	デザイン	70%	○実技 与えられた展開図からできる立体を 想像し、鉛筆でスケッチする。	○個						○個	15%	生徒会活動、部活動、 地域活動、校外にお けるスポーツ・文化 活動の実績	
津山商業	地域ビジネス	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集	10人程度	野 球 (男 子)、 ソフトボール (女子)、陸上競 技、バスケッ トボール、空手道 又は珠算	-	○	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の実績	
	情報ビジネス	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○集						○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の実績	
玉 野	普 通	-	-	-	-	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 スポーツ・科学研究 の分野における活動 の実績		
玉野光南	普 通	-	-	-	-	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の実績		
	情 報	75%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを述べたりする。	○個	2人程度	数学検定準2級 以上、英語検 定準2級以上又は ITパスポート 試験合格	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・文化活動の実績	
	体 育	100%	○実技検査 (I) 基礎的な運動能力による実技検査 ○実技検査 (II) 各自が選択する運動種目について基 本的な技術・技能や動作等による実 技検査 ※陸上競技、柔道、剣道、ソフトボ ール、サッカー、バスケットボール、 ハンドボール、バレーボール、新体 力テスト (反復横跳び、立ち幅跳び、 ハンドボール投げ) から1種目を選 択する。 ※出願時に実技申告書の提出を求め る。(実技申告書は、岡山県教育庁 高校教育課高校魅力化推進室ホーム ページ及び学校ホームページからダ ウンロードすることができる。)	○個	-	-	-	-	○個	-	-		
笠 岡	普 通	-	-	-	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、 校外におけるスポー ツ・芸術・文化・科学・ ボランティアの分野 における活動の実績		

学校名	科	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考						
		コース 分野 系	募集 人員 (%)	各校が選抜実施する検査の概要	面接	重視する実績を示した選抜		その他の 選抜等	く く り 募 集	傾 斜 配 点		面 接	調査書及び面接等の 結果を重視した選抜				
						募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項			
笠岡工業	電子機械	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	10人程度	レスリング、ウエイトリフティング又は野球	全	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、ものづくり競技、校外でのスポーツや文化活動、ボランティア活動の実績					
	電気情報	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個								10%	生徒会活動、部活動、ものづくり競技、校外でのスポーツや文化活動、ボランティア活動の実績				
	環境土木	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個								10%	生徒会活動、部活動、ものづくり競技、校外でのスポーツや文化活動、ボランティア活動の実績				
笠岡商業	ビジネス情報	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	10人程度	野球、柔道、バスケットボール(女子)又はバドミントン(女子)	全	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績					
井原	普通	50%	○作文 与えられた課題について、600字程度で自分の考えを書く。	○集	10人程度	英語検定準2級以上合格 新体操	全	-	-	○集	-	-	全				
	地域生活																
	グリーンライフコース	100%	○作文 与えられた課題について、600字程度で自分の考えを書く。	○個								-		-	○個	-	-
	ヒューマンライフコース	100%	○実技 与えられた課題について、机上で作業を行う。	○個								-		-	○個	-	-
総社	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績					
	家政	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	-	-	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化活動の実績					
総社南	普通	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	国際分野	25人	○口頭試問 与えられた課題(英語を含む)について、英語で、答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	5人程度	英語検定2級以上合格又はこれに相当する英語の実績	☆	-	-	○集	15%	生徒会活動、部活動、校外における体育・文化活動の実績					
	美術工芸分野	25人	○実技 与えられた題材について、鉛筆で素描する。	○個	-	-	-	-	-	-	-	-					
高梁	普通	50%	○口頭試問 与えられた文章や表・グラフなどの資料をもとに、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集	-	-	-	-	-	○集	-	-					
	家政	80%	○口頭試問 与えられた文章や表・グラフなどの資料をもとに、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○集	-	-	-	-	-	○集	-	-					
高梁城南	電気	75%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	-	-	全	-	-	○個	5%	生徒会活動、スポーツ、文化、芸術、科学の分野における実績	◇				
	デザイン	80%	○実技 与えられた題材について、鉛筆で素描する。	○個	-	-	全	-	-	○個	5%	生徒会活動、スポーツ、文化、芸術、科学の分野における実績					
	環境科学	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えを述べたりする。	○個	-	-	全	-	-	○個	5%	生徒会活動、スポーツ、文化、芸術、科学の分野における実績					

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考		
		募集 人員 (%)	各校が選択実施する検査の概要	面 接	重視する実績を示した選抜		その 他の 選抜 等	く くり 募 集	傾 斜 配 点	調査書及び面接等の 結果を重視した選抜			
					募集人員	重視する実績				面 接		比率 (%)	重視する事項
新見	普通	50%	○小論文 与えられた文章や資料をもとに、合計400字程度で、設問に答えたり、自分の考えを論理的に述べたりする。	○個	5人程度	ソフトボール (男子)	全	-	-	○個	-	-	
	生物生産	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり簡単な作業を行ったりする。	○個			全	-	-	○個	-	-	
	工業技術	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり、自分の考えを表現したりする。	○個			全	-	-	○個	-	-	
備前緑陽	総合学科	80%	○作文 与えられたテーマについて、400字程度で自分の考えを書く。	○個	10人程度	英語検定3級以上、数学検定3級以上又は漢字検定3級以上合格 サッカー、野球、吹奏楽、アーチェリー、ボート又はレスリング	-	-	-	○集	10%	生徒会活動、部活動、校外における文化・体育活動の実績	
	普通進学系												
	健康福祉系												
	情報・ビジネス系												
邑久	普通	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えをまとめて表現したりする。	○集	10人程度	英語検定3級以上、数学検定3級以上又は漢字検定3級以上合格 野球、ヨット、陸上競技又は美術	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、校外における文化・体育活動の実績	◆20%
	生活ビジネス	80%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答えたり自分の考えをまとめて表現したりする。	○集									
勝山	普通	50%	○小論文 与えられた文章や資料をもとに、設問に答えたり、合計400字程度で自分の考えを論理的に記述したりする。	○集	10人程度	英語検定準2級以上合格 野球、サッカー又は吹奏楽	-	-	-	○集	-	-	
	普通 (蒜山校地)	30%	○小論文 与えられた文章や資料をもとに、設問に答えたり、合計400字程度で自分の考えを論理的に記述したりする。	○集	-	-	□全	-	-	○個	-	-	
真庭	食農生産	75%	○作文 与えられたテーマについて、600字程度で自分の考えを書く。	○個	5人程度	ハンドボール (女子)	-	-	-	○個	-	-	
	経営ビジネス	75%	○作文 与えられたテーマについて、600字程度で自分の考えを書く。	○個			-	-	-	○個	-	-	
	看護	75%	○作文 与えられたテーマについて、600字程度で自分の考えを書く。	○個			全	-	-	○個	-	-	※
林野	普通	50%	○小論文 与えられた文章や資料をもとに設問に答え、また自分の考えをまとめて200～400字程度で記述する。	○集	8人程度	サッカー(男子・女子)、野球(男子)、バレーボール(女子)又は吹奏楽	全	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、校外におけるスポーツ・文化・科学の活動の実績	全

学校名	科 コース 分野 系	特別入学者選抜				一般入学者選抜					備考		
		募集 人員 (%)	各校が選抜実施する検査の概要	面 接	重視する実績を示した選抜		その 他の 選抜 等	く くり 募 集	傾 斜 配 点	面 接		調査書及び面接等の 結果を重視した選抜	
					募集人員	重視する実績						比率 (%)	重視する事項
鴨 方	総合学科	50%	○口頭試問 与えられた課題について、質問に答 えたり自分の考えを表現したりす る。	○集	10人程度	英語検定3級以 上又は数学検定 3級以上合格 生徒会活動	全	-	-	○個	20%	生徒会活動、部活動、 芸術・福祉・科学・ スポーツの分野にお ける校内外の活動の 成果	全
	普通総合 系												
	デザイン・ イラスト系												
	介護・食物・ 保育系 ビジネス 系												
和気閑谷	普通	50%	○口頭試問 与えられた課題について自己の経験 を踏まえて自分の考えを表現する。	○集	10人程度	英語検定3級以 上合格又はこれ に相当する英語 の実績 海外体験など国際 的な活動の実績	全	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 地域活動、英語・ス ポーツ・科学・芸術・ 文化の分野における 活動の実績 海外体験など国際的 な活動の実績	◆ 20%
	キャリア探求	80%	○口頭試問 与えられた課題について自己の経験 を踏まえて自分の考えを表現する。	○集	10人程度	野球(男子)、 バレーボール (女子)又は吹 奏楽	全	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 地域活動、英語・ス ポーツ・科学・芸術・ 文化の分野における 活動の実績 海外体験など国際的 な活動の実績	
矢 掛	普通	50%	○作文 与えられた課題について、600字程 度で自分の考えを書く。	○個	10人程度	英語検定準2級 以上合格	全	-	-	○個	-	-	全
	地域ビジネス	80%	○作文 与えられた課題について、600字程 度で自分の考えを書く。	○個			全	-	-	○個	-	-	-
勝 間 田	総合学科	50%	○口頭試問(討論、発表を含む) 与えられた課題について、自分の考 えをまとめて表現する。	○個	5人程度	剣道又はなぎな た	-	-	-	○個	10%	生徒会活動、部活動、 ボランティア活動の 実績	
	森林系列												
	園芸系列												
	食品系列												
	自動車 系												
	ビジネス 系												
烏 城	普通 (昼間部)	50%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で自分の考えをまとめる。	○個	-	-	★	-	-	○個	-	-	
	普通 (夜間部)	30%	○作文 与えられたテーマについて、600字 程度で自分の考えをまとめる。	○個	-	-	★	-	-	○個	-	-	

- ・特別入学者選抜の「募集人員(%)」欄の比率及び一般入学者選抜の「調査書及び面接等の結果を重視した選抜」欄の比率(%)は、当該科・コースの募集定員に対する募集人員の割合を表す。
- ・特別入学者選抜及び一般入学者選抜の「面接」の「個」は個人面接、「集」は集団面接を表す。
- ・「その他の選抜」欄の☆は、海外帰国生徒のための入学者選抜を実施する科を表す。
- ・「その他の選抜」欄の□は、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜を実施する科を表す。
- ・「その他の選抜」欄の★は、定時制課程の特別な入学者選抜を実施する科を表す。
- ・「その他の選抜」欄の「全」は、全国募集を実施する科を表す。
- ・一般入学者選抜の「くくり募集」欄の◎は、第1志望、第2志望欄にそれぞれの科名等を記入する方法を表す。
- ・一般入学者選抜の「くくり募集」欄の○は、第1志望欄にくくり募集の科名等を記入する方法を表す。
- ・「備考」欄の◆は、一般入学者選抜において、同一の学科とみなして選抜を行い、第1志望の志願者に第2志望の志願者を含めて選抜する割合を高等学校長が定めることができる科・コースを表す。比率は、募集定員に対する、第1志望の志願者に第2志望の志願者を含めて選抜する割合を表す。
- ・「備考」欄の◇は、一般入学者選抜において、同一の学科とみなして選抜を行う科を表す。
- ・「備考」欄の※は、一般入学者選抜において、複数校志願を実施する科を表す。
- ・「備考」欄の「全」は、一般入学者選抜において、全国募集を実施する科を表す。

第1表-2 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（中高連携教育の成果をみる検査の概要）

学校名	対象学科	中高連携教育の成果をみる検査の概要
勝山	普通 (蒜山校地)	○小論文 与えられた文章や資料をもとに、設問に答えたり、合計400字程度で自分の考えを論理的に記述したりする

第2表 令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜に関する日程一覧

一般入学者選抜 [第I期]

月 日	実施事項	提出場所・送付先
1.10～2.2	規則第5条第1項第4号による特別出願関係書類の提出	学区内高等学校 出願予定先高等学校
	規則第9条による全国募集出願関係書類の提出	出願予定先高等学校
2.16	一般入学者選抜募集人員の発表	
2.21～2.26 正午	入学出願関係書類の提出 ・入学願書 ・自己申告書・実技申告書 ・(学区外出願許可通知書) ・入学志願者一覧表・調査書	志願先高等学校
2.26	入学志願者数の報告	高校魅力化推進室
2.21～2.28	学年についての報告書の百分率表の提出	志願先高等学校
2.29以降	受検票の交付	志願者
3.4までに	入学志願者数報告書の提出	高校魅力化推進室
3.7	学力検査	
3.8	面接・実技	
3.11までに	学年についての報告書 学年についての報告書の百分率表 } の送付	高校魅力化推進室
3.15	合格者数の報告	高校魅力化推進室
3.18	合格者の発表	
3.19～3.21	答案の返還 学力判定原簿 } の提出 合格者数報告書	高校魅力化推進室
3.29までに	入学者選抜の経過・反省事項 } の報告 面接・実技実施状況	高校魅力化推進室
4.5までに	学校教育法施行規則第24条第2項による 生徒指導要録の抄本又は写し 学校保健安全法施行規則第8条第2項による 生徒の健康診断票・歯の検査票 } の送付	生徒の入学先高等学校

一般入学者選抜 [第Ⅱ期]

月 日	実 施 事 項	提出場所・送付先
1.10～3.18	規則第6条の2第1項第2号による特別出願関係書類の提出	烏城高等学校
3.19～3.22 正午	入学出願関係書類の提出	烏城高等学校
3.22	入学志願者数の報告	高校魅力化推進室
出願書類受付以降	受検票の交付	志願者
3.25	学力検査	
3.25	面接	
3.28	合格者の発表	
3.28	答案の返還 学力判定原簿 合格者数報告書 } の提出	高校魅力化推進室
4. 5 までに	入学者選抜の経過・反省事項 面接実施状況 } の報告	高校魅力化推進室
4. 5 までに	学校教育法施行規則第24条第2項による 生徒指導要録の抄本又は写し 学校保健安全法施行規則第8条第2項による 生徒の健康診断票・歯の検査票 } の送付	烏城高等学校

[特別入学者選抜]

月 日	実 施 事 項	提出場所・送付先
1.10～1.19	規則第5条第1項第4号による特別出願関係書類の提出	学区内高等学校 出願予定先高等学校
	規則第9条による全国募集出願関係書類の提出	出願予定先高等学校
1.24～1.26 正午	特別入学者選拔出願関係書類の提出 ・特別入学願書 ・自己申告書・(学区外出願許可通知書) ・特別入学志願者一覧表 ・調査書	志願先高等学校
1.26	特別入学志願者数の報告	高校魅力化推進室
1.31 以降	受検票の交付	志願者
2. 2 までに	特別入学者選抜等志願者数報告書の提出	高校魅力化推進室
2. 7	学力検査、面接・選択実施する検査	
2. 8	面接・選択実施する検査	
2.15	合格内定者数の報告	高校魅力化推進室
2.16	特別入学者選抜結果の通知	中学校
2.19	答案の返還 特別入学者選抜等合格内定者数報告書の提出	高校魅力化推進室
3.18	合格者の発表	
3.29 までに	特別入学者選抜の経過・反省事項 面接・選択実施する検査実施状況 } の報告	高校魅力化推進室
4. 5 までに	学校教育法施行規則第24条第2項による 生徒指導要録の抄本又は写し 学校保健安全法施行規則第8条第2項による 生徒の健康診断票・歯の検査票 } の送付	生徒の入学先高等学校

第3表 学力検査受検者数

特別入学者選抜（公立全日制及び公立定時制）

年 度	卒業（見込）者数 （a）	入学志願者数 （b）	受検完了者数 （c）	欠 席 者 数 （b－c）	受 検 率 （c/a）×100
令和6年度	16,908	7,624	7,269	355	43.0
令和5年度	17,249	7,329	6,979	350	40.5
増 減	△341	295	290	5	2.5

一般入学者選抜〔第Ⅰ期〕（公立全日制及び公立定時制）

年 度	卒業（見込）者数 （a）	入学志願者数 （b）	受検完了者数 （c）	欠 席 者 数 （b－c）	受 検 率 （c/a）×100
令和6年度	16,908	6,427	6,279	148	37.1
令和5年度	17,249	7,067	6,855	212	39.7
増 減	△341	△640	△576	△64	△2.6

（注）卒業（見込）者数は、特別支援学校中学部の卒業生数を含まない。
全国募集に係る人員について、表には含まない。

第4表 令和6年3月中学校卒業見込者数と募集定員及び志願者数等

令6.3 中学校卒業 見込者数 （a）	公私立		令6.3 中卒見込者で 進学希望者数 （6.1.10現在） （b）	(b/a) × 100	募集定員 （c）	(c/a) × 100	入 学 志願者数 （d）	(d/a) × 100	合格者数 （e）	(e/a) × 100
	公	立								
16,908	公	全	11,407	67.5	10,940	64.7	6,316	37.4	10,415	61.6
		定	405	2.4	870	5.1	280	1.7	407	2.4
		計	11,812	69.9	11,810	69.8	6,596	39.0	10,822	64.0
	私	立	3,277	19.4	5,620	33.2				
	合	計	15,089	89.2	17,430	103.1				

（注）私立の募集定員には、朝日塾中等教育学校を含まない。
入学志願者数は、一般入学者選抜（第Ⅰ期及び第Ⅱ期）のものである。
合格者数は、公立（全日制及び定時制）の第2次募集における合格者数を含む。
全国募集に係る人員について、表には含まない。

第5表 令和6年度岡山県立高等学校の学校・科別の一般入学者選抜志願者数及び合格者数等

県立全日制 [第I期]

(注) 各欄の()は5~30%出願に係る数値である。(人数については内書再掲)

学校名	科名 (コース) 系列名	募集定員	特 人 学 等 合 格 者 数	一般入学 募集人員	志願者数	合格者数	第2次募集			不足数
							募集人員	志願者数	合格者数	
岡山朝日	普通	(16) 320	(-) -	(16) 320	(27) 362	(16) 320				0
岡山操山	普通	(8) 280	(-) * 117	(8) 163	(9) 201	(8) 163				0
岡山芳泉	普通	(16) 320	(-) -	(16) 320	(7) 330	(7) 320				0
岡山一宮	普通 理数	(12) 240	(12) 0	(12) 280	(11) 345	(8) 240				0
		80								
岡山城東	普通	320	* 56	264	309	264				0
西大寺	普通	(8) 160	(-) -	(8) 178	(14) 269	(8) 160				0
	国際情報	40	* 22			18				0
	商業	80	64	16	32	16				0
瀬戸	普通	(32) 160	(9) 80	(23) 80	(24) 81	(23) 78	2	0	0	2
高松農業	農業科学	40	32	8	7	8				0
	園芸科学	40	32	8	10	8				0
	畜産科学	40	32	8	8	7	1	0	0	1
	農業土木	40	27	13	4	8	5	2	2	3
	食品科学	40	32	8	18	8				0
興陽	農業	40	32	8	20	8				0
	農業機械	40	32	8	10	8				0
	造園デザイン	40	32	8	17	8				0
	家政	40	32	8	20	8				0
	被服デザイン	40	32	8	19	8				0
瀬戸南	生物生産	40	32	8	7	8				0
	園芸科学	40	32	8	14	8				0
	生活デザイン	40	32	8	9	7	1	0	0	1
岡山工業	機械	80	64	16	21	16				0
	電気	40	32	8	9	8				0
	情報技術	40	32	8	13	8				0
	化学工学	40	32	8	13	8				0
	土木	40	32	8	8	8				0
	建築	40	32	8	11	8				0
	デザイン	40	32	8	33	8				0
東岡山工業	機械	200	64	40	64	40				0
	電子機械		64							
	電気		32							
	設備システム	40	32	8	14	8				0
工業化学	40	32	8	8	8				0	
岡山東商業	ビジネス創造	320	192	64	133	64				0
	情報ビジネス		64							

学校名	科名 〈コース〉 系列名	募集定員	特 別 入 学 合 格 者 数	一 般 入 学 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	第 2 次 募 集			不 足 数
							募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	
岡 山 南	商 業	80	64	16	41	16				0
	国 際 経 済	40	32	8	13	8				0
	情 報 処 理	80	64	16	19	16				0
	生 活 創 造	80	64	16	46	16				0
	服 飾 デ ザ イ ン	40	32	8	14	8				0
岡 山 御 津	キ ャ リ ア デ ザ イ ン	120	96	24	21	16	8	4	4	4
	特 別 進 学 系 列 地 域 協 働 系 列									
倉 敷 青 陵	普 通	(16)	(-)	(16)	(21)	(16)				0
	普 通	320	-	320	338	320				0
倉 敷 天 城	普 通	(5)	(-)	(5)	(5)	(5)	20	3	3	17
	理 数	200	* 92	108	90	88				
倉 敷 南	普 通	(16)	(-)	(16)	(7)	(7)				0
	普 通	320	-	320	335	320				0
倉 敷 古 城 池	普 通	(14)	(-)	(14)	(3)	(3)				0
	普 通	280	-	280	306	280				0
倉 敷 中 央	普 通	80	-	120	128	80				0
	普 通 〈 子 ど も 〉	40	20			20				0
	普 通 〈 健 康 ス ポ ー ツ 〉	40	20			20				0
	家 政	40	32	8	12	8				0
	看 護	40	32	8	7	7	1	0	0	1
	福 祉	40	32	8	4	4	4	0	0	4
玉 島	普 通	(10)	(-)	220	(10)	(9)				0
	理 数	200	-			200				
倉 敷 鷲 羽	普 通	120	60	60	45	42	18	3	3	15
	ビ ジ ネ ス	40	31	9	4	4	5	2	1	4
倉 敷 工 業	機 械	80	64	16	11	11	5	2	2	3
	電 子 機 械	80	64	16	16	16				0
	電 気	80	64	16	13	12	4	0	0	4
	工 業 化 学	40	27	13	8	8	5	0	0	5
	テ キ ス タ イ ル 工 学	40	32	8	10	8				0
水 島 工 業	機 械	80	64	16	34	16				0
	電 気	80	64	16	18	16				0
	情 報 技 術	40	32	8	7	8				0
	工 業 化 学	40	32	8	13	8				0
	建 築	40	32	8	14	8				0
倉 敷 商 業	商 業	320	150	80	160	80				0
	国 際 経 済 情 報 処 理		30 60							
玉 島 商 業	ビ ジ ネ ス 情 報	160	128	32	49	32				0
津 山	普 通	(7)	(-)	(7)	(2)	(2)	14	1	1	13
	理 数	200	* 55	145	137	131				
津 山 東	普 通	120	-	120	144	120				0
	食 物 調 理	40	30	10	13	10				0
	看 護	40	30	10	15	10				0

学校名	科名 〈コース〉 系列名	募集定員	特 入 学 等 合格者数	一般入学 募集人員	志願者数	合格者数	第 2 次 募 集			不足数
							募集人員	志願者数	合格者数	
津山工業	機 械	40	28	12	11	12				0
	ロボット電気	40	28	12	16	12				0
	工業化学	40	28	12	18	12				0
	土 木	40	28	12	14	12				0
	建 築	40	28	12	18	12				0
	デ ザ イ ン	40	28	12	10	12				0
津山商業	地域ビジネス	160	64	32	65	32				0
	情報ビジネス		64							
玉 野	普 通	(24)	(-)	(24)	(22)	(21)				
	普 通	160	-	160	175	160				0
玉野光南	普 通	120	-	120	121	119	1	0	0	1
	情 報	40	30	10	13	10				0
	体 育	80	80	0	-	-				0
笠 岡	普 通	(16)	(-)	(16)	(6)	(6)				
	普 通	160	-	160	116	115	45	2	2	43
笠岡工業	電 子 機 械	40	31	* 8	2	2	6	1	1	5
	電 気 情 報	40	20	20	2	2	18	3	3	15
	環 境 土 木	40	28	12	2	2	10	1	1	9
笠岡商業	ビジネス情報	120	96	24	28	24				0
井 原	普 通	(6)	(1)	(5)	(0)	(0)				
	普 通	120	60	60	41	38	22	1	1	21
	地域生活(グリーンライフ)	20	20	0	-	-				0
	地域生活(ヒューマンライフ)	20	20	0	-	-				0
総 社	普 通	(10)	(-)	(10)	(14)	(10)				
	普 通	200	-	200	210	200				0
総 社 南	普 通	40	32	8	15	8				0
	普 通	240	* 51	189	258	189				0
高 梁	普 通	120	60	60	48	47	13	2	2	11
	普 通	40	32	8	7	7	1	1	1	0
高梁城南	電 気	40	20	20	2	2	18	1	1	17
	デ ザ イ ン	35	28	7	10	7				0
	環 境 科 学	40	32	8	5	5	3	0	0	3
新 見	普 通	80	36	44	1	0	44	0	0	44
	生 物 生 産	30	15	15	8	8	7	0	0	7
	工 業 技 術	35	17	18	8	8	10	0	0	10
備前緑陽	総 合 学 科									
	普通進学系列	120	92	28	14	9	19	14	14	5
	健康福祉系列									
	情報・ビジネス系列									
工業技術系列										
邑 久	普 通	40	20	20	30	20				0
	生活ビジネス	80	64	16	26	16				0
勝 山	普 通	(8)	(1)	(7)	(0)	(0)				
	普 通	160	80	80	28	26	54	1	1	53
真 庭	普通(蒜山校地)	40	* 17	23	3	1	22	0	0	22
	食 農 生 産	40	25	15	3	2	13	1	1	12
	経 営 ビジネス	40	22	18	1	1	17	1	1	16
林 野	看 護	40	13	27	6	* 6	21	0	0	21
	普 通	120	60	60	19	17	43	2	1	42

学校名	科名 (コース) 系列名	募集定員	特 別 入 学 等 合 格 者 数	一 般 入 学 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	第 2 次 募 集			不 足 数
							募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	
鴨 方	総 合 学 科	120	60	60	37	31	29	2	2	27
	普通総合系列									
	デザイン・行事系列									
	介護・食物・保育系列 ビジネス系列									
和 気 関 谷	普 通	80	40	40	23	21	19	6	5	14
	キャリア探求	40	27	13	7	6	7	2	2	5
矢 掛	普 通	80	40	40	50	40				0
	地域ビジネス	40	30	10	3	4	6	1	1	5
勝 間 田	総 合 学 科	120	60	60	52	48	12	3	2	10
	森 林 系 列									
	園 芸 系 列									
	食 品 系 列									
	自 動 車 系 列 ビジネス系列									
計	(224) 10,660	(11) 4,909	(213) 5,750	(182) 6,263	(149) 5,197			62 58		495

- (注) *岡山操山高校の特別入学等合格者数は、岡山操山中学校からの入学者117名である。
*岡山城東高校の特別入学等合格者数には、海外帰国生徒のための入学者選抜の合格者2名を含む。
*西大寺高校の特別入学等合格者数は、海外帰国生徒のための入学者選抜の合格者2名を含む。
*倉敷天城高校の特別入学等合格者数には、倉敷天城中学校からの入学者116名を含む。
*津山高校の特別入学等合格者数には、津山中学校からの入学者73名を含む。
*笠岡工業高校電子機械科の一般入学募集人員は、全国募集の特別入学者選抜において、募集人員を超えた合格者が1名あるため、8名となっている。
*総社南高校の特別入学等合格者数には、海外帰国生徒のための入学者選抜の合格者1名を含む。
*勝山高校普通科(蒜山校地)の特別入学等合格者数には、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜の合格者6名を含む。
*真庭高校看護科の合格者数には、複数校志願による合格者2名を含む。
*全国募集に係る人員について、表には含まない。
*追検査について、志願者は3名、合格者は2名であった(表には計上していない)。

県立定時制

学校名	科 名 (部名)	募集定員	特 別 入 学 等 合 格 者 数	一 般 入 学 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	第 2 次 募 集			不 足 数
							募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 者 数	
烏 城	普 通(昼間)	100	50	I 期 50	70	50				0
	普 通(夜間)	40	13	II 期 27	19	11				16
計		140	63	77	89	61				16

- (注) *特別入学等合格者数には定時制課程の特別な入学者選抜の合格者数を含む。

第6表 令和6年度岡山県立高等学校特別入学者選抜等の学校・科・コース・分野別合格内定者数等
 県立全日制

(注) 各欄の()は5～30%出願に係る数値である。(人数については内書再掲)

学 校 名	科 名 〈コース〉[分野]	特 別 入 学 員 集 入 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
	系 列 名			
岡 山 一 宮	理 数	40	152	40
岡 山 城 東	普 通			
	[国 際 教 養]	30	82	30
西 大 寺	[音 楽]	25	24	24
	国 際 情 報	20	59	20
瀬 戸	商 業	64	111	64
	普 通	(16)	(35)	(9)
高 松 農 業	普 通	80	159	80
	農 業 科 学	32	39	32
	園 芸 科 学	32	51	32
	畜 産 科 学	32	42	32
	農 業 土 木	32	28	27
興 陽	食 品 科 学	32	57	32
	農 業 機 械	32	57	32
	農 業 機 械	32	40	32
	造 園 デ ザ イ ン	32	55	32
瀬 戸 南	家 政	32	66	32
	被 服 デ ザ イ ン	32	47	32
	生 物 生 産	32	43	32
岡 山 工 業	園 芸 科 学	32	45	32
	生 活 デ ザ イ ン	32	39	32
	機 械	64	98	64
東 岡 山 工 業	電 気	32	43	32
	情 報 技 術	32	49	32
	化 学 工 学	32	45	32
	土 木	32	46	32
	建 築	32	48	32
	デ ザ イ ン	32	71	32
	機 械	64	76	64
岡 山 東 商 業	電 子 機 械	64	104	64
	電 気	32	39	32
	設 備 シ ス テ ム	32	52	32
	工 業 化 学	32	41	32
岡 山 東 商 業	ビ ジ ネ ス 創 造	192	319	192
	情 報 ビ ジ ネ ス	64	78	64

学 校 名	科 名 〈コース〉[分野]	特 別 入 学 員 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
	系 列 名			
岡 山 南	商 業	64	121	64
	国 際 経 済	32	48	32
	情 報 処 理	64	102	64
	生 活 創 造	64	117	64
	服 飾 デ ザ イ ン	32	55	32
岡 山 御 津	キ ャ リ ア デ ザ イ ン	96	117	96
	特 別 進 学 系 列 地 域 協 働 系 列			
倉 敷 天 城	理 数	16	28	16
倉 敷 中 央	普 通 〈 子 ど も 〉	20	50	20
	普 通 〈 健 康 ス ポ ー ツ 〉	20	46	20
	家 政	32	58	32
	看 護	32	62	32
	福 祉	32	36	32
玉 島	理 数	20	53	20
倉 敷 鷺 羽	普 通	60	108	60
	ビ ジ ネ ス	32	35	31
倉 敷 工 業	機 械	64	77	64
	電 子 機 械	64	88	64
	電 気	64	78	64
	工 業 化 学	32	30	27
	テ キ ス タ イ ル 工 学	32	43	32
水 島 工 業	機 械	64	114	64
	電 気	64	75	64
	情 報 技 術	32	46	32
	工 業 化 学	32	45	32
	建 築	32	45	32
倉 敷 商 業	商 業	150	314	150
	国 際 経 済	30	52	30
	情 報 処 理	60	85	60
玉 島 商 業	ビ ジ ネ ス 情 報	128	193	128
津 山	理 数	22	27	22
津 山 東	食 物 調 理	30	45	30
	看 護	30	46	30
津 山 工 業	機 械	28	37	28
	ロ ボ ッ ト 電 気	28	35	28
	工 業 化 学	28	44	28
	土 木	28	41	28
	建 築	28	50	28
	デ ザ イ ン	28	39	28

学 校 名	科 名 〈コース〉[分野]	特 別 入 学 員 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
	系 列 名			
津 山 商 業	地 域 ビ ジ ネ ス	64	110	64
	情 報 ビ ジ ネ ス	64	90	64
玉 野 光 南	情 報	30	58	30
	体 育	80	108	80
笠 岡 工 業	電 子 機 械	32	38	31
	電 気 情 報	32	25	20
	環 境 土 木	32	30	28
笠 岡 商 業	ビ ジ ネ ス 情 報	96	133	96
井 原	普 通	(3)	(1)	(1)
	地 域 生 活 〈グリーンライフ〉	60	95	60
	地 域 生 活 〈ヒューマンライフ〉	20	22	20
総 社	家 政	20	30	20
	普 通	32	53	32
総 社 南	普 通			
	[国 際]	25	58	25
高 梁	[美 術 工 芸]	25	30	25
	普 通	60	106	60
高 梁 城 南	家 政	32	41	32
	電 気	30	21	20
	デ ザ イ ン	28	41	28
新 見	環 境 科 学	32	34	32
	普 通	40	38	36
	生 物 生 産	15	22	15
備 前 緑 陽	工 業 技 術	17	26	17
	総 合 学 科	96	103	92
	普 通 進 学 系 列			
	健 康 福 祉 系 列			
情 報 ・ ビ ジ ネ ス 系 列				
邑 久	工 業 技 術 系 列			
	普 通	20	45	20
勝 山	生 活 ビ ジ ネ ス	64	93	64
	普 通	(4)	(1)	(1)
真 庭	普 通 (蒜 山 校 地)	80	101	80
	食 農 生 産	12	13	11
	経 営 ビ ジ ネ ス	30	27	25
林 野	看 護	30	22	22
	普 通	30	15	13
林 野	普 通	60	71	60

学 校 名	科 名 〈コース〉[分野]	特 別 入 学 員 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
	系 列 名			
鴨 方	総 合 学 科	60	102	60
	普 通 総 合 系 列			
	デ ザ イン ・ イ ラ ス ト 系 列			
	介 護 ・ 食 物 ・ 保 育 系 列 ビ ジ ネ ス 系 列			
和 気 閑 谷	普 通	40	54	40
	キ ャ リ ア 探 求	32	30	27
矢 掛	普 通	40	86	40
	地 域 ビ ジ ネ ス	32	32	30
勝 間 田	総 合 学 科	60	105	60
	森 林 系 列			
	園 芸 系 列			
	食 品 系 列			
	自 動 車 系 列 ビ ジ ネ ス 系 列			
計		(23) 4,677	(37) 7,098	(11) 4,592

※全国募集に係る人員について、表には含まない。

県立定時制

学 校 名	科 名 (部 名)	特 別 入 学 員 募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
烏 城	普 通 (昼 間)	50	120	50
	普 通 (夜 間)	12	16	12
計		62	136	62

海外帰国生徒のための入学者選抜

学 校 名	科 名	募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
岡 山 一 宮	普 通	若干名	0	0
	理 数	若干名	0	0
岡 山 城 東	普 通	若干名	4	2
西 大 寺	国 際 情 報	若干名	2	2
総 社 南	普 通	若干名	2	1
計			8	5

連携型中高一貫教育に係る入学者選抜

学 校 名	科 名	募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
勝 山	普 通 (蒜山校地)	40以内	6	6

定時制課程の特別な入学者選抜

学 校 名	科 名(部 名)	募 集 人 員	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
烏 城	普 通(昼 間)	若 干 名	0	0
	普 通(夜 間)	若 干 名	1	1
	計		1	1

第7表 令和6年度岡山県立高等学校入学者選抜の学校・科別全国募集志願者数及び合格者数等
県立全日制

特別入学者選抜

学 校 名	科 名<コース>	特 別 入 学 員 募 集	志 願 者 数	合 格 内 定 者 数
笠 岡 工 業	電 子 機 械	4	5	5
	電 気 情 報	4	1	1
	環 境 土 木	4	1	1
笠 岡 商 業	ビ ジ ネ ス 情 報	12	5	4
井 原	普 通	8	3	0
	地域生活<グリーンライフ>	}	0	0
	地域生活<ヒューマンライフ>		1	1
高 梁 城 南	電 気	2	0	0
	デ ザ イ ン	5	1	1
	環 境 科 学	2	1	1
新 見	普 通	8	0	0
	生 物 生 産	6	0	0
	工 業 技 術	7	0	0
勝 山	普 通(蒜山校地)	4	0	0
真 庭	看 護	4	1	1
林 野	普 通	10	1	1
鴨 方	総 合 学 科	8	4	3
和 気 閑 谷	普 通	8	6	6
	キ ャ リ ア 探 求	4	0	0
矢 掛	普 通	6	0	0
	地 域 ビ ジ ネ ス	4	0	0
	計	114	30	25

一般入学者選抜

学校名	科名〈コース〉	一般入 募集人員	志願者数	合格者数
笠岡工業	電子機械	0	—	—
	電気情報	3	0	0
	環境土木	3	0	0
笠岡商業	ビジネス情報	8	0	0
井原	普通	12	2	2
	地域生活〈グリーンライフ〉	}	0	0
	地域生活〈ヒューマンライフ〉		0	0
高梁城南	電気	2	0	0
	デザイン	4	0	0
	環境科学	1	0	0
新見	普通	8	0	0
	生物生産	6	0	0
	工業技術	7	0	0
勝山	普通（蒜山校地）	4	0	0
真庭	看護	3	0	0
林野	普通	11	0	0
鴨方	総合学科	9	0	0
和気閑谷	普通	2	0	0
	キャリア探求	4	0	0
矢掛	普通	8	0	0
	地域ビジネス	4	0	0
計		102	2	2

4 学力検査問題の自校作成

受検者の学力や適性等に、よりきめ細かく応じた選抜を実施するため、平成16年度入学者選抜から、一般入学者選抜の学力検査問題を各高等学校が独自に作成することができることとした。

(1) 作成形態

国語、社会、数学、理科、英語の全ての教科又は一部の教科の学力検査問題を作成する。

当該教科については、全問を作成する。

(2) 出題範囲

平成29年文部科学省告示第64号の中学校学習指導要領に示された目標及び範囲内で出題する。

(3) 実施対象

学科・コースの単位で実施する。

(4) 満点及び検査時間

県教育委員会作成問題と同一とする。

(5) 令和6年度入学者選抜における実施校及び実施教科

岡山朝日高等学校（国語、数学、英語）

英語は聞き取り検査を含む。

■第4節 高等学校教育体制の整備

平成31年2月に策定した県立高等学校教育体制整備実施計画に基づき、計画的・段階的に取組を進めている。

1 高等学校の魅力づくり

(1) 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画を踏まえて、令和元年度から令和3年度まで実施した高等学校魅力化推進事業の検証結果を踏まえ、高校と自治体の更なる連携強化等により、小規模校等の更なる魅力化・特色化を進め、県内外からの志願者の増加を図るため、指定校については、コンサルタント業者等の支援によるカリキュラム開発等を行うとともに、準指定校については、コーディネーターを配置することで、地域連携の更なる強化と生徒の学びの充実を推進する。

指定期間

令和4年度から令和5年度までの2年間

指定校、準指定校

〔指定校〕

勝山高等学校（蒜山校地）、和気閑谷高等学校、矢掛高等学校

〔準指定校〕

岡山御津高等学校、邑久高等学校、真庭高等学校、林野高等学校、勝間田高等学校

(2) 高校生探究フォーラム

総合的な探究の時間や課題研究等で、外部との連携等を通して特色ある取組を実施している学校がステージ発表及びポスターセッションを実施することにより、他校との情報共有や今後の取組の参考とするとともに、企業や大学の関係者等を招くことで、高校生に実社会とのつながりを持たせ、学びを深めることを支援する。

2 県立高等学校教育体制整備実施計画の推進

平成31年2月に策定した岡山県立高等学校教育体制整備実施計画に基づき、再編整備基準を定め、魅力化・活性化に取り組んだ。

なお、令和4年12月に、今後の更なる再編整備が及ぼす影響の大きさを鑑み、県教育委員会の責任として、同一市町に県立高等学校が1校となっている場合は、現在の実施計画の期間中（令和10年度まで）は、当該校への再編整備基準の適用を保留するという再編整備基準の適用方針を策定した。

(1) 複数校地解消に向けた検討

複数校地をもつ井原高等学校、新見高等学校、真庭高等学校について、今後の生徒数減少により、小規模校化が見込まれる中、教育活動や学校運営上の支障が生じることから、複数校地の解消を図ることとし、各校の校地の整備方針に基づき、井原高等学校については、令和4年度末に、新見高等学校及び真庭高等学校については、令和5年度末に複数校地を解消した。

(2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

地域や学校の特色に応じた教育内容の充実、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域と学校の実態に応じて、県立学校にコミュニティ・スクールを導入することができるよう、規則の制定を行い、令和元年12月に、県立学校初のコミュニティ・スクールを和気閑谷高等学校に導入した。

令和4年度までに14校、令和5年度からは4校（倉敷鷺羽高等学校、笠岡高等学校、笠岡工業高

等学校、笠岡商業高等学校)において導入しており、引き続き、地域と学校の実態に応じて積極的に導入を検討することとしている。

(3) 新しいタイプの全日制高等学校づくり

不登校経験者が急増していることを踏まえ、令和7年度から、多様な学習ニーズに対応する一つの手段として、学校間連携を活用することで、不登校経験者が全日制高校を卒業しやすくする仕組み(フレックス制)を設け、不登校経験者を対象とした新たな入学者選抜制度を導入するとともに、この制度を岡山御津高等学校において、運用することとした。これにより、多様な価値観を持った生徒が、ともに学び、互いを尊重しながら、自己の伸長を図るとともに、他者と協働して社会に貢献できる人材を育成する新しいタイプの学校を目指し、特色ある高校づくりを推進する。

■第5節 学校運営の改善

1 学校評議員設置

県立学校に「学校評議員」を設置し、学校運営や教育内容について、保護者や地域住民、学識経験者等の意向を把握し反映することにより、一層開かれた学校づくりを推進した。

なお、18の高等学校(瀬戸南、岡山御津、倉敷鷺羽、津山東、津山商業、玉野、笠岡、笠岡工業、笠岡商業、井原、高梁城南、備前緑陽、邑久、林野、鴨方、和気閑谷、矢掛、勝間田)については、令和5年度末までにコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)に移行した。

2 危機管理への対応

(1) 岡山県教育委員会危機管理対策本部会議

ア 所掌事項

- (ア) 事故等の予知・予測及び未然防止に向けた取組に関すること。
- (イ) 学校等における危機管理体制の整備及び教職員の研修に関すること。
- (ウ) 重大事故等発生時の学校等及び市町村教育委員会に対する指導、助言その他の現地における支援又は情報の収集に関すること。

イ 組織

- 本部長…教育長
- 副本部長…教育次長(2名)
学校教育推進監
- 本部員…各課(室)長(13名)

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

ア 県立学校等における感染症対策

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う衛生管理マニュアルの改定を踏まえ、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、学校における新型コロナウイルス感染症対策の見直しを行った。県立学校の教育活動を継続するに当たり、各学校が換気対策に必要な物品や、感染症対策に必要な保健衛生用品等を購入するための予算を配分するとともに、児童生徒の密集状態を緩和するため、特別支援学校のスクールバスを増便した。

イ ICT環境整備

GIGAスクール構想の早期実現を目指すとともに、臨時休業時においても児童生徒の学びを保障するため、児童生徒1人1台端末や高速大容量の通信環境の整備等を行い、個別最適な学習を実

現する取組を一層進めるため、情報機器等の整備により、学校ICT環境のさらなる高度化を図った。

(3) 平成30年7月豪雨災害への対応

ア 児童生徒の心のケア

被災した児童生徒の心のケアのため、児童生徒の実態把握を行うとともに、必要に応じて、スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）を学校に派遣した。

また、被災した学校や避難所が設置された学校を中心に教職員の加配を実施し、担任とともに授業を行ったり、被災により学習に遅れがある児童生徒や心のケアが必要な児童生徒への個別指導を行ったりするなど、児童生徒へのきめ細かな指導を徹底した。

イ 文化財の復旧

文化財の復旧に向けては、現地調査を実施するとともに、県文化財等救済ネットワークを活用して関係機関との情報共有のための会議を開催するなど、早期の復旧に向け、支援を実施した。

被災した文化財のうち名勝等の自然系ものは復旧になじみにくい面もあり、復旧計画の立案や復旧工事等に時間を要しているが、被害を受けた文化財29件のうち24件の復旧が完了（令和6年3月末現在）し、引き続き復旧に向け、市町村等の取組を支援していく。

(4) 「災害時学校支援チームおかやま」の設置

平成30年7月豪雨災害の経験と教訓を生かし、令和4年3月に、災害対応の研修を受けた教職員11名で構成する「災害時学校支援チームおかやま」を発足した。本チームは、大規模災害が発生した場合に、被災地の学校で、避難所運営や教育活動の早期再開、児童生徒の心のケアを支援するとともに、平時には、学校等における防災体制の整備や防災教育の推進をする。

令和4年度から毎年、県教育委員会主催の養成講座（「初級編」「中学編」「上級編」）を開催し、講座修了者にチーム員を委嘱している。令和4年度は51名、令和5年度は46名がチームに加わり、合計108名（令和5年度末時点）の教職員等が登録されている。

令和6年1月に発生した能登半島地震において、チーム設置後初となる被災地派遣を行った。約1か月間にわたり、延べ29名のチーム員を石川県七尾市に派遣し、避難所となっている学校の再開に向けた環境整備や児童生徒・教職員の心のケアを支援する活動を行った。

■第6節 高等学校卒業程度認定試験

高等学校卒業程度認定試験は、高等学校を卒業していない者等に対し、高等学校卒業程度認定試験規則の定めるところにより、その学習成果を適切に評価し、高等学校卒業者と同等以上の学力があるかどうかを文部科学大臣が認定する試験制度である。昭和26年から実施されていた「旧大検」が平成17年度より、「高等学校卒業程度認定試験」として新名称で実施されることとなり、全日制高等学校等在籍中の者も受験が可能となった。

定められた必要科目に合格すれば、文部科学省から大学等の受験資格が付与されるだけでなく、高等学校卒業者と同等以上の学力がある者として認定され、就職・各種資格試験等に活用することができる。

この試験は、各都道府県に試験会場を設け、文部科学省が全国一斉に実施している。

令和5年度は、第1回を8月3日(木)・4日(金)の2日間、県立烏城高等学校を会場に、第2回を11月4日(土)・5日(日)の2日間、県立烏城高等学校を会場に、186人が受験し、全科目合格者は92人、合格率は約49.5%であった。

令和5年度高等学校卒業程度認定試験受験状況 (単位：人)

	出願者	受験者	合格者
第1回	104	89	45
第2回	113	97	47
計	217	186	92

■第7節 技能教育施設の指定

専修学校自由高等学院及び英数学館岡山校を技能教育施設に指定し、それぞれクラーク記念国際高等学校広域通信制課程、並木学院高等学校広域通信制課程との間で技能連携を行っている。

■第8節 施設・設備の概要

1 学校施設の整備

(1) 国庫負担金・交付金事業の概要

(平成18年度から補助金を廃止し、安全・安心な学校づくり交付金を創設。平成23年度から、学校施設環境改善交付金に制度改正) 国の公立学校施設整備費令和5年度当初予算は687億円で、前年度当初予算688億円と比べ1億円減額となっている。

また、全国の学校施設等の耐震化・老朽化対策、国土強靱化及び脱炭素化等を一層推進するため、補正予算で1,558億円が措置された。

岡山県に対する国庫負担金及び交付金の交付状況は、第1表のとおりで、総額で約33億円(242事業2,835㎡)となっている。

(2) 市町村立学校建物整備状況

令和5年度に新築、増築及び改築した小中学校等の校舎等は、第2表のとおりである。

第1表 公立学校施設整備費国庫負担金・交付金交付状況

事業名	令和5年度			令和4年度			増減		
	事業数	面積 ㎡	金額 千円	事業数	面積 ㎡	金額 千円	事業数	面積 ㎡	金額 千円
小中学校等校舎新增築				1	1,440	167,837	△1	△1,440	△167,837
小中学校等統合に伴う校舎等新增築	1	1,202	159,849	3	8,981	1,137,040	△2	△7,779	△977,191
特別支援学校小中学部校舎等新增築				1	550	71,964	△1	△550	△71,964
(負担金計)	1	1,202	159,849	5	10,971	1,376,841	△4	△9,769	△1,216,992
危険建物改築	2	966	210,355	2	1,144	157,765		△178	52,590
不適格建物改築	2	667	145,245	1	573	84,330	1	94	60,915
長寿命化改良事業	14		338,300	13		359,541	1		△21,241
大規模改造事業(老朽)				3		59,742	△3		△59,742
大規模改造事業(教育内容)	65		368,438	35		179,196	30		189,242
大規模改造事業(トイレ)	47		441,850	59		528,694	△12		△86,844
大規模改造事業(空調)	21		107,113	70		407,572	△49		△300,459
大規模改造事業(バリアフリー)	13		43,508	8		27,027	5		16,481
大規模改造事業(その他)	23		56,537	6		54,880	17		1,657
学校統合に伴う既存施設改修	11		310,138	5		186,647	6		123,491
屋外教育環境施設整備	3		35,012	2		9,752	1		25,260
学校体育諸施設整備	1		18,042	3		31,069	△2		△13,027
学校給食施設整備	3		583,088	5		80,814	△2		502,274
防災機能強化事業	34		514,057	33		418,206	1		95,851
太陽光発電等導入事業	2		8,962	2		5,050			3,912
(学校施設環境改善交付金計)	241	1,633	3,180,645	247	1,717	2,590,285	△6	△84	590,360
公立学校災害復旧									
合計	242	2,835	3,340,494	252	12,688	3,967,126	△10	△9,853	△626,632

第2表 市町村立学校建築整備状況

(単位：㎡)

学校種別	学校数	校舎			屋内運動場			計		
		新增築	改築	計	新增築	改築	計	新增築	改築	計
小学校	校									
中学校	1		1,633	1,633					1,633	1,633
義務教育学校	1	1,202		1,202				1,202		1,202
計	2	1,202	1,633	2,835				1,202	1,633	2,835

(3) 県立学校施設の整備

ア 令和5年度建物の整備状況

令和5年度に新築、増築及び改築した建物はなかった。

イ 令和5年度長寿命化改修の実施状況

学校名	決算額(円)	財源内訳(円)		区分	施設・設備の内訳
		国庫支出金	県費・その他		
倉敷天城	467,046,690		467,046,690	校	長寿命化改修工事【4～5年度事業】
岡山芳泉	365,411,180		365,411,180	校	長寿命化改修工事【4～5年度事業】
高松農業	250,799,628		250,799,628	校	長寿命化改修工事【5～6年度事業】

[備考] 特… 特別支援学校校舎整備 校… 県立高等学校校舎等整備

事業名	実施内容	決算額(円)
長寿命化改修工事実施設計	3校(岡山操山、岡山工業、早島支援)	37,191,000

ウ 令和5年度災害復旧工事の実施状況

該当なし

(4) ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業

平成29年度～令和5年度における寄附状況は次表のとおりである。

	目標設定額 (円)	寄附金額(円)	
		うち個人	企業等
平成29年度	266,028,660	29,676,000	4,961,000
平成30年度		51,850,059	37,581,160
令和元年度		54,462,826	21,005,826
令和2年度		49,030,055	4,484,000
令和3年度		21,588,744	5,327,744
令和4年度		22,644,100	2,857,100
令和5年度		36,109,508	6,154,191
合計		265,361,292	82,371,021

※目標設定額は、令和6年3月31日までの累計額

2 産業教育に関する設備等の整備

(1) 概要

高等学校における産業教育の振興を図るため、産業社会の進展に伴う教育内容の変化及び指導方法の改善に対応することができるよう、産業教育のための施設・設備整備を計画的に進めている。

ア 一般施設

農業、工業、商業、家庭、看護、情報若しくは福祉に関する学科又は総合学科(職業科目を25単位以上開設している場合に限る。)を設置している高等学校に対し、産業教育に必要な施設の充実を図るものである。

令和5年度の現有状況は第1表のとおりである。

第1表 高等学校産業教育施設整備の状況

(令和6年3月31日現在)

設置区分	基準総面積 ㎡	現有総面積 ㎡	現有率 %
県立	381,570	122,667	32.1
市立	52,460	5,859	11.2
合計	434,030	128,526	29.6

イ 基準設備

平成17年度から国庫補助制度が廃止されたが、引き続き農業、工業、商業、家庭、看護、情報若しくは福祉に関する学科又は総合学科(職業科目を25単位以上開設している場合に限る。)を設置している高等学校に対し、産業教育に必要な設備の充実を図るものである。

令和5年度の整備後の現有状況は第2表のとおりである。

第2表 高等学校産業教育設備整備の状況

(令和6年3月31日現在)

設置区分	基準総額	現有総額	現有率
	千円	千円	%
県立	32,976,365	6,044,080	18.3
市立	4,769,262	239,426	5.0
合計	37,745,627	6,283,506	16.6

3 理科教育振興法等による整備

(1) 理科教育等設備の整備

理科教育振興法に基づき、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の理科教育設備等の整備実施を目的とするもので、令和5年度における補助事業の概要は次のとおりである。

第1表 理科教育等設備補助事業の概要（県立学校分のみ）

(令和6年3月31日現在)

区分	理科設備		算数・数学設備	
	交付補助金額	交付学校数	交付補助金額	交付学校数
	千円	校	千円	校
中学校・中等教育学校	322	1	0	0
高等学校	8,502	36	0	0
特別支援学校	206	4	0	0
計	9,030	41	0	0

第2表 令和5年度理科教育等設備の整備（県立学校分のみ）

理科設備

(単位：千円)

区分		中学校・中等教育学校	高等学校	特別支援学校	
基準金額(A)		86,110	5,287,152	1,033,254	
4年度末現有金額		33,681	1,088,205	45,382	
当該年度末の 整備状況	補助対象	補助金交付額	322	8,502	206
		設置者負担額	448	10,261	214
		合計(B)	770	18,763	420
	補助対象外合計額(C)	0	464	0	
	補助対象と補助対象外の合計額(B)+(C)	770	19,227	420	
廃棄等による処分額		156	3,993	99	
当該年度末の 現有状況	現有金額(D)	34,295	1,103,439	45,703	
	百分率 $D/A \times 100$	39.8	20.9	4.4	

算数・数学設備

(単位：千円)

区 分		中学校・中等教育学校	高 等 学 校	特別支援学校
基 準 金 額 (A)		5,600	121,316	28,046
4 年 度 末 現 有 金 額		0	10,876	127
当該年度末における整備状況	補助対象	補 助 金 交 付 額	0	0
		設 置 者 負 担 額	0	0
		合 計 (B)	0	0
	補 助 対 象 外 合 計 額 (C)	0	0	0
	補 助 対 象 と 補 助 対 象 外 の 合 計 額 (B)+(C)	0	0	0
廃 棄 等 に よ る 処 分 額		0	0	0
当該年度末の現有状況	現 有 金 額 (D)	0	10,876	127
	百 分 率 $D/A \times 100$	0	9.0	0.5

4 へき地教育振興法による整備

(1) スクールバス・ボート購入費

へき地及びへき地に準ずる地域における学校統合等による遠距離通学児童・生徒の通学条件の緩和を図るため、昭和34年度から国は、通学に使用するスクールバス・ボートを購入する市町村に対し、その購入費の半額を補助してきている。

令和5年度は、備前市が1,860千円の補助金交付を受けている。

■第9節 教職員の人事管理

1 教職員定数・同配当基準

(1) 教職員定数

(単位：人)

区 分	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校		特別支援学校
			全 日 制	定 時 制	
計	4,909 (△58)	2,669 (△19)	2,769 (△18)	204 (△7)	1,257 (23)
校長・教員	4,260 (△46)	2,379 (△20)	2,461 (△16)	202 (△7)	1,119 (18)
養護(助)教諭	290 (△6)	120 (2)	69 (0)	1 (0)	26 (1)
事務職員	293 (△4)	138 (△1)			
栄養教諭	66 (△2)	32 (0)			
実習助手			239 (△2)	1 (0)	30 (0)
寄宿舎指導員					82 (4)

(注) 1 () 内の数字は対前年度増減 (△減)。

2 実習助手以外の「その他職員」は除く。

※このほか、県独自の施策として、小1 グッドスタート支援事業で (116人)、中学校第1学年の学級編制の弾力化で6人、不登校対策のための教員派遣事業で (38人)、高校エキスパート活用事業で (118人) を配置した。() 内は非常勤職員外数。

※平成21年度から岡山市が政令指定都市に移行したため、岡山後楽館高等学校の教職員数が除かれている。

※平成29年度から岡山市が小中学校の教職員給与を負担することとなったため、定数から岡山市分が除かれている。

※中学校には、中等教育学校前期課程を含んでいる。

(2) 教職員配当基準

ア 校長・教員学級数

(単位：人)

学級数	配当数		学級数	配当数		学級数	配当数	
	小	中		小	中		小	中
1	2	3	17	21	27	33	38	51
2	3	6	18	22	28	34	39	52
3	4	8	19	23	30	35	40	53
4	6	9	20	24	32	36	41	54
5	7	10	21	25	33	37	42	56
6	8	11	22	26	35	38	43	57
7	9	13	23	27	36	39	44	58
8	11	14	24	28	37	40	45	59
9	12	16	25	29	39	41	46	60
10	13	18	26	30	40	42	47	61
11	14	19	27	31	42	43	48	63
12	15	20	28	32	43	44	49	64
13	17	21	29	33	45	45	50	66
14	18	23	30	34	46	46	51	67
15	19	24	31	35	48	47	52	68
16	20	26	32	36	49	48	53	70

※学級数は、通常の学級数とし、特別支援学級を設置する学校には、配当数に特別支援学級の数を加えた教職員を配置する。

イ 養護教諭

小学校・義務教育学校前期課程

- ・原則として前年度配置校に1人配置
- ・複数校地から義務教育学校1校になる場合は、1人のみ配置
(851人以上の学校への複数配置については別に検討)

中学校・義務教育学校後期課程

- ・原則として前年度配置校に1人配置
- ・複数校地から義務教育学校1校になる場合は、1人のみ配置
(801人以上の学校への複数配置については別に検討)

ウ 事務職員

小学校・義務教育学校前期課程

- ・原則として前年度配置校に1人配置
- ・複数校地から義務教育学校1校になる場合は、1人のみ配置
(27学級以上の学校への複数配置については別に検討)

中学校・義務教育学校後期課程

- ・原則として前年度配置校に1人配置
- ・複数校地から義務教育学校1校になる場合は、1人のみ配置
(21学級以上の学校への複数配置については別に検討)

エ 学校栄養職員

小・中学校・義務教育学校

- ・原則として前年度配置校に1人配置

共同調理場

- ・原則として前年度配置校に1人配置
(1,501人以上の共同調理場への複数配置については別に検討)

2 教職員の採用と人事異動**(1) 教職員の採用**

令和5年度新採用教職員は次のとおりである。

区 分	小 学 校	中 学 校	高等学校	特支学校	計
教 員	196 (183)	96 (90)	63 (65)	41 (38)	396 (376)
養 護 教 諭	8 (10)	2 (3)	1 (1)	0 (2)	11 (16)
事 務 職 員	7 (15)	4 (1)			11 (16)
栄 養 教 諭	0 (0)				
計	211 (208)	102 (94)	64 (66)	41 (40)	418 (408)

(注) 岡山市を除く

() 内の数字は前年度分

教員の採用は、教員採用候補者選考試験の結果、候補者名簿に登録した者によって行った。

(2) 令和6年度教員採用候補者選考試験

令和6年度教員採用候補者選考試験は、豊かな経験や高い専門性を有し、教員としての強い使命感、責任感を持った優秀な人材の確保に努めた。

第1次試験を、令和5年7月8日、9日、15日、16日の4日間で、岡山朝日、岡山操山、倉敷商業、

岡山大安寺中等教育の各県立学校及び岡山県庁分庁舎を会場に実施した。また、第2次試験は、8月19日～23日の5日間で、岡山工業、岡山東商業、岡山南、烏城の各県立学校及び県生涯学習センターを会場に実施した。

受験者及び採用候補者数は第1表のとおりである。

全体の受験倍率は、前年度4.2倍よりも低下し、3.6倍となった。また、栄養教諭については募集を行わなかった。

第1表 教員採用候補者選考試験結果

区 分	受験者数	採用候補者数
計	1,607 (1,892)	444 (451)
小 学 校	456 (623)	200 (223)
〔小学校(理数枠)〕	7 (14)	3 (5)
〔小学校(英語枠)〕	7 (9)	3 (1)
〔小学校(地域枠)〕	37 (45)	20 (19)
〔小学校(社会人枠)〕	2 (2)	2 (0)
中 学 校	414 (481)	102 (109)
〔中学校(地域枠)〕	39 (35)	15 (15)
〔中学校(社会人枠)〕	1 (0)	0 (0)
高 等 学 校	475 (489)	80 (65)
特 別 支 援 学 校	101 (138)	47 (42)
〔特別支援学校(社会人枠)〕	1 (1)	0 (1)
養 護 教 諭	161 (161)	15 (12)
〔養護教諭(地域枠)〕	8 (6)	2 (2)
栄 養 教 諭	— (—)	— (—)
身体に障害のある者を対象とした選考	2 (0)	0 (0)

(注1) () 内数字は前年度分

(注2) 小学校(理数枠、英語枠、地域枠、社会人枠)、中学校(地域枠、社会人枠)、特別支援学校(社会人枠)、養護教諭(地域枠)は、それぞれ小学校、中学校、特別支援学校、養護教諭の内数

(注3) 身体に障害のある者を対象とした選考は全体の数字に含まない。

(3) 令和5年度末教員人事異動

人事異動要綱にのっとり、2,398人の異動を行った。

ア 管理職の配置登用に当たっては、市町村や校種を越えた人事交流を積極的に推進した。また、本県の教育課題に対して、これまでに培った指導力、マネジメント力で他の校長を強くリードし、県下全体の学校改革が推進するよう引き続き再任用校長を登用した。女性管理職の更なる登用に努め、管理職総数に占める女性の割合は、全県で約30.1%となった。

イ 校長のリーダーシップの下、学力向上や生徒指導等の課題解決に向け、迅速かつ組織的に対応するため、主幹教諭238人を配置した。また、校内研修体制の充実を図り、教員の指導力を一層向上させるため、指導教諭301人を配置した。

ウ 落ち着いた学習環境を確保し、きめ細かな指導の充実を図るため、小学校第1学年から小学校第5学年において35人学級を完全実施するよう教員を配置した。また、小学校英語において、質の高い教育を行うため、一定の英語力を有する小学校英語専科教員を66人配置し、兼務により175校で専科教員による指導を実施するよう努めた。また、英語以外の専科教員も140人配置し、小学校の教科担任制を推進するよう努めた。

エ 経験領域を拡大し、教員の専門性の向上、校種間の円滑な接続、特別支援教育の充実を図るため、校種間の人事交流に努めた。

オ これからの岡山県の教育を担う優秀な人材を確保し、学校の活性化を図るため、新規採用教職員441人を配置した。

※岡山市を除く。

(4) 令和5年度末校長・教員等人事異動要綱

ア 基本方針

将来を担う人づくりを行うためには、調和のとれた教育を推進し、教育水準の向上を図ることが必要であり、「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」の主旨を踏まえるとともに次の事項に留意して人事異動を行う。

- 県教育委員会としての自主性、自律性を堅持し、厳正公平を旨とするとともに、市町村教育委員会、校長との緊密な連携の下、全県の視野に立って、計画的な人事異動を推進する。
- 教職経験の領域拡大を図るため、岡山市との交流を含めた郡市を越えた広域人事交流や他県との人事交流、他校種や異なる学校規模、課程等への異動を推進する。
- 各校の活性化と教職員の資質向上を図るとともに、児童生徒数の変動や学校の新設、統廃合等に適切に対応するための人事異動を推進する。
- 落ち着いた学習環境を確保し、学力向上、不登校や暴力行為、いじめへの対応等、各校の課題に対応できるよう、教職員構成の充実に努める。

イ 重点

- キャリアステージごとに求められる資質能力の向上を図るため、若手から中堅（前半）までの早い段階での様々な地域（小・中学校の教員等の異動については他郡市）や異なる学校規模、課程等への積極的な異動を行う。
- 「社会に開かれた教育課程」の実現や、課題解決型学習の推進やICTの効果的な活用等による学ぶ力の育成に向けた、適正な人事配置や主幹教諭・指導教諭等への任用を積極的に行う。
- 中山間地域・へき地等にある学校や定時制通信制高等学校の教育及び特別支援教育の充実、グローバル人材や地域を支える人材の育成などを一層推進できるよう教職員の勤務実績等を勘案した人事異動に努める。
- 管理職等の登用に当たっては、新進の抜てきを図るとともに、女性の登用を推進する。

ウ 実施要領

(7) 転任

次の者を対象とする。

ア 同一校又は同一市町村内の学校の勤務が長期にわたる者

イ 定数・教科・年齢・勤務経歴等教職員構成の調整や更なるキャリアアップのため、必要があると認められる者

ウ 特色ある教育活動の推進のため、必要があると認められる者

エ その他人事行政上必要があると認められる者

(イ) 新採用

新採用候補者名簿に登録されている者の中から、学校や地域の状況、個々の適性、将来の教職員組織の適正化等を考慮の上、計画的な配置を行う。

(ウ) 退職

次の者を対象とする。

- ア 早期退職募集制度により認定を受けた者
- イ 一身上の都合により願い出た者
- ウ 教職員としてふさわしくないと認められる者

(イ) 再任用

再任用候補者名簿に登録されている者の中から個々の適性、配置校の教職員構成等を考慮し、適所に配置する。

(ウ) 主幹教諭・指導教諭の任用と配置

豊かな勤務経験とその実績を考慮するとともに、主幹教諭については、学校の課題を把握し、方策を立てて、改革しようとする意欲や推進力を有する者、指導教諭については、確かな学力、豊かな心の育成を推進するための高い専門性や人材育成のための優れた指導力を有する者の中から適材を積極的に任用する。また、役職定年制による主幹教諭・指導教諭についても、それまでの経験と実績を考慮し、適切に配置する。

(カ) 管理職（校長・副校長・教頭）の登用と配置

管理職は、改革へのビジョンを示し、組織を機動的に動かすことによって、目標を達成することが重要であり、次の資質能力を踏まえ、適材を登用し適所に配置する。

- ア 高い倫理性を有し、教育に対する識見と情熱を有する者
- イ 本県や学校の教育課題を把握し、改革への意欲や使命感、強いリーダーシップ、危機管理の意識を有し、課題解決型学習の推進やICTの積極的な活用を図るなど、組織的・効率的な学校経営を行うことができる者
- ウ 夢や目標を持って学びに向かう児童生徒の意欲を高めながら、知・徳・体のバランスのとれた教育を推進できる者
- エ 幅広い連携による開かれた学校づくりを行うことができる者
- オ 人材育成のための優れた指導力と適正な評価能力のある者
- カ 職務遂行に必要な心身の健康を維持している者

3 教職員の人事管理

(1) 教職員の評価制度

勤務評価は、平成24年度から「教職員の育成・評価システム」として実施しており、その勤務評価結果を昇給及び勤勉手当に反映させる人事評価制度については、管理職は平成25年度から、一般教職員は平成28年度から本格実施している。

(2) 指導力不足等教員の取扱い

平成15年1月に「指導力不足等教員の取扱いに関する規則」を定めて、その取扱いに関するシステムを整備し、平成15年度から県教育センター等で指導力向上に向けた研修を実施している。平成19年6月、教育3法の改正により、「教育職員免許法及び教育公務員特例法の一部を改正する法律」が交付され、これにより、「指導力不足等教員の人事管理システム」が法的に位置付けられるとともに、平成19年8月には、指導が不適切な教員に対する人事管理システムのガイドラインが文部科学省から出された。岡山県教育委員会としても、平成20年3月に「指導力不足等教員の取扱いに関す

る規則」を改正、平成22年8月には、指導力不足等教員の教員以外への職への任用替えについて運用通知の改正を行い、本制度を適切に運用している。

平成15年度から令和5年度までの認定の状況と研修後の認定解除の状況は、次のとおりである。

区 分	認 定	認定解除	認定解除不可		
			職種変更	退 職	そ の 他
小 学 校	43	23		16	延長4
中 学 校	11	7		3	延長1
高等学校	10	6	1	2	延長1
特支学校	2		1	1	
計	66	36	2	22	6
			30		

(3) 学校現場における働き方改革

令和2年3月に策定した規則・方針に従い、時間外在校等時間の上限「月45時間、年360時間」の遵守に向け、県教育委員会では、令和4年度から3年間で取り組む内容について取りまとめた、「学校における働き方改革重点取組」を令和4年3月に策定し、目標として月当たりの時間外在校等時間を3年間で15%以上削減（令和3年6月比）することを掲げた。

令和5年6月に実施した勤務実態調査では、学校行事の精選や、ICTを活用した業務の平準化、外部人材の積極的な活用等により、月当たりの時間外在校等時間が小学校でほぼ昨年度並み、中学校で昨年比10時間程度的大幅減、高等学校と特別支援学校で昨年度比2時間程度の減となっている。

しかしながら、時間外在校等時間の上限を超える教員が多くいることは課題であり、市町村教育委員会と共同で働き方改革の取組の方向性を示し、広く関係者に理解と協力を求めながら、学校・教師が担う業務に係る3分類の徹底や校務DXによる業務の効率化、外部人材の効果的な活用をさらに進める必要があることから、学校・県教委及び市町村教委が学校の働き方改革の方向性を共有することで、これまで当たり前だったことも含めて見直しを行うため、市町村教委とともに「岡山県公立小・中学校の働き方改革緊急宣言」を令和6年3月に発出した。

(4) 教職員の服務規律

平成28年度から教職員課に配置しているコンプライアンス専任職員2名とアドバイザー2名（臨床心理や犯罪抑止の専門家）等からなる不祥事防止対策チームを機動的に運用し、不祥事防止対策の総合的かつ効果的な取組を企画・推進した。

- ・コンプライアンス推進員を中心に、教職員の服務規律の徹底、校内研修の計画・実施、校内ルールの徹底等の取組を推進した。また、新任のコンプライアンス推進員を対象に、研修手法やリスクマネジメント等を学ぶ研修を実施した。
- ・全所属が電子申請システムにより、毎月の校内（所属内）研修の実施報告を行うことにより、取組の徹底を図った。
- ・教職員の当事者意識の更なる醸成を図る「新たな研修プログラム」のミニ研修編を作成し、各学校に配付した。
- ・全教職員が5月と10月には県内統一の不祥事防止研修をeラーニングで受講した。7月と12月は、eラーニングで活用した資料などを基にグループ協議を中心とした校内（所属内）研修に取り組んだ。
- ・県立学校のコンプライアンス推進員全員と意見交換を実施し、若手教職員とも面談を実施した。ま

た、市町村教育委員会のコンプライアンス担当者とも個別に意見交換を実施し、不祥事防止の取組内容や課題を確認、共有した。

○教職員に係る懲戒処分の状況

区 分	免職	停職	減給	戒告
令和5年度	2人	0人	0人	1人
令和4年度	1人	1人	0人	1人
令和3年度	2人	2人	0人	1人
令和2年度	1人	0人	0人	1人
令和元年度	5人	0人	0人	3人

※岡山市を除く

4 教育職員の免許状

(1) 免許状の授与

令和5年度の教育職員免許状の授与件数は、4,447件であり、その内訳は、普通免許状（専修、一種、二種）が4,111件で全授与件数の92.4%、臨時免許状が328件で7.4%、特別免許状が8件で0.2%となっている。

普通免許状の授与件数のうち、令和5年度大学院修了・大学卒業者（短期大学を含む。）に授与した件数は、専修免許状187件に対し、182件（97.3%）、一種免許状3,314件に対し、3,250件（98.1%）、二種免許状610件に対し、457件（74.9%）で普通免許状の授与件数の94.6%である。（第1表参照）

(2) 免許教科以外の教科を担当する許可について

教育職員免許法附則第2項により、当分の間、免許教科以外の教科を担当することを許可することができる。令和5年度の許可件数は、中学校10校16件、高等学校11校29件であった。

許可件数の多い教科は、中学校では技術、高等学校では工業であった。（第5表参照）

(3) 免許法認定講習

令和5年度は、夏季休業中に、現職の小学校教員、中学校教員、養護教員及び高等学校実習助手等を対象に、一種免許状取得のための教育職員免許法施行規則第35条に定める免許法認定講習を実施した。また、特別支援学校教諭一種又は二種免許状取得のための認定講習を実施した。その実施状況については、第6表のとおりである。

第1表 令和5年度教育職員免許状授与件数総括表

(令6.3.31)

区 分	計	幼稚園 教 員	小学校 教 員	中学校 教 員	高等学校 教 員	特別支援 学校教員	養護教員	自立教科 教 員	自立活動 教 員	栄養教員
計	(3,889) 4,447	(951) 1,002	(633) 786	(873) 959	(1,045) 1,171	(211) 346	(125) 128		1	(51) 54
専修免	(182) 187	(8) 8	(28) 28	(63) 65	(77) 79	(3) 4	(3) 3			
一種免	(3,250) 3,314	(539) 561	(591) 593	(798) 801	(968) 993	(206) 215	(117) 117			(31) 34
二種免	(457) 610	(404) 430	(14) 26	(12) 17		(2) 111	(5) 6			6
特別免	8		1	1	6					
臨時免	328	3	138	75	93	16	2		1	

(注) () 内は免許法別表第一、別表第二、別表第二の二による授与件数の内数

第2表 令和5年度中学校教科別授与件数

(令6.3.31)

区分	計	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	保健	技術	家庭	外国語	職業	宗教
計	(873) 959	(73) 79	(66) 77	(145) 158	(134) 142	(34) 34	(8) 15	(222) 227	(22) 22	(9) 20	(32) 44	(128) 141		
専修免	(63) 65	(6) 6	(6) 9	(12) 12	(13) 13	(3) 3		(8) 9	(1) 1	(2) 2	(3) 3	(6) 7		
一種免	(798) 801	(65) 65	(57) 58	(133) 133	(121) 121	(30) 30	(8) 8	(213) 215	(21) 21	(5) 5	(28) 28	(117) 117		
二種免	(12) 17	(2) 3	1	1		(1) 1		(1) 1		(2) 2	(1) 1	(5) 7		
特別免	1											1		
臨時免	75	5	9	12	8		7	2		11	12	9		

(注) ()内は免許法別表第一による授与件数の内数

第3-1表 令和5年度高等学校教科別授与件数(1)

(令6.3.31)

区分	計	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	書道	保健 体育	保健	外国語
計	(1,045) 1,171	(71) 78	(40) 44	(44) 50	(165) 175	(171) 180	(32) 32	(8) 8	(6) 8	(2) 3	(226) 231	(23) 23	(120) 136
専修免	(77) 79	(7) 7	(6) 7	(7) 7	(16) 16	(20) 20	(3) 3				(8) 9	(1) 1	(6) 6
一種免	(968) 993	(64) 65	(34) 36	(37) 41	(149) 150	(151) 152	(29) 29	(8) 8	(6) 8	(2) 2	(218) 220	(22) 22	(114) 114
二種免													
特別免	6												
臨時免	93	6	1	2	9	8			2	1	2		16

(注) ()内は免許法別表第一による授与件数の内数

第3-2表 令和5年度高等学校教科別授与件数(2)

(令6.3.31)

区分	看護	家庭	家庭 実習	農業	農業 実習	工業	工業 実習	商業	商業 実習	情報	情報 実習	福祉	福祉 実習	宗教
計	(3) 25	(33) 39		(1) 1		(19) 33	4	(10) 11		(65) 84		(6) 6		
専修免		(3) 3												
一種免	(3) 4	(30) 30		(1) 1		(19) 20	2	(10) 10		(65) 75		(6) 6		
二種免														
特別免	3					3								
臨時免	18	6				10	2	1		9				

(注) ()内は免許法別表第一による授与件数の内数

第4表 令和5年度特別支援学校領域別授与件数

(令6.3.31)

区 分	計	視覚障害者 に関する教育	聴覚障害者 に関する教育	知的障害者 に関する教育	肢体不自由者 に関する教育	病弱者 に関する教育
計	(613) 887	(1) 17	(5) 24	(193) 307	(207) 278	(207) 261
専修免	(11) 13	(1) 2	(1) 2	(3) 3	(3) 3	(3) 3
一種免	(596) 618		(4) 6	(188) 196	(202) 208	(202) 208
二種免	(6) 238	13	15	(2) 98	(2) 63	(2) 49
特別免						
臨時免	18	2	1	10	4	1

(注) () 内は免許法別表第一による授与件数の内数

(備考) 複数領域を定めた免許を授与している場合は、それぞれの領域に計上している。

なお、領域を追加した場合は、追加した領域のみを計上している。

第5表 令和5年度免許教科以外の教科を担当する許可件数

区 分	中 学 校					高等学校 11校
	計 10校	2学級以下 1校	3～5学級 7校	6～11学級 1校	12学級以上 1校	
計	16	1	11	3	1	29
国語						
社会						
地歴						
公民						
数学						
理科						
音楽						
美術						
保健体育	2	1	1			6
保健						
技術	12		8	3	1	
工芸						
書道						1
看護						
福祉						
家庭	2		2			4
情報						3
農業						
工業						12
商業						2
情報						
外国語						1
宗教						

第6表 令和5年度免許法認定講習の実施状況

	開設科目名	指導大学(実施会場)	受講者数	合格者数
小・中養護	生徒指導の理論及び方法	岡山大学(岡山大学)	36	36
高等学校 実習助手	食料経済学	岡山大学(岡山大学)	16	16
	土砂災害防御学	岡山大学(岡山大学)	26	26
特別支援	特別支援教育基礎論	ノートルダム清心女子大学 (オンライン)	98	97
	特別支援教育に関する基礎・基本	新見公立大学 (岡山県医師会館)	131	131
	視覚障害者の心理・生理・病理	広島大学(岡山大学)	73	71
	聴覚障害から生じる心理・生理・病理面の課題	広島大学(オンライン)	116	116
	知的障害教育総論	くらしき作陽大学 (オンライン)	138	138
	病弱児の教育	ノートルダム清心女子大学 (岡山大学)	130	130
	発達障害の心理と指導法	岡山大学(オンライン)	112	112
	障害児総論	くらしき作陽大学 (オンライン)	146	146

5 教職員の給与

(1) 一般の職員の給与に関する勧告について

ア 教員の構成及び給与

本県の教員総数(令和5年4月1日現在。期限付職員を除く。)は、9,722人で、その内訳は、小学校・中学校教育職員給料表適用者が6,214人、教育職給料表(一)適用者が3,449人、教育職給料表(二)適用者が59人である。

人員構成の状況は、市町村立小・中学校では、平均年齢40.2歳、平均経験年数17.2年、男女構成は、男2,553人(41.1%)、女3,661人(58.9%)、県立中学校では、平均年齢39.2歳、平均経験年数16.0年、男女構成は、男36人(61.0%)、女23人(39.0%)、高等学校(特別支援学校を含む。)では、平均年齢44.5歳、平均経験年数21.3年、男女構成は、男1,868人(54.2%)、女1,581人(45.8%)であった。

これらの教員が受けている平均給与月額について見ると、令和5年4月1日現在、市町村立小・中学校の教育職員は、給料月額348,288円、扶養手当7,171円、合計355,459円、県立中学校の教育職員は、給料月額350,958円、扶養手当10,898円、地域手当3,896円、合計365,752円、高等学校(特別支援学校を含む。)の教育職員は、給料月額376,447円、扶養手当9,152円、地域手当4,723円、合計390,322円であった。

イ 給与改定

(ア) 期末手当・勤勉手当

次のとおり改定された。

【給与条例の適用を受ける職員のうち再任用職員以外の職員】

区 分			6 月	12 月
改 定 前		期 末	1.200月 (1.000月)	1.200月 (1.000月)
		勤 勉	1.000月 (1.200月)	1.000月 (1.200月)
		計	2.200月 (2.200月)	2.200月 (2.200月)
改定後	令和5年度	期 末	1.200月 (1.000月)	1.250月 (1.050月)
		勤 勉	1.000月 (1.200月)	1.050月 (1.250月)
		計	2.200月 (2.200月)	2.300月 (2.300月)
	令和6年度以降	期 末	1.225月 (1.025月)	1.225月 (1.025月)
		勤 勉	1.025月 (1.225月)	1.025月 (1.225月)
		計	2.250月 (2.250月)	2.250月 (2.250月)

注：() 内は、特定幹部職員の支給割合

【再任用職員】

区 分			6 月	12 月
改 定 前		期 末	0.675月 (0.575月)	0.675月 (0.575月)
		勤 勉	0.475月 (0.575月)	0.475月 (0.575月)
		計	1.150月 (1.150月)	1.150月 (1.150月)
改定後	令和5年度	期 末	0.675月 (0.575月)	0.700月 (0.600月)
		勤 勉	0.475月 (0.575月)	0.500月 (0.600月)
		計	1.150月 (1.150月)	1.200月 (1.200月)
	令和6年度以降	期 末	0.6875月 (0.5875月)	0.6875月 (0.5875月)
		勤 勉	0.4875月 (0.5875月)	0.4875月 (0.5875月)
		計	1.1750月 (1.1750月)	1.1750月 (1.1750月)

注：() 内は、特定幹部職員の支給割合

(2) 退職手当

「岡山県職員の退職手当に関する条例」等により、県費の常勤職員が自己の都合による退職、死亡による退職、応募認定による退職、定年による退職をしたとき等に支給することになっており、令和5年度の支給状況は、次のとおりである。

適用条文	小 学 校		中 学 校		特別支援学校	
	人数(人)	金 額(円)	人数(人)	金 額(円)	人数(人)	金 額(円)
3条	165	119,634,484	73	62,850,104	33	21,225,331
4条	0	0	0	0	0	0
5条	78	1,602,043,071	34	673,056,388	26	457,259,350
その他	5	594,864	0	0	0	0
計	248	1,722,272,419	107	735,906,492	59	478,484,681

適用条文	高 等 学 校		その他(行政機関等)		計	
	人数(人)	金 額(円)	人数(人)	金 額(円)	人数(人)	金 額(円)
3条	55	50,115,948	21	23,070,353	347	276,896,220
4条	3	43,833,644	0	0	3	43,833,644
5条	48	1,128,727,684	3	73,652,752	189	3,934,739,245
その他	0	0	3	7,925,110	8	8,519,974
計	106	1,222,677,276	27	104,648,215	547	4,263,989,083

※中等教育学校は高等学校に含む。

(3) 恩 給

ア 恩給権の発生した者及び職権改定者並びに請求改定者に、それぞれ恩給を支給した。

イ 令和5年度の恩給年額の改定については、恩給の有する国家補償の性格等の諸事情を総合勘案し、据え置かれた。

ウ 恩給の支払状況

(ア) 令和5年度中の裁定及び失権数は、次のとおりである。

種別	事由	裁 定	失 権
恩 給		0件	0件
扶 助 料		0件	7件

(イ) 令和5年度中に支払った恩給費の内訳は、次のとおりである。

区 分	人数(人)	金額(円)
普通恩給	6	3,901,568
普通扶助料	25	24,488,844
計	31	28,390,412

(4) 児童手当

児童手当は、児童手当法（昭和46年5月27日法律第73号）に基づき、15歳到達後最初の3月31日までにある児童を養育している者で、所得が所得制限限度額未満の者に対して支給される。支給額は、3歳未満の児童については月額15,000円、3歳以上小学校修了前の第1子、第2子については

月額10,000円、3歳以上小学校修了前の第3子以降については月額15,000円、小学校修了後中学校修了前の児童については10,000円となっている。

所得が所得制限限度額以上所得上限限度額未満の者に対しては、特例給付として児童1人につき月額5,000円が支給される。

所得が所得上限限度額以上の者に対しては、支給されない。

所得制限限度額及び所得上限限度額は第1表のとおり、年齢区分ごとの児童手当の支払い状況は第2表のとおりである。

第1表 児童手当所得制限限度額・所得上限限度額

税法上の扶養親族の数	所得制限限度額	所得上限限度額
人	円	円
0	6,220,000	8,580,000
1	6,600,000	8,960,000
2	6,980,000	9,340,000
3	7,360,000	9,720,000
4	7,740,000	10,100,000
5	8,120,000	10,480,000
以下略		

第2表 児童手当支払状況

区 分	3歳未満	第1子、第2子 3歳以上 小学校修了前	第3子以降 3歳以上 小学校修了前	小学校修了後 中学校修了前	特例給付	計
5年度 児童人数	1,042人	2,590人	399人	788人	21人	4,840人
金 額	184,890千円	298,710千円	69,960千円	94,540千円	1,220千円	649,320千円

※児童人数は令和6年1月分支給対象人数（令和6年2月支給）。

※金額は令和5年度中の支払い額。

県費負担教職員（共済組合の一般組合員）の児童手当の認定事務は、市町村（組合）立の学校及び市立定時制高校については所轄の教育事務所、その他の県立学校、教育本庁及び教育機関については福利課で行っている。

6 教職員の健康管理

(1) 結核による休職・復職

学校保健安全法及び感染症法に基づく教職員の結核に伴う休職・復職の状況は第1表のとおりである。

第1表 結核による休職・復職の状況

区 分	3年度	4年度	5年度
	人	人	人
前年度より引続き休職	0	0	0
休 職	0	0	0
復 職	0	0	0
退 職	0	0	0
年度末現在休職中	0	0	0

(2) 生活習慣病検診

ア 循環器検診

本庁、教育事務所、教育機関及び県立学校の教職員で、新採用者、34歳以下のうち対象となる者及び35歳以上の者に対して、心電図や血液検査（貧血、肝機能、血中脂質、血糖、腎機能、尿酸）を実施した。その結果は第2表のとおりである。

第2表 心電図・血液検査の状況

区 分	受検者(a) 人	有所見者(b) 人	(b/a) %
心電図検査	4,975	1,432	28.8
貧血検査	5,423	1,655	30.5
肝機能検査	5,425	2,942	54.2
血中脂質検査	5,422	3,008	55.5
血糖検査	5,419	2,335	43.1
腎機能検査	5,397	2,264	41.9
尿酸検査	4,967	724	14.6

イ 消化器検診

本庁、教育事務所、教育機関及び県立学校の教職員のうち、35歳以上の者に対して、消化器検診を実施した。その結果は第3表のとおりである。

第3表 消化器検診の状況

区 分	受検者(a) 人	有所見者(b) 人	(b/a) %
3年度	3,759	2,402	63.9
4年度	3,931	2,390	60.8
5年度	3,920	2,503	63.9

(3) メンタルヘルス対策

教職員のメンタルヘルス対策として公立学校共済組合と連携し、一次予防から三次予防までの取組を実施した。

心の健康の保持・増進と病気の未然予防をねらいとした一次予防として、経験が浅い初任者等に対しては、日々のセルフケア・仕事の進め方等について、管理監督者に対しては、適切なラインケアに関する研修を実施した。また、同僚性の形成についての理解を深める研修講座を実施した。

メンタルヘルス不調の早期発見・早期対応をねらいとした二次予防として、精神科医・臨床心理士・教員OB・スクールカウンセラー・福利課保健師等の相談窓口を設置し、ストレスや悩みに対する相談体制の充実を図った。

さらに、退職者の円滑な職場復帰と再退職の防止をねらいとした三次予防として、退職者と所属長に対して、退職中から復職後まで継続的段階的な支援を行う「岡山県教職員復職支援システム」を平成15年度から実施している。

表1 教職員の休職者の状況

(R6.3.31現在 単位：人)

内 訳	年 度	3	4	5
病気休職者	(実人数)	121	128	132
うち精神疾患等での休職者	(実人数)	84	92	92
復職プログラム実施者	(延人数)	28	39	38
うち復職可となった者	(延人数)	24	33	37
うち復職後1年以内の再休職者	(延人数)	2	5	2

※岡山市立学校の者は含まない。

表2 主なメンタルヘルス対策事業

事 業 名	対 象	参 加 者
職場の健康づくり研修会支援事業	希望所属所等	22団体
ストレスチェック(県)	県教委所管の教職員	5,155名
こころの体温計	希望者	10,862件
こころとからだの健康相談	希望者	面接 18件 電話 92件 メール 126件
管理職サポート相談	希望者	17件
教職員サポート相談	希望者	37件
教職員ストレス相談	希望者	22件
管理職メンタルヘルス相談	希望者	12件
教職員よろず相談	希望者	46件
教職員を支える会	希望者	54件
心の居場所で元気を取り戻すグループ体験講座	希望者	26件
スクールカウンセラー等を活用した相談	希望者	139件

(4) 県立学校等への産業医の配置

県教育委員会が所管する所属における労働安全衛生管理体制の充実を図るため、50人未満の教職員が勤務する所属を含め、すべての所属に、労働安全衛生法で定める産業医を配置し、職場巡視の徹底や長時間勤務した職員に対する面接指導の実施などにより、各所属における教職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成の促進を図った。

7 教職員の福利厚生

県教育委員会・公立学校共済組合岡山支部・一般財団法人岡山県教育職員互助組合の三者が連携して実施している。

(1) 県教育委員会

教職員等生涯生活設計推進計画に基づき、生涯生活設計の確立とその実現のため、特に教職員の健康対策について重点をおき、「こころ」と「からだ」の健康を自らが確保するための諸事業を積極的に行っている。

(2) 公立学校共済組合岡山支部

岡山支部では、地方公務員等共済組合法に基づき、短期(医療)、長期(年金)の給付事業の他、保健事業、貸付事業、宿泊事業等の福祉事業を行っている。

なお、年金支給業務は、決定処理と共に本部(東京)が行っている。

ア 組合員の状況

区 分	組 合 員 数			被扶養 者 数	標準報酬(年額)		標準期末手当等(年額)	
	男	女	計		短 期	長期(厚生)	短 期	長期(厚生)
	人	人	人	人	千円	千円	千円	千円
4年度末現在	8,795 (169)	12,974 (159)	21,769 (328)	13,585 (170)	89,031,220	83,168,952	28,631,535	27,052,983
加入	740	1,349	2,089	1,698				
脱退	802	1,290	2,092	1,894				
5年度末現在	8,733 (203)	13,033 (171)	21,766 (374)	13,389 (176)	91,192,694	79,017,220	30,391,781	27,190,876

※ () は任意継続組合員数で内数、掛金の基礎給料等(年額)は任意継続組合員分を除く。

イ 短期給付事業

短期給付事業は、組合員の掛金と地方公共団体の負担金、本部からの回送金によって賄われており、令和5年度の収入額は前年度と比べて6.6%増の129億3,875万円、また、医療費等の年間給付額は、前年度と比べて11.2%増の71億2,785万円であり、収支差は58億1,090万円(内54億8,130万円は本部へ回送し高齢者医療拠出金等に充当)となった。

令和5年度の給付実績は、次のとおりである。

区 分	年 間		対前年度比 (%)	組合員1人当たり			
	件 数	金 額 (円)		件 数	金 額 (円)		
療 養 の 給 付	一 般	入院	1,908	677,450,158	17.5	0.09	31,124
		外来	154,684	1,371,844,587	14.2	7.11	63,027
	歯 科	45,148	405,259,209	11.5	2.07	18,619	
入 院 時 食 事 療 養 の 給 付	一 般	1,565	5,777,224	15.7	0.07	265	
	歯 科	15	37,488	18.9	0.00	2	
訪 問 看 護 療 養 の 給 付		73	3,640,811	45.0	0.00	167	
家 族 療 養 の 給 付	一 般	入院	1,352	479,131,263	5.0	0.06	22,013
		外来	111,867	944,921,744	10.3	5.14	43,413
	歯 科	28,483	235,150,293	10.5	1.31	10,804	
家 族 入 院 時 食 事 療 養 の 給 付	一 般	1,046	4,824,445	8.5	0.05	222	
	歯 科	8	13,225	△0.6	0.00	1	
家 族 訪 問 看 護 療 養 の 給 付		412	22,454,977	32.9	0.02	1,032	
保 高 額 療 養 の 給 付	一 般	入院	1,441	274,736,142	23.6	0.07	12,622
		外来	1,253	119,448,737	15.1	0.06	5,488
	歯 科	24	1,653,655	△30.7	0.00	76	
健 療 養 費	一 般	入院	22	980,506	33.0	0.00	45
		外来	9,036	31,345,116	10.3	0.42	1,440
	歯 科	12	104,916	1455.5	0.00	5	
入 院 時 食 事 療 養 費	一 般	2	13,500	—	0.00	1	
	歯 科	0	0		0.00	0	
給 家 族 療 養 費	一 般	入院	12	395,180	102.9	0.00	18
		外来	2,326	11,515,259	17.7	0.11	529
	歯 科	7	33,571	643.5	0.00	2	
付 家 族 入 院 時 食 事 療 養 費	一 般	3	8,600	△49.4	0.00	0	
	歯 科	0	0		0.00	0	
高 額 療 養 費	一 般	入院	393	20,498,462	△23.2	0.02	942
		外来	787	22,313,506	12.8	0.04	1,025
	歯 科	12	363,955	321.2	0.00	17	
薬 剤 支 給	本 人	84,946	496,143,872	20.0	3.90	22,794	
	家 族	66,638	333,222,412	18.7	3.06	15,309	
移 送 費	本 人	1	12,880	—	0.00	1	
	家 族	0	0		0.00	0	
出 産 費		527	257,304,278	15.7	0.02	11,821	
家 族 出 産 費		81	39,475,233	3.7	0.00	1,814	
埋 葬 料		13	650,000	116.7	0.00	30	
家 族 埋 葬 料		12	600,000	50.0	0.00	28	
合 計		514,109	5,761,325,204	13.7	23.62	264,694	
直 療 養 の 給 付	一 般	入院	7	1,290,821	△54.0	0.00	59
		外来	163	3,437,910	3.2	0.01	158
	歯 科	4	17,143	△37.3	0.00	1	
入 院 時 食 事 療 養 の 給 付	一 般	5	10,992	△65.6	0.00	1	
	歯 科	0	0		0.00	0	
保 家 族 療 養 の 給 付	一 般	入院	0	0		0.00	0
		外来	15	130,058	△28.9	0.00	6
家 族 入 院 時 食 事 療 養 の 給 付	一 般	3	31,108	—	0.00	1	
	歯 科	0	0		0.00	0	
給 高 額 療 養 の 給 付	一 般	入院	0	0		0.00	0
		外来	0	0		0.00	0
	歯 科	0	0		0.00	0	
付 合 計	一 般	入院	3	115,666	△83.4	0.00	5
		外来	7	452,475	△7.5	0.00	21
	歯 科	0	0		0.00	0	
合 計		207	5,486,173	△27.5	0.01	252	

区分	年間		対前年度比 (%)	組合員1人当たり			
	件数	金額(円)		件数	金額(円)		
休業給付	傷病手当金	630	124,546,039	11.9	0.03	5,722	
	出産手当金	5	647,226	240.7	0.00	30	
	休業手当金	1	5,730	—	0.00	0	
	育児休業手当金	5,966	1,056,858,920	△1.1	0.27	48,555	
	介護休業手当金	26	4,622,030	30.8	0.00	212	
	合計	6,628	1,186,679,945	0.3	0.30	54,520	
災害給付	弔慰金	0	0		0.00	0	
	家族弔慰金	0	0		0.00	0	
	災害見舞金	2	1,820,000	102.2	0.00	84	
	合計	2	1,820,000		0.00	84	
附加給付	家族療養費	1,245	31,755,891	3.4	0.06	1,459	
	家族訪問看護療養費	30	360,700	430.4	0.00	17	
	出産費	523	26,150,000	0.0	0.02	1,201	
	家族出産費	83	4,150,000	△2.4	0.00	191	
	埋葬料	12	300,000	100.0	0.00	14	
	家族埋葬料	12	300,000	50.0	0.00	14	
	直営保健給付家族療養費	1	32,800	—	0.00	2	
	小計	1,906	63,049,391	2.5	0.09	2,897	
	休業給付	傷病手当金	49	11,084,028	59.6	0.00	509
	小計	49	11,084,028	59.6	0.00	509	
	合計	1,955	74,133,419	8.3	0.09	3,406	
一部負担金払戻金等	3,690	98,406,837	20.3	0.17	4,521		
総計	526,591	7,127,851,578	11.2	24.19	327,476		

「—」は前年実績0

ウ 長期給付事業

(ア) 収支の状況

長期給付事業は、組合員及び地方公共団体の保険料等により賄われており、徴収した保険料等はすべて本部へ送金し、年金支給の原資とされるほか、将来の年金支給のための準備金として積み立て、運用されている。

なお、令和5年度の収入総額は269億4,258万円であり、本部送金は258億9,062万円となった。

(イ) 年金額の改定

令和4年の物価変動率（年平均の全国消費者物価指数）は、対前年比で+2.5%、賃金変動率（名目手取り賃金変動率）は、対前年比で+2.8%となった。賃金変動率が物価変動率を上回り、かつ、マクロ経済スライドによる調整が行われたため、令和5年度の年金額は、対前年比で67歳以下の者は、2.2%、68歳以上の者は、1.9%の引き上げとなった。

エ 貸付事業

貸付事業は、公立学校共済組合員（任意継続組合員を除く）の臨時の支出に対し貸し付けする制度である。令和5年度中の貸付金額は1億4,050万円、償還金額は5億654万円で、年度末の貸付総額は22億4,077万円となった。

令和5年度の貸付実績は、次のとおりである。

区 分	前年度末貸付金		本年度貸付金		本年度償還金		本年度末貸付金	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
		千円		千円		千円		千円
一 般 貸 付	461	376,602	42	55,400	84	87,724	419	344,278
住 宅 貸 付	745	1,969,298	6	45,900	111	371,263	640	1,643,935
教 育 貸 付	135	230,431	17	32,800	19	40,247	133	222,984
災 害 貸 付	4	2,388	0	0	1	918	3	1,470
医 療 貸 付	6	3,888	0	0	2	1,837	4	2,051
結 婚 貸 付	13	10,561	3	5,500	0	1,794	16	14,267
住宅災害貸付	4	10,373	0	0	0	1,843	4	8,530
葬 祭 貸 付	6	3,281	1	900	1	918	6	3,263
高額医療貸付	0	0	0	0	0	0	0	0
出 産 貸 付	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,374	2,606,822	69	140,500	218	506,544	1,225	2,240,778

オ 保健事業

組合員の健康保持増進のための健康づくりセミナー・レクリエーション活動等の各種保健事業は次のとおりである。

事業名	期日	場所	参加人数(人)	支出額(円)
脳ドック	6～12月	中国中央病院外20医療機関	1,083	55,283,118
日帰りドック	6～12月	中国中央病院外38医療機関	11,318	403,131,042
被扶養配偶者ドック(日帰りドック)	9～1月	中国中央病院外33医療機関	629	17,195,334
特定健康診査(事務費含む)	年間		1,252	13,353,298
特定保健指導	年間		—	24,221,806
若年者への保健指導	年間		—	337,700
大腸がん検診	6～2月	県内5医療機関	115	179,630
婦人検診	6～2月	県内31医療機関	583	2,724,240
肺がん(ヘリカルCT)検診	6～2月	県内22医療機関	45	249,032
VDT障害予防検診	6～2月	県内5医療機関	81	428,600
内臓脂肪検診	6～2月	県内15医療機関	111	818,330
健康づくりセミナー(夏期)	8月	参集型・オンライン	99	1,706,623
健康づくりセミナー(冬期)	2月	参集型・オンライン	38	756,344
ウォーキングコンテスト2023	10～12月		2,278	1,560,312
簡易健康チェック	年間		10,862	151,800
職場の健康づくり研修会支援	5～2月		22	692,542
管理職メンタルヘルス相談料補助	年間		12	66,300
教職員ストレス相談	年間	県内16医療機関	22	1,661,372
管理職サポート相談・教職員サポート相談	5～3月	岡山大学教育学部	54	500,000
教職員よろず相談	年間	「沢田の杖塾」	46	230,000
教職員を支える会	年間	「沢田の杖塾」	54	243,000
心の居場所で元気を取り戻すグループ体験講座	年間	「沢田の杖塾」	26	117,000
スクールカウンセラー等を活用した相談	年間		139	739,737
まきび利用宿泊助成	年間		1,804	4,510,000
まきび利用会食等補助	年間		12,098	19,624,100
宿泊・保養施設(宿泊助成)	年間		490	735,000
ライフプランセミナー	7月～		206	58,036
元気回復助成	年間		3,122	1,438,787
保育補助	年間		595	4,744,000
風しん予防接種補助	年間		3	9,000
災害対策事業資金	災害発生時		0	0
計			47,187	557,466,083

カ 宿泊事業

この事業は、公立学校共済組合の組合員とその家族の宿泊、会議、宴会、レストラン等の利用に供するため、岡山宿泊所（ピュアリティまきび）を設置し、その経営を行っている。

近隣の大型ショッピングモールや駅周辺の新規参入ホテル等の影響を受けているが、安定経営に向けて経常損益の黒字を目指し、サービスレベルの向上及び業務改善等に取り組んでいる。

令和5年度は、償却前損益（営業成績）では黒字となったものの、新型コロナウイルス感染症の5類移行後においても宴会や会議は完全に回復しておらず、経常損益では赤字となった。

利用状況及び収支状況は、次のとおりである。

利用状況 (単位：人)

区 分	令和4年度	令和5年度
宿 泊	10,463	11,337
会 議	66,765	83,585
宴 会	11,063	36,849
レ ス ト ラ ン 等	42,997	52,906
計	131,288	184,677

宿泊経理収支表 (単位：千円)

区 分	令和4年度	令和5年度
宿 泊	51,457	56,678
会 議	117,401	128,178
宴 会	59,633	221,814
レ ス ト ラ ン 等	91,125	109,033
商 品 売 上	16,638	18,394
そ の 他	9,770	1,929
収 入 総 額 A	346,024	536,026
支 出 計 B (人件費、材料費、営業費)	395,247	485,640
減 価 償 却 費 C	65,781	55,937
本部送金（償還） D	0	0
支 出 総 額	461,028	541,577
収 支 差 A－B	- 49,223	50,386
償却前損益 A-(B+D)	- 49,223	50,386
経常損益 A-(B+C+D)	- 115,004	- 5,551

(3) (一財)岡山県教育職員互助組合

(一財)岡山県教育職員互助組合では、給付・文化厚生・貸付・預金・保険等の事業及び退職後の給付事業等を行っている。

医療給付（療養補助金・家族療養補助金）については、令和4年度に対して件数で23.6%の増、給付額は18.2%の増となった。

退職互助の医療給付（療養補助金）は、令和4年度に対して件数で1.6%の増、給付額は3.5%の減となった。

[役員]

(令和6年3月31日現在)

職名	氏名	所属職名
理事長	鍵本 芳明	県教育長
副理事長	國重 良樹	県教育次長
〃	吉田 康文	県教組・執行委員長
〃	村田 秀石	高教組・執行委員長
常務理事	有田 純子	福利課長
理事	山根 玲子	岡山・芳泉幼稚園長
〃	高尾 敏也	岡山・西小学校長
〃	戸井 道彦	岡山・操山中学校長
〃	平田 善久	岡山朝日高等学校長
〃	内藤 奨	県教組・書記長
〃	松本 太	高教組・副執行委員長
〃	岡谷 英樹	岡山大安寺中等教育学校事務局長
〃	矢部 慎吾	退職互助特別会員
監事	田中 一宏	税理士法人田中会計代表
〃	山下 賢志	県教組・執行委員
〃	川野 吏恵	高教組・書記長
〃	福池 光修	古代吉備文化財センター総務課長

[事業収支状況]

経常収益に関する事項

(単位：千円)

事業別	令和4年度	令和5年度
一般掛金	477,244	487,388
退職互助掛金	220,293	214,881
運用収益等	169,988	174,298
事業参加費	27,316	32,133
貸付金利息	5,046	5,312
保険手数料	44,815	42,917
その他	497,185	98,970
合計	1,441,887	1,055,899

経常費用に関する事項

(単位：千円)

事業別	令和4年度	令和5年度
記念事業	8,965	0
公益事業	23,785	24,759
給付事業	541,882	584,409
文化厚生事業	199,888	329,921
会員預金事業	13,147	12,366
事務費等 (内、利息への課税)	145,911 (25,642)	155,234 (25,281)
合計	933,578	1,106,689
法人税等	9,403	9,190
収支差	498,906	△59,980

【文化厚生事業・公益事業状況】

令和5年度実施事業は次のとおりである。

事業名	期日	参加人数等	場所等
【文化厚生事業】			
日帰りドック	6～12月	11,250人	県内契約病院、中国中央病院
インフルエンザ予防接種補助	10～2月	5,278人	
ライフプランセミナー	7月～	206人	集合形式(岡山・津山会場)、動画視聴形式
介護講座	7月～	109人	集合形式(岡山・倉敷会場)、動画視聴形式
法律相談	年間	17件	岡山弁護士会館外
文化・リフレッシュ事業	年間	33,905件	
子育て応援セミナー	7～8月	67人	岡山、倉敷、津山
【公益事業】			
教育塔合祀祭事業	10/21	37人	笠井山霊園内教育塔(6柱新合祀)
県立図書館への図書寄贈事業	9月	709冊	
教職員美術展事業	11/7～12	156点	天神山文化プラザ(905名来場)
児童・生徒健全育成活動支援事業	年間		へき地学校等図書寄贈、スクールコンサート、吉備の国ジュニア歴史スクール、科学キッズフェスティバル、国際交流等支援事業等

8 職員団体

県人事委員会に登録されている主な職員団体は次のとおりである。

	岡山県教職員組合	岡山県高等学校教職員組合	自治労岡山県学校事務職員労働組合	新岡山県教職員組合
本部所在地	岡山市中区西川原255 (新教育会館内)	岡山市中区西川原255 (新教育会館内)	津山市押入2-2	津山市川崎1510-4
執行委員長	吉田 康文	村田 秀石	入澤 晃爾	福本 一仁
支部数	13	0	0	0
構成員	幼稚園教員、小・中学校教員、事務職員、学校栄養職員等	高等学校教員、特別支援学校教員、実習助手等	小・中学校事務職員等	公立小中学校教職員

■第10節 就学奨励

1 義務教育諸学校の就学援助

(1) 要保護児童生徒就学援助費

教育の機会均等の確保と義務教育の円滑な実施を図るため、「就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律」(昭和31年法律第40号)に基づいて、経済的理由によって就学困難な児童・生徒の保護者に対して、就学のための必要な経費の一部を援助するものである。

補助対象となるものは、学用品費、通学用品費、校外活動費、体育実技用具費、通学費、修学旅行費、新入学児童生徒学用品費等、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費、卒業アルバム代等、オンライン学習通信費である。

国の補助は、市町村が給与した総額の1/2の額の範囲で、かつ、市町村に対する補助額の合計額が国の予算を超えない範囲において、交付されることとされており、令和5年度国庫補助額は、5,715千円である。

なお、平成17年度から補助対象が要保護者に限定されたことにより、準要保護者に係る補助については、市町村に税源移譲され、市町村において実施している。

ア 学用品費

児童・生徒が通常必要とする学用品又はその購入費である。

令和5年度は、該当なし。

イ 通学用品費

小学校(義務教育学校の前期課程を含む。以下同じ。)又は中学校(義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を含む。以下同じ。)の第2学年以上の学年に在学する児童・生徒が通常必要とする通学用品又はその購入費である。

令和5年度は、該当なし。

ウ 校外活動費

児童・生徒が校外活動に参加するため直接必要な交通費及び見学料である。

令和5年度は、該当なし。

エ 通学費

片道の通学距離が児童4km、生徒6km(積雪等のある間の豪雪地帯にあつては児童2km、生徒3km)以上の者の通学に利用する交通機関の運賃及び市町村が通学の用に供するためバス会社等と締結する運行委託契約に基づき負担する委託料である。ただし、船舶を利用する児童・生徒及び特別

支援学級の児童・生徒については、通学距離を問わない。

令和5年度は、該当なし。

オ 修学旅行費

小学校又は中学校において、それぞれ1回参加する修学旅行に要する経費のうち、交通費、宿泊費、見学料等に要する経費である（高度へき地学校児童・生徒に係る修学旅行費を除く。）。

令和5年度岡山県下で給与された児童・生徒数は286人（児童135人、生徒151人）、国庫補助額は5,715千円である。

カ 体育実技用具費

小学校又は中学校の体育の授業の実施に必要な体育実技用具（柔道着、スキー板等）で、児童・生徒全員が個々に用意することとされているもののうち、いずれか1つの用具の購入費である。

令和5年度は、該当なし。

キ 新入学児童・生徒学用品費等

小学校又は中学校へ入学するに当たって通常必要とする学用品及び通学用品の購入に要する経費である。

令和5年度は、該当なし。

ク クラブ活動費

小学校又は中学校のクラブ活動の実施に必要な用具等で、児童・生徒全員が個々に用意することとされているものの購入に要する経費である。

令和5年度は、該当なし。

ケ 生徒会費

小学校又は中学校の生徒会費（児童会費、学級費、クラス会費を含む。）である。

令和5年度は、該当なし。

コ P T A会費

小学校又は中学校の学校・学級・地域等を単位とするP T A活動に要する経費である。

令和5年度は、該当なし。

サ 卒業アルバム代等

児童・生徒の卒業時に係る費用のうち、卒業アルバム等の購入に要する費用である。

令和5年度は、該当なし。

シ オンライン学習通信費

I C Tを通じた教育が、学校長若しくは教育委員会が正規の教材として指定するもの又は正規の授業で使用する教材と同等と認められるものにより提供される場合のオンライン学習に必要な通信費である。

令和5年度は、該当なし。

令和5年度援助費支給状況

(R6.3.31)

経費区分	学校種別	給与人員	1人当たり 平均給与額	給与額総額	左の内 国庫補助額
		人	円	円	円
修学旅行費	小学校	135	26,749	3,611,064	5,715,000
	中学校	151	51,919	7,839,720	

※学用品費、通学用品費、校外活動費、通学費、体育実技用具費、新入学児童生徒学用品費等、クラブ活動費、生徒会費、P T A会費、卒業アルバム代等、オンライン学習通信費については該当なし。

(2) へき地児童生徒援助費等補助金

ア 寄宿舎居住費

へき地学校及び統合学校等において寄宿舎を設置し、これにへき地学校等の児童・生徒を入居させ、児童・生徒の保護者が支弁することとなる寄宿舎居住費の徴収を免除する市町村を対象として、国がその所要額の半額を補助するものである。補助対象となる寄宿舎居住費は、食費、日用品費、寝具費となっている。「食費及び日用品費」の補助単価は児童・生徒1人当たり日額1,409円27銭（前年度同額）である。

「寝具費」は児童・生徒が新たに寄宿舎に入居するために要する経費で、補助単価は1人当たり年額5,500円である。国は、市町村がこれらの所要経費の徴収を免除した児童・生徒数と国の補助単価、寄宿舎開設日数とにより算出した合計額の1/2を限度として、市町村の実支出額の1/2を補助することとなっている。

令和5年度は、該当なし。

イ 遠距離通学費

市町村が負担する学校統合等による公立小・中学校の遠距離児童・生徒の通学費（要・準要保護児童・生徒に係る通学費を除く。）について、国がその一部を補助するもので、負担額30万円以上（補助限度額算出の基礎となる額も30万円以上）の市町村が補助対象となり、補助対象となる経費は、児童4km以上、生徒6km以上の者で、交通機関利用による交通費及び児童・生徒の通学用にバス会社等とのスクールバス・ボートの運行委託契約に基づく委託料である。

国の補助は、市町村が通学費を負担する場合に、当該負担した経費の1/2の額の範囲内で、かつ、市町村に対する補助額の合計額が国の予算額を超えない範囲内において交付される。

令和5年度は、真庭市が3,768千円（前年度8,660千円）の補助金交付を受けている。

ウ 高度へき地修学旅行費

高度へき地学校（3級～5級のへき地学校）を設置する市町村が支弁する当該学校の児童・生徒に係る修学旅行費の一部を国が補助することにより、高度へき地学校における修学旅行の円滑な実施に資することを目的とするものであり、補助の対象となる経費は、高度へき地学校の児童・生徒が小学校又は中学校を通じて、それぞれ1回参加する修学旅行に直接必要な交通費、宿泊費に要する経費である。

国の補助は、市町村が補助の対象となる経費を支弁する場合は、当該支弁した経費の総額の2/3（前年度の財政力指数が0.4以上の市町村にあっては1/2）の額の範囲内で、かつ、市町村に対する補助額の合計が国の予算額を超えない範囲内において交付される。

令和5年度は、該当なし。

エ 激甚災害に伴う通学費

激甚災害による校舎の破損又は通学路の損害等により、通学が困難となった小・中学校の児童生徒の通学に要する交通費を都道府県や市町村が負担する場合に、国がその一部を補助するものである。

補助対象となる経費は、交通機関を利用して通学する児童・生徒に係る往復の交通費である。

国の補助は、市町村が通学に要する交通費を負担する場合に、当該負担した経費の1/2の額の範囲内で、かつ、市町村に対する補助額の合計額が国の予算額を超えない範囲内において交付される。

令和5年度は、該当なし。

2 特別支援学校等の就学奨励

(1) 特別支援学校の就学奨励

「特別支援学校への就学奨励に関する法律」(昭和29年法律第144号)に基づき、教育の機会均等、普及奨励を図ることを目的として、教科用図書購入費、学校給食費、交通費(通学費、帰省費、職場実習交通費、交流及び共同学習交通費)、寄宿舎居住に伴う経費(寝具購入費、日用品等購入費、食費)、修学旅行費(修学旅行費、校外活動等参加費、職場実習宿泊費)、学用品購入費(学用品・通学用品購入費、新入学児童生徒学用品・通学用品購入費)、オンライン学習通信費について支給した。(令和5年度の実績は別表2のとおりである。)

なお、就学奨励費は、保護者等の属する世帯の収入額を、生活保護法の規定の例により測定した当該世帯の需要額で除して得た数値により、第Ⅰから第Ⅲの区分に分類し、概ね別表1のとおり支給される。

別表1

区 分	数 値	支 給 対 象	
		全 額 支 給	半 額 支 給
第Ⅰ区分	1.5未満	教科用図書購入費(高等部) 学校給食費 交通費 寄宿舎居住に伴う経費 修学旅行費 学用品購入費 オンライン学習通信費	
第Ⅱ区分	1.5以上～2.5未満	教科用図書購入費(高等部) 交通費	学校給食費 寄宿舎居住に伴う経費 修学旅行費 学用品購入費
第Ⅲ区分	2.5以上	教科用図書購入費(高等部) 交通費	

別表2

区 分	人員	支給額	児童・生徒1人当たりの支給限度額						
			第Ⅰ区分		第Ⅱ区分		第Ⅲ区分		
教科用図書購入費	559	4,800,945	高	全額	高	全額	高	全額	
学校給食費	1,913	79,405,494	幼・小・中・高	〃	幼・小・中・高	半額		—	
交 通 費	通学費(本人)	2,169	56,083,643	〃	〃	幼・小・中・高(専除く) 高(専)	全額 半額	幼・小・中・高 (専除く)	全額
	〃(付添人)	1,094	9,429,396	〃	〃	幼・小・中・高(専除く) 高(専)	全額 半額	〃	〃
	帰省費(本人)	419	3,456,417	〃	〃	幼・小・中・高(専除く) 高(専)	全額 半額	〃	〃
	〃(付添人)	175	1,586,622	〃	〃	幼・小・中・高(専除く) 高(専)	全額 半額	〃	〃
	職場実習費 (交通費)	596	2,348,502	中・高	〃	中・高(専除く) 高(専)	全額 半額	中・高(専除く)	半額
	交流及び 共同学習費	247	31,105	幼・小・中・高 (専除く)	〃	幼・小・中・高 (専除く)	全額	幼・小・中・高 (専除く)	〃
寄 宿 舎 居 住 費	寝具購入費	43	182,535	〃	5,510	〃	2,755		—
	日用品等購入費	192	4,677,203	幼・小・中・高	141,560	幼・小・中・高	70,780		—
	食費	266	9,404,473	幼 小・中 高	156,210 148,850 139,750	幼 小・中 高	78,105 74,425 69,875		—
修 学 旅 行 費	修学旅行費 (本人)	562	19,287,875	小 中 高(専除く)	21,580 57,720 107,810	小 中 高(専除く)	10,790 28,860 53,905		—
	〃 (付添人)	26	657,596	小 中 高(専除く)	33,730 82,850 155,760	小 中 高(専除く)	16,865 41,425 77,880		—
	校外活動等参加費 (本人)	1,419	4,715,395	幼 小 中 高(専除く)	1,600 18,580 24,660 24,820	幼 小 中 高(専除く)	800 9,290 12,330 12,410		—
	〃 (付添人)	28	115,007	幼 小 中 高(専除く)	2,390 27,870 36,980 37,220	幼 小 中 高(専除く)	1,195 13,935 18,490 18,610		—
	職場実習宿泊費	22	129,345	高	7,520	高	3,760		—
学 用 品 購 入 費	学用品・通学 用品購入費	2,713	41,202,373	幼 小 中 高(専除く)	8,680 11,640 22,740 32,270	幼 小 中 高(専除く)	4,340 5,820 11,370 16,135		—
	ICT機器購入費(加算分)			高(専除く)	50,930	高(専除く)	50,930	高(専除く)	50,930
	新入学児童生徒学用品・ 通学用品購入費	544	23,601,010	小 中・高(専除く)	51,110 60,980	小 中・高(専除く)	25,555 30,490		—
オンライン学習 通信費	1	2,890	小 中 高	14,000 14,000 14,000		—		—	
計 実人員	2,177	261,117,826							

(2) 特別支援学級等の就学奨励

小学校及び中学校の特別支援学級等に在学する児童生徒に対して市町村が行う就学奨励事業について、予算補助として国が補助しているが、令和5年度は25市町（組合）で、対象児童3,756人、生徒1,302人、支給額177,382,003円であった。

なお、補助金は、保護者等の属する世帯の収入額を、生活保護法の規定の例により測定したその世帯の需要額で除して得た数値により、第Ⅰから第Ⅲの区分に分類し支給され、その補助金額は、補助単価と対象児童生徒を基礎に算出した補助対象経費の合計額の1/2又は市町村の実支出額の1/2のいずれか低い方の額である。

3 高等学校の修学奨励

(1) 高等学校等就学支援金

高等学校授業料については、平成22年度から公立高校の不徴収制度と私立高校の就学支援金制度が実施されていたところであるが、法改正により、平成26年度から就学支援金制度に一本化され、公立高校においても授業料相当額を就学支援金として支給（設置者である県及び市が代理受領）することとなった。

令和5年度における実施状況は次のとおりである。

第1表 高等学校等就学支援金の概要（公立）

区 分	支 給 額	支 給 人 員
県 立	2,959,485千円	26,576人
市 立	95,014千円	1,388人

(2) 高校生等教育給付金

平成26年度から国の制度として、特に教育費負担の大きい低所得者世帯（非課税世帯）に対して、教育費に充てるための給付金を支給することにより、高校生等の修学を支援することを目的として開始された。

令和2年度から、新入生に対する前倒し給付及び家計急変への支援を新たに実施している。

○生活保護受給世帯

・国公立高等学校等：年額 32,300円

○1人目の高校生等を扶養している世帯

・国公立高等学校等：年額122,100円

・通信制及び専攻科：年額 50,500円

○2人目以降の高校生を扶養している世帯又は、当該高校生等以外に15歳（中学生を除く。）以上23歳未満の兄弟姉妹を扶養している世帯

・国公立高等学校等：年額143,700円

・通信制及び専攻科：年額 50,500円

第2表 高校生等教育給付金の概要（公立）

区 分	支 給 額	支 給 人 員
県 立	350,916千円	2,999人
県 立 以 外	50,448千円	448人

(3) 定時制及び通信制高等学校の修学奨励

勤労青少年の高等学校定時制課程及び通信制課程への修学を促進し、教育の機会均等を保障することを目的に、教科書の給与、修学奨励費の貸与など生徒の修学条件の改善を図る諸事業を行っている。

教科書の給与については、2年次生以上にあっては一定の単位数の修得等が給与の条件となっている。

なお、令和5年度における事業概要は次のとおりである。

第1表 定時制教育教科書給与事業の概要

区 分	支 給 額	支 給 人 員
県立 烏城	176,375円	34人

第2表 通信制教育教科書学習書給与事業の概要

区 分	支 給 額	支 給 人 員
県立 岡山操山	262,749円	19人

第3表 定時制課程修学奨励費事業の概要

区 分	貸 与 人 員	事 業 額
1 年	1人	154,000円
2 年	0人	0円
3 年	0人	0円
4 年	0人	0円
計	1人	154,000円

第4表 通信制課程修学奨励費事業の概要

区 分	貸 与 人 員	事 業 額
1 年	1人	168,000円
2 年	0人	0円
3 年	1人	168,000円
4 年	0人	0円
計	2人	336,000円

4 育英事業

(1) 公益財団法人岡山県育英会

令和5年度の事業概要は次のとおりである。

ア 奨学貸与事業

① 県補助金事業によるもの

(1) 「育英奨学金」

(7) 奨学生採用状況

区 分	適格者数	採用者数	採用率
高 等 学 校	19人	19人	100%

※平成19年度より大学・短期大学の新規採用廃止

(4) 奨学金貸与状況

区 分	高 等 学 校		大 学		計	
	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額
	人	千円	人	千円	人	千円
令和5年度採用	19	4,104	—	—	19	4,104
前年度からの継続	33	7,020	—	—	33	7,020
計	52	11,124	—	—	52	11,124

【貸与実施内訳】

高 等 学 校 11,124千円	新 規	18,000円×12月×19人＝ 4,104,000円
	継 続	18,000円×12月×32人＝ 6,912,000円
		18,000円× 6月× 1人＝ 108,000円

(2) 「修学奨学金」

(7) 奨学生採用状況

区 分		適 格 者 数	採 用 者 数	採 用 率
高 等 学 校	予 約	15人	15人	100%
	在 学	33人	33人	100%

(うち辞退者8人)

(4) 奨学金貸与状況

区 分	国 公 立				私 立				合 計	
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	貸与金額
	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額		
	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円
新 規	11	2,376	0	0	29	10,440	0	0	40	12,816
継 続	11	2,376	3	828	33	11,880	4	1,680	51	16,764
計	22	4,752	3	828	62	22,320	4	1,680	91	29,580

【貸与実施内訳】

国公立 5,580千円	新規	18,000円×12月×11人= 2,376,000円
	継続	18,000円×12月×11人= 2,376,000円
		23,000円×12月× 3人= 828,000円
私立 24,000千円	新規	30,000円×12月×29人= 10,440,000円
	継続	30,000円×12月×33人= 11,880,000円
		35,000円×12月× 4人= 1,680,000円

②旧日本育英会業務移管に伴う予算措置によるもの

(7) 奨学生採用状況

区 分		適格者数	採用者数	採用率
高等学校	予約	28人	28人	100%
	在学	60人	60人	100%

(うち辞退者4人)

(4) 奨学金貸与状況

区 分	国 公 立				私 立				合 計	
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	貸与金額
	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額	人 員	貸与金額		
新規	20	4,320	2	552	49	17,190	13	5,145	84	27,207
継続	47	9,954	5	1,380	90	31,860	21	8,540	163	51,734
計	67	14,274	7	1,932	139	49,050	34	13,685	247	78,941

【貸与実施内訳】

国 公 立 16,206千円	新 規	18,000円×12月×20人= 4,320,000円
		23,000円×12月× 2人= 552,000円
	継 続	18,000円×12月×45人= 9,720,000円
		18,000円× 7月× 1人= 126,000円
		18,000円× 6月× 1人= 108,000円
23,000円×12月× 5人= 1,380,000円		
私 立 62,735千円	新 規	30,000円×12月×47人= 16,920,000円
		30,000円× 6月× 1人= 180,000円
		30,000円× 3月× 1人= 90,000円
		35,000円×12月×11人= 4,620,000円
		35,000円× 9月× 1人= 315,000円
		35,000円× 6月× 1人= 210,000円
	継 続	30,000円×12月×87人= 31,320,000円
		30,000円× 8月× 1人= 240,000円
		30,000円× 6月× 1人= 180,000円
		30,000円× 4月× 1人= 120,000円
		35,000円×12月×20人= 8,400,000円
		35,000円× 4月× 1人= 140,000円

イ 学生寮の維持運営事業

名 称 岡山県育英会東京寮

所 在 地 東京都港区高輪三丁目14-21

入寮資格 県内に居住する世帯の男子学生で東京都及びその周辺に所在する大学の第1年次生として入学する者

在寮期間 在籍する学校の正規の修業期間

寮 費 月額 35,000円

食 費 月額 19,000円（朝夕2食）

■第11節 教育指導

1 学校教育の指導

(1) 令和5年度教育課程研究協議会

令和5年度は、第1日目、第2日目ともに参集研修により開催し、高等学校の新学習指導要領の主旨や内容について理解を深めるとともに、具体的な授業改善の取組を研究することによって、学校全体での体制づくりを進め、教員の指導力向上と教育課程の円滑な実施を図った。

期 日	会 場	教 科	参加範囲	参加者数
8月31日（第1日目）	県総合教育センター	各教科等	県内高等学校教員	132
11月10日（第2日目）	県総合教育センター	各教科等	県内高等学校教員	126

各部会別受講者数

教 科	受講者数	教 科	受講者数	教 科	受講者数
国 語	17	音 楽	10	看 護	5
公 民	14	工 業	13	福 祉	8
保 健 体 育	19	商 業	16	特 別 活 動	31

(2) 研究指定校（園）

令和5年度研究指定校・推進校一覧

【学校指定】

校種別	学 校 名	事業名・研究主題等	指定機関	指定年度
中 学 校	倉敷市立北中学校 津山市立津山東中学校	○英語デジタル教科書活用実証研究事業	県	R5
	倉敷市立味野小学校 久米南町立久米南中学校	○岡山型課題解決型学習（PBL）推進事業	県	R5
	瀬戸内市立行幸小学校 瀬戸内市立国府小学校 赤磐市立仁美小学校	○コミュニティ・スクール伴走支援体制構築事業	県	R5
	笠岡市立笠岡東中学校	○教科指導支援（タテ持ち）事業	県	R4・R5
	矢掛町立矢掛中学校	○教科指導支援（タテ持ち）事業	県	R5
	高梁市立有漢中学校 高梁市立高梁北中学校 高梁市立高梁東中学校 美作市立英田中学校 美作市立勝田中学校 美作市立作東中学校 美咲町立旭学園 美咲町立中央中学校 美咲町立柵原中学校	○教科指導支援（小規模校連携モデル研究）事業	県	R5
高等学校	県立玉島高等学校 県立津山高等学校	○スーパーサイエンスハイスクール	文部科学省	R4～R8
	県立岡山一宮高等学校			R1～R5
	県立倉敷天城高等学校			R2～R6
	県立岡山城東高等学校	○グローバル・リーダー育成拠点構築事業	県	R4～R6

校種別	学 校 名	事業名・研究主題等	指定機関	指定年度	
高等学校	県立岡山操山中学校・高等学校	○ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業（カリキュラム開発拠点校）	文部科学省	R2～R5	
	県立岡山一宮高等学校 県立津山東高等学校 県立津山工業高等学校 県立津山商業高等学校 県立笠岡高等学校 県立高梁高等学校 県立高梁城南高等学校	○おかやま高校生地域未来創造事業	県	R5	
	県立高松農業高等学校 県立水島工業高等学校	○スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業	県	R3～R5	
	県立高梁城南高等学校 県立新見高等学校 県立真庭高等学校 県立勝間田高等学校	○「森林（もり）の担い手」育成事業	県	R1～R5	
	県立津山工業高等学校 県立新見高等学校 県立勝間田高等学校 県立玉島商業高等学校 県立真庭高等学校	○高校生発！「木のぬくもり実感」事業	県	R5	
	県立東岡山工業高等学校 県立倉敷中央高等学校 県立津山商業高等学校	○ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業	県	R5～R7	
	県立勝山高等学校蒜山校地 県立和気閑谷高等学校 県立矢掛高等学校	○高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業（指定校）	県	R4～R5	
	県立岡山御津高等学校 県立邑久高等学校 県立真庭高等学校 県立林野高等学校 県立勝間田高等学校	○高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業（準指定校）	県	R4～R5	
	県立真庭高等学校	○マイスターハイスクール事業	文部科学省	R3～R5	
	県立笠岡高等学校 県立笠岡工業高等学校 県立笠岡商業高等学校	○コミュニティ・スクール導入促進のためのコンソーシアム設置事業	県	R5～R6	
	特別支援学校	県立誕生寺支援学校	○プロに学べ！作業学習ブラッシュアップ事業	県	R5
		県立岡山盲学校 県立東備支援学校	○特別支援学校における新しい教育課題研究事業	県	R5

(3) 訪問指定校

校 種	番号	学 校 名
中 学 校	1	県立岡山操山中学校
	2	県立倉敷天城中学校
	3	県立岡山大安寺中等教育学校
	4	県立津山中学校
高等学校		全県立高等学校

2 教科用図書の採択・無償給与

(1) 教科用図書選定審議会

義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択の適正な実施を図るため、使用する教科用図書の研究を行うとともに、市町村教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長の行う採択に関する事務について、適切な指導・助言又は援助を行う。

ア 教科用図書選定審議会

①県教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議し、必要と認めるときは、これらの事項について県教育委員会に建議する。

- ・市町村教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長の行う教科用図書の採択に関する事務について県教育委員会の行う採択基準の作成、選定に必要な資料の作成その他指導、助言又は援助に関する重要事項
- ・県の設置する義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択に関する事項

②令和5年度の開催状況

- ・開催日：4月21日、5月26日
- ・委員：15人
 (構成) 義務教育諸学校の校長、教頭、指導教諭 6名
 教育行政機関職員 2名
 学識経験者等 7名

イ 専門調査委員会

令和5年度においては、学校教育法附則第9条に規定される教科用図書について、調査研究を行った。

(2) 教科書センター及び分館の設置

令和5年度の教科書研究施設として次の14の教科書センター及び分館が設置された。

教科書センターの名称	使用する施設
岡山教科書センター	岡山市教育研究研修センター
〃 御津分館	岡山市立御津図書館
旭東教科書センター	赤磐市立熊山公民館
〃 瀬戸内分館	瀬戸内市民図書館
倉敷教科書センター	ライフパーク倉敷
玉野教科書センター	玉野市立第二日比小学校
笠岡教科書センター	笠岡市立笠岡小学校
高梁教科書センター	高梁市図書館
〃 新見分館	まなび広場にいみ
津山教科書センター	津山市役所久米支所
〃 真庭分館	真庭市立中央図書館
〃 美作分館	美作市作東農村環境改善センター
中央教科書センター	県総合教育センター
〃 丸の内分館	岡山県立図書館

(3) 令和6年度使用教科書展示会の開設

令和6年度使用教科書採択のための展示会を、前記教科書センター及び分館において、令和5年6月中旬から7月上旬にかけて開催し、小学校・中学校・高等学校の文部科学省検定教科書等を展示し

て、採択関係者及び教育関係者の教科書研究並びに一般県民の供覧に資した。

なお、法定展示会開催期間（14日間）中の利用者数は次のとおりであった。

（令和5年8月1日）

教育関係者等	一 般	計
70	98	168

(4) 令和6年度使用教科書の採択状況

令和6年度使用教科書として採択された教科書の学校種別需要部数は次のとおりであった。

（前・後期用）

学 校 種 別	需 要 部 数
小 学 校	1,136,312冊
中 学 校	545,863冊
高 等 学 校	618,775冊
特 別 支 援 学 校	4,118冊
特別支援学校(一般図書)	9,187冊

(5) 義務教育諸学校の教科用図書採択地区

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定に基づき設定した教科用図書採択地区と学校数は次のとおりであった。

（令和5年5月1日）

番号	採 択 地 区	構 成 郡 市 名	小学校数	中学校数	義務教育 学校数	計
			378	150	1	529
1	岡 山 市 地 区	岡山市	87	37	1	125
2	旭 東 "	備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気郡、加賀郡	43	16	0	59
3	倉 敷 "	倉敷市、総社市、浅口市、都窪郡、浅口郡	88	35	0	123
4	玉 野 市 "	玉野市	14	7	0	21
5	笠岡・井原 "	笠岡市、井原市、小田郡	36	16	0	52
6	高梁・新見 "	高梁市、新見市	29	11	0	40
7	津 山 "	津山市、真庭市、美作市、真庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡	73	27	1	101

3 教育課程の届出及び教材の承認

岡山県立学校の管理運営に関する規則第5条の規定に基づき、県立学校から提出された令和5年度教育課程編成表について届出を受けた。その校数は次のとおりである。

- 県立中学校 3校
- 県立全日制高等学校 50校
- 県立通信制高等学校 1校
- 県立定時制高等学校 1校
- 県立中等教育学校 1校
- 県立特別支援学校 14校

また、同規則第12条の規定に基づき、県立学校から提出された令和6年度に使用される準教科書の承認申請について審査の結果、計469件を適当と認め、承認した。

同規則第13条の規定による教科書以外の教材の使用届出の受理件数は5,238件であった。

4 心の教育の推進

(1) 道徳教育

ア 道徳教育総合支援事業

(ア) 「心豊かなおかやまっ子」育成研修講座

就学前から高等学校段階までの心の教育の充実を図るため、県内公立の学校園において、道徳教育推進教員等を対象に、岡山県の道徳教育の課題を基に、各校園及び地域における道徳教育推進の体制づくりや具体的な取組の在り方等について認識を深めるとともに、道徳教育における課題等の解決等に関する研修を行い、教員の指導力の向上を図った。

(イ) 岡山県道徳教育郷土資料集（中学校）授業パッケージの作成と活用

郷土の偉人を題材とした授業パッケージを作成し、県内中学校に提供することにより、中学校道徳科における多様な授業実践を支援した。

(2) 体験活動

ア 高校生社会貢献活動推進事業

道徳性・社会性の育成を目的に、平成25年度から、全ての県立高等学校及び県立中等教育学校後期課程において社会貢献活動に取り組んだ。各校とも、活動の事前指導として講演会や説明会、事後指導として、報告書の提出や活動報告会、レポート作成等を行い、教育効果を高めるための指導を行った。

各校での取組例：清掃活動、学習・保育支援、老人福祉施設等の訪問、地域のイベント補助 等

5 学力向上の推進

(1) 学力向上に係る施策

児童生徒の確かな学力の向上に向け、次のような事業を実施した。

《教育内容の充実》

○学校経営予算

学校規模等に応じた「基本配分枠」と、県教育委員会が設定した教育課題に取り組む「重点事業枠」を、必要・実態に応じて学校自らが立てた計画に基づいて配分し、取組を実施することで、各学校の教育目標の達成を図った。

○主体的な学びの基盤づくり事業

公立小・中学校に地域人材を支援員として配置し、放課後をはじめ朝学習や休憩時間等の補充学習等をサポートすることで児童生徒の基礎学力や学習習慣の定着を図った。

実施状況 21市町（組合）214校

《指導力の向上》

○高等学校学力向上プロジェクト

・学力分析

「高校生のための学びの基礎診断」の結果をもとに、各校の学力状況を分析し、指導改善方策の検討等を行うことで、高校生の学力向上を図った。

・「高い志」醸成プロジェクト

学校の垣根を越えた学びの場を提供し、将来、様々な分野で活躍できる人材の育成を図った。

主に2年生を対象とした対面での合同学習会と、1年生も参加できるオンラインによる基調講演・グループディスカッション・卒業生との座談会を実施した。

○学力定着状況確認テスト・定着状況ウォームアップの実施

全国及び岡山県学力・学習状況調査で把握した課題の改善状況についてC B T (Computer Based Testing) 方式による確認テストを学期に1回程度実施し、年度末までに課題の解消を図ることで、つまづきを翌年度に繰り返さない改善サイクルの確立を図った。

○授業改革推進リーダー・推進員の配置

地域内の学校を継続的に訪問し、授業改善や校内指導体制への指導・助言を専門的に行う授業改革推進リーダー(教頭・主幹教諭)、授業改革推進員(指導教諭)のチームを小学校4地区、中学校7地区に配置し、地域における核として教員の授業力向上や学校の学力向上の取組を支援するとともに、効果的な指導方法や実践の工夫を県下に普及・拡大することにより、児童生徒の学力向上を図った。

○英語教員指導力向上事業(英語指導エキスパート派遣事業)

教職経験の少ない若手英語教員及び研修を希望する英語教員が勤務する中学校へ英語指導に長けた人材を派遣し、授業改善や学びの基盤づくり、校内研修体制整備に向けた指導・助言等を継続的に行うことで、英語教員の授業力の向上を図った。

○教科指導支援(タテ持ち・小規模校連携モデル研究)事業

中学校における学力定着の課題解決に向け、一人の教員が複数学年の教科指導を担当する教科の「タテ持ち」方式の研究に取り組むため、教科研究推進指導官(教科アドバイザー)を配置し、定期的な教科会や日常的なO J Tの活性化を図り、学校の組織的な授業改善の取組や授業力の向上のための体制づくりを促進した。

併せて、一人の教員が全学年の教科指導を担当している小規模の中学校における学力向上に当たり、教科研究推進員を配置し、本務校及び兼務校による定期的な合同教科会を開催し、日常的な授業改善の取組の充実と授業力の向上のための体制づくりを促進した。

○岡山型学習指導のスタンダード・増補版の活用・徹底

児童生徒が「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」が実感できる授業づくりのために学習指導全体を通じ押さえるべきポイントをまとめた、「岡山型学習指導のスタンダード」に加え、新学習指導要領で求められる、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善の進め方をまとめた「岡山型学習指導のスタンダード」増補版について、小・中学校の授業実践や校内研修、各種研修会等での活用を徹底することで、授業改善を促進した。

○先進県等への教員派遣

教員の資質向上を図るため、学力向上施策の成果が出ている秋田県に教員を1名、年間を通じて派遣した。派遣教員は、派遣先の秋田県能代市立淳城西小学校において、組織的な学校経営、学校運営及び学力向上に係る取組について広く学び、派遣先で得た知見等を本県での研修会等で発信して県下への普及を図った。

また、県内の指導主事や教員等8名を秋田県大館市及び能代市内の各小・中学校に5日間、派遣した。派遣者は、エリアの課題解決に必要な実践的指導力の向上を図るとともに、授業改善に向けた有益な取組を収集し、学力向上担当者会等で成果等を普及することにより、学校の組織力及び教員の授業力の向上につなげた。

○部活動指導員配置事業

教員に代わって部活動指導を行う地域人材等を部活動指導員として県立学校25校に配置するとともに、市町村立中学校80校については市町村が実施する事業を補助し、教員の勤務負担軽減と

部活動の活性化を図った。

《学習時間の確保》

○家庭学習のスタンダードの活用・徹底

全国及び岡山県学力・学習状況調査等から明らかになった家庭学習に関する課題に対して、児童生徒の家庭学習習慣の定着のための基本的な考え方や指導方法をまとめた、「家庭学習のスタンダード」について、学校用指導資料の活用を小・中学校の全教員に徹底し、家庭学習指導の充実を図るとともに、1人1台端末活用の視点も踏まえて改訂した家庭用資料を保護者に提示することで、家庭学習の質的・量的充実を図った。

(2) 全国学力・学習状況調査

ア 調査の実施

(7) 調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(イ) 調査日

4月18日(火)

(ウ) 岡山県の実施状況（国立・公立・私立の合計）

		小学校（第6学年）		中学校（第3学年）	
岡山県	受検校数	市町村立小学校	360校	市町村(組合)立中学校	146校
		市町村立義務教育学校(前期課程)	2校	市町村立義務教育学校(後期課程)	2校
		県立特別支援学校小学部	3校	県立特別支援学校中学部	3校
	国立小学校	1校	県立中学校・中等教育学校	4校	
	私立小学校	3校	国立中学校	1校	
				私立中学校・中等教育学校	7校
		合 計	369校	合 計	163校
	受検者数	(公立のみ)	15,462人	(公立のみ)	14,527人
全国	受検校数	(公立のみ)	18,619校	(公立のみ)	9,339校
	受検者数	(公立のみ)	964,350人	(公立のみ)	893,528人

※参考：悉皆調査

※数値は、調査日に実施した学校・児童生徒数

イ 調査の結果（公立学校）

(7) 平均正答率等

【小学校】

(単位：%)

		国 語	算 数	合 計	差
R5	岡山県	68	61	129	- 1
	全 国	67.2	62.5	129.7	
R4	岡山県	67	62	129	± 0
	全 国	65.6	63.2	128.8	
R3	岡山県	66	69	135	± 0
	全 国	64.7	70.2	134.9	

【中学校 国語・数学】

(単位：%)

		国 語	数 学	合 計	差
R5	岡 山 県	70	51	121	±0
	全 国	69.8	51.0	120.8	
R4	岡 山 県	69	51	120	±0
	全 国	69.0	51.4	120.4	
R3	岡 山 県	65	57	122	±0
	全 国	64.6	57.2	121.8	

【中学校 英語】

(単位：%)

		英 語	英語〔話すこと〕
R5	岡 山 県	44	—
	全 国	45.6	12.4
H31	岡 山 県	54	—
	全 国	56.0	—

(イ) 学力の状況

- 小学校の国語は、全国平均を上回り、中学校の国語・数学は、全国平均と同程度であった。
- 小学校の算数及び中学校の英語は、全国平均を下回った。

(ウ) 学習状況調査の結果

- 児童生徒質問紙は、児童生徒一人一人が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査である。

【授業理解・学習習慣】

【質問項目】

- ①国語の授業の内容はよく分かる。(理解度 国語)
- ②算数(数学)の授業の内容はよく分かる。(理解度 算数・数学)
- ③学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習1h以上)

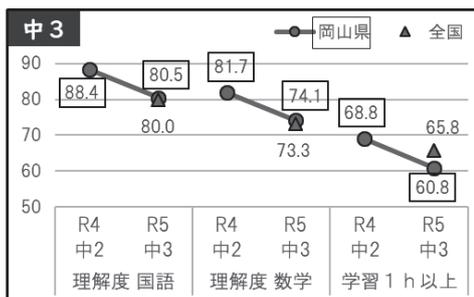
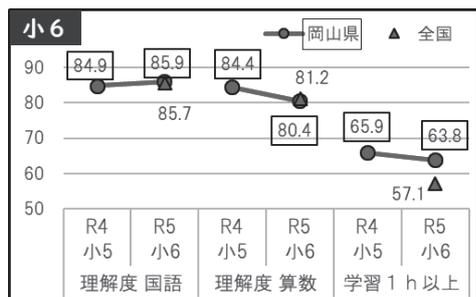
◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：%]

年度	小学6年生			中学3年生		
	理 解 度 国 語	理 解 度 算 数	学 習 1 h以上	理 解 度 国 語	理 解 度 数 学	学 習 1 h以上
R5	85.9	80.4	63.8	80.5	74.1	60.8
R4	83.3	80.1	67.1	81.8	77.5	64.9
R3	83.8	83.7	70.6	78.2	75.3	73.5

◇同一集団における肯定的回答の割合

[単位：%]



【学びに向かう力】

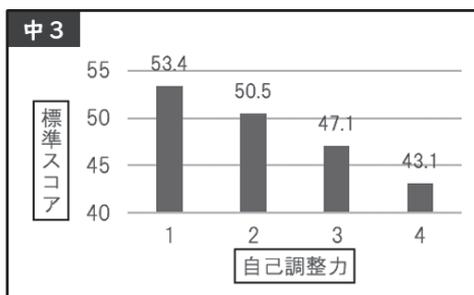
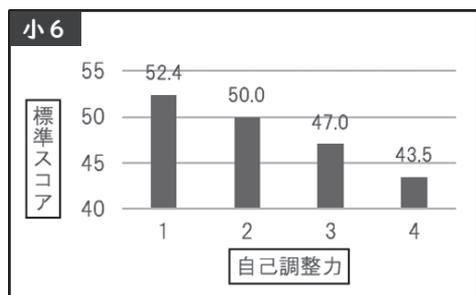
【質問項目】

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(自己調整力)

	小学6年生	中学3年生
R5	77.7	69.0
R4	78.5	74.7

※R3は「自己調整力」を問う項目なし

◇「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析



※クロス分析で用いた「標準スコア」の数値は、小6では国語・算数、中3では国語・数学・英語の平均値

【授業改善】

【質問項目】

⑤授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(主体的な学び)
 ⑥学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(対話的で深い学び)

◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：%]

年 度	小学6年生		中学3年生	
	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び
R5	78.2	81.9	78.9	80.5
R4	76.1	80.8	78.9	79.8
R3	76.8	78.2	80.8	78.4

【ICT機器の活用】

【質問項目】

⑦5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

◇年度ごとの「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合

[単位：%]

年度	小学6年生			中学3年生		
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満
R5	26.5	33.5	39.9	26.2	31.5	42.1
R4	24.8	29.0	46.0	19.4	26.2	54.4
R3	8.6	—	91.2	6.6	—	93.1

【夢育】

【質問項目】

- ⑧将来の夢や目標を持っている。（夢・目標）
⑨自分にはよいところがあると思う。（自己肯定感）

◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：%]

年度	小学6年生		中学3年生	
	夢・目標	自己肯定感	夢・目標	自己肯定感
R5	61.1	85.8	41.6	82.0
R4	61.3	80.9	42.2	81.1
R3	60.2	79.2	41.2	79.1

(I) 学習状況調査の結果から見える特徴

【授業理解・学習習慣】

- 小学校の「理解度」の肯定的回答割合は、R4年度から増加した。
- 中学校の「理解度」の肯定的回答割合は、R4年度から減少し、「学習1h以上」の回答割合は、小・中学校共に減少した。

【学びに向かう力】

- 「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析から、肯定的に回答した児童生徒ほど標準スコアが高い傾向が見られた。

【授業改善】

- 小学校の「主体的な学び」の肯定的回答割合は、R4年度から増加し、中学校は横ばいであった。
- 小学校・中学校共に、「対話的で深い学び」の肯定的回答割合は、R4年度から増加した。

【ICT機器の活用】

- 「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、R4年度から小・中学校共に増加した。

【夢育】

- 「夢・目標」の「1：当てはまる」に回答した割合は、R4年度から小・中学校共に減少した。
- 「自己肯定感」の肯定的回答割合は、R4年度から小・中学校共に増加した。

(3) 岡山県学力・学習状況調査

ア 実施の概要

(7) 調査の目的

- 児童生徒の学力・学習状況について、全国の同学年と比較した学力状況等を把握するとともに、学年毎の経年変化を追跡・分析し、授業改善や個に応じたきめ細かい指導に活用する。
- 結果分析により、学習指導上の課題や学力向上施策の効果を検証し、施策の改善を図る。

(4) 調査日

4月18日(火)

(7) 実施状況

参加校数・児童生徒数・実施教科等

		小学3年生	小学4年生	小学5年生	中学1年生	中学2年生
岡山県	受検校数	278校	281校	275校	117校	116校
	受検者数	9,157人	9,177人	9,342人	9,602人	9,227人
全 国	受検者数	約7万人	約9万人	約11万人	約9万人	約10万人
実施教科等		国語、算数	国語、算数	国語、算数 質問紙	国語、数学 英語、質問紙	国語、数学 英語、質問紙

イ 調査の結果

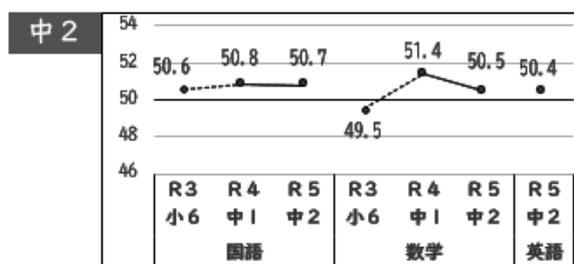
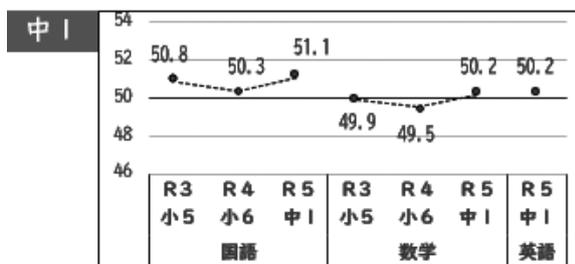
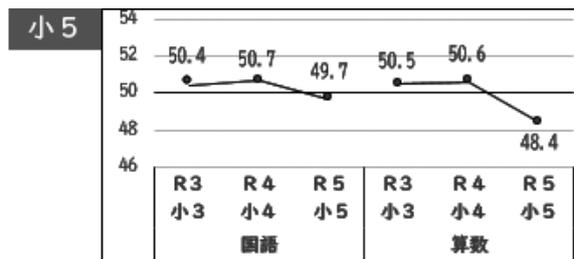
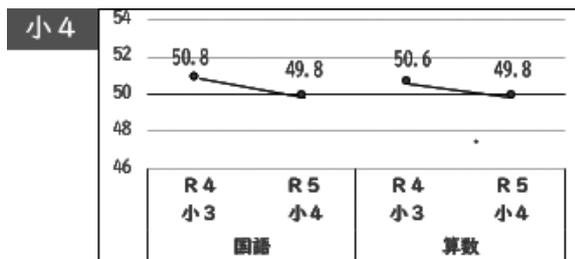
(7) 平均正答率等

- ※本調査は、全国値の正答率を50としたときの換算値（以下、「標準スコア」とする。）を用いる。
- なお、全国値は、調査結果返却時点での値である。

【標準スコア】

年度	国 語					算 数 ・ 数 学					英 語	
	小 学 校			中 学 校		小 学 校			中 学 校		中 学 校	
	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	1年	2年
R5	50.1	49.8	49.7	51.1	50.7	51.1	49.8	48.4	50.2	50.5	50.2	50.4
R4	50.8	50.7	50.2	50.8	50.6	50.6	50.6	51.3	51.4	51.4	—	49.9
R3	50.4	50.9	50.8	51.6	51.5	50.5	49.6	49.9	50.5	50.9	—	51.1

【同一集団における標準スコアの推移】



(イ) 学力の状況

- 小学校の3年生及び中学校の1・2年生の全ての教科で全国値を上回った。中学校の同一集団における標準スコアの推移は、1年生の国語・数学で上昇した。
- 小学校の4・5年生は全ての教科で全国値を下回った。同一集団における標準スコアの推移は、小学校4・5年生の全ての教科、中学校2年生の国語・数学で下降した。

(ウ) 学習状況調査の結果

【授業理解・学習習慣】

【質問項目】

- ①国語の授業の内容はよく分かる。(理解度 国語)
- ②算数(数学)の授業の内容はよく分かる。(理解度 算数・数学)
- ③学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習1h以上)

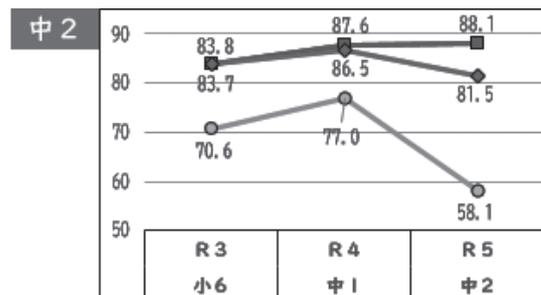
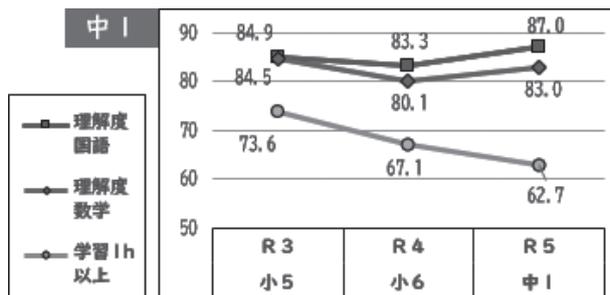
◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：%]

年度	小学5年生			中学1年生			中学2年生		
	理解度 国語	理解度 算数	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上
R5	89.2	85.5	56.3	87.0	83.0	62.7	88.1	81.5	58.1
R4	84.9	84.4	65.9	87.6	86.5	77.0	88.4	81.7	68.8
R3	84.9	84.5	73.6	88.2	88.2	81.2	86.5	82.0	73.2

◇同一集団における肯定的回答割合の推移

[単位：%]



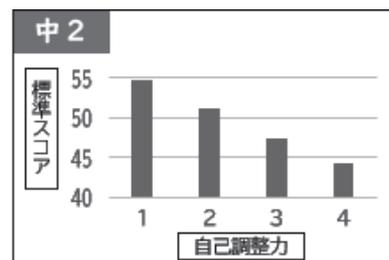
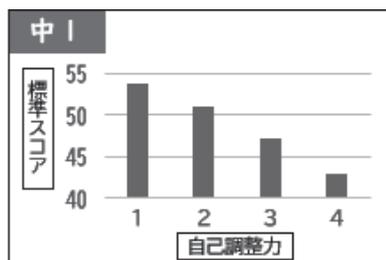
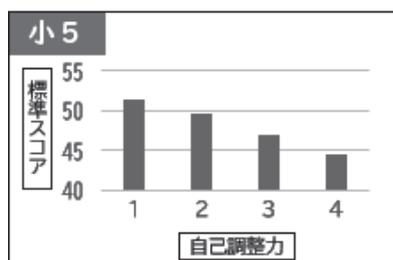
【学びに向かう力】

【質問項目】

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(自己調整力)

	小学5年生	中学1年生	中学2年生
R5	70.1	73.8	68.1
R4	75.5	78.3	70.1

※R3は「自己調整力」を問う項目なし



【授業改善】

【質問項目】

⑤授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(主体的な学び)
 ⑥学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(対話的で深い学び)

◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：%]

年 度	小学5年生		中学1年生		中学2年生	
	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び
R5	71.9	76.2	76.9	77.1	74.4	79.8
R4	75.3	78.2	79.3	85.1	75.5	82.8
R3	75.4	78.8	81.1	85.6	78.7	81.9

【ICT機器の活用】

【質問項目】

⑦授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

◇年度ごとの「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上～月1回未満」と回答した割合 [単位：％]

年度	小学5年生			中学1年生			中学2年生		
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上 ～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上 ～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上 ～ 月1回未満
R5	21.6	27.8	50.3	40.2	30.7	29.0	26.9	33.6	39.4
R4	(54.1)	—	(45.3)	(66.6)	—	(32.8)	(50.3)	—	(49.3)
R3	(19.3)	—	(80.4)	(12.1)	—	(87.7)	(16.8)	—	(83.1)

※R3・4の（ ）の値は、選択肢が異なるため、参考値

【夢育】

【質問項目】

⑧将来の夢や目標を持っている。(夢・目標)

⑨自分には、よいところがあると思う。(自己肯定感)

◇年度ごとの肯定的回答割合

[単位：％]

年度	小学5年生		中学1年生		中学2年生	
	夢・目標	自己肯定感	夢・目標	自己肯定感	夢・目標	自己肯定感
R5	70.5	81.4	60.9	82.3	43.4	81.4
R4	69.7	80.8	60.0	79.8	43.5	74.8
R3	70.1	79.6	57.8	77.6	44.3	74.8

(I) 学習状況調査の結果から見える特徴

【授業理解・学習習慣】

- 「理解度」の同一集団における肯定的回答割合は、中2の数学を除いて上昇した。
- 「学習1h以上」の肯定的回答割合及び同一集団における肯定的回答割合の推移は、R4年度と比較して、全ての学年で下降した。

【学びに向かう力】

- 「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析では、肯定的に回答した児童生徒ほど標準スコアが高い傾向が見られた。

【授業改善】

- 「主体的な学び」及び「対話的で深い学び」共に、肯定的回答割合は、R4年度と比較して全ての学年で減少した。

【ICT機器の活用】

- 「週1回以上～月1回未満」と回答した割合は、小5を除いて年度ごとに減少していることから、使用頻度が増えていると考えられる。

【夢育】

- 「夢・目標」の「1：当てはまる」と回答した割合は、ほぼ横ばいであった。「自己肯定感」の

肯定的回答割合は、R4年度と比較して全ての学年で増加した。

ウ Web 評価支援システムの活用等

児童生徒一人一人に応じた課題プリントを作成できる Web 評価支援システムの活用を市町村教委を通じて各学校に徹底するとともに、授業改善に係る取組例を紹介する通信を作成した。

(4) 学校経営力の向上

ア 管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問の実施

学校経営アドバイザーや県教委幹部が岡山市立を除く県内すべての公立小・中学校を訪問し、学校経営アクションプランを基に、学力向上をはじめ、学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりに向けた取組について管理職と面談・協議を行い、管理職のビジョンと戦略を支援することにより、学校経営力の向上を図った。

学校経営アドバイザーには、経験豊富な退職校長5名を委嘱し、訪問において中心的な役割を担うとともに、学校に対して継続的かつ専門的な立場で学校経営支援に関わった。

第1回訪問 389校（訪問期間 5月12日～7月6日）

第2回訪問 387校（訪問期間 9月13日～12月11日）

(5) 就学前教育

ア 就学前教育推進プロジェクト

就学前教育の質的向上と保幼小の円滑な接続を図ることにより、就学後の教育を見据えた就学前教育を推進する。

(7) 幼児教育センター機能の充実

義務教育課内に幼児教育センターを設置し、関係課及び関係機関等との連携を図りながら、施設類型によらない研修の充実等、就学前教育の質的向上に取り組んだ。また、市町村教育委員会及び部局の幼児教育担当者による就学前教育推進会議を開催し、保幼小接続スタンダードに基づいた保幼小接続カリキュラムの実施及び改善等に関する協議を行った。

(イ) 就学前教育スーパーバイザーの配置

就学前教育について豊かな経験と優れた指導力を持つ元幼稚園長1名及び元小学校長1名を義務教育課に配置し、就学前教育の充実と保幼小の接続を図るための保幼小接続スタンダードの普及、市町村の保幼小接続カリキュラムの改善支援、教職員等の研修プログラムの作成、市町村の研修会等へ派遣しての指導助言等を行った。

(6) キャリア教育

ア 岡山型課題解決型学習（PBL）推進事業

岡山型課題解決型学習（PBL）の考え方や学習過程をまとめたガイドブックの周知・活用促進を図る研究校2校に対して指導・助言を行い、その成果について県内への普及を図った。

イ 「君に届け！」夢への架け橋事業

小・中学生を対象とした各方面で活躍する方からの夢への実現に向けたメッセージ動画を10名分作成し、児童生徒が夢や目標について自らの気持ちに向き合ったり、将来の可能性を膨らませたりする機会を創出した。

ウ おかやま夢発信・交流事業

○おかやま学びたい賞・おかやま学びたい賞フォーラムの実施

小・中学生が地域の良さの発見・再確認を通じて、学んだ成果を募集し、優れた取組を表彰する「おかやま学びたい賞」を実施した。

応募状況

	小学校	中学校	合計
応募作品	50点	46点	96点
応募校	38校	17校	55校

最優秀賞

井原市立青野小学校 5・6年生

「ふるさとと共にある未来 ～10年後どう生きていく?～」

赤磐市立高陽中学校 3年生

「目指せ！赤磐市の新しい特産品！！～甘酒プリン～」

おかやま学びたい賞に応募した学校の児童生徒が、自らの学習成果を交流し、学習成果に対して他者からのフィードバックを受けることにより、児童生徒が自らの学びを客観的に振り返り、これからの学びに見通しを持つとともに、学ぶ意欲の向上を目指すため、おかやま学びたい賞フォーラムを開催した。

参加状況

小学校	14校
中学校	6校
合計	20校

○「遠く」と「Talk」の実施

希望する学校同士のマッチングを行い、オンライン交流を実施し、児童生徒に発表・交流の機会を提供した。

小学校	11校
中学校	0校
合計	11校

(7) ICTの活用

「教科等におけるICT活用事例集 STAGE 3編（第二版）」に基づいた研修を実施して好事例を紹介し、その普及を図った。

6 生徒指導の推進

《教員の資質向上・校内指導体制整備》

○生徒指導主事研修講座

生徒指導上の諸問題について情報交換、研究協議等を行うことにより、学校における生徒指導の充実を図った。

○生徒指導研修

いじめや不登校などの生徒指導上の問題に対する教員の意識を高めるとともに、解決に向けた実践的な対応力の増進、指導体制の充実を図った。また、講義や演習・協議等をとおして、教員が生

徒指導・教育相談に関する専門的な知識・技能・態度を学んだ。

○学校コンサルテーション

いじめや不登校、学級（HR）経営に課題があるなど生徒指導上の諸問題や特別な配慮の必要な児童生徒一人一人に応じた支援等について、県総合教育センター指導主事が公立（岡山市を除く。）の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等コンサルテーションを行うことにより、より有効な校内支援体制の整備を図った。

《教育相談体制の充実》

○教育相談員配置事業

県青少年総合相談センターに教育相談員を配置し、面接相談、電話相談を実施した。

○進路相談員配置事業

県青少年総合相談センターに、不登校や中途退学の生徒、保護者、教員からの相談に対応する進路相談員を配置し、面接相談、電話相談を実施した。

○総合教育センター教育相談事業

総合教育センターにおいて、指導主事が面接相談、電話相談を実施した。

《学校適応推進に係る事業》

○いじめ防止対策等総合推進事業

・岡山県いじめ問題対策連絡協議会

県はいじめに関する現状を説明し、学校と家庭・地域が連携し、「いじめの未然防止」、「いじめの早期発見」に向け、関係機関それぞれの立場からの専門的な意見をいただいた。

・岡山県いじめ問題対策専門委員会

県はいじめに関する状況を説明し、県の取組や今後の方向性を含め、各員の立場からいじめ問題についての捉え等の意見をいただいた。

・いじめ問題等外部専門家の活用

児童生徒に係る重大な事案が発生した際に、現地で直接助言・指導を行う「緊急危機支援チーム」を派遣した。

また、保護者や地域等からの多様な相談、要望や理不尽な要求等への対応に苦慮している学校が、法律に基づいた助言を受けられるよう、岡山型スクールロイヤー制度（弁護士による法律相談）を実施した。

・「いじめについて考える週間」の設定及びいじめ防止ポスター・標語の募集

「いじめについて考える週間」（6月第1月曜日から1週間）

いじめ防止ポスター・標語の募集
募集期間：令和5年5月～9月
応募数：ポスター8,190点、標語15,822点

・県立学校におけるいじめ防止等の対策のための組織

県立学校において、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、教職員や心理等の専門的な知識を有する者等により、いじめの防止等の対策について検討を行った。

・規範意識向上モデル校支援チームの配置

警察（学校警察連絡室）等と密接に連携を図りながら、暴力行為や授業エスケープ等の課題に積極的に取り組む「規範意識向上モデル中学校区」（校区内の小学校も活動対象）に対して、学校警察連絡室に指導主事を出向させることで、学校へ訪問を可能とし、各校の生徒指導体制への指導や助言を行った。

○心と命のサポート事業

児童生徒が自他を大切にすることを身に付けることができるよう、いじめや自殺の問題に直面した当事者や関係者等によるいじめの重大さや命の尊重等に関する出前授業を実施し、いじめ等の問題行動や不登校、自殺等の未然防止を図った。

○アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システムの活用

いじめ等について安心して相談できる体制を構築するため、当事者やいじめを見かけた生徒が匿名で相談・報告できるシステムを全県立学校で活用した。

○スクールカウンセラー配置事業

公認心理師や臨床心理士等のスクールカウンセラーを県内全公立小・中・義務教育・中等教育学校へ配置し、児童生徒、保護者へのカウンセリングや、教職員への指導助言・研修を行った。

○スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業

教育の知識に加え、社会福祉等の専門的技術を持ったスクールソーシャルワーカーを配置し、それぞれの地域において、市町村教育委員会とも協働しながら、学校と家庭、関係機関をつなぐなど、問題行動や不登校の課題を抱える児童生徒の置かれた家庭環境や生活環境に働きかけることによって、児童生徒や保護者等への支援を行った。

〔R 5 対応件数2,306件（R 4：2,311件）〕

○思春期サポート事業

全県立高等・中等教育学校で、各校19回程度、公認心理師や臨床心理士等の心の専門家を招へいし、生徒や保護者に対するカウンセリングや教員に対する研修の実施、ケース会議等での助言を行うことによって、高等学校等の教育相談力の向上を図った。

○進路相談事業

中・義務教育・中等教育学校・高等学校における不登校生徒や高等学校中途退学者の適切な進路選択を支援するため、県内3会場において進路相談会を実施した。

○学級崩壊等早期対応事業

問題行動が見え始めた学校に警察OBと教員OBのペアによる集中指導員を早期から継続的に派遣して支援を行い、学校の指導体制の強化を図るとともに、授業エスケープ等をする児童生徒を別室で指導する支援員を配置することで、生徒の教室復帰を支援した。

また、教員OB1名をコーディネーターとして人権教育・生徒指導課に配置し、集中的・継続的支援のマネジメントとともに、学級サポートリーダー等や関係機関への円滑な接続を行うことで、効果的な支援を促進した。

○学級サポートチーム派遣事業

いわゆる学級崩壊等により授業が成立しない状況などにある小・中学校に、児童福祉・保健、特別支援の専門家からなる専門指導員（学級サポートリーダー）を派遣して指導助言を行うとともに、必要に応じて地域人材等を一定期間、学校に配置し、直接児童生徒に関わったり、学校の生徒指導体制について助言を行った。

《不登校対策に係る事業》

○「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」に基づく対応の徹底

「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」を全校に普及することで、7段階の状態評価を導入し、児童生徒一人一人の状態に応じた対応や支援対象者リスト等による情報の一元化・可視化の推進等を行い、全県で統一的な長期欠席・不登校対策に取り組んだ。

また、不登校対策別室指導実践研究における取組の成果とICTの活用による不登校対策の実践事例を県下に普及させるために、「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード増補版」を活用し、

研修を行った。

○「起立性調節障害対応ガイドライン」の活用促進

医療的観点からのアプローチが可能となる「起立性調節障害対応ガイドライン」の活用を促進し、チェックシートや相談できる医療機関マップ等を活用し、支援可能な医療機関と連携した対応を行った。

○小学校における長期欠席・不登校対策システム化推進事業

小学校において、不登校対策担当者を中心とした組織的な対応力を向上させるとともに、登校しづらい状況が見え始めた児童の家庭へのアプローチを早期に、積極的に行うなど、新たな不登校を生まない取組を中心に、長期欠席・不登校傾向のある児童への支援を行った。

・不登校対策担当者養成研修

不登校に対する学校の組織的な対応力を向上させるため、核となる不登校対策担当者に対する研修を行った。

・登校支援員・別室支援員の配置

地域人材等を登校支援員として課題のある学校に配置し、登校しづらい状況が見え始めた児童に対する登校支援や、教室や別室での学習支援・生活支援、保護者等に対する相談支援等を行った。(20市町・121校)

学校規模に応じて支援員の複数配置を行うなど、適切な支援により、個々の状況が改善したり、保護者との関係性が良くなるなどの効果が見られるとともに、配置校の多くで長期欠席・不登校の抑制効果が見られた。

・専門指導員による巡回指導

不登校対策の経験・知識の豊富な専門指導員(教員OB)を人権教育・生徒指導課に配置し、支援員配置校等を巡回訪問することで適切な支援が行えるよう指導助言を行うとともに、効果的な取組の収集及び普及を行った。

○不登校対策別室指導実践研究(心の居場所推進プロジェクト)

中学校では、長期欠席・不登校対策の専用教室を16市町33中学校に設置し、別室担当の専属教員と市町村費の支援員を1名ずつ配置し、学校(教室)への復帰や社会的自立を目指し、個々の生徒の状況に応じた生活支援・学習支援を行った。

小学校では、長期欠席・不登校対策の専用教室を8市町村11小学校に設置し、別室担当の教員を配置し、教室への復帰を目指し、個々の児童の状況に応じた生活支援・学習支援を行った。

・別室指導推進員による巡回指導

不登校対策の経験・知識の豊富な専門指導員(教員OB)を人権教育・生徒指導課に配置し、実践研究校を巡回訪問することで適切な支援が行えるよう指導助言を行うとともに、効果的な取組の収集及び普及を行った。

○社会的自立サポート事業

不登校児童生徒の社会的自立を支援するため、教育支援センター・おかやま希望学園・フリースクール等の関係機関相互の効果的な連携の在り方に関する研究、不登校親の会との連携等を行った。

《児童生徒健全育成推進に係る事業》

○岡山県学校警察連絡協議会

県下22地区の学校警察連絡協議会の学校代表者や警察関係者等による総会を年1回(6月)開催(書面会議)し、児童生徒の健全育成のための重点目標を決定するとともに、学校と警察との連携強化について協議した。

○県警察本部との連携制度に関する協定

県教委と県警察本部が児童生徒の非行、問題行動及び犯罪被害の防止並びに健全育成に関し、緊密に連携を行うことを目的に、平成27年4月30日に締結。

以前からも学校と警察の間での情報共有はなされてきたが、問題行動が深刻化、多様化している現状を踏まえ、協定に基づき、より円滑に相互連携を進めている。

○中学卒業生の岡山駅前集問題への対策

中学校卒業後に卒業生等が特攻服、刺しゅうラン等を着用して岡山駅前等に集まり、周囲に威圧感を与えるとともに迷惑行為を行っていることについて、関係者（県・県教委・県警・岡山市教委・倉敷市教委）による協議会で対策を検討し、特攻服等の公共の場での使用等を補導対象に加えるとともに、学校を通じて生徒や保護者への啓発・指導を行った。

《スマホ・ネット問題に係る事業》

○スマホ・ネット問題総合対策の推進

県教委の本庁全課室等による総合対策により、児童生徒の主体的な活動の促進、教員の指導力向上、フィルタリングの設定等の保護者や地域住民への啓発、ネット上のいじめ・トラブルの研究、ネット依存の研究など、様々な課題に応じた取組を推進した。

○スマートフォン等のペアレンタルコントロール等を活用した家庭のルールづくりの推進

本県においても子どもたちのテレビ・ゲーム等の使用時間に課題があり、また、スマートフォン等を長時間使用する中でネット上のいじめや犯罪被害につながるケースも起こっていることから、子どもの状況を把握するために、利用時間やアプリの制限等が可能なペアレンタルコントロール機能を活用した家庭のルールづくりを推進することで、児童生徒の生活習慣の改善を図った。

○生徒指導上の課題解決に向けた効果的な対応策普及促進事業（OKAYAMAスマホサミットの開催）

山陽新聞社、県教委、岡山市教委の共同開催により、令和5年6月から11月まで、オンラインを交えたOKAYAMAスマホサミット2023を開催した。また、令和5年11月には津山教育事務所管内における県北スマホサミット（オンライン）も開催するなど、中高生及び保護者それぞれの立場で主体的な取組について情報交換・協議を行った。成果報告会では各校の取組を発表するとともに、児童生徒、保護者が共に、スマホの適正利用やルールづくり、危険性等について考え、「児童生徒・保護者へ向けたメッセージ」を取りまとめ、ポスターを作成した。作成したポスターを県内全ての学校へ配布し、OKAYAMAスマホサミット2023の取組を周知するとともに、児童生徒が自ら問題解決に取り組む機運を醸成した。

○ネットパトロール事業

インターネット上のいじめや誹謗中傷、犯罪被害等から児童生徒を守るため、早期発見・早期対応の観点から、SNSやブログ、プロフなど、インターネット上の書き込み等の検索・監視等を行った。

○スマートフォン等の利用に関する実態調査

スマートフォン等の利用に関する児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に活用するため、小学4年生から高校3年生までの児童生徒を対象に抽出し、児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、活用方法・内容やトラブル等の実態などに関する調査を実施した。

○ネット依存への対応

ネット依存の未然防止や早期対応を図るため、平成29年度に作成した「ネット依存防止マニュアル」を市町村担当者会、岡山県学校保健会高等学校ブロック協議会及び新任保健主事研修講座等で周知し、また、長期休業前の7月、12月、2月にチェックシートの活用について県立学校、市町村教育委員会へ通知し、取組の推進を図った。

《きめ細かな指導》

○小1 グッドスタート支援事業

地域住民等116人を、学級担任の補助を行う教育支援員として小学校第1学年で1学級当たりの児童数が多い学校42校に配置し、児童の基本的な生活習慣の確立や基礎学力の向上に努めるとともに、義務教育の円滑なスタートを図った。

○中学校第1学年の学級編制の弾力化

小学校に比べて学級規模が大きく、教科担任制になるなど環境変化が大きい中学校第1学年について、学級数が5学級以上の中学校11校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。

○少人数学習推進等のための教員加配

小学校では、学力に差がつきやすい学年等で少人数指導を行うための教員加配を行った。また、前年度同様、習熟度別による3グループ以上の少人数指導を推進した。

中学校では、学習環境が大きく変わる第1学年を中心に教員加配を行い、主要4教科を中心に少人数指導を行った。

また、へき地小規模学校の指導の充実を図るため、複式学級等の解消のための教員加配や中学校の不登校対策のために非常勤講師の配置を行うなど、きめ細かな指導の充実に努めた。

○教師業務アシスタント配置事業

教員が抱える事務作業等の負担を軽減し、教員が本来の教育活動に専念できるようにするため、地域人材等をアシスタントとして162校に配置し、学校現場の教育体制の充実を図った。

7 進路指導

高等学校及び特別支援学校の高等部において、ホームルーム等を中心に適切な進路指導が推進されるよう指導・援助するとともに進路保障の推進を図るため、主として次のような事業を行った。

(1) 高等学校就職問題検討会議の開催

令和6年度の新規高等学校卒業者の就職機会を確保するとともに、地域の状況等を踏まえた就職支援・職業紹介を円滑に推進するため、学校関係者、主要経済団体、行政の各機関代表が集い、必要な事項の連絡、検討、協議等を行う検討会議を開催した。

(2) 新規学卒者等合同就職面接会

令和5年度新規高等学校等卒業予定者及び若年者に対する就職支援の一環として、就職面接会を11月に開催し、県内企業への就職の促進を図った。

(3) 高校生のためのジョブフェア

感染症対策を講じ、岡山、倉敷、津山の3会場で7月に開催した。

(4) 若者たちの就職面接会・企業説明会

令和6年3月に、令和5年度新規高等学校等卒業予定者及び若年者に対する就職支援の一環として就職面接会を、併せて、令和6年度以降高等学校等卒業予定者に対する企業説明会を初めて開催し、県内企業への就職の促進を図った。

(5) 高校生就職アドバイザーの配置

就職希望者の多い県立高等学校13校を拠点校として高校生就職アドバイザーを配置し、新規求人開拓を行うとともに、教員との協働により生徒や前年度未就職卒業者に対して綿密で適切な就職支援を行った。

(6) 職場適応指導

高等学校卒業者の早期離転職の増加が指摘されていることから、学校における進路指導の一環とし

て、卒業生の就職先である事業所等を訪問し、卒業生を適切に支援するとともに、在校生への進路指導に役立つ資料や新しい情報の収集、応募先の新規開拓など、進路指導の充実を図った。

8 産業教育

(1) 内地留学等派遣状況

種別	派遣者	区分	派遣先	人数	学 科 別								期間 12月	
					農業	工業	商業	家庭	看護	福祉	情報	普通		
内地留学		県内	岡山大学	0										0
産業教育長期 専門研修		県内	民間企業	1						1				1

(2) 講習会・研修講座

ア 講習会への派遣

名 称	人 数
産業教育担当指導主事研究協議会	4 人
産業・情報技術等指導者養成研修	7 人
産業教育実習助手研修	0 人
全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会（オンライン開催）	10 人
キャリア教育指導者養成研修	3 人

イ 研修講座の開催

名 称	人数	期 日	会 場	講 師	内 容
産業教育実習助手等講習会 （農業）	16	8.8～8.10	岡山大学	岡山大学 駄田井 久 大仲 克俊	資源管理学（農業） 食料生産システム管理学（農業）
産業教育実習助手等講習会 （工業）	26	8.8～8.9	岡山大学	岡山大学 永禮 英明 西村 伸一 橋口亜由未	土砂災害防御学、 環境工学実験・実習（工業）

(3) 高等学校等職業教育技術顕彰

県内の高等学校、中等教育学校後期課程又は特別支援学校高等部に在籍する生徒で職業資格取得者等を顕彰することにより、生徒の技術・技能の習熟を目指すとともに、目的意識と学習意欲を高め、学校生活に活力を与えた。

令和5年度：1,131人

(4) 産業界等と連携した学びの推進

県立学校等における産業界等と連携した専門的かつ協働的な学びを充実させるとともに、生徒が企業をよりよく知る機会を充実させ、地域の発展を担う人材の育成を推進するため、県教育委員会と県内経済6団体との包括連携協定に基づき、令和6年3月に連携協議会を開催し、県立高校等と産業界等との連携の方策等について協議を行った。

9 グローバル人材の育成

(1) 国際理解教育の推進

ア 外国語指導助手の派遣

外国語教育・国際理解教育の一層の充実を図るため、外国語指導助手（ALT）18人を県立学校へ派遣した。

イ 南オーストラリア州への教員派遣

岡山県の英語教員（高校）1名を1年間南オーストラリア州へ派遣し、日本語教育を行った。

ウ 韓国・慶尚南道教育庁との教育交流

平成24年1月に岡山県教育委員会と韓国・慶尚南道教育庁との間で締結した友好交流協定に基づき、中学生及び高校生の相互交流を行っている。令和2年度から3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問による交流を中止していたが、令和5年度は、10月17日から20日までの3泊4日の日程で、慶尚南道の中学生を岡山県に受け入れ、学校訪問、ホームステイなどを通じた交流を行うことにより、生徒の国際的視野を広めるとともに、相互の理解と交流を深めた。

＜高等学校の姉妹校等の交流＞

- ・岡山一宮高等学校（平成23年度～）
- ・岡山城東高等学校（平成25年度～）
- ・和気閑谷高等学校（平成28年度～）

また、令和6年1月に、教育長以下5名で慶尚南道教育庁を訪問し、協議、情報交換や教育施設等の視察を行った

エ 高校生留学支援事業

高校生の留学を促進するため、留学経費の一定額を支援した。

- ・長期留学（1名につき上限50万円）
交付決定者：0人
- ・短期留学（1名につき上限5.7万円）
交付決定者：110人

海外姉妹校については、新たに1校が姉妹校締結を行った。また、オンラインでの国際交流により、姉妹校間で文化交流等を実施した。

なお、国際課が主催し令和5年11月に開催した留学促進フェアOKAYAMA2023に留学経験者等と対話できるブースを設け、留学希望者に向けて情報提供を行った。

新規海外姉妹校締結校 岡山東商業高等学校（相手校：サザン高等学校）

オ ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業

国のカリキュラム開発拠点校として指定を受けた県立学校とその連携校において、国内外の大学、企業等と協働し、高校生へ高度な学びを提供する仕組みを構築することにより、グローバル人材の育成を目指した取組を行った。

また、令和2～5年度中の当事業の活動の集大成として、高校生国際会議（Summit-for-“well-being” in Okayama 2024）を実施し、基調講演の講師としてブルキナファソのアブゼ・ジグマ王女を招聘し、高校生へのエールをいただいた。

- ・高校生国際会議
開催日：令和6年2月3日（土）
会 場：OHK KURUNホール
指定校：岡山操山中学校・高等学校（令和2～5年度）

カ グローバル・リーダー育成拠点構築事業

指定校を拠点とし、本県におけるグローバル人材育成の牽引役として関係機関との連携や海外との交流の充実を図った。また、留学経費の一部を支援した。

- ・長期留学（1名につき上限50万円）
交付決定者：1人（50万円）

- ・短期留学（1名につき上限5.7万円）
交付決定者：1人
指 定 校：岡山城東高等学校（令和4～6年度）

キ 生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業

研修協力校において英語指導力向上に資する研究・実践を行い、その成果を公開授業及び研究協議を通じて県下に普及した。また、英語教育推進リーダー、研修協力校、指導主事等からなるプロジェクトチームによる会議を開催し、課題の共有や情報交換を行い、今後の方向性について検討した。

研修協力校：岡山城東高等学校

- ・公開授業及び研究協議
開催日：令和5年10月24日(火)及び令和5年12月19日(火)
会 場：岡山城東高等学校
参加者：56名

ク 高校生英語ディベート大会

英語によるディベート大会等を開催することにより、英語力のみならず幅広い教養と問題解決能力を身に付けた人材の育成に取り組んだ。

- ・英語ディベート研修会
開催日：令和5年8月8日(火)
会 場：岡山城東高等学校
参加者：55名
- ・第12回岡山県高校生英語ディベート大会
開催日：令和5年10月28日(土)
会 場：岡山大安寺中等教育学校
参加者：4校7チーム

ケ オンライン国際交流コーディネーター事業

県教委にコーディネーターを配置し、交流先の開拓や調整等を行うことで、県立高等学校等におけるオンライン国際交流の円滑な実施を図ることにより、生徒の留学への興味や意欲の喚起を行った。

コ おかやま夢育イニシアチブ事業

岡山大学と岡山県教育委員会が協働して当事業を令和4年度から実施し、大学生と高校生という次世代がともに夢を育み、主体的に学ぶ場を課外活動として提供した。また、県立高校の代表生徒1名をOne Young World（OYW）グローバルサミット2023ベルファスト大会へ派遣した。

- ・第3回 ワークショップ
開催日：令和5年8月2日(水)～3日(木)
会 場：岡山コンベンションセンター
- ・第4回 ワークショップ
開催日：令和6年3月16日(土)
会 場：岡山大学
- ・One Young World（OYW）グローバルサミット2023ベルファスト大会
開催日：令和5年10月2日(月)～5日(木)
会 場：北アイルランド ベルファスト

サ 外部機関と連携した指導力向上事業

小学校教員へのネイティブ・スピーカー等による英会話体験研修を、英会話スクール等民間の力

を活用して実施し、教員の英語力と英語指導力の向上を推進した。

- ・小学校教員を対象とする研修
3回（参集にて研修）
延べ241人参加

シ 英語デジタル教科書活用実証研究事業

生徒の英語における4技能を伸ばすため、英語学習者用デジタル教科書の効果的な活用について、研究推進校を2校指定し、研究を行った。

10 時代の進展に対応した教育の推進

(1) 情報教育の推進

ア G I G Aスクール構想の推進

G I G Aスクール構想の実現に向け、I C T活用等へのワンストップ支援を推進するとともに、校務等のデジタル化を推進するため、令和3年度から新たに教育情報化推進室が設置された。

令和2年度までに整備した学校のI C T環境を最大限に活用し、これまでの教育実践と最先端のI C Tを組み合わせることで、児童生徒の資質・能力を確実に育成する取組を行った。

(ア) 1人1台端末の整備等

県立高校等では、令和3年度又は令和4年度の入学生等から順次、個人購入により導入することとしており、令和3年度から導入を開始した一部の県立高校等では、令和5年度に全ての学年で端末の導入が完了した。（県立中・中等教育学校前期課程・特別支援学校（小・中学部）の児童生徒1人1台端末及び教員1人1台端末は令和2年度に整備済）

(イ) 家庭の通信環境の支援

住民税非課税世帯等の希望する生徒に端末及びモバイルルータを貸与した。

(ロ) I C T活用指導力レベルアップ推進事業

学びの変容状況アンケート（年2回実施）により生徒1人1台端末の利活用状況や個々の教職員のI C T活用指導力を把握するとともに、管理職・I C T活用推進リーダー・教職員それぞれの職務や力量に応じた研修・支援を充実させ、教員のI C T活用指導力の向上を図った。

また、国家資格等の取得を奨励し、I C T活用やネットワーク管理に関する基礎的事項についての知識や技能を有する教職員の人材育成を図った。

(ハ) 学校・市町村への支援体制の強化

- ・I C T支援員による巡回支援の強化
- ・専門業者によるコールセンター設置
- ・県・市町村教委担当者連携会議の設置

(ニ) オンライン授業の取組

新型コロナウイルス感染症により学校・学級閉鎖や臨時休業となった場合は、速やかにオンライン授業に切り替えたり、一部の児童生徒が登校できない状況になった場合に授業配信等を行うことで、児童生徒の学びの継続を図った。

(ヒ) I C T活用による個別最適な学習推進モデル事業

モデル校3校（東岡山工業高等学校、倉敷中央高等学校、津山商業高等学校）において、基礎学力・学習習慣定着に向けたEdTechサービスを令和5年度新入生へ導入し、I C Tを学習に効果的に活用することによる個別最適な学びの効果を検証し、メリットや効果的な手法の発信に努めた。

(ヘ) G I G Aスクール端末等整備事業

G I G Aスクール構想で整備している公立学校（義務教育段階）の児童生徒の1人1台端末の整

備・更新について、県に基金を造成し、今後計画的に端末整備・更新を進めていく。

(2) 環境教育の推進

スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業

環境教育を重点的に行う県立高等学校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、環境問題を正しく理解し、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図った。

- ・高松農業高等学校（令和3～令和5年度）
- ・水島工業高等学校（令和3～令和5年度）

(3) 科学技術教育の推進

ア スーパーサイエンスハイスクールの指定

岡山一宮高等学校、倉敷天城高等学校、玉島高等学校、津山高等学校の4校が文部科学省から指定を受け、理科・数学に重点を置いた取組を大学等と連携しながら実践し、将来国際的に活躍する科学技術系人材の育成を図った。

イ 科学オリンピックへの道

理数への興味・関心の高い中高生を対象としたコンテストを開催することで、更なる興味・関心の高揚及び学力の向上を図った。また、国際物理オリンピックへとつながる「物理チャレンジ」の参加者数が減少傾向であることから、「岡山物理コンテスト」に参加した生徒が翌年度の「物理チャレンジ」に参加する際の参加費を支援し、参加者数の回復に努めた。

開催日：令和5年9月30日(土)

会 場：川崎医療福祉大学

参加者：178人

ウ サイエンスチャレンジ

理数への興味・関心の高い中高校生を対象とした理科・数学等の複数分野のチーム対抗の競技会を開催し、団体で協力して課題に取り組む機会を設け、更なる興味・関心の高揚及び学力の向上を図った。

- ・サイエンスチャレンジ岡山ジュニア

開催日：令和5年8月9日(水)

会 場：岡山大学大学院自然科学研究科棟

参加者：11校20チーム（60人）

- ・サイエンスチャレンジ岡山

開催日：令和5年11月4日(土)

会 場：川崎医療福祉大学

参加者：28校40チーム（281人）

(4) 主権者教育の推進

今後新たに有権者となる高校生の政治や選挙への関心を高め、政治的教養を育む主権者教育の推進を図った。また、小・中学校の社会科の実践事例や地域課題を探究する学校の事例を追補した実践事例集の活用を促進した。

- ・岡山県高校生議会

開催日：令和5年12月19日(火)

参加者：17校70人

会 場：岡山県議会本会議場

(5) 教育機会の確保等の推進

ア 中学校夜間学級調査研究

令和3年3月に調査委員会において取りまとめられた公立中学校夜間学級に関する調査研究報告書に基づき、公立中学校夜間学級の設置に向け、主体的に取り組むとともに、広域行政体として、市町村教委においても前向きに検討が行われるよう働きかけ、市町村間の調整を図った。

11 定時制・通信制教育

<定時制教育>

(1) 学習指導・特別活動等

生徒の多様化が進む中で、学習意欲を高め、理解を深めさせるため、指導内容の精選、指導形態・方法の改善を図るとともに、生徒指導面でも充実した学校生活を送れるよう指導した。また、学校行事、生徒会活動や部活動等の集団的な活動を通して、生徒の連帯感を高め、友情を深める工夫もなされた。

さらに、生徒の進路・適性・関心等に応じた教育が進められるよう、選択教科・科目の拡充、総合的な探究の時間、実務代替、単位制の趣旨を生かした運用等の実施に向けて研究が行われた。

(2) 現 状

県立烏城高等学校のほか、市立本校10校、分校1校、計12校である。このうち夜間のみが4校、昼間のみが4校、昼夜間が4校である。

<通信制教育>

(1) 学習指導・特別活動等

学習意欲を高め、学力の充実向上を図るため、面接指導・学校行事への積極的参加、レポートの提出等をはじめ、生徒会活動や部活動等の充実を図って、高校生としての意識を高め、相互理解と友情を深めて連帯感を強化するとともに、継続的な学習が行われるよう指導した。

(2) 現 状

ア 実施校・通信教育連携協力施設

実施校は県立岡山操山高等学校（普通科）1校のみであり、定員は500人である。

通信教育連携協力施設は、倉敷青陵高等学校、津山高等学校の2校である。

イ 教科・科目及び総合的な探究の時間（令和5年度入学生）

10教科、40科目及び総合的な探究の時間を設定している。

教科・科目の内訳は国語5科目、地理歴史5科目、公民3科目、数学5科目、理科6科目、保健体育2科目、芸術5科目、外国語5科目、家庭3科目、情報1科目である。

ウ 面接授業

(ア) 本校面接（日曜・月曜）

(イ) 通信教育連携協力施設面接（日曜）

エ 放送の視聴指導・NHK学園高校協力校

NHK高校講座の視聴による学習を指導している。また、NHK学園高校の協力校でもある。

12 へき地・複式教育

(1) 研究発表大会指導助言

岡山県へき地・複式教育研究連盟研究指定校発表会の指導助言を行った。

- ・R5.10.27 笠岡市立神島外小学校
- ・R5.11.1 真庭市立蒜山中学校
- ・R5.11.21 高梁市立富家小学校

13 特別支援教育

(1) 教員の資質向上・研究

障害の重度・重複化、多様化が進む中で、障害のある幼児児童生徒が、その可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加できるようにするため、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、情緒障害、言語障害、病弱（身体虚弱）、発達障害のそれぞれの障害の種類や程度、教育的ニーズ等に応じた適切な教育の在り方について研究を進めた。

また、重複障害児の教育や訪問教育の在り方についても研究を進めた。

さらに、次の内地留学を行うとともに、研究大会等に教員を派遣することにより、教員の資質向上と指導力の充実を図った。

ア 内地留学

- ・国立特別支援教育総合研究所専門研修
発達障害・情緒障害・言語障害教育コース
(オンライン及び集合・宿泊研修参加) 3名
知的障害コース
(オンライン及び集合・宿泊研修参加) 1名
- ・岡山大学教職大学院 2名
- ・民間企業研修（1ヶ月） 2名

イ 県外派遣

○講習会等への派遣（オンライン及びオンデマンド参加）

- ・高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会 2名
- ・特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会 1名
- ・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会 2名
- ・交流及び共同学習推進指導者研究協議会 2名

(2) 特別支援教育の推進

知的な遅れのない発達障害を含め、全ての障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を通じて、必要な支援を総合的に行った。

ア 特別支援教育推進事業

- ・特別支援学校における新しい教育課題研究事業
- ・特別支援学校スクールカウンセラー等配置事業
- ・特別支援学校におけるICT授業充実事業

イ 医療的ケア充実事業

- ・医療的ケアに係る運営協議会
- ・医療的ケア新規担当教員研修
- ・医療的ケア指導医派遣事業
- ・医療的ケア対象行為拡充検討委員会

- ・医療的ケアに関する看護師研修

ウ 小中学校等におけるインクルーシブ教育システム構築支援事業

- ・特別支援教育エキスパート派遣事業
- ・就学前からの特別支援教育拠点化推進事業
- ・特別支援学級担任専門性向上事業
- ・居住地校交流充実事業
- ・高等学校における合理的配慮充実事業
- ・インクルーシブ教育フォーラム
- ・通級による指導におけるICT活用研究事業

エ 特別支援学校等職業自立推進事業

- ・高等支援学校等就労支援充実事業
- ・プロに学べ！作業学習ブラッシュアップ事業（1校）
- ・小学部技能検定

オ 特別支援学校経営予算事業

カ 特別支援教育に関する教職員の専門性向上事業

- ・特別支援学校教員専門研修
- ・特別支援学校教諭免許状取得促進事業

14 学校における文化活動の促進

児童生徒に優れた芸術の鑑賞や体験の機会を提供するとともに、文化活動等の効果を発表する場を設け、学校における文化活動の促進を図った。

事業名	場所・対象校	実施月日
第47回岡山県高等学校総合文化祭		
総合開会式	高梁総合文化会館	7.23
かるた部門	児島武道館	5.3～5.4
将棋部門	山陽新聞社	5.20～5.21
合唱部門	高梁総合文化会館	6.3
ダンス部門	倉敷芸文館	6.17
郷土芸能部門	学び館「サエスタ」	9.24
文芸部門	就実大学	9.30
日本音楽部門	岡山市立市民文化ホール	11.3
演劇部門	岡山芸術創造劇場	11.4～11.5
弁論部門	おかやま山陽高等学校	11.8
囲碁部門	岡山県立岡山朝日高等学校	11.11～11.12
器楽・管弦楽部門	マービーふれあいセンター	11.18
放送文化部門	就実高等学校	11.19
書道部門	岡山県天神山文化プラザ	11.21～11.26
吹奏楽部門	倉敷市民会館	11.23
マーチングバンド・バトントワリング部門	倉敷市民会館	11.23
写真部門	岡山県天神山文化プラザ	11.21～11.26
美術・工芸部門	岡山県天神山文化プラザ	1.30～2.4
全国高等学校総合文化祭派遣事業	鹿児島県	7.29～8.4
文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業)		
〃 音楽(ピアノ)	玉野市立胸上小学校	11.14
〃 音楽(ピアノ)	玉野市立山田中学校	11.15～11.16

事業名	場所・対象校	実施月日
文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業)		
〃 音楽(ピアノ)	和気町立佐伯中学校	12.6
〃 音楽(ピアノ)	和気町立佐伯小学校	12.6
〃 音楽(ピアノ)	和気町立本荘小学校	12.7
〃 音楽(ピアノ)	和気町立和気小学校	12.7
〃 音楽(ピアノ)	和気町立和気中学校	12.8
〃 音楽(管楽器)	玉野市立荘内中学校	6.15・9.19・12.5
〃 音楽(パーカッション)	岡山県立東備支援学校	7.11・9.13・11.8
〃 音楽(その他)	吉備中央町立吉備高原小学校	6.2
〃 音楽(その他)	総社市立昭和小学校	6.5
〃 音楽(その他)	総社市立総社西小学校	6.5
〃 音楽(その他)	玉野市立八浜小学校	6.12
〃 音楽(その他)	矢掛町立矢掛小学校	6.13
〃 音楽(その他)	矢掛町立川面小学校	6.14
〃 音楽(その他)	総社市立秦小学校	10.12
〃 音楽(その他)	倉敷市立二万小学校	10.13
〃 音楽(その他)	倉敷市立蘭小学校	10.13
〃 音楽(その他)	玉野市立第二日比小学校	10.16
〃 音楽(その他)	玉野市立八浜中学校	10.16
〃 音楽(その他)	吉備中央町立円城小学校	9.15
〃 音楽(その他)	赤磐市立豊田小学校	10.26
〃 音楽(その他)	総社市立阿曾小学校	10.31
〃 音楽(その他)	玉野市立日比小学校	11.2
〃 音楽(その他)	玉野市立大崎小学校	10.6
〃 演劇(現代劇)	総社市立神在小学校	11.30
〃 演劇(現代劇)	総社市立総社中央小学校	11.30
〃 演劇(現代劇)	玉野市立築港小学校	12.1
〃 演劇(現代劇)	岡山県立倉敷商業高等学校	12.9・12.11・12.12
〃 大衆芸能(落語)	総社市立新本小学校	6.26
〃 大衆芸能(落語)	備前市立西鶴山小学校	6.27
〃 大衆芸能(落語)	備前市立香登小学校	6.27
〃 大衆芸能(落語)	備前市立伊部小学校	6.28
〃 大衆芸能(落語)	備前市立備前中学校	6.28
〃 大衆芸能(落語)	備前市立片上小学校	6.29
〃 大衆芸能(落語)	備前市立東鶴山小学校	6.29
〃 大衆芸能(落語)	吉備中央町立豊野小学校	6.30
〃 大衆芸能(落語)	吉備中央町立上竹荘小学校	6.30
〃 大衆芸能(落語)	総社市立総社東小学校	10.24
〃 大衆芸能(落語)	総社市立清音小学校	10.24
〃 伝統芸能(歌舞伎)	玉野市立玉中学校	11.7
〃 伝統芸能(歌舞伎)	総社市立総社北小学校	12.5
〃 伝統芸能(箏)	総社市立常盤小学校	12.13
〃 伝統芸能(能楽)	赤磐市立石相小学校	11.10
〃 文学(朗読)	井原市立木之子小学校	6.7
〃 文学(朗読)	岡山県立津山商業高等学校	12.13～12.15
〃 生活文化(食文化)	勝央町立勝央北小学校	11.30

事業名	場所・対象校	実施月日
文化芸術による子供育成推進事業（巡回公演事業）		
〃 オーケストラ等	津山市立北陵中学校	10.12
〃 オーケストラ等	笠岡市立大島小学校	10.13
〃 オーケストラ等	赤磐市立桜が丘小学校	10.24
〃 ミュージカル	吉備中央町立御北小学校	10.16
〃 ミュージカル	倉敷市立穂井田小学校	10.17
〃 ミュージカル	井原市立芳井小学校	10.18
〃 ミュージカル	玉野市立山田小学校	10.19
〃 ミュージカル	津山市立向陽小学校	11.13
〃 ミュージカル	和気町立和気小学校	11.14
〃 ミュージカル	美咲町立加美小学校	11.15
〃 ミュージカル	笠岡市立中央小学校	12.1
〃 邦楽	津山市立中道中学校	10.26
〃 邦楽	美作市立土居小学校	11.28
〃 邦楽	吉備中央町立大和小学校	11.29
〃 邦楽	新見市立千屋小学校	11.30
〃 合唱	倉敷市立東中学校	11.1
〃 音楽劇	笠岡市立金浦小学校	11.6
〃 音楽劇	瀬戸内市立牛窓西小学校	11.7
〃 児童劇	和気町立本荘小学校	11.22
〃 児童劇	倉敷市立柏島小学校	11.24
〃 児童劇	浅口市立六条院小学校	12.7
〃 児童劇	倉敷市立上成小学校	12.8
〃 児童劇	新見市立神代小学校	12.11
〃 児童劇	真庭市立木山小学校	12.12
〃 演芸	新見市立草間台小学校	9.25
〃 演芸	新見市立哲西中学校	9.26
〃 演芸	倉敷市立柳井原小学校	9.27
〃 演芸	笠岡市立神内小学校	9.27
〃 歌舞伎・能楽	総社市立池田小学校	6.28
〃 歌舞伎・能楽	倉敷市立多津美中学校	9.14
〃 歌舞伎・能楽	瀬戸内市立国府小学校	12.20
〃 歌舞伎・能楽	備前市立日生西小学校	1.22
〃 現代舞踊	瀬戸内市立裳掛小学校	12.7
〃 バレエ	美作市立勝田東小学校	10.5
〃 映像	玉野市立玉原小学校	9.26
〃 映像	新見市立本郷小学校	9.28
文化芸術による子供育成推進事業(ユニバーサル公演事業)		
〃 音楽	津山市立勝加茂小学校	2.13
〃 演劇	真庭市立勝山中学校	10.30
ハッピー・ハートフルコンサート	玉野市立東兎中学校	10.3
〃	浅口市立鴨方中学校	10.4
スクールコンサート	県内小・中・高・特27校	6.2～11.8

15 学校保健

(1) 保健管理

定期及び臨時の健康診断、健康相談等を通じて、心身の健康及び学校生活を適切に管理するとともに、学校環境の衛生的管理と美化等情操面への配慮を促し、適切な保健管理活動の充実を図った。

ア 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日付けで5類感染症に移行したことに伴い、国から新たな衛生管理マニュアルが通知された。県内の学校に衛生管理マニュアルを踏まえた基本的な感染症対策の指導を行った。

イ 学校保健推進体制支援事業

経験豊かな退職養護教諭等をサポーターとして委嘱し、県内の養護教諭等の業務支援の充実を図るために小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、計6校へ派遣した。養護教諭等の資質能力の向上のための指導助言や、大規模校の繁忙期の体制強化を行った。

ウ 養護教諭研修指導員配置事業

新規採用の養護教諭に対し、基礎的及び専門的な知識・技能の向上を図るため、延べ9名の研修指導員を配置し、新規採用養護教諭1名当たり年間60時間程度の研修を実施した。

(2) 保健教育の充実

ア 学校保健推進協議会

本県の児童生徒の現代的な健康課題に対応し、その解決に向けて、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、各校種の代表校長・保健主事・養護教諭、保健部局等の各分野の専門家で構成する学校保健推進協議会を2月1日に開催した。

イ 学校保健研修会

岡山県医師会の協力により学校保健研修会を1月18日に開催し、現代の重要な健康課題である感染症等に関して、講演会を開催するなど、教職員の指導力の向上に努めた。

ウ 性に関する指導普及推進研修会

思春期の児童生徒に対する性に関する指導の在り方について専門的な視点から研修することにより、児童生徒の発達段階に応じ、老年期までを見通した性に関する主体的なヘルスプロモーションのよりよい意識の育成に寄与することを目的として、11月13日から11月24日までの期間、オンデマンド配信により開催した。この研修会では、性に関する指導や生命（いのち）の安全教育、本県における性感染症の現状と課題についての行政説明や、筑波大学名誉教授による講演「学習指導要領に基づく性に関する指導の考え方と進め方」を行った。

エ がん教育普及推進研修会

教職員が新学習指導要領に対応したがん教育の意義や外部講師を活用したがん教育を行うことのできる教育効果について理解を深めるため、11月16日に参集により開催した。この研修会では、がん教育についての行政説明のほか、指導主事による外部講師を活用した模擬授業やがん経験者による講演を行った。

オ 薬物乱用防止教育研修会

学校における薬物乱用防止教育の効果的な指導の充実や教員の資質や指導力の向上を図るため、岡山県精神保健福祉センターと共同でオンラインでの研修を6月8日に開催した。行政説明の他、警察からの岡山県の状況、専門家によるオーバードーズについての講演を行った。

16 安全教育

(1) 交通安全教育の推進

児童・生徒の交通事故の防止を図るため、PTA、地域、関係機関等と連携し、総合的な交通安全対策の推進に努めた。特に、交通安全対策マトリックスチームとして、県・県警本部と一体となり諸対策に取り組んだ。

ア 交通安全教室講習会

高校生の自転車利用時でのヘルメット着用を促進するため、学校安全担当教職員等を対象として、学校における効果的な指導方法等について研修を行った。

(2) 防災教育の充実

東日本大震災や平成30年7月豪雨等の経験を踏まえ、各学校園における防災管理に関するマニュアルの見直しや、地震・津波などを想定した避難訓練の実施について指導を行った。また、防災管理や防災教育の在り方の研修会を開催する等、防災に関する教職員の意識や指導力の向上に努めた。

ア 防災教室講習会

学校の防災管理や防災教育について、学校安全担当者等を対象として、学校における効果的な防災教育の方法や防災の基礎学習について研修を行い、学校の災害安全の推進を図った。

イ 高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修

自らの地域は皆で守る「共助」の精神を育み、地域の防災力の強化につなげるため、高校生等を対象に、防災に関する基本的な理解を深め、地域と連携しながら、被災者支援などの活動で社会貢献できる、高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修を12月25日に県立岡山東商業高等学校で開催し、近隣校も含め29名の生徒が参加した。

ウ 学校安全中核教員養成研修

県立学校を対象とし、学校安全の中核を担う教職員の位置付けの明確化を働きかけるとともに、研修や体験活動を通じて、学校安全のエキスパートの養成に取り組んだ。

17 体育指導

学校の教育活動全体を通じた体育指導の充実に向けて、体育担当教員の指導力の向上を図るとともに、学校における体力づくりを推進し、「たくましい体と豊かな心」を持つ児童生徒の育成に努めた。

(1) 教科体育の充実

教科体育の指導を充実するため、学習指導要領の趣旨徹底を図り、教員の指導力並びに資質の向上に努めた。

ア 体育担当者研修講座

学校体育の充実を図るため、県内学校の体育担当者を対象として、学校規模や地域の実態に即し、安全管理面や学習指導要領の趣旨に基づく体育指導の在り方についての研修会をオンラインで開催した。

イ 体力向上研修会

学習指導要領を踏まえた授業改善と体育の授業力を向上することにより、児童の体力向上が図られるよう、小学校の体力向上担当者を対象として学習指導要領の趣旨に基づく体育指導のあり方や体力向上に関する取組について研修し、学校体育の充実を図った。

体力向上担当者対象の悉皆研修と希望者対象の実技研修を行った。

ウ 体育授業エキスパート派遣事業

運動やスポーツが好きな児童生徒の育成につながる体育科・保健体育科授業等の実施に向けて、希望する学校に対して県教育庁保健体育課の指導主事を派遣して研修支援を実施した。小学校に7

回、中学校に1回派遣した。

エ 体育授業スペシャルサポーター派遣事業

小学校の体育授業の活性化と児童の体力向上を図るため、県内公立小学校の第4学年の体育授業に、指導教員の補助を行うスペシャルサポーターを県内24校44学級へ派遣した。スペシャルサポーターには教員養成系大学の大学生や退職教員等を委嘱し、指導教員とともにチームティーチング(TT)による体育指導を行った。

(2) 学校におけるスポーツ活動の活性化

学校における児童生徒のスポーツ活動の活性化を図るため、運動部活動指導者の資質向上のための研修会を開催するとともに、各種体育大会の共催及び選手派遣費の助成等を行った。

ア 岡山県中学校・高等学校総合体育大会、中国中学校・高等学校体育大会の共催

イ 地区別学童記録会(水泳・陸上運動)の共催及び運営費の助成

ウ 全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会選手派遣費の助成

エ 全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会選手強化

(3) 児童生徒の体力づくり

児童生徒の運動の習慣化と、体力の向上を図るため、新体力テストの結果を生かした各学校の特色ある体力づくりの促進と、児童生徒等が様々な運動やスポーツに親しむことができる機会の充実に努めた。

ア 新体力テスト

新体力テスト総合評価A段階の児童生徒への優秀章の交付(岡山市を除く)

小学校・義務教育学校：7,203個

中・中等教育学校(前期課程)：5,693個

合 計：12,896個

イ みんなでチャレンジランキング

児童生徒等が様々な運動(運動遊び)に取り組み、協力して記録に挑戦することを通し運動の楽しさを味わうとともに運動やスポーツへの関心を高め、運動の習慣化や体力の向上を図るため、令和5年度も継続して実施した。

参加校数：183校

延参加人数：1,419チーム 48,602名

ウ 体力アップ・マイベストチャレンジ!

新体力テストの8種目の中から、自分が記録を伸ばしたい2種目を選んで自己記録更新を目指すことにより児童生徒の体力向上への意欲を高めるとともに、自己記録更新に向けて一人ひとりが具体的な取組を行うことにより運動習慣の定着を図るため、令和5年度目標達成者への優秀章の交付と、令和6年度参加校の募集を行った。

令和5年度目標達成者：59校 2,711名

令和6年度申込者：66校 7,179名

エ いきいき岡山っ子☆運動習慣カード

児童の運動習慣の定着のため、ビンゴカードの要素を取り入れた「いきいき岡山っ子☆運動習慣カード」を県内公立小学校及び特別支援学校へ配付した。年3回以上カードを活用した取組を実施し、そのうち2回以上16ビンゴ以上を達成した児童に運動マスターバッジを交付した。

令和5年度目標達成者：65校 4,624名

(4)「運動部活動方針」実践推進事業

ア スポーツ医・科学に基づいた指導等に関する研修会

部活動の不適切な指導の根絶に向け、具体的な事例等を踏まえて現状を再確認し、今後、適切な運動・文化部活動の推進や、学校全体で部活動における不適切な指導の根絶に向けた更なる体制の充実を図るための研修会をオンラインで開催した。

イ モデル校での活動実践（合理的でかつ効率的・効果的な活動実践、「ライトスポーツ」の実践）

方針に基づいた適切な運動部活動が県内で適切に展開されるよう、岡山県中学校体育連盟及び岡山県高等学校体育連盟と連携・協力し、中学校2校、高等学校2校をモデル校として実践を行った。

ウ 優良事例発表会

モデル校における実践の成果を普及し、方針に基づいた適切な運動部活動が県内で早期に展開されるよう、3月4日から優良事例発表の動画配信を行った。

(5)「部活動の地域移行」推進事業

将来にわたり子どもたちにとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の整備と学校の働き方改革の両立を目指すため、実証事業を市町に委託し、休日の学校部活動の段階的な地域クラブ活動への移行の推進を図った。

- ・市町による地域移行に向けた実証研究

玉野市、備前市、和気町、早島町

令和5年度は、学識経験者や県中学校体育連盟代表及び関係団体等で構成された実証研究連絡会を3回開催し、モデル市町の進捗状況の把握や情報共有を行い、地域移行支援アドバイザーから指導助言等を行った。また、県立中学校等連絡会を1回開催後、地域移行の方向性等を示し、各校への説明及び各校に部活動ごとのロードマップ作成を依頼した。

2月7日に成果発表会を県生涯学習センターで開催し、県教委から取組のまとめを説明し、モデル市町から取組の発表、また、モデル市町ごとにブースを設け、参加者が情報交換や質疑ができるよう設定し、各市町村、立場等で情報共有を図った。

(6) 体育団体

ア 岡山県小学校体育連盟

岡山県小学校体育連盟は、学校における体育指導の充実を図り、心身ともに健全な児童を育成するため、小学校体育に関する研究活動を積極的に推進するとともに、水泳・陸上運動記録会を開催し、小学校の体育・スポーツ活動の活性化に努めている。

(ア) 研究部研修会

8月3日（夏季研修会）

1月18日（冬季研修会）

(イ) 表現専門部研修会

7月26日

(ウ) 研究集録の刊行「体育情報第66号」の発行

(エ) 水泳・陸上競技優秀児童の表彰

イ 岡山県中学校体育連盟

岡山県中学校体育連盟は、心身ともに健全な生徒の育成を目指し、学校における体育指導の充実を図るとともに、中学生のスポーツ活動の正常な発展を促進するため、各種スポーツ大会の開催、研修活動、調査研究活動等を行い、成果を上げている。

主な事業として、競技部門では18専門部を中心として、第61回岡山県中学校総合体育大会兼種目別選手権大会及び秋季大会を開催するとともに、全国・中国大会への代表選手を派遣した。

令和5年度全国中学校体育大会の中国ブロック開催においては、本県開催3競技（水泳競技、体操競技、新体操）について、関係団体と連携を図り、大会の成功に尽力した。

また、岡山県教育委員会の支援のもとに優秀選手の強化・育成にも積極的に取り組んでいる。

研究部門の調査研究部では、研究指定校制度を設け、保健体育の授業の充実を図るとともに、各種指導資料の作成、各支部・ブロック単位での実践研究への取組等活発な活動を展開している。

競技部門における、令和5年度の事業実績は、次のとおりである。

(ア) 令和5年度岡山県中学校総合体育大会兼種目別選手権大会

参加選手 17競技 7,694名

(イ) 令和5年度中国中学校選手権大会

参加選手 18競技 677名

(ウ) 令和5年度全国中学校体育大会

派遣選手 17競技 294名

令和5年度全国中学校体育大会（四国ブロック）入賞者一覧

優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	入賞者数
4 (2)	3 (3)	3 (8)	3 (0)	3 (4)	1 (2)	0 (3)	1 (1)	18 (23)

() はR4の実績

競 技	種 別・種 目	学 校 名	氏 名	学 年	順 位	備 考	
陸 上 競 技	男子	3000m	庄 北 村 蓮	3	4位		
	男子		京 山 鶴 藤 健 琉	3	5位		
	男子	4×100mリレー	福 田 南		1位		
	女子	1500m	京 山 黒 田 六 花	3	1位		
	女子	走幅跳	金 光 学 園 佐 藤 地 央	3	4位		
	女子	四種競技	京 山 永 瀬 友 棉	3	8位		
	女子	4×100mリレー	金 光 学 園		4位		
水 泳 競 技	女子	200m平泳ぎ	総 社 西 小 鍛 治 茉 子	2	3位		
	女子	100mバタフライ	香 和 齋 藤 あ こ	3	1位		
	女子	200mバタフライ	香 和 齋 藤 あ こ	3	2位		
	女子	200mバタフライ	芳 泉 上 田 萌 華	3	6位		
バスケットボール	男子		倉 敷 南		2位		
ソフトテニス	女子	団体	山 陽 学 園		2位		
	女子	個人	山 陽 学 園	阿 部 寧 々 馬 島 汐 理	2 2	3位	
卓 球	女子	個人	山 陽 学 園	樋 口 美 空	3	5位	ベスト8
ソフトボール	男子		新 見 第 一		3位	ベスト4	
柔 道	女子	57kg級	岡 山 理 大 附	岡 本 果 穂	3	5位	ベスト8
	女子	70kg超級	磐 梨 武 道 館	松 本 明 莉	3	1位	

ウ 岡山県高等学校体育連盟

岡山県高等学校体育連盟は、心身ともに健全で、明日の郷土を担う有為な高校生の育成を目指し、学校体育・スポーツの充実・発展に関する諸事業を企画・実施し、着実に成果を上げている。

また、第62回岡山県高等学校総合体育大会をはじめ、各種大会を開催し、高校生のスポーツ活動の充実を図るとともに、競技水準の向上に努めている。

調査研究部門においては、第58回全国高等学校体育連盟研究大会が鳥取県鳥取市で開催され、スポーツ指導者の資質向上や運動部活動の活性化を図るため、3分科会に分かれて、調査・研究等

の発表と研究協議及び情報交換を行った。

この様に意欲的な活動を展開し、高等学校体育・スポーツの充実・発展に貢献している。

競技部門における、令和5年度の事業実績は、次のとおりである。

(ア) 第62回岡山県高等学校総合体育大会

参加選手 37競技 13,248名

(イ) 令和5年度全国高等学校総合体育大会（冬季大会含む）

派遣選手 36競技 728名

(ウ) 令和5年度全国高等学校定時制通信制大会

派遣選手 10競技 92名

令和5年度全国高等学校総合体育大会（北海道総体）入賞者一覧

優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	入賞者数
5 (4)	2 (8)	13 (5)	5 (3)	16 (16)	3 (4)	5 (7)	9 (9)	58 (56)

() はR4の実績

競技	種別・種目	学校名	氏名	学年	順位	備考
陸上競技	男子 400m	岡山工業	谷野 佑成	3	6位	
	男子 5000m	倉敷	サムエル キバティ	3	1位	
	男子 3000m障害物	玉野光南	黒田 然	3	2位	
	男子 走高跳	岡山商大附	周世原 春玖	3	5位	
	男子 やり投	就実	伊丹 理人	3	2位	
	男子 八種競技	岡山商大附	河原 怜音	3	8位	
	女子 1500m	津山	ドルーリー 朱瑛里	1	3位	
	女子 100mハードル	倉敷中央	木梨 光菜	2	4位	
	女子 400mハードル	倉敷中央	石原 涼華	3	7位	
	女子 4×100mリレー	倉敷中央			3位	
	女子 4×400mリレー	倉敷中央			7位	
	女子 ハンマー投	玉野光南	草野 沙月	3	8位	
	女子 トラックの部	倉敷中央			8位	
体操	男子 団体	関西			4位	
	男子 個人総合	関西	脇原 和志	3	6位	
	男子 種目別鉄棒	関西	脇原 和志	3	1位	
新体操	男子 団体	井原			1位	
バレーボール	女子	就実			5位	ベスト8
卓球	男子 団体	関西			5位	ベスト8
	女子 シングルス	山陽学園	面手 凛	1	5位	ベスト8
ボクシング	男子 ウェルター	関西	小野 湧太	2	5位	ベスト8
ウエイトリフティング	男子 96kg級スナッチ	水島工業	岡田 蓮	3	7位	
	男子 102kg級スナッチ	岡山工業	小山 竣大	3	3位	
	男子 102kg級ジャーク	岡山工業	小山 竣大	3	3位	
	男子 102kg級トータル	岡山工業	小山 竣大	3	3位	
	男子 102kg級スナッチ	笠岡工業	塩飽 隼斗	3	5位	
	男子 102kg級ジャーク	笠岡工業	塩飽 隼斗	3	8位	
	男子 102kg級トータル	笠岡工業	塩飽 隼斗	3	8位	
	男子 102kg級スナッチ	水島工業	山名 創太	3	7位	
	女子 45kg級スナッチ	倉敷商業	檜本 琉花	3	5位	
	女子 45kg級ジャーク	倉敷商業	檜本 琉花	3	6位	

競技	種別・種目		学校名	氏名	学年	順位	備考
ウエイトリフティング	女子	45kg級トータル	倉敷商業	楢本 琉花	3	5位	
	女子	76kg級スナッチ	玉野	大嶋 紗弥	3	4位	
	女子	76kg級ジャーク	玉野	大嶋 紗弥	3	3位	
	女子	76kg級トータル	玉野	大嶋 紗弥	3	4位	
登山	男子	団体	岡山操山			1位	
	女子	団体	就実			7位	
柔道	男子	団体	作陽学園			3位	ベスト4
	男子	90kg級	関西	小坂 歩生	3	5位	ベスト8
	男子	100kg超級	作陽学園	工藤 瑠希	3	3位	ベスト4
	女子	52kg級	創志学園	武藤 羽菜	3	3位	ベスト4
	女子	78kg級	創志学園	浦井 菜々子	2	3位	ベスト4
	女子	78kg超級	創志学園	甲斐 天使	2	5位	ベスト8
テニス	男子	団体	関西			3位	ベスト4
	男子	ダブルス	関西	遊川 大和	3	5位	ベスト8
				木村 一翔	2		
	女子	ダブルス	岡山学芸館	岸本 聖奈	2	5位	ベスト8
中島 莉良				2			
レスリング	男子	125kg級	おかやま山陽	三宅 茂	3	5位	ベスト8
ボート	男子	舵手付きクォドルプル	関西			1位	
	男子	シングルスカル	関西	柏野 泰智	3	4位	
自転車競技	男子	ケイリン	岡山工業	昼田 駿斗	3	8位	
	男子	スクラッチレース	水島工業	海津 星斗	3	3位	
空手道	女子	個人形	おかやま山陽	杉本 一花	3	5位	
アーチェリー	女子	団体	倉敷天城			3位	
	女子	個人	倉敷天城	林 若奈	3	5位	
水泳(競泳)	女子	100m平泳ぎ	倉敷古城池	中村 美羽	1	8位	
	女子	200m平泳ぎ	倉敷古城池	中村 美羽	1	8位	
	女子	バタフライ	就実	小島 琴葉	3	8位	
水泳(水球)	男子	団体	関西			5位	ベスト8

令和5年度全国高等学校定時制通信制体育大会 入賞者一覧

競技	種別・種目		学校名	氏名	学年	順位	備考
卓球	男子	個人	岡山県美作	水島 海誓	1	2位	
バドミントン	女子	シングルス	鳥城	坂江 夏奈	1	3位	ベスト4
	女子	シングルス	鳥城	田中 遥奈	3	5位	ベスト8
	女子	団体	岡山県選抜			5位	ベスト8
軟式野球	男子	団体	岡山操山			5位	ベスト8

令和5年度 その他の全国大会 入賞者一覧 (高等学校)

競技	種別・種目		学校名	氏名	学年	順位	備考
ボウリング	男子	団体	倉敷商業	能勢 啓喜	3	2位	
			林野	采女 糧加	3		
	男子	個人総合(12Gトータル)	倉敷商業	能勢 啓喜	3	2位	
	男子	個人総合(12Gトータル)	岡山理大附	錦 織秀	3	5位	

競 技	種 別・種 目		学 校 名	氏 名	学 年	順 位	備 考
ボウリング	男子	個人(6G)	岡山理大附	錦 織 秀	3	3位	
	男子	個人(6G)	倉敷商業	能 勢 啓 喜	3	4位	
	男子	個人決勝	岡山理大附	錦 織 秀	3	2位	
	男子	個人決勝	倉敷商業	能 勢 啓 喜	3	5位	
ゴルフ	男子	個人	関 西	大 嶋 港	3	1位	
	女子	個人	岡山理大附	祇 園 美衣菜	2	3位	

18 学校給食

学校教育の一環として実施している学校給食の充実、向上を図るため、次の事業を実施した。

(1) 学校給食管理

学校給食法に基づく給食管理の徹底及び内容の充実を図るため、次のとおり研修を実施した。

ア 栄養教諭・学校栄養職員研修講座

食に関する指導の充実及び衛生管理の徹底を図るため、学校法人食量学院東京栄養食量専門学校渡邊智子氏による「『日本食品成分表2020年版(八訂)』の活用について」の講義や、令和4年度食育指導者養成研修参加者及び令和4年度衛生管理調査研究に係る指導者等派遣事業受託者による実践発表等を行った。

イ 学校給食の衛生管理等に関する調査研究

「学校給食衛生管理基準」等の趣旨徹底を図るため、指導主事や退職学校栄養職員等の衛生管理指導者を県内5箇所の学校給食施設へ派遣し、状況調査と衛生管理の改善指導を行った。

(2) 物価高騰に伴う学校給食費等の負担軽減

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、物価上昇に伴う食材費高騰の影響を受ける学校給食費及び舎食費について、保護者の学校給食費等に係る負担軽減を図った。

ア 学校給食費負担軽減事業 執行額 13,115千円

イ 特別支援学校における舎食費負担軽減事業 執行額 1,733千円

(3) 食育及び学校給食の指導

食育及び学校給食の指導の充実を図るため、次の事業を行った。

ア 「運動部活動方針」実践推進事業(部活動を通じた食育の実践)

部活動の場面において、栄養教諭と顧問が連携してスポーツ栄養に基づく食に関する指導を行い、生徒が自身に必要な栄養素や望ましい食事のとり方を理解し実践することで、それぞれの成長期に応じて適切に発育発達し、パフォーマンスを最大限に発揮することができるよう、中学校4校をモデル校として実践を行った。

(4) 学校給食の普及

ア 学校給食実施状況 第1表

イ 米飯給食実施状況 第2表

なお、米飯給食の週3回以上の実施率は、小学校・中学校ともに100%である。

ウ 基本物資価格・使用状況 第3・4表

第1表 学校給食実施状況

(令和5年5月1日)

学校種別	給食区分	在籍数	完全給食		補食給食		ミルク給食		合計	
			計	実施率%	計	実施率%	計	実施率%	計	実施率%
小学校	学校数	370	365	100.0	—	—	—	—	365	100.0
	児童数	92,905	92,905	100.0	—	—	—	—	92,905	100.0
中学校	学校数	153	145	96.0	—	—	4	2.6	149	98.7
	生徒数	47,151	45,478	96.5	—	—	1,435	3.0	46,913	99.5
義務教育学校	学校数	2	2	100.0	—	—	—	—	2	100.0
	生徒数	501	501	100.0	—	—	—	—	501	100.0
夜間定時制 高校	学校数	—	1	—	2	—	—	—	3	—
	生徒数	—	85	—	45	—	—	—	130	—
特別支援 学校	学校数	15	13	—	—	—	—	—	13	—
	児童生徒数	—	2,076	—	—	—	—	—	2,076	—

第2表 米飯給食実施状況

(令和5年5月1日) (単位:校)

区分	内 訳	1 週					計	
		2回	2.5回	3回	3.5回	4回		4.5回
小学校		0	0	156	136	69	4	365
中学校		0	0	62	49	32	2	145
義務教育学校		0	0	1	0	0	1	2
計		0	0	219	185	101	7	512

第3表 学校給食用基本物資価格 (消費税抜価格)

(令和6年3月30日)

パ ン	60 g	52円41銭
〃	80 g	56円81銭
〃	100 g	62円20銭
精白米 (コシヒカリ)	1kg	327円02銭
牛 乳	1本 (200ml)	59円07銭

第4表 学校給食用基本物資使用状況

年 度	小麦粉	米	脱脂粉乳	牛 乳
R 1	635トン	1,268トン	14トン	5,640kl
R 2	664	1,296	15	5,826
R 3	653	1,429	11	6,044
R 4	616	1,413	10	5,913
R 5	634	1,370	13	5,851

※米の数値には米粉パンに配合されている米粉は含まれていない。

19 教職員の研修

(1) 教育公務員特例法改正に伴う新たな研修制度の運用

岡山県公立学校教員等人材育成基本方針、岡山県教員等育成指標及び研修計画に基づき、令和5年4月1日施行の教育公務員特例法の改正に伴う新たな研修制度の運用を行った。

(2) 岡山県教職員研修講座

教職の重要性と教育についての基本的理念を十分認識し、資質・識見の向上、指導力の充実に資することを目的として、新採用教諭、教職経験者、任用前・新任・現任副校長・教頭、新任校長を対象にした「岡山県教職員研修講座」を、県総合教育センターを中心として企画・実施した。

各研修講座の内容は、それぞれの講座の性格に沿って、広い視野から教職に必要な基本事項や学校教育の日常実践に結びつくものを設定した。すなわち、学習指導に関するもの、生徒指導に関するもの、教育相談に関するもの、学級・ホームルーム・学年経営に関するもの、学校管理・運営に関するもの、その他の教職教養、一般教養、専門教養に関するものなどであった。

講師には県内外の大学関係者や有識者等を幅広く求めるとともに、各学校で優れた研究・実践を進めている校長、副校長・教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭や指導主事を指導助言者とした。

研修の方法、形態については、講義、講演、演習、研究発表、研究協議、実技、参観等を取り入れ、分科会・分散会数を可能な限り増やすなどして、参加者が課題をもって意欲的に研修できるよう工夫した。

なお、令和5年度も、受講者の子供と向き合う時間の確保や効率化を図るため、一部の研修を、eラーニングによる研修やWeb会議システムを用いた遠隔研修により実施した。

(3) 教職大学院への派遣

本県の教育課題の解決に必要な知識及び技能を修得させ、その力を活用して本県教育の充実に資するために、県内の公立学校の教員を現職のまま岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）及び香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）に派遣した。なお、岡山大学教職大学院は2年間（学校リーダーは1年間）、香川大学教職大学院は1年間派遣した。

岡山大学教職大学院

（単位：人）

	小	中	高	特	計
1年	2	1	1	1	5
2年	2	1	1	1	5
合計	4	2	2	2	10

香川大学教職大学院

（単位：人）

	小	中	計
1年	1	1	2

(4) 各地域の中核となる校長・教頭等の育成を目的とした研修

独立行政法人教職員支援機構が、校長、副校長・教頭、中堅教員等に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その見識を高め、指導力の向上を図ることを目的に実施している研修講座に、県内の公立学校の教員を派遣した。

(単位：人)

	小	中	高	特	指導主事等	計
コア	0	0	3	0	0	3
校長・教頭等	3	1	2	1	11	18
中堅	4	4	3	1	0	12
リーダー	1	1	2	0	0	4
合計	8	6	10	2	11	37

(5) 岡山大学教育学部との連携協力

平成12年9月1日に岡山大学教育学部との間で締結した「連携協力に関する覚書」を改訂し、平成23年12月22日に新たに締結した。

令和5年度は、「連携協力会議」（7月11日開催）、「合同連携協力会議」（11月10日開催）において実施内容等を協議しながら、以下の事項について取り組んだ。

ア 教員養成に関する事項

「教師への道」インターンシップ事業、岡山県北地域教育プログラム

イ 教員研修に関する事項

授業力パワーアップセミナー

ウ 学校教育上の諸課題への対応に関する事項

子どもホットライン事業（子ども電話相談）への多面的な連携協力、教職員のメンタルヘルス対策

エ その他、両者が必要と認める事項

附属学校・園を活用した研修講座の開催

20 岡山県総合教育センター

岡山県総合教育センターは、平成19年4月、岡山県教育センターと岡山県情報教育センターを統合し、発展拡充した教職員の研修機関としてPFI方式により吉備中央町に開所した。

総務課、企画部、研修部、教育支援部の1課3部体制で、学校の教育力や教職員の資質向上を図るための研修の実施や、ニーズに応じた学校への支援などを行っている。

(1) 研修講座

教育者としての使命感・責任感の高揚と指導力・資質の向上を図り、学校教育の推進に資するために、岡山県教員等育成指標及び研修計画に基づいて、教育関係職員の研修を実施した。

ア 経験年数別研修

キャリアステージに応じた資質能力の向上を目標に、次の研修を実施した。

研修講座種別	講座数	日数	延べ人数
初任者（新規採用者）研修	3	82	4,062
3年目研修	4	12	484
中堅教諭等資質向上研修	4	46	2,181
16年目研修	4	18	364
計	15	155	7,091

イ 担当者研修

職や校務分掌に応じた資質能力の向上を目標に、校長・副校長・教頭を対象とした管理職研修や、生徒指導主事、進路指導主事等を対象とした主任研修、新任特別支援教育コーディネーターや体育担当者等を対象とした担当者研修等を実施した。

講座数	日数	延べ人数
31	62	6,830

ウ 専門研修

受講を希望する教職員の資質能力の向上を目標に、教科領域や教育課題に対応した領域等に関する各種研修講座を実施した。

講座数	日数	延べ人数
50	61	2,205

エ eラーニング研修

新たな教員研修制度を踏まえ、受講を希望する教職員の資質能力の向上を目標に、各種動画による研修を実施した。

講座数	日数	延べ人数
36	36	519

(2) 調査研究

所員の共同研究及び教育課程に対応した教科・領域に関する研究を実施した。

令和5年度に完結した研究の成果は、総合教育センターのホームページに掲載した。

ア プロジェクト・チームによる研究共同研究

- (ア) 研修探究
- (イ) G I G Aスクール構想推進
- (ウ) P B L推進
- (エ) 校内研修活性化
- (オ) 効果的な指導法研究（算数）
- (カ) 効果的な指導法研究（英語）
- (キ) 心の居場所・安全
- (ク) 高等学校遠隔授業研究

(3) 教育情報の収集及び提供

ア 図書・資料の収集・提供

- (ア) 教育研究に必要な図書・県内外の研究資料（研究紀要・報告書等）・教科用図書・教育雑誌・新聞を収集し整備した。
- (イ) 図書・資料・教科用図書等の閲覧や図書・資料の紹介を行った（原則として、所外貸出しはしない）。
- (ウ) 中央教科書センターとして、教科用図書を常時展示し、その利用に供した。

令和6年3月末現在の図書・資料の冊数は次のとおりである。

- 図書 26,217冊
- 教育資料 60,578件

イ インターネットによる情報発信

ホームページに研修講座の案内、研修動画や調査研究成果の公開、教育相談の案内などを掲載し、学校支援情報を充実させた。YouTube チャンネルで校内研修等で活用できる研修動画を多数公開した。

また、研修講座、研修支援の内容や受講者の学び、ホームページ等の更新情報等について、Facebook や Twitter により発信した。

ウ 電子メールによる情報発信

岡山県総合教育センターだより「羅針盤」を発行し、県内の学校に年間で11号配信した。

(4) 教育支援

幼稚園・小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の幼児・児童・生徒に関する様々な問題について、教職員、保護者、子どもを対象に実施した。

ア 県総合教育センターでの教育相談

(7) 生徒指導に関する教育相談

7) 面接相談

相談件数7件、延べ相談回数9回であった。なお、相談件数の内訳は、次表のとおりである。

(令和5年度)

主訴		幼 児	小学生	中学生	高校生	その他	計
行動・性格	い じ め						
	不 登 校				1		1
	集 団 不 適 応		2	2			4
	問 題 行 動						
学 習							
進路・適性	就 学						
	進 路						
教 育	学 校 教 育				2		2
	家 庭 教 育						
情 緒 問 題	発 達 障 害						
	その他の情緒問題						
健 康							
そ の 他							
計			2	2	3		7

1) 電話相談

相談回数は209回で、幼児に関するものが3回（約1%）、小学生に関するものが43回（約21%）、中学生に関するものが45回（約22%）、高校生に関するものが95回（約45%）、その他が23回（約11%）であった。

相談内容では、学校教育に関する相談が52回（約25%）と多く、次いで、家庭教育に関するものが39回（約19%）となっている。

(1) 特別支援教育に関する教育相談

7) 面接相談

相談件数5件、延べ相談回数は27回であった。なお、相談件数の内訳は、次表のとおりである。

(令和5年度)

主訴		幼 児	小学生	中学生	高校生	その他	計
行動・性格	い じ め						
	不 登 校						
	集 団 不 適 応			1			1
	問 題 行 動		4				4
学	習						
進路・適性	就 学						
	進 路						
教 育	学 校 教 育						
	家 庭 教 育						
情 緒 問 題	発 達 障 害						
	その他の情緒問題						
健 康							
そ の 他							
計			4	1			5

イ) 電話相談

相談回数は92回で、幼児に関するものが10回（約11%）、小学校に関するものが19回（約21%）、中学校に関するものが10回（約11%）、高等学校に関するものが11回（約12%）、特別支援学校に関するものが28回（約30%）、その他が14回（約15%）であった。

相談内容では、不登校に関する相談が20回（約22%）と多く、次いで、集団不適應に関するものが17回（19%）となっている。

イ 学校コンサルテーション

いじめ、不登校、学級（HR）が機能しない状態など生徒指導上の諸問題や障害のある児童生徒一人一人に応じた支援等について、県総合教育センター指導主事が公立（岡山市を除く。）の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校における校内支援チームに対するコンサルテーションを行うことにより、より有効な校内指導体制の整備を図ることを目的として実施しており、22校に対して48回実施した。内訳は、小学校43回、中学校5回、高等学校0回、特別支援学校0回であり、内容としては問題行動に関すること、不登校に関すること、集団不適應に関すること、その他となっている。

ウ 研修支援

市町村教育委員会及び県立学校等の要請に基づき、研究会や研修会に指導主事を派遣し、喫緊の教育課題及び時代の進展に対応した教育等の改善に向けて、教員の指導力向上及び学校力の向上のために必要な支援を行った。

- ・派遣期間：4月～2月
- ・派遣対象：市町村教育委員会又は市町村教育研究所（部会を含む。）の単位、県立中・高・中等教育・特別支援学校、市立高・特別支援学校
- ・訪問実績：年間81回

・実施内容

授業改善など学力向上に関すること	53回
特別支援教育の充実に関すること	18回
教育の情報化の推進に関すること	6回
生徒指導、教育相談の充実に関すること	3回
その他（組織力の向上、特別活動）	1回

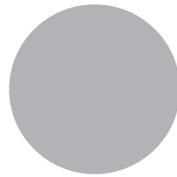
21 教育研究団体奨励

県下の小学校・中学校・高等学校の教職員で構成された団体で、研究大会及び研修会の開催、研究調査の研究活動を展開しており、本県教育の推進力となっている教育研究団体に補助金を交付した。

団 体 名	事業費総額 円	県 助 成 額 円	代 表 者
岡山県小学校教育研究会	1,088,032	407,000	岡山市立旭操小学校 校長 岩藤 一成
岡山県中学校教育研究会	880,000	271,000	岡山市立興除中学校 校長 小原 和久
岡山県高等学校教育研究会	507,126	222,000	岡山県立岡山南高等学校 校長 山本 圭司
岡山県へき地・複式教育研究連盟	281,700	57,000	真庭市立富原小学校 校長 池田 誉
岡山県学校農業クラブ連盟	2,847,453	125,000	岡山県立瀬戸南高等学校 校長 長谷川陽子
岡山県高等学校家庭クラブ連盟	2,265,095	75,000	岡山県立瀬戸南高等学校 校長 長谷川陽子



第7章 人権教育



第1節 人権教育行政の企画・推進（ 263 ）

第2節 人権教育の指導・推進（264～266）

第7章 人権教育

■第1節 人権教育行政の企画・推進

1 人権教育行政の推進

(1) 岡山県人権教育推進委員会

令和5年度は委員会を1回開催し、人権教育推進の取組についてや、「第4次岡山県人権教育推進プラン」に基づく人権教育の推進等について審議を行った。

(2) 人権教育推進マトリックス会議

教育庁内に「人権教育推進マトリックス会議」を設置し、関係各課（室）の連携を密にして、人権教育課題への迅速かつ適切な対応に努めた。

○マトリックス会議3回、担当者会議7回

2 市町村や学校への支援

人権教育推進上の課題を把握するため、岡山市を除く県内の市町村や学校から「人権教育推進状況報告書」の提出を求めた。

学校における取組の充実のため、県立学校が実施する県立学校人権教育サポート事業の経費を補助するとともに、訪問研修を実施した。また、情報提供や連絡調整により市町村を支援した。

○県立学校人権教育サポート事業 69校

○県立学校訪問研修 14校

3 地域における指導者等の養成

教育・啓発活動を一層推進するため、県、市町村及び市町村（組合）教育委員会からの推薦者を対象とした人権教育・啓発指導者講座Ⅰと、これまでの講座Ⅰの修了者を対象とした人権教育・啓発指導者講座Ⅱを開催し、資質・指導力の向上を図った。

研修会名	対象	期日	会場	参加者数
人権教育・啓発指導者講座Ⅰ	市町村、市町村教育委員会からの推薦	R5. 6.13	きらめきプラザ	25人
〃	〃	R5. 7.27	国立療養所長島愛生園	23人
〃	〃	R5.10. 3	渋染一揆現地研修・ピュアリティまきび	28人
〃	〃	R5.11.20	おかやま西川原プラザ	20人
人権教育・啓発指導者講座Ⅱ	指導者講座Ⅰの修了者	R5.10. 3	ピュアリティまきび	43人

4 情報等の収集・提供

人権に関する講演会や研修会等の実施時に有用な講師情報を Web ページ上に54人（団体）掲載した。

■第2節 人権教育の指導・推進

1 市町村との連絡調整や学校等への指導

(1) 就学前人権教育研修講座

幼稚園や保育所の教職員を対象に、説明、演習等を行い、人権教育推進上の課題について研究協議し、資質・指導力の向上を図った。

参加範囲（教育事務所管内）	期 日	会 場	参加者数
岡山・津山の指定園	R5. 8. 2	県総合教育センター	72人

(2) 新任副校長・教頭研修講座（人権教育）

小・中・高・特・中等教育学校の新任副校長等を対象に講義等を行い、資質・指導力の向上を図った。

対 象	期 日	会 場	参加者数
副校長・教頭	R5. 4.24	県総合教育センター（eラーニング）	82人

(3) 人権教育担当者研修講座

小・中・高・特・中等教育学校の教諭等を対象に、説明、講義等を行い、教職員の人権意識を高め、資質・指導力の向上を図った。

参加範囲	期 日	会 場	参加者数
小学校・中学校・高等学校・特別支援学校	R5. 5.12 R5. 6. 5	県総合教育センター "	142人 251人
県下の学校の教諭等	R5. 9.22	邑久光明園	18人
"	R5.10. 6	県総合教育センター	35人
"	R5.10.17	"	28人

(4) 新規採用教諭等人権教育研修講座

新規採用教諭等を対象に、講義や演習を行い、資質と指導力の向上を図った。

種 別	期 日	会 場	参加者数
幼稚園・こども園	R5. 8. 7	県総合教育センター	54人
小・高等学校	R5. 8.24	県総合教育センター（eラーニング）	181人
中学校	R5. 9. 7	"	55人
特別支援学校	R5. 9.14	"	31人
養護教諭	R5. 6.16	"	10人

(5) 県立学校等児童虐待対応研修

県立学校、市立学校等、私立学校、国立学校の管理職や教諭を対象に、児童相談所、市町村の虐待対応担当課、NPO等との協働により、児童虐待防止に係る専門的な研修を行い、児童虐待への対応力の向上を図った。

対 象	期 日	会 場	参加者数
教諭等	R5. 6.20	岡山県生涯学習センター	36人
教諭等	R5. 6.22	津山市中央公民館	13人
教諭等	R5. 6.27	ライフパーク倉敷	38人

(6) 自殺予防教育に係る指導者養成研修

高・特・県立中学校・中等教育学校の教職員を対象に、有識者による研修を実施し、自殺予防のための正確な知識や自殺の危機にある生徒への対応力の向上を図った。

対 象	期 日	会 場	参加者数
高等学校・特別支援学校中・高等部・県立中学校・中等教育学校及び国立・市立・私立学校の教職員	R5. 7. 6	おかやま西川原プラザ	46人
	R5. 7. 7	県総合教育センター	46人

(7) 指導者研修事業

市町村における人権教育の総合的な推進を図るため、市町村教育委員会教育長、教育委員、人権教育担当者、社会教育指導員、社会教育関係団体指導者等を対象に、講義、講話、演習を行い、人権教育推進上の諸課題について研究協議し、資質・指導力の向上を図った。

研 修 会 名	対 象	期 日	会 場	参加者数
市町村人権教育担当者等連絡会	市町村の人権教育担当者・社教指導員	R5. 7.13	きらめきプラザ	32人
〃	〃	R6. 1.19	きらめきプラザ	28人

研 修 会 名	対 象	期 日	会 場	参 加 者 数 (人)							
				幼	小	中	高	中 等	特	他	計
幼小中等教育学校 P T A 指 導 者 人権教育研修会(分任)	岡山教育事務所 管内	R5. 6. 6	オ ン ラ イ ン	128	174	83	—	2	8	4	399
		R5. 7. 5	オ ン ラ イ ン								
幼小中等教育学校 P T A 指 導 者 人権教育研修会(分任)	津山教育事務所 管内	R5. 8.25	グリーンヒルズ津山	7	55	29	—	1	—	—	92
高 等 学 校 P T A 指 導 者 研 修 会	備前地区高PTA 備中地区高PTA 美作地区高PTA	R5.11.24	ピュアリティまきび	—	—	—	117	—	—	—	117
特 別 支 援 学 校 P T A 指 導 者 研 修 会	特別支援学校 P T A	R5.10.25	ピュアリティまきび	—	—	—	—	—	31	—	31
合 計				135	229	112	117	3	39	4	639

2 研究推進校等への指導

種 別	学 校	研 究 主 題
県 指 定 人権学習充実拠点校事業	こども園 玉野市立日比幼稚園	一人一人 自己発揮しながら、人と関わることを楽しめる幼児をめざして
	小学校 笠岡市立吉田小学校	[子ども] ・進んで助けよう ・気持ちの通い合い
	中学校 倉敷市立多津美中学校	[インターネットによる人権侵害] ・温かいメッセージを届けよう
	高等学校 岡山県立水島工業高等学校	[女性、高齢者、障害のある人] ・多様な働き方 →ダイバーシティ社会の推進に向けて—

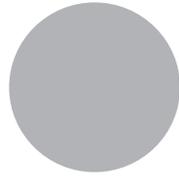
3 視聴覚教材の整備と活用

様々な人権問題に関する啓発視聴覚DVDを8本整備し、県生涯学習センターにおいて、広く活用を図った。

【県生涯学習センター】

	作 品 名	企画・制作等	時間
1	レインボーストーリーズLGBTsと社会（※全4巻） ②家族 ～自分の子どもが当事者だったら～	サン・エデュケーショナル	21分
2	いじめ ～それぞれの想いそれぞれの言い分～	東映(株)	23分
3	障がい者と共に働く ～合理的配慮と共生社会～	アスパクリエイト	34分
4	誰にも相談できない ～SOSの出し方を知っておこう～ 【中学生・高校生向け】	映学社	20分
5	心をつなぐ、はじめの一步	東映(株)	26分
6	言葉があるから…	東映(株)	31分
7	大切なひと	東映(株)	34分
8	うみとりくのからだのはなし	東映(株)	16分

第8章 文 化



第1節	文	化	財 (269~272)
第2節	埋	藏	文 化 財 (272)
第3節	文	化	施 設 (272~283)

第8章 文 化

■第1節 文化財

1 文化財の指定等

国や県では、文化財を有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物等に分け、それぞれ保護の対象としているが、なかでも歴史、美術、学術上価値の高いものを、国は文化財保護法、県は県文化財保護条例によって指定し、重点的に保護措置を行っている。

令和5年度に指定、登録されたものは、次のとおりである。

[県指定]

種 別	名 称	所在地又は住所	指定年月日
重要文化財 (彫刻)	銅造誕生釈迦仏立像 1 軀	倉敷市浅原 (安養寺)	令和6年3月15日
重要文化財 (彫刻)	銅造如来立像 1 軀	倉敷市浅原 (安養寺)	令和6年3月15日
重要文化財 (彫刻)	木造狐像 1 対	岡山市北区後楽園 (岡山県立博物館)	令和6年3月15日
重要文化財 (書跡・典籍)	大般若波羅密多經 200帖	井原市野上町 (千手院)	令和6年3月15日
重要文化財 (建造物)	旧妹尾銀行林田支店 本館・倉庫・金庫・門及び塀 3 棟 1 基	津山市川崎	令和6年3月15日

[国登録]

種 別	名 称	所在地又は住所	登録年月日
有形文化財 (建造物)	林原美術館 本館・東蔵・中蔵・西蔵・長屋門 5 棟	岡山市北区丸の内	令和5年8月7日
有形文化財 (建造物)	井原市民会館 本館・別館 2 棟	井原市井原町	令和5年8月7日
有形文化財 (建造物)	長舗家住宅 主屋・内蔵・内門 3 棟	笠岡市神島	令和6年3月6日
有形文化財 (建造物)	山成酒造 店舗兼主屋・離れ座敷・内蔵・蔵・東仕 込蔵・西仕込蔵 6 棟	井原市芳井町	令和6年3月6日

○世界文化遺産登録に向けた取組

旧閑谷学校の世界文化遺産登録を目指す取組については、平成27年5月、足利市、水戸市及び日田市による「教育遺産世界遺産登録推進協議会」への備前市の加盟と同時に委員として参画している。

2 文化財の保存と活用

我々の祖先の残した数々の文化遺産を保存し、これを県民の文化向上に活用することは、極めて重要なことである。本県において、令和5年度に実施した関連事業は、次のとおりである。

(1) 文化財の調査等

○文化財保護管理指導

文化財パトロール (36名、174ヶ所)

(2) 文化財関係補助事業

事業名	所在地	指定別
旧野崎家住宅主屋ほか12棟建造物保存修理	倉敷市	国
旧苅田家住宅主屋ほか9棟建造物保存修理	津山市	〃
旧大國家住宅主屋ほか6棟建造物保存修理	和気町	〃
旧遷喬尋常小学校校舎公開活用	真庭市	〃
吉備津神社南随神門磨き上げ	岡山市	〃
旧矢掛本陣石井家住宅裏門ほか6棟磨き上げ	矢掛町	〃
絹本著色仏涅槃図美術工芸品保存修理	瀬戸内市	〃
綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度美術工芸品保存修理	岡山市	〃
岡山後楽園史跡等保存整備	岡山市	〃
備前国分寺跡ほか史跡等保存整備	赤磐市	〃
岡山城跡史跡等保存整備	岡山市	〃
備中松山城跡史跡等保存整備	高梁市	〃
津山城跡史跡等保存整備	津山市	〃
造山古墳史跡等保存整備	岡山市	〃
鬼城山史跡等保存整備	総社市	〃
楯築遺跡史跡等保存活用計画策定	倉敷市	〃
臥牛山のサル生息地天然記念物食害対策	高梁市	〃
アユモドキ天然記念物再生	岡山市	〃
カブトガニ繁殖地天然記念物再生	笠岡市	〃
オオサンショウウオ天然記念物緊急調査	鏡野町	〃
倉敷市倉敷川畔伝統的建造物群基盤強化	倉敷市	〃
津山市城東城西伝統的建造物群基盤強化	津山市	〃
津山市城西（調査）伝統的建造物群基盤強化	津山市	〃
高梁市吹屋伝統的建造物群基盤強化	高梁市	〃
矢掛町矢掛宿伝統的建造物群基盤強化	矢掛町	〃
矢掛町矢掛宿（調査）伝統的建造物群基盤強化	矢掛町	〃
木炭製造文化財保存技術（伝承）団体	瀬戸内市	〃
大廻小廻山城跡等買上げ	岡山市	〃
造山古墳第一、二、三、四、五、六古墳等買上げ	岡山市	〃
美作国分寺跡買上げ	津山市	〃
備中国分尼寺跡指定文化財管理	総社市	〃
牟佐大塚古墳指定文化財管理	岡山市	〃
院庄館跡指定文化財管理	津山市	〃
備中松山城跡指定文化財管理	高梁市	〃
指定文化財管理（防災設備保守点検等）	県内	〃
第70回日本伝統工芸展岡山展無形文化財公開	岡山市	〃
津山城跡防災施設整備	津山市	〃
旧勝田郡役所庁舎公開活用	勝央町	国登録
妙本寺本堂建造物保存修理	吉備中央町	県
安住院仁王門建造物保存修理	岡山市	〃
熊野神社本殿（第四殿）建造物保存修理	倉敷市	〃

事業名	所在地	指定別
松連寺本堂天井と船戸建造物保存修理	高 梁 市	県
大瀧山福生寺本堂防災施設整備	備 前 市	〃
宝福寺（禅堂）史跡等保存整備	総 社 市	〃
県内遺跡発掘調査	岡 山 県	埋蔵文化財
市内遺跡発掘調査	岡 山 市	〃
市内遺跡発掘調査	津 山 市	〃
市内遺跡発掘調査	倉 敷 市	〃
市内遺跡発掘調査	高 梁 市	〃
市内遺跡発掘調査	備 前 市	〃
市内遺跡発掘調査	真 庭 市	〃
町内遺跡発掘調査	矢 掛 町	〃
村内遺跡発掘調査	西 粟 倉 村	〃
埋蔵文化財活用	岡 山 県	〃
埋蔵文化財活用	備 前 市	〃

(3) 史跡津島遺跡の管理と活用

平成20年度に整備が完了した史跡津島遺跡と、そのガイダンス施設である遺跡&スポーツミュージアムの維持運営を行った。これらの施設の活用事業は、岡山県古代吉備文化財センターが行った。

○津島遺跡やよい広場の維持管理

○遺跡&スポーツミュージアムの運営

令和5年度来館者数 10,242人

(4) 民俗文化財の活用

ア 地域文化財総合活用推進事業及び伝統文化親子教室事業

地域における多様で豊かな文化遺産を活用した、伝統行事・伝統芸能の公開や後継者育成など、地域の特色ある取組を支援するため、国の事業を活用して、文化の振興等の推進を図った。

- ・民俗文化財の普及啓発の支援
- ・茶道、華道、日本舞踊、郷土芸能などを計画的・継続的に体験・習得できる伝統文化親子教室への支援

(5) インターネットによる情報提供

ア 「岡山県内所在の国・県指定文化財」情報の発信

文化財課ホームページ内の、県内にあるすべての国・県指定文化財を紹介するページについて、令和5年度に新たに指定・登録された文化財の記事を追加し、文化財の公開活用を中心に充実を図った。

イ 文化財地図情報システムの公開

県内の国・県指定文化財、埋蔵文化財等の地図情報を追加修正し、インターネットで一般公開した。

指定文化財情報 約840件

遺跡情報 約22,500件

ウ 県立博物館デジタルミュージアムの公開

県立博物館所蔵資料をホームページ上で閲覧、検索することができるデジタルミュージアムの更新準備を行った。

3 銃砲刀剣類の登録

新規登録	578件
登録証再交付	83件
製作承認	103件

■第2節 埋蔵文化財

埋蔵文化財保護のために各種の開発事業との調整を図り、遺跡の保護・保存に努めた。

また、工事に伴う立会を実施した。

さらに、市町村教育委員会が行う発掘調査等に対し、支援・助言を行った。

1 文化財保護法に基づく事務処理

土木工事等に伴う届出・通知	982件
発掘調査届出・報告	28件
文化財認定	52件
譲与	15件

2 発掘調査

一般国道53号（津山南道路）改築工事、高梁川河川整備事業、一般国道374号（美作岡山道路）改築工事、広域河川改修事業（干田川）に伴い、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した。

■第3節 文化施設

1 県立文化施設

(1) 吉備路風土記の丘県立自然公園

吉備文化圏の中心地である吉備路には、旧山陽道に沿って岡山県の伝統ある歴史的・風土的特性を有する貴重な遺跡が密集している。このため、この景観風致を広域保存し、環境の整備を図り、もって県民文化の向上発展に寄与することを目的として、昭和45年に全国7番目の風土記の丘として発足した。

ア 公園区域の所在地

岡山市新庄上、新庄下

総社市赤浜、下林、上林、三須、宿、岡谷、西郡、地頭片山

イ 面積

公園全域 887.48ha

特別地域 33.42ha

普通地域 854.06ha

ウ 実施事業

(7) 環境整備事業

樹木・植栽木及び芝生等の肥培管理を行った。

(イ) 風土記の丘（民家等）管理委託

特別地域の維持管理を公益社団法人総社市シルバー人材センターに委託し、実施した。

(2) 岡山県立博物館

ア 設立の目的と業務

岡山県立博物館は、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法に基づき昭和46年に設置された歴史博物館である。その目的を達成するため、次の業務を行っている。

(7) 考古・美術工芸・文書・民俗・刀剣・陶磁器に関する博物館資料の収集、研究、保管、展示

(イ) 博物館資料にかかわる講演会、研究会等の開催

(ウ) 博物館講座、体験学習、研究報告の発行等の教育普及事業

なお、本館は国宝・重要文化財の展示にかかわる文化財保護法に基づく公開承認施設である。

イ 展覧会

本館のメインテーマは「岡山の歴史と文化」であり、岡山県の原始・古代から近代までの資料を展示している。展示資料は、考古、美術工芸、文書、民俗、刀剣、陶磁器などの分野にわたり、実物展示を基本にしている。

令和2年4月から改修工事のため休館していたが、令和5年4月1日から全面開館を行い、次のとおり各種事業を行った。

(7) 再開館記念展（テーマ展）

○「名刀 福岡一文字の光彩」（令和5年4月1日～5月7日）

鎌倉時代初期に後鳥羽上皇の御番鍛冶として数多く選出された備前の刀工集団「一文字派」は、名工則宗を祖とし、鎌倉時代中期には福岡一文字派として最盛期を迎え、豪華絢爛な丁子の刃文で一世を風靡した。

再開館記念として、国宝太刀2口、重要文化財太刀3口を展示するなど、岡山ゆかりの備前刀への関心を高め、理解を深めることを目的とし、福岡一文字派の作を中心に、その特徴や見どころを紹介した。

<主な展示品>

- | | |
|-----------------------|------------|
| ・国 宝 太刀 無銘 一文字（号 山鳥毛） | 備前長船刀剣博物館蔵 |
| ・国 宝 太刀 銘 吉房 | 林原美術館蔵 |
| ・重要文化財 太刀 銘 一 | 林原美術館蔵 |

(イ) 開館50周年、再開館記念特別展

○「慈悲のほとけ―観音と古寺の名宝―」（令和5年7月28日～9月3日）

観音菩薩は、様々な姿に変身して人々をあらゆる困難から救うとされ、親しみやすい慈悲のほとけとして古くから信仰されてきた。本展覧会では、中国観音霊場に伝わる様々な観音像の魅力に迫るとともに、歴史ある諸寺院に伝わる書画・彫刻等の名宝を紹介した。

<主な展示品>

- | | |
|-----------------|-------------|
| ・重要文化財 聖観音菩薩立像 | 岡山市 法界院蔵 |
| ・重要文化財 観音菩薩立像 | 鳥取県大山町 大山寺蔵 |
| ・重要文化財 四天王図鎗金絵屏 | 山口県山口市 龍蔵寺蔵 |

<関連行事>

- ・記念講演会「中国観音霊場と西国観音霊場」（8月5日）
講 師：石川知彦氏（龍谷ミュージアム副館長）
聴講者：76人

- ・学芸員による展示解説（7月29日、8月12日、8月26日）
参加者：235人
- ・ワークショップ「香りを楽しむ一句ひ袋作り」（8月6日）
講師：森脇亮介氏（京仏具 三香堂）
参加者：16人
- ・展示品を見て学ぶ文化財講座（8月19日）
参加者：41人
- ・1,000秒であなただけの千手観音を描く屋台 in 岡山県立博物館
（8月11日、8月12日、8月13日、8月27日、9月1日、9月2日、9月3日）
講師：お寺めぐり画家 尾中康宏氏
参加者：70人

(ウ) 特別展

○「醸すー自然と技術が育んだ岡山のお酒ー」（令和5年10月20日～12月3日）

自然の恵みと熟練の技により醸され続けてきた岡山のお酒について、酒造りの歴史や道具のほか、懐かしのラベル、酒宴を彩った酒器などを展示し、その魅力を紹介した。

<主な展示品>

- ・六尺桶 大正～昭和初期 大月邸酒蔵民具館蔵
- ・備中杜氏自醸清酒品評会 最優等カップ 現代 備中杜氏組合蔵
- ・陶製樽（室戸台風被災資料） 昭和初期 岡山県立博物館蔵

<関連行事>

- ・記念講演会「酒の日本文化」（10月21日）
講師：神崎宣武氏（民俗学者）
聴講者：86人
- ・記念講演会「杯の向こうに風土が見える～岡山の米・水・技で醸す地酒の魅力～」（11月19日）
講師：市田真紀氏（岡山県酒造好適米協議会 広報アドバイザー）
聴講者：68人
- ・映像上映会とトークイベント（10月29日）
講師：小松原 貢氏（岡山映像ライブラリーセンター）
参加者：31人
- ・学芸員による展示解説（11月11日、11月25日、12月2日）
参加者：211人

(I) テーマ展

再開館に伴い、新たに学芸員の日頃の調査研究成果を発表する場として、県民にとって魅力やメッセージ性のあるテーマを設定した展示を企画実施した。また、テーマ展ごとに学芸員が展示解説を行った。

<テーマ展一覧>

- ・名刀 福岡一文字の光彩（令和5年4月1日～5月7日）（再開館記念展（再掲））
- ・美作勝山城の実態に迫る（令和5年5月11日～6月18日）
- ・涼をよぶ岡山の伝統芸能ー花ござと撫川うちわー（令和5年6月22日～7月23日）
- ・正宗敦夫と正宗文庫（令和5年9月9日～10月15日）
- ・八幡大塚古墳と児島屯倉（令和5年12月8日～令和6年1月14日）
- ・岡山藩主の祈りの寺 常住寺の寺宝（令和6年1月18日～2月25日）

・岡山の戦国時代―赤松氏から宇喜多氏まで―（令和6年2月29日～4月7日）

<展示解説>

- ・実施回数：19回
- ・参加者：907人

(f) 平常展（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収蔵する考古、美術、古文書、民俗、刀剣、陶磁器などの文化財を有効に展示し、岡山県の歴史と文化を分かりやすく紹介した。

<主な展示品>

- ・考古：旧石器、突線流水文銅鐸（重文）、特殊器台（重文）
- ・美術：長福寺三重塔（模型）、唐櫃（県重文）、阿弥陀来迎図
- ・古文書：足利尊氏御判御教書（県重文）、宇喜多秀家書状、豊臣秀吉朱印状
- ・民俗：高瀬舟（複製）、千歯こき、炭火アイロン
- ・刀剣：太刀 銘 真光、太刀 銘 近景、刀 銘 正真
- ・備前焼：備前焼壺、備前焼徳利、備前焼水指

ウ 教育普及

(7) 館内授業、出前授業

博物館の展示の解説を受けながら見学を行う「館内授業」を行った。また、学芸員が実物資料を持って県内の学校に出向いて主に小学校3年生を対象とした昔の生活の授業の一環として「出前授業」を行った。

（小学校21校、中学校4校、高等学校10校、大学8校、社会教育施設1施設）

(i) 中学生職場体験

県内の中学生を対象とし、7校、17人を受け入れ、文化財の取り扱いをはじめ、受付・看視、さらには広報活動など博物館のさまざまな仕事を体験した。

(k) 博物館講座

第一線で活躍する研究者と学芸員による全4回の連続講座を6月に開催した。

（受講者：55人）

- 「仏教絵画の視座―涅槃図の諸相―」 安嶋紀昭氏（広島大学大学院文学研究科教授）
- 「軍記物の世界―備前軍記と備中兵乱記―」 内池英樹（副館長）
- 「江戸幕府の代官とその支配」 平田良行（学芸員）
- 「150年前の感染症対策―岡山に残された種痘の資料から―」 木下 浩（学芸員）

(I) ジュニア学芸員講座

県内の中・高校生を対象に、8月8日から10日の3日間で、日本刀、陶磁器や考古資料など様々な文化財の取り扱いやチラシ作成など博物館学芸員の仕事を体験する講座を開催した。

（中学生9人、高校生10人）

(f) 博物館実習

学芸員資格取得を目指す県内外の大学生10人に8月上旬、5日間の日程で文化財の取り扱い実技のほか、作品の写真撮影や広報チラシ作成などの実習を行った。

エ 博物館資料等整備

令和5年度購入資料

部門	資料	点数
古文書	旧赤堀家文書	1巻

令和5年度寄贈資料

部 門	資 料	点 数
絵 画	浄土双六	2曲1隻
工 芸	宝剣（銘 備前長船住人 横山上野大掾藤原祐定 寛文九己酉年十月廿一日）	1口
古 文 書	出原（旧矢鍋）家資料	11件
	戸川信吾氏所蔵資料	6点
	横田幸男氏所蔵資料	2,349点
考古資料	吉備津宮常行堂平瓦片ほか	376点
歴史資料	鏡石神社関係資料	一式
民 俗	撮影機材・電子機器類	一式
	撫川うちわ 雁柄 次香作	1点
	撫川うちわ 先憂後楽	1点
	第六高等学校資料	一式
	懸守及び収納護符	一式
	前かけ	1点
	前掛け（三輪酒造製、笑鬼）	1点
	前掛け（三輪酒造製、折鶴）	1点
	前掛け（三輪酒造製、折鶴、エプロン方式）	1点
	酔機嫌名入り絵（兵隊）	1枚
	酔機嫌名入り絵（着物姿女性）	2枚
	はがき	2枚
	岡山のお酒の酒票（レッテル）	30組

オ 入館者の状況

月 別	個 人	団 体	合 計
4月	5,478	0	5,478
5月	2,814	69	2,883
6月	1,378	69	1,447
7月	1,627	75	1,702
8月	5,406	43	5,449
9月	2,547	158	2,705
10月	1,605	160	1,765
11月	2,742	292	3,034
12月	1,257	35	1,292
1月	4,009	0	4,009
2月	1,777	283	2,060
3月	3,388	179	3,567
合 計	34,028	1,363	35,391

カ 岡山県立博物館協議会

令和5年度は令和5年10月5日と令和6年3月22日に協議会を開催した。博物館協議会は、館長の諮問機関として条例で設置されているもので、令和5年度事業及び令和6年度展覧会計画（案）等について協議がなされた。

(3) 県古代吉備文化財センター実施事業

ア 発掘調査等

<国庫補助事業>

- 史跡備中国分尼寺跡ほか保存活用総合調査に伴う調査
史跡備中国分尼寺跡（総社市） 発掘調査
- 道路整備事業（交通安全）に伴う調査
美作国分寺跡（津山市） 確認調査
- 一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う調査
津山市福田76ほか 試掘調査
- 通常砂防事業（カナザコ川）に伴う調査
至孝農遺跡（鏡野町） 確認調査
- 広域河川改修事業（干田川）に伴う調査
向山遺跡（瀬戸内市） 確認調査
- 県道園井里庄線地方道路整備事業道路改築に伴う調査
笠岡市園井591-1 試掘調査
- 一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う調査
滝谷川遺跡（美咲町） 確認調査

<受託事業>

- 一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う調査
高尾宮ノ前遺跡（津山市） 全面調査
- 高梁川河川整備事業に伴う調査
酒津遺跡（倉敷市） 全面調査

<県事業>

- 広域河川改修事業（干田川）に伴う調査
向山遺跡（瀬戸内市） 全面調査
- 一般国道374号（美作岡山道路）改築工事に伴う調査
宮坂遺跡（美作市） 全面調査

<市町村支援事業>

- 村内遺跡発掘調査等に伴う調査
智頭往来志戸坂峠越（西粟倉村） 保存目的調査
- 町道泉・田ヶ原線新築に伴う調査
藤野遺跡（和気町） 全面調査

イ 報告書整理

<国庫補助事業>

- 史跡備中国分尼寺跡ほか保存活用総合調査に伴う報告書作成
史跡備中国分尼寺跡（総社市）

<受託事業>

- 一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う報告書作成
高尾宮ノ前遺跡（津山市）
- 高梁川河川整備事業に伴う報告書作成
水江遺跡・酒津遺跡（倉敷市）

<県事業>

- 特別名勝岡山後楽園二色が岡景観復元事業に伴う報告書作成
特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡（岡山市）
- 一般国道429号改築工事に伴う報告書作成
尾崎遺跡（美作市）

ウ 発掘調査報告書等の刊行

- 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告267
尾崎遺跡（美作市）
- 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告268
特別名勝岡山後楽園・史跡岡山城跡（岡山市）
- 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告269
高尾北ヤシキ遺跡・高尾北ヤシキ古墳（津山市）
- 所報吉備 第75号、第76号
- 岡山県古代吉備文化財センター年報2
- 岡山県古代吉備文化財センター紀要3
- 吉備路の歴史遺産2
- 岡山の戦国争乱と城 第1巻
- 美作・佐良山の遺跡

エ 公開活用事業の開催

- 現地説明会・現地公開
向山遺跡
令和5年7月20日 瀬戸内市
高尾宮ノ前遺跡
令和5年9月23日、9月25日～27日 津山市
宮坂遺跡
令和5年10月17日 美作市
史跡備中国分尼寺跡
令和6年1月27日、1月29日～2月2日 総社市
高尾宮ノ前遺跡
令和6年2月25日、2月26・27日 津山市
- 報告会
大地からの便り2023
令和5年7月1日 岡山県立美術館ホール
- 講演会
古墳時代の刀剣
令和5年11月18日 岡山県立美術館ホール

○講座

吉備の考古学講座

令和5年10月14日 第1回 岡山県立図書館多目的ホール

令和6年3月2日 第2回 岡山県立図書館多目的ホール

○体験学習等

夏休み企画☆ワクワク古代体験！

令和5年7月25日～28日 人と科学の未来館サイピア

○津島遺跡やよいまつり

令和5年10月21・22日 津島やよい広場ほか

○吉備路ウォーク

令和5年12月2日 備中国分尼寺跡・備中国分寺跡・こうもり塚古墳（総社市）

○吉備の史跡を巡る

令和6年2月17日 両児山城跡（玉野市）

オ 展示室の公開

年末年始を除く毎日 9時開館～17時閉館

○企画展

企画展1「広がるムラとその景観」

令和5年4月19日～10月15日

企画展2「岡山県の刀剣」

令和5年10月18日～令和6年4月14日

○特別展

「鬼ノ城―発掘調査成果が語るその歴史―」

令和5年10月18日～令和6年4月14日

○特別公開

「高尾北ヤシキ遺跡出土の鏡像」

令和5年4月27日～5月9日

「桑山3号墳出土鹿角装短刀」

令和6年2月10日～2月25日

○令和5年度入館者数 4,195人

(4) 特別史跡旧閑谷学校

旧閑谷学校は、昭和38年9月に一般公開されたのにあわせ「閑谷学校顕彰保存会（現在の「公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会」。以下「顕彰保存会」という。）が設立され、以来その管理をしている。なお、平成18年度からは、指定管理者に顕彰保存会を指定している。

○令和5年度入場者数 63,769人

ア 主な事業

○閑谷学校積菜

令和5年10月28日

○読初の儀

令和6年1月4日

○史跡ボランティア研修

令和5年7月29日

- 閑谷学校ライトアップ
令和5年11月4日～11月12日
- ようこそ秋色づく閑谷へ
令和5年11月4日～11月23日
- 閑谷の早春を愛でる会
令和6年3月9日
- 閑谷論語塾
令和5年4月15日
令和5年5月6日
令和5年5月20日
令和5年6月3日
令和5年6月17日
令和5年7月1日
令和5年7月15日
令和5年8月5日
令和5年9月16日
令和5年10月7日
令和5年10月21日
令和5年11月18日
令和5年12月2日
令和6年2月3日
- 閑谷おもしろゼミナール
令和5年8月26日
令和5年12月9日
- 旧閑谷学校文化講座（漢詩）
令和5年7月9日
令和5年8月6日
令和5年9月10日
- 文化講演会
令和5年7月29日

2 市町村文化施設（歴史民俗資料館等）

施設名	所在地
（国庫補助施設）	
倉敷市歴史民俗資料館	倉敷市西中新田669
津山市加茂町歴史民俗資料館	津山市加茂町小中原143
津山市勝北歴史民俗資料館	津山市新野東1126
津山市久米歴史民俗資料館	津山市中北下1271
笠岡市立郷土館	笠岡市笠岡5628-10
井原市文化財センター「古代まほろば館」	井原市井原町333-1
井原市井原歴史民俗資料館	井原市井原町333-1
井原市芳井歴史民俗資料館	井原市芳井町吉井4110-1
井原市星の郷民具伝承館	井原市美星町三山4365-2
美作市英田歴史民俗資料館	美作市福本806-1
和気町歴史民俗資料館	和気町藤野1386-2
里庄町歴史民俗資料館	里庄町新庄2405
新庄村歴史民俗資料館	新庄村2011
美咲町立埋蔵文化財収蔵庫「月の輪収蔵庫」	美咲町飯岡1104-2
（その他）	
岡山市歴史資料館足守文庫	岡山市北区足守803
西大寺文化資料館	岡山市東区西大寺中1-16-17
岡山市渋染一揆資料館	岡山市中区神下378-3
岡山市水道記念館	岡山市北区三野1-2-1
岡山民俗館	岡山市北区京山2-5-1
三徳園農業展示館	岡山市東区竹原505
瀬戸町郷土館	岡山市東区瀬戸町観音寺567
灘崎歴史文化資料館	岡山市南区片岡186
御津郷土歴史資料館	岡山市北区御津金川529
倉敷市立自然史博物館	倉敷市中央2-6-1
倉敷市玉島市民交流センター玉島歴史民俗海洋資料室	倉敷市玉島阿賀崎1-10-1
倉敷埋蔵文化財センター	倉敷市福田町古新田940
倉敷市立磯崎眠亀記念館	倉敷市茶屋町195
倉敷市福田歴史民俗資料館	倉敷市福田町古新田1209-1
倉敷市まきび記念館	倉敷市真備町箭田3652-1
倉敷市真備ふるさと歴史館	倉敷市真備町岡田610
津山郷土博物館	津山市山下92
津山洋学資料館	津山市西新町5
津山弥生の里文化財センター	津山市沼600-1
津山城下町歴史館	津山市田町93-1
玉野市立中央公民館郷土資料コーナー	玉野市宇野1-38-1
笠岡市井笠鉄道記念館	笠岡市山口1457-8
吉備高原神楽民俗伝承館	井原市美星町三山5007
総社市まちかど郷土館	総社市総社2-17-33

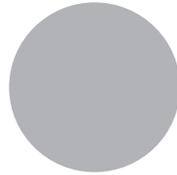
施設名	所在地
山手郷土館	総社市岡谷148-1
総社市埋蔵文化財学習の館	総社市南溝手265-3
総社吉備路文化館	総社市上林1252
高梁市山田方谷記念館	高梁市向町21
高梁市郷土資料館	高梁市向町21
備中松山城天守	高梁市内山下1
高梁市歴史美術館	高梁市原田北町1203-1
高梁市武家屋敷館	高梁市石火矢町23-2
高梁市川上郷土資料館	高梁市川上町地頭1857-1
吹屋べんがら館	高梁市成羽町吹屋86
高梁市備中郷土館	高梁市備中町布賀3535
旧片山家住宅	高梁市成羽町吹屋367
新見市大佐山田方谷記念館	新見市大佐小南323-3
備前市歴史民俗資料館	備前市東片上385
備前市埋蔵文化財管理センター	備前市伊部974-3
備前市立備前焼ミュージアム（休館中）	備前市伊部1659-6
備前市八塔寺ふるさと村民俗資料館	備前市吉永町加賀美1168
備前市吉永美術館	備前市吉永町吉永中885
備前市加子浦歴史文化館	備前市日生町日生801-4
寒風陶芸会館	瀬戸内市牛窓町長浜5092
牛窓海遊文化館	瀬戸内市牛窓町牛窓3056
備前長船刀剣博物館	瀬戸内市長船町長船966
須恵古代館	瀬戸内市長船町西須恵502-2
赤磐市山陽郷土資料館	赤磐市下市337
赤磐市吉井郷土資料館	赤磐市周匝136
永瀬清子展示室	赤磐市松木621-1
勝山郷土資料館	真庭市勝山170
真庭市蒜山郷土博物館	真庭市蒜山上長田1694
真庭市オオサンショウウオ保護センター	真庭市豊栄1530
北房ふるさとセンター	真庭市下皆部623-1
宮原獅子舞伝承館	美作市宮原1225
美作市美作歴史資料館（閉館中）	美作市林野225
美作市現代玩具博物館・オルゴール夢館	美作市湯郷319-2
美作市作東歴史民俗資料館	美作市江見859
美作市英田歴史民俗資料館	美作市福本806-1
浅口市立鴨方郷土資料館	浅口市鴨方町鴨方2244-13
浅口市立寄島郷土資料館	浅口市寄島町16010
浅口市立金光歴史民俗資料館	浅口市金光町占見新田790-1
岡山天文博物館	浅口市鴨方町本庄3037-5
和気町田原井堰資料館	和気町本680
早島町歴史民俗資料館	早島町前瀨237

施 設 名	所 在 地
早島町花ござ手織り伝承館	早島町前潟240
早島町戸川家記念館	早島町早島1292
やかげ郷土美術館	矢掛町矢掛3118-1
鏡野町郷土館	鏡野町寺和田1466
鏡野郷土博物館	鏡野町竹田663-7
鏡野町ほたる館	鏡野町薪森原643-3
学校記念館	鏡野町薪森原721-1
奥津歴史資料館	鏡野町奥津82-1
富教育歴史資料館	鏡野町富西谷245-1
木地師の館	鏡野町上齋原1805-12
たたら展示館	鏡野町富西谷118
もむらふれあい交流館民具館	久米南町中糶318-3
岸田吟香記念館	美咲町西川1001-7
美咲町三休公園民話館	美咲町西川上400-11
美咲町柵原鉦山資料館	美咲町吉ヶ原394-2
美咲町北和気郷土資料館	美咲町百々417-1
吉備中央町吉川歴史民俗資料館	吉備中央町吉川841
吉備中央町お祭り会館	吉備中央町加茂市場1565-1
吉備中央町加茂川歴史民俗資料館	吉備中央町下加茂1103-3
岡崎嘉平太記念館	吉備中央町吉川4860-6
吉備中央町重森三玲記念館	吉備中央町吉川3930-8



【付表】

国・私立小・中・高等学校・
中等教育学校・特別支援学校と
高専・大学一覧



【附表】国・私立小・中・高等学校・中等教育学校・特別支援学校と高専・大学一覧表

【小学校】

(令和5年5月1日現在)

	学 校 名	所 在 地	校 長 名	児 童 数	教 職 員 数
国立	岡山大学教育学部附属小学校	岡山市中区東山2-13-80	前 田 潔	606	38
私立	ノートルダム清心女子大学附属小学校	岡山市北区伊福町2-16-9	西 弘 子	318	27
"	就 実 小 学 校	岡山市中区西川原1-6-1	海 野 誠 二	313	28
"	朝 日 塾 小 学 校	岡山市北区吉宗856	平 松 顕 一	462	50
"	吉備高原のびのび小学校	加賀郡吉備中央町高谷470	森 岡 浩 美	10	10

【中学校】

(令和5年5月1日現在)

	学 校 名	所 在 地	校 長 名	生 徒 数	教 職 員 数
国立	岡山大学教育学部附属中学校	岡山市中区東山2-13-80	前 田 潔	536	35
私立	山 陽 学 園 中 学 校	岡山市中区門田屋敷2-2-16	豊 岡 秀 明	178	18
"	就 実 中 学 校	岡山市北区弓之町14-23	秋 山 圭 子	350	21
"	岡 山 中 学 校	岡山市南区箕島1500	田 中 広 矛	260	34
"	岡山理科大学附属中学校	岡山市北区理大町1-1	田 原 誠	232	16
"	岡山学芸館清秀中学校	岡山市東区西大寺上1-19-19	加 藤 武 史	185	22
"	清 心 中 学 校	倉敷市二子1200	松 沢 克 彦	240	21
"	蒼 明 学 院 中 学 校	笠岡市笠岡874	津 田 美 津 子	81	9
"	岡 山 白 陵 中 学 校	赤磐市勢力588	大 森 博 幸	441	39
"	金 光 学 園 中 学 校	浅口市金光町占見新田1350	金 光 道 晴	370	34
"	吉備高原希望中学校	加賀郡吉備中央町高谷495	平 松 裕 史	19	18

【高等学校】

(令和5年5月1日現在)

	学 校 名	所 在 地	校 長 名	生 徒 数	教 職 員 数
私立	関 西 高 等 学 校	岡山市北区西崎本町16-1	藤 原 佳 市	1,025	80
"	岡山商科大学附属高等学校	岡山市北区南方5-2-45	岡 田 哲 郎	679	65
"	山 陽 学 園 高 等 学 校	岡山市中区門田屋敷2-2-16	豊 岡 秀 明	729	51
"	就 実 高 等 学 校	岡山市北区弓之町14-23	秋 山 圭 子	1,724	92
"	創 志 学 園 高 等 学 校	岡山市北区下伊福西町7-38	今 井 康 好	667	59
"	明 誠 学 院 高 等 学 校	岡山市北区津島西坂3-5-1	吉 田 栄 一	1,183	77
"	岡山理科大学附属高等学校	岡山市北区理大町1-1	田 原 誠	844	62
"	岡山学芸館高等学校	岡山市東区西大寺上1-19-19	森 健 太 郎	1,405	98
"	岡 山 高 等 学 校	岡山市南区箕島1500	田 中 広 矛	211	28
"	倉 敷 高 等 学 校	倉敷市鳥羽283	石 川 哲 也	1,005	77
"	倉 敷 翠 松 高 等 学 校	倉敷市平田155	川 上 忠 良	993	77
"	清 心 女 子 高 等 学 校	倉敷市二子1200	松 沢 克 彦	389	40
"	川崎医科大学附属高等学校	倉敷市生坂1661	竹 田 義 宣	77	31
"	作 陽 学 園 高 等 学 校	倉敷市玉島八島1541-1	野 村 雅 之	439	31
"	岡山県美作高等学校	津山市山北500	早 瀬 直 紀	861	68
"	岡山龍谷高等学校	笠岡市笠岡874	相 沢 孝 彰	557	38
"	興 讓 館 高 等 学 校	井原市西江原町2257-1	岡 田 公 彦	247	29
"	岡山県高梁日新高高等学校	高梁市内山下150	橋 ヶ 谷 佳 正	109	13
"	岡山県共生高等学校	新見市新見2032-4	山 縣 淳 憲	195	24
"	岡山白陵高等学校	赤磐市勢力588	大 森 博 幸	475	59
"	金 光 学 園 高 等 学 校	浅口市金光町占見新田1350	金 光 道 晴	481	55
"	お か や ま 山 陽 高 等 学 校	浅口市鴨方町六条院中2069	原 田 一 成	1,021	75
"	吉備高原学園高等学校	加賀郡吉備中央町上野2400	難 波 徹 洋	255	39

(注) 生徒数には、専攻科を含む。

【中等教育学校】

(令和5年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	校 長 名	生徒数	教職員数
私立 朝日塾中等教育学校	岡山市北区御津紙工2590	杉本 裕介	176	57

【特別支援学校】

(令和5年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	校 長 名	児 童 生徒数	教職員数
国立 岡山大学教育学部附属特別支援学校	岡山市中区平井3-914	竹本 俊哉	小学部 18 中学部 17 高等部 22	32

【高等専門学校】

(令和5年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	校 長 名	学生数	教職員数
国立 津山工業高等専門学校	津山市沼624-1	岩佐 健司	836	114

【大 学】

(令和5年5月1日現在)

学 校 名	所 在 地	学 長 名	学 部 学生数	大学院 学生数	教職員数
国立 岡山大学	岡山市北区津島中1-1-1	那須 保友	10,121	3,104	4,008
公立 岡山県立大学	総社市窪木111	沖 陽子	1,546	207	207
〃 新見公立大学	新見市西方1263-2	公文 裕巳	767	22	89
〃 倉敷市立短期大学	倉敷市児島稗田町160	安達 励人	217	—	33
私立 ノートルダム清心女子大学	岡山市北区伊福町2-16-9	津田 葵	1,763	25	159
〃 岡山商科大学	岡山市北区津島京町2-10-1	井尻 昭夫	1,760	26	143
〃 岡山理科大学	岡山市北区理大町1-1	平野 博之	6,733	271	557
〃 就実大学	岡山市中区西川原1-6-1	桑原 和美	2,609	31	189
〃 山陽学園大学	岡山市中区平井1-14-1	齊藤 育子	722	14	89
〃 中国学園大学	岡山市北区庭瀬83	千葉 喬三	566	4	92
〃 環太平洋大学	岡山市東区瀬戸町観音寺721	大橋 節子	2,944	—	213
〃 川崎医科大学	倉敷市松島577	砂田 芳秀	795	64	3,843
〃 川崎医療福祉大学	倉敷市松島288	椿原 彰夫	3,907	123	485
〃 倉敷芸術科学大学	倉敷市連島町西之浦2640	柳澤 康信	1,418	19	117
〃 岡山学院大学	倉敷市有城787	原田 博史	81	—	24
〃 くらしき作陽大学	倉敷市玉島長尾3515	松田 英毅	1,000	5	95
〃 美作大学	津山市北園町50	鶴崎 実	876	5	93
〃 吉備国際大学	高梁市伊賀町8	河村 顕治	1,484	33	156
〃 岡山医療専門職大学	岡山市北区大供3-2-18	浅利 正二	255	—	45
〃 就実短期大学	岡山市中区西川原1-6-1	桑原 和美	267	—	24
〃 山陽学園短期大学	岡山市中区平井1-14-1	齊藤 育子	363	—	27
〃 中国短期大学	岡山市北区庭瀬83	千葉 喬三	374	—	40
〃 岡山短期大学	倉敷市有城787	原田 博史	83	—	20
〃 川崎医療短期大学	岡山市北区中山下2-1-70	秋山 祐治	394	—	51
〃 作陽短期大学	倉敷市玉島長尾3524	松田 英毅	120	—	14
〃 美作大学短期大学部	津山市北園町50	鶴崎 実	120	—	31

(注) 教職員数には、大学院等の教員を含む。

令和6年10月 発行

教 育 要 覧 2023年度版

編集者・発行者 岡山県教育庁教育政策課
